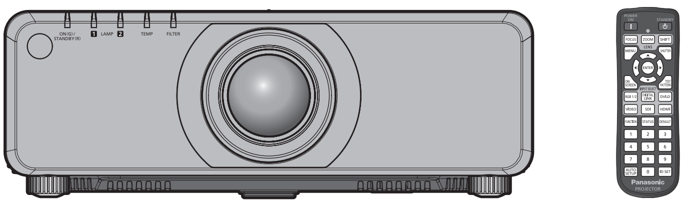
Panasonic®

取扱説明書
詳細編

DLP® プロジェクター　業務用

品番　PT-DZ780J
PT-DW750J
PT-DX820J



このたびは、パナソニック製品をお買い上げいただき、まことにありがとうございます。

■ この取扱説明書は、品番末尾のアルファベットに関わらず共用です。
- W：ホワイトモデル・標準ズームレンズ付属、LW：ホワイトモデル・レンズ別売り、
  B：ブラックモデル・標準ズームレンズ付属、LB：ブラックモデル・レンズ別売り

■ 取扱説明書をよくお読みのうえ、正しく安全にお使いください。

■ ご使用の前に“安全上のご注意”（☞ 5 ～ 9 ページ）を必ずお読みください。

■ 保証書は、「お買い上げ日・販売店名」などの記入を必ず確かめ、取扱説明書とともに大切に保管してください。

保証書別添付

製造番号は、品質管理上重要なものです。製品本体と保証書の製造番号をお確かめください。

JAPANESE

TQBH0362

もくじ

安全上のご注意 5

第 1 章　はじめに

ご使用になる前に 13
- 本機の運搬について 13
- 本機の設置について 13
- セキュリティーに関するお願い 15
- DIGITAL LINK について 15
- Art-Net について 15
- 予兆監視ソフトウェアについて 16
- 廃棄について 16
- 本機の取り扱いについて 16
- 付属品の確認 17
- 別売品 18

各部の名称とはたらき 19
- リモコン 19
- 本体 20

リモコンの準備 23
- 電池を入れる、取り出す 23
- 本機を複数台使用するときは 23
- ケーブルで本体と接続して使う 23

第 2 章　準備

設置する 25
- 設置形態 25
- 設置オプションについて（別売品） 26
- 投写関係 26
- アジャスター脚の調整 41

投写レンズの取り外し / 取り付け方 42
- 投写レンズの取り外し方 42
- 投写レンズの取り付け方 42

接続する 44
- 接続の前に 44
- 映像機器との接続（例） 45
- コンピューターとの接続（例） 46
- DIGITAL LINK での接続（例） 47

第 3 章　基本的な使い方

電源を入れる / 切る 50
- 電源コードを接続する 50
- 電源インジケーターについて 50
- 電源を入れる 51
- 初期設定画面が表示されたら 51
- 調整・選択をする 54
- 電源を切る 56
- ダイレクトパワーオフ機能 56

投写する 57
- 投写する映像を選択する 57
- フォーカス調整、ズーム調整、シフト調整のしかた 57
- 固定焦点レンズ（品番：ET-DLE030）使用時のレンズ位置調整とフォーカス調整のしかた 58
- レンズ位置の設定のしかた 58
- レンズ位置移動による（光学シフト）調整範囲 59

リモコンで操作する 60
- シャッター機能を使う 60
- オンスクリーン表示機能を使う 60
- 入力を切り換える 61
- ステータス機能を使う 61
- オートセットアップ機能を使う 62
- ファンクションボタンを使う 62
- 内蔵テストパターンを表示する 62
- リモコンの ID ナンバーを設定する 63

第 4 章　調整と設定

オンスクリーンメニューについて 65
- メニュー画面の操作方法 65
- メインメニュー 66
- サブメニュー 67

[映像] について 70
- [映像モード] 70
- [ピクチャー] 70
- [黒レベル] 70
- [色の濃さ] 71
- [色あい] 71
- [色温度設定] 71
- [白ゲイン] 73
- [ガンマ選択] 73
- [システムデイライトビュー] 74
- [シャープネス] 74
- [ノイズリダクション] 74
- [AI] 74
- [システムセレクター] 75
- sRGB に準拠した映像にするには 75

[位置調整] について 77
- [シフト] 77
- [アスペクト] 77
- [ズーム] 78
- [クロックフェーズ] 79
- [幾何学歪補正] 79

[アドバンスドメニュー] について 82
[デジタルシネマリアリティー] 82
[ブランキング] 82
[入力解像度] 83
[クランプ位置] 83
[エッジブレンディング] 84
[フレームレスポンス] 85
[ラスターポジション] 86
[表示言語 (LANGUAGE)] について 87
表示言語を切り換える 87
[表示オプション] について 88
[カラーマッチング] 88
[カラーコレクション] 89
[スクリーン設定] 89
[入力自動セットアップ] 90
[自動調整] 90
[バックアップ入力設定] 91
[RGB IN] 92
[DVI-D IN] 93
[HDMI IN] 95
[DIGITAL LINK IN] 96
[SDI IN] 97
[オンスクリーン表示] 98
[クローズドキャプション設定] (NTSC、480i YCBCR 信号入力時のみ) 100
[バックカラー] 101
[スタートアップロゴ] 101
[ユニフォーミティー] 101
[シャッター設定] 102
[フリーズ] 102
[波形モニター] 103
[カットオフ] 104
[プロジェクターセットアップ] について 105
[プロジェクター ID] 105
[投写方式] 105
[冷却条件] 106
[ランプ選択] 106
[ランプリレー] 107
[ランプパワー] 107
[輝度コントロール] 108
[スタンバイモード] 112
[スケジュール] 112
[起動方法] 114
[スタートアップ入力選択] 114
[RS-232C] 115
[ステータス] 116
[無信号自動オフ] 118
[REMOTE2 端子モード] 118
[ファンクションボタン] 118
[日付と時刻] 118
[レンズキャリブレーション] 119
[全ユーザーデータ保存] 120
[全ユーザーデータ呼出] 120
[初期化] 120
[サービスパスワード] 121
[P IN P] について 122
P IN P 機能を使用する 122
[テストパターン] について 124
[テストパターン] 124
[登録信号一覧] について 125
新規登録 125
登録信号の名前の変更 125
登録した信号を削除する 125
登録した信号を保護する 126
信号の引き込み範囲を拡大する 126
サブメモリーについて 127
[セキュリティー] について 128
[セキュリティーパスワード] 128
[セキュリティーパスワード変更] 128
[表示設定] 128
[テキスト変更] 129
[操作設定] 129
[操作設定パスワード変更] 130

［ネットワーク］について 132
［DIGITAL LINK モード］ 132
［DIGITAL LINK 設定］ 132
［DIGITAL LINK ステータス］ 133
［ネットワーク設定］ 133
［ネットワークコントロール］ 134
［ネットワークステータス］ 134
［DIGITAL LINK メニュー］ 135
［Art-Net 設定］ 135
ネットワーク接続 136
ツイストペアケーブル伝送器との接続 137
WEB ブラウザーからのアクセスのしかた 138

第 5 章　点検とお手入れ

ランプ / 温度 / フィルターインジケーター 157
インジケーターが点灯したら 157
お手入れ / 部品交換 159
お手入れ / 部品交換の前に 159
お手入れ 159
部品交換 161
故障かな！？ 164
［自己診断］の表示について 166

第 6 章　その他

付録 169
PJLink プロトコルを使用する 169
Art-Net 機能を使用する 170
LAN 経由の制御コマンドについて 172
〈SERIAL IN〉/〈SERIAL OUT〉端子について 175
〈REMOTE 2 IN〉端子について 180
2 画面表示組み合わせ一覧 181
操作設定パスワードについて 181
アップグレードキットについて 182
対応信号リスト 182
仕様 185
外形寸法図 189
天つり金具取り付け時の注意事項 190
保証とアフターサービス 191
保証書（別添付） 191
補修用性能部品の保有期間 191
修理のご依頼について 191
さくいん 192

安全上のご注意　必ずお守りください

人への危害、財産の損害を防止するため、必ずお守りいただくことを説明しています。

■ 誤った使い方をしたときに生じる危害や損害の程度を区分して、説明しています。

⚠ 警告	「死亡や重傷を負うおそれがある内容」です。
⚠ 注意	「軽傷を負うことや、財産の損害が発生するおそれがある内容」です。

■ お守りいただく内容を次の図記号で説明しています。

(禁止記号)	してはいけない内容です。
(指示記号)	実行しなければならない内容です。

⚠ 警告

電源について

異常・故障時には直ちに使用を中止する

電源プラグを抜く	**■ 異常があったときは、電源プラグを抜く** **[内部に金属や水などの液体、異物が入ったとき、落下などで外装ケースが破損したとき、煙や異臭、異音が発生したとき]** （そのまま使用すると、火災や感電の原因になります。） ⇒ 異常の際、電源プラグをすぐに抜けるように、コンセントを本機の近くに取り付けるか、配線用遮断装置を容易に手が届く位置に設置してください。 ⇒ 本機を電源から完全に遮断するには、電源プラグを抜く必要があります。 ⇒ お買い上げの販売店にご相談ください。
	■ 電源プラグ（コンセント側）や、電源コネクター（本体側）は、根元まで確実に差し込む （差し込みが不完全であると、感電や発熱による火災の原因になります。） ⇒ 傷んだプラグやゆるんだコンセントのまま使用しないでください。
	■ 電源プラグのほこりなどは、定期的にとる （プラグにほこりなどがたまると、湿気などで絶縁不良となり、火災や感電の原因になります。） ⇒ 半年に一度はプラグを抜いて、乾いた布で拭いてください。 ⇒ 長期間使用しないときは、電源プラグを抜いてください。
	■ 電源コード・プラグが破損するようなことはしない **[傷つける、加工する、高温部や熱器具に近づける、無理に曲げる、ねじる、引っ張る、重いものを載せる、束ねるなど]** （傷んだまま使用すると、火災や感電、ショートの原因になります。） ⇒ 電源コードやプラグの修理は、お買い上げの販売店にご相談ください。
	■ コンセントや配線器具の定格を超える使い方や、交流 100 V 以外での使用はしない （たこ足配線等で、定格を超えると、発熱による火災の原因になります。）
	■ 付属の電源コード以外は使用しない （付属以外の電源コードを使用すると、ショートや発熱により、感電・火災の原因になることがあります。また、付属の電源コードを使い、コンセント側でアースを取らないと感電の原因になります。）
ぬれ手禁止	**■ ぬれた手で電源プラグや電源コネクターに触れない** （感電の原因になります。）

警告（つづき）

電源について

接触禁止

■ **雷が鳴り出したら、本機や電源プラグには触れない**
（感電の原因になります。）

ご使用・設置について

■ **放熱を妨げない**
［布や紙などの上に置かない（吸気口に吸着する場合があります）、風通しが悪く狭い所に押し込まない］
（内部が高温になり、火災の原因になることがあります。）
⇒ 吸排気を妨げないよう、周辺の壁やものから 50 cm 以上離して設置してください。

■ **排気口には手やものを近づけない**
［手や顔を近づけない、指を入れない、熱に弱いものを近くに置かない］
（排気口からは熱風がでているため、やけどやけが、変形の原因になります。）

■ **カーペットやスポンジマットなどのやわらかい面の上で本機を使用しない**
（内部に熱がこもり、本機の故障、火災ややけどの原因になることがあります。）

■ **湿気やほこりの多い所、油煙や湯気が当たるような所に置かない**
（火災や感電の原因になることがあります。また、油により樹脂が劣化し、天つり設置の場合に落下するおそれがあります。）

■ **荷重に耐えられない場所や不安定な場所に設置しない**
（落下などによる本機の破損・変形や、大きな事故やけがの原因になります。）

■ **使用中は投写レンズを絶対にのぞかない**
（投写レンズからは強い光がでます。中を直接のぞくと、目を痛める原因になります。）
⇒ 使用中に本機から離れる場合は主電源を切ってください。
⇒ 特にお子様にはご注意ください。

■ **内部に金属類や燃えやすいものなどを入れたり、水などの液体をかけたりぬらしたりしない**
（ショートや発熱により、火災・感電・故障の原因になります。）
⇒ 機器の近くに水などの液体の入った容器や金属物を置かないでください。
⇒ 水などの液体が内部に入ったときは、販売店にご相談ください。
⇒ 特にお子様にはご注意ください。

■ **レンズカバーを取り付けたまま投写しない**
（火災の原因になることがあります。）

分解禁止

■ **分解や改造をしない**
（内部には電圧の高い部分があり、感電や火災の原因になります。
また、使用機器の故障の原因になります。）
⇒ 内部の点検や修理などは、お買い上げの販売店にご相談ください。

> **警告**
> 感電のおそれあり
> サービスマン以外の方は
> ケースをあけないでください。
> 内部には高電圧部分が数多く
> あり、万一さわると危険です。

「本体に表示した事項」

■ **天井取り付け（天つり）などの設置工事は、工事専門業者または販売店に依頼する**
（工事の不備により、落下事故の原因となります。）

■ **当社で指定した天つり金具を使用する**
（天つり金具の不備により、落下事故の原因となります。）
⇒ 天つり金具に付属のワイヤーで落下防止の処置を行ってください。

警告（つづき）

付属品・消耗品について	
電源プラグを抜く	■ **ランプユニット交換を行う前に、必ず電源を切り電源プラグをコンセントから抜く** （電源プラグを抜かずに交換作業を行うと、感電や破裂の原因になります。）
	■ **ランプユニットを分解しない** （ランプ部が破裂すると、けがの原因になります。）
	■ **電池の液が漏れたときは、素手で液をさわらない** **［液が目に入ったら目をこすらない］** （失明のおそれや、液が身体や衣服に付着した場合、皮膚の炎症やけがの原因になります。） ⇒ すぐにきれいな水で洗ったあと、医師にご相談ください。
	■ **電池は誤った使い方をしない** ● **指定された電池以外は使用しない。** ● **乾電池は充電しない。** ● **加熱・分解したり水などの液体や火の中へ入れたりしない。** ● **＋と－を針金などで接続しない。** ● **＋と－を逆に入れない。** ● **ネックレスやヘアピンなど金具が使用されているものと一緒に持ち運んだり保管したりしない。** ● **新旧の電池や違う種類の電池を混ぜて使わない。** ● **被覆のはがれた電池は使わない。（電池には安全のために被覆がかぶせてあります。これをはがすとショートの原因になりますので、絶対にはがさないでください。）** （液漏れ・発熱・破裂・発火の原因になります。）
	■ **付属の乾電池は、乳幼児の手の届くところに置かない** （誤って飲み込むと、身体に悪影響を及ぼします。） ⇒ 万一、飲み込んだと思われるときは、すぐに医師にご相談ください。
	■ **ランプユニットの交換は、電源を切り、ランプが冷えてから（1 時間以上待ってから）行う** （カバー内部は高温になっているため、やけどの原因になります。）
	■ **使い切った電池は、すぐにリモコンから取り出す** （そのまま機器の中に放置すると、電池の液漏れや、発熱・破裂の原因になります。）

⚠ 注意

電源について

電源プラグを抜く

■ **長時間使用しないときは、電源プラグをコンセントから抜く**
（電源プラグにほこりがたまり、火災・感電の原因になることがあります。）

■ **投写レンズの交換を行う前に、必ず電源を切り電源プラグをコンセントから抜く**
（不意の投写による光で目を痛めることがあります。）
（電源プラグを抜かずに交換作業を行うと、感電の原因になることがあります。）

■ **お手入れの際は、電源プラグをコンセントから抜く**
（感電の原因になることがあります。）

■ **電源コードを取り外すときは、必ず電源プラグ（コンセント側）や、電源コネクター（本体側）を持って抜く**
（コードを引っ張るとコードが破損し、感電、ショートによる火災の原因になることがあります。）

ご使用・設置について

■ **本機の上に重いものを載せたり、乗ったりしない**
（バランスがくずれて倒れたり、落下したりして、けがの原因になることがあります。また、本機の破損や変形の原因になることがあります。）

■ **異常に温度が高くなる所に置かない**
（外装ケースや内部部品が劣化するほか、火災の原因になることがあります。）
⇒ 直射日光の当たる所や、熱器具などの近くには、設置・保管をしないでください。

■ **塩害が発生する所、腐食性ガスが発生する所に設置しない**
（腐食による落下の原因になることがあります。）

■ **レンズシフト動作中は、レンズ周辺の開口部に手を入れない**
（手を挟み、けがの原因になることがあります。）

■ **使用中は投写レンズの前に立たない**
（投写レンズからは強い光がでます。投写レンズの前に立つと衣服を傷めたり、やけどの原因になることがあります。）

■ **使用中は投写レンズの前にものを置かない**
（投写レンズからは強い光がでます。投写レンズの前にものを置くと、火災やものの破損、本機の故障の原因になることがあります。）

■ **移動させる場合は、必ず接続線を外す**
（コードの破損などにより、火災や感電の原因になることがあります。）

■ **天つり設置する場合は、取り付けねじや電源コードが天井内部の金属部と接触しないように設置する**
（天井内部の金属部と接触して、感電の原因になることがあります。）

付属品・消耗品について

■ **ランプが破裂したときは、さわったり、顔を近づけたりしない**
（散乱したガラス片で、けがをしたり、破裂により発生したガスを吸い込んでしまったりするおそれがあります。）
⇒ 直ちに換気を行ってください。万が一吸い込んだり、目や口に入ったりした場合は、直ちに医師にご相談ください。
⇒ 破裂により発生したガスは、蛍光灯程度の水銀を含有しています。
⇒ 販売店にランプの交換と内部の点検をご依頼ください。

■ **古いランプユニットは使用しない**
[使用時間を超えたランプユニットは使用しない]
（そのまま使用を続けると、破裂する場合があります。）
⇒ ランプユニットは消耗部品です。

■ **長期間使用しない場合は、リモコンから電池を取り出す**
（電池の液漏れ、発熱、発火、破裂などを起こし、火災や周囲汚損の原因になることがあります。）

⚠ 注意（つづき）

お手入れについて

禁止	■ **ランプユニットやエアフィルターの取り外し時、ファンには指やそれ以外の身体の部分で触れない** （けがの原因になります。）
指示	■ **1 年に 1 度は、内部の清掃を販売店に依頼する** （本機の内部にほこりがたまったままで使用を続けると、火災の原因になることがあります。） ⇒ 特に湿気の多くなる梅雨期の前に行うと効果的です。 ⇒ 内部清掃費用については販売店にご相談ください。

■商標について

- Windows、Windows Vista、Internet Explorer は、米国 Microsoft Corporation の、米国およびその他の国における登録商標または商標です。
- Mac と Mac OS、OS X、Safari は、米国および他の国々で登録された Apple Inc. の商標です。
- PJLink 商標は、日本、米国その他の国や地域における登録または出願商標です。
- HDMI、HDMI ロゴ、および High-Definition Multimedia Interface は、米国およびその他の国における HDMI Licensing LLC の商標または、登録商標です。
- RoomView、Crestron RoomView は、Crestron Electronics, Inc. の登録商標です。
  Crestron Connected™、Fusion RV は Crestron Electronics, Inc. の商標です。
- HDBaseT™ は HDBaseT Alliance の商標です。
- Art-Net™ Designed by and Copyright Artistic Licence Holdings Ltd
- Adobe、Adobe Flash Player、Adobe Reader は、アドビシステムズ社の米国および / または各国での商標または登録商標です。
- オンスクリーンメニューに使用しているフォントの一部は、株式会社リコーが製作･販売した、リコービットマップフォントです。
- その他、この説明書に記載されている各種名称・会社名・商品名などは各社の商標または登録商標です。
  なお、本文中では ® や ™ マークは明記していません。

■本書内のイラストについて

- プロジェクター本体、画面などのイラストは、実際とは異なることがあります。

■参照ページについて

- 本書では、参照ページを（☞ 00 ページ）のように示しています。

■用語について

- 本書では付属品の「ワイヤレス / ワイヤードリモコン」を「リモコン」と記載しています。

この装置は、クラス A 情報技術装置です。この装置を家庭環境で使用すると電波妨害を引き起こすことがあります。この場合には使用者が適切な対策を講ずるよう要求されることがあります。

VCCI-A

JIS C 61000-3-2 適合品
本装置は、高調波電流規格 JIS C 61000-3-2 に適合しています。

本機の特長

高輝度＆静音

▶ 独自光学システムおよび独自冷却システムにより、8 200 lm*1*2 もの高輝度でありながら、騒音値 30 dB*2 と静音化を実現しました。

*1 PT-DX820J の場合。
PT-DZ780J、PT-DW750J は 7 000 lm です。
*2 工場出荷時における本製品全体の平均的な値を示しており、JIS X 6911:2003 データプロジェクタの仕様書様式に則って記載しています。測定方法、測定条件については附属書 2 に基づいています。

簡単＆自由度の高い設置性

▶ DIGITAL LINK 対応、Art-Net 対応、3G-SDI 標準搭載 *1、幾何学歪補正機能標準搭載、豊富なオプションレンズのラインアップ等により、簡単かつ自由度の高い設置性を実現しました。

*1 PT-DZ780J のみ

メンテナンス費用の低減

▶ ランプ交換推奨時間 6 000H*1 と長寿命化を実現するとともに、光学ブロックに防じん構造を採用したことで、メンテナンス費用の低減に寄与します。

*1［ランプパワー］を［ECO］に設定時。

投写するまでの手順

詳しくは各ページをご覧ください。

1. 本機を設置する
(☞ 25 ページ)

2. 投写レンズを取り付ける
(☞ 42 ページ)

3. 本機と外部機器を接続する
(☞ 44 ページ)

4. 電源コードを接続する
(☞ 50 ページ)

5. 電源を入れる
(☞ 51 ページ)

6. 初期設定をする
(☞ 51 ページ)
- 本機をご購入後、初めて電源を入れてご使用になる場合に行う手順です。

7. 投写する映像を選択する
(☞ 57 ページ)

8. 映像の映り具合を調整する
(☞ 57 ページ)

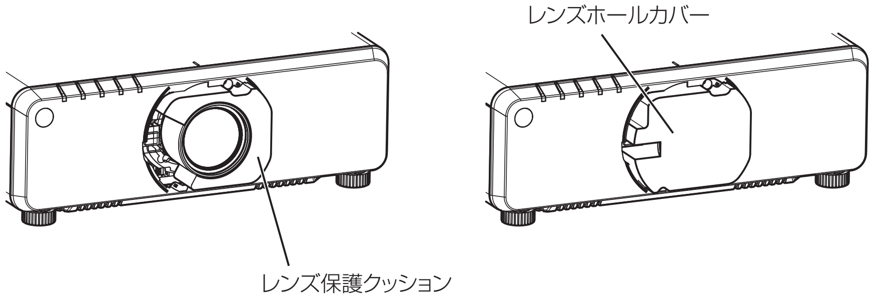
第 1 章　はじめに

ご使用の前に知っておいていただきたい内容やご確認いただきたい内容について説明しています。

ご使用になる前に

本機の運搬について

- 標準ズームレンズ付属のプロジェクターをお買い上げの場合は、ご使用の前にレンズ保護クッションを取り外し、将来また取り付けられるように保管しておいてください。運搬時は、レンズ位置をホームポジションに移動させ、レンズ保護クッションを取り付けてください。
  レンズ別売りのプロジェクターをお買い上げの場合は、ご使用の前にレンズホールカバーを取り外し、将来また取り付けられるように保管しておいてください。運搬時は、レンズ位置をホームポジションに移動させ、投写レンズを取り外したうえでレンズホールカバーを取り付けてください。
  レンズ位置をホームポジションに移動させる手順については、“レンズ位置の設定のしかた”（☞ 58 ページ）をご覧ください。



- 運搬の際は、本機の底面を持つようにし、過度の振動や衝撃を加えないようにお取り扱いください。内部の部品が傷み、故障の原因になります。
- アジャスター脚を伸ばした状態で運搬しないでください。アジャスター脚が破損するおそれがあります。

本機の設置について

■投写レンズを取り付け後は、必ず投写レンズカバーを取り付けてください

内部にほこりがたまり、故障の原因になります。

■屋外に設置しないでください

本機は室内でご使用ください。

■以下の場所には設置しないでください

- 車両・船舶など、振動や衝撃が加わる場所：内部の部品が傷み、故障の原因になります。
- 海の近くや腐食性ガスが発生する場所：腐食により製品が落下するおそれがあります。また、部品の寿命などに影響をおよぼすおそれや、故障の原因になる場合があります。
- エアコンの吹き出し口の近く：使用環境によっては、排気口からの熱せられた空気や、空調からの温風・冷風の影響で、まれに画面に「ゆらぎ」が発生する場合があります。本機の前面に自機、あるいは他機の排気や、空調からの風が回り込むような設置がないように注意してください。
- 照明器具（スタジオ用ランプなど）の近くなどの温度変化が激しい場所：ランプの寿命などに影響を及ぼすおそれや、熱により本体が変形し、故障の原因になることがあります。
  なお、本機の使用環境温度は、海抜 1 400 m 未満で使用する場合は 0 ℃～ 45 ℃、高地（海抜 1 400 m 以上～ 2 700 m 未満）で使用する場合は 0 ℃～ 40 ℃です。
- 高圧電線や動力源の近く：妨害を受ける場合があります。
- 高出力のレーザー機器がある場所：レーザー光が投写レンズ面に入ると DLP チップの故障の原因になります。

■本機を天井に取り付ける場合は、必ず工事専門業者、または販売店にご依頼ください

別売品の天つり金具が必要です。

品番：ET-PKD120H（高天井用）、ET-PKD120S（低天井用）、ET-PKD130H（高天井用、6 軸調整）、ET-PKD130B（取付用ベース金具）

■DIGITAL LINK 接続用のケーブル配線工事は、工事専門業者または販売店に依頼してください

工事の不備によりケーブル伝送特性が得られず、映像や音声が途切れたり乱れたりする原因となります。

■放送局や無線機からの強い電波により、正常に動作しない場合があります

近くに強い電波を発生する設備や機器がある場合は、それらの機器から十分に離して設置してください。または、両端で接地された金属箔あるいは金属配管で〈DIGITAL LINK/LAN〉端子に接続している LAN ケーブルを覆ってください。

■フォーカス調整について

高輝度プロジェクターのレンズは、光源からの光による熱の影響で、電源を入れた直後はフォーカスが安定しません。フォーカスの調整は、映像を映した状態で 30 分以上経過したのちに行うことをお勧めします。

■海抜 2 700 m 以上の場所に設置しないでください

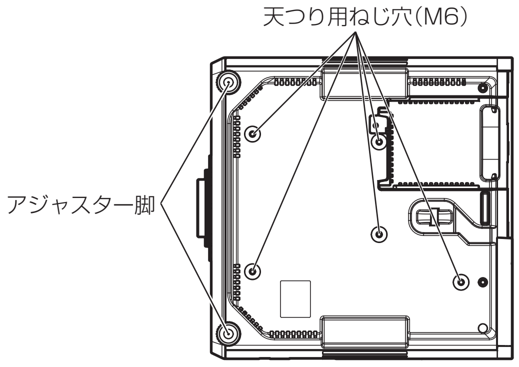
部品の寿命などに影響を及ぼすおそれや、故障の原因になる場合があります。

■左右に傾けて使用しないでください

水平から垂直方向に± 15° を超える角度に傾けた状態で使用すると、部品の寿命などに影響を及ぼすおそれや、故障の原因になる場合があります。

■設置上のご注意

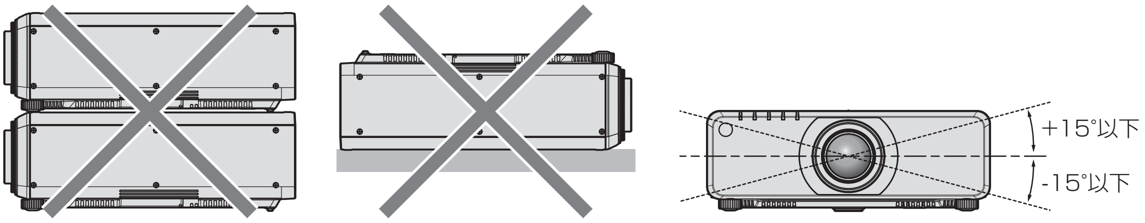
- アジャスター脚は、床置き設置およびその際の角度調整にのみ使用してください。それ以外の用途で使用すると、本機が破損するおそれがあります。
- 本機をアジャスター脚による床置き設置や天つり設置以外の方法で設置して使用する場合は、プロジェクターの固定を、天つり用ねじ穴（図示）の 5 か所を使用して行ってください。
（ねじ径：M6、プロジェクター内部ねじ穴深さ：12 mm、ねじの締めつけトルク：4 ± 0.5 N·m）
スペーサー（金属製）を挟むなどの方法で、プロジェクター底面の天つり用ねじ穴と設置面との間にすき間が生じないようにしてください。

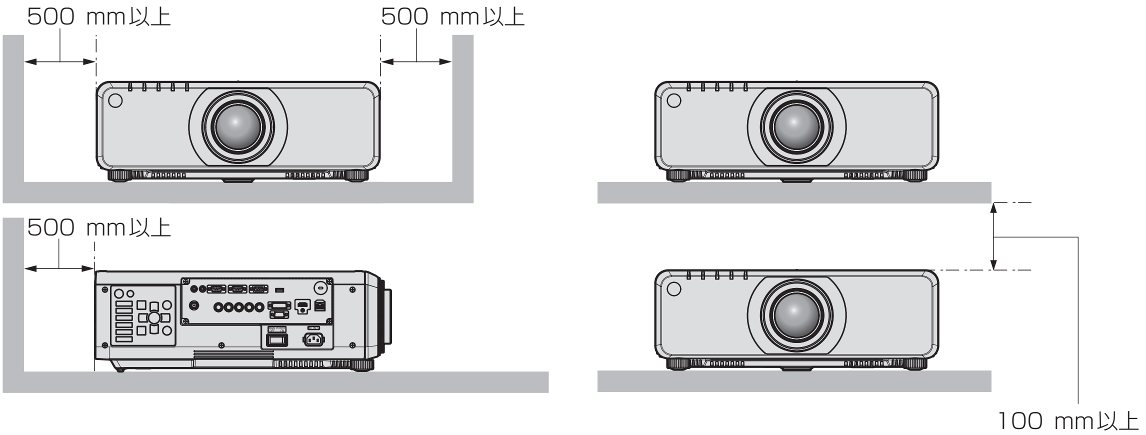


天つり用ねじ穴とアジャスター脚の位置

- 本機を積み重ねて使用しないでください。
- 本機を天面で支えて使用しないでください。
- 水平から垂直方向に± 15° を超える角度に傾けた状態で使用しないでください。
- 本機の吸気口・排気口をふさがないでください。

- 空調の冷風や温風が、本機の吸気口・排気口に直接当たらないように設置してください。





- 本機を密閉した空間に設置しないでください。
  密閉した空間に設置する場合は、別途、空調設備、換気設備を設けてください。換気が不十分な場合、排気熱が滞留することで、本機の保護回路がはたらくことがあります。

セキュリティーに関するお願い

本製品をご使用になる場合、次のような被害に遭うことが想定されます。

- 本製品を経由したお客様のプライバシー情報の漏えい
- 悪意の第三者による本製品の不正操作
- 悪意の第三者による本製品の妨害や停止

セキュリティー対策を十分に行ってください。（☞ 128、151 ページ）

- パスワードはできるだけ推測されにくいものにしてください。
- パスワードは定期的に変更してください。
- パナソニック株式会社およびその関係会社が、お客様に対して直接パスワードを照会することはございません。直接問い合わせがあっても、パスワードを答えないでください。
- ファイアウォールなどの設定により、安全性が確保されたネットワークでご使用ください。
- WEB 制御のパスワードを設定し、ログインできるユーザーを制限してください。

DIGITAL LINK について

「DIGITAL LINK（デジタルリンク）」は、HDBaseT Alliance により策定された通信規格 HDBaseT™ をベースに、パナソニック独自の機能を追加した、映像・音声・イーサネット・シリアル制御信号をツイストペアケーブルを使用して伝送する技術です。

本機は、別売品の弊社 DIGITAL LINK 出力対応機器（品番：ET-YFB100、ET-YFB200）や、同じく HDBaseT™ 規格をベースとした他社製周辺機器（Extron 社製「XTP トランスミッター」などのツイストペアケーブル伝送器）に対応しています。本機で動作確認済みの他社製機器については、弊社 WEB サイト（http://panasonic.biz/projector/）をご覧ください。他社製機器の動作確認は、弊社確認項目について実施したものであり、すべての動作を保証するものではありません。他社製機器に起因する操作や性能上の不具合などについては、各メーカーにお問い合わせください。なお、本機は音声機能がないため、音声の伝送に対応していません。

Art-Net について

「Art-Net」は、TCP/IP プロトコルに基づいたイーサネット通信プロトコルです。

DMX コントローラーやアプリケーションソフトを用いて、照明・ステージシステムを制御できます。Art-Net は DMX512 の通信プロトコルを基に作られています。

予兆監視ソフトウェアについて

本機は、イントラネット内にあるディスプレイ（プロジェクターやフラットパネルディスプレイ）やその周辺機器の状態を監視し、これらの機器の異常の通知や異常発生の予兆を検知するソフトウェア「予兆監視ソフトウェア」に対応しています。このソフトウェアを用いると、ディスプレイの消耗品交換、各部清掃、部品交換のおおよその時期を通知し、事前にメンテナンスを実施することも可能にします。

ライセンスの種類によって監視できるディスプレイの登録台数が異なります。コンピューターへのインストール後 90 日間に限り、無料で最大 2048 台のディスプレイを登録してご使用いただけます。

ソフトウェアは、弊社 WEB サイト（http://panasonic.biz/projector/pass/）からダウンロードしてください。なお、ダウンロードするには、PASS*1 へ会員登録いただいたうえでログインする必要があります。

*1「PASS」とは、パナソニック 業務用ディスプレイ / プロジェクター テクニカルサポートサイトの名称です。
　詳しくは、弊社 WEB サイト（http://panasonic.biz/projector/pass/）をご覧ください。

廃棄について

製品を廃棄する際は、最寄りの市町村窓口または販売店に、正しい廃棄方法をお問い合わせください。

ランプには水銀が含まれています。取り外した古いランプユニットを廃棄する場合は、最寄りの市町村窓口、または販売店に正しい廃棄方法をお問い合わせください。

本機の取り扱いについて

■ 美しい映像をご覧いただくために

より高いコントラストで美しい映像をご覧いただくには、適切な環境を整えてください。スクリーン面に外光や照明などの光が入らないように、窓のカーテンやブラインドなどを閉め、スクリーン面近くの照明を消してください。

■ 投写レンズ面は素手でさわらないでください

投写レンズ面に指紋や汚れが付着すると、それらが拡大されてスクリーンに映り、美しい映像をご覧いただくための妨げとなります。

また、本機を使用しないときは、本機または別売品の投写レンズに付属のレンズカバーを取り付けておいてください。

■ DLP チップについて

- DLP チップは、非常に精密度の高い技術で製造されていますが、まれに画素の欠けや、常時点灯する画素が発生する場合があります。これらの現象は故障ではありませんので、あらかじめご了承ください。
- 高出力のレーザー光が投写レンズ面に入ると、DLP チップの故障の原因になりますので注意してください。

■ 動作中に移動させたり、振動や衝撃を与えたりしないでください

内蔵されているモーターの寿命を早めるおそれがあります。

■ ランプについて

本機の光源には、内部圧力の高い高圧水銀ランプを使用しています。

高圧水銀ランプには下記のような特性があります。

- 使用時間にともない、ランプの輝度が低下します。
- 衝撃やキズ、使用時間による劣化などにより大きな音を出して破裂したり、寿命が尽きたりすることがあります。
- 個体差や使用条件によって、寿命に大きなバラツキがあります。特に頻繁な電源の切 / 入の繰り返しは、ランプの劣化を早め、寿命に大きく影響します。
- 1 週間以上の連続使用はランプの劣化を早めます。メニューの[プロジェクターセットアップ]→[ランプリレー]を使用することで、連続使用による劣化を軽減できます。
- ごくまれに、投写開始後まもなく破裂することがあります。
- 交換時期を超えると破裂の可能性が高くなります。交換時期が来たらランプユニットを交換してください。
  （“ランプユニットの交換時期”（☞ 161 ページ）、“ランプユニットの交換手順”（☞ 162 ページ））
- 破裂すると、内部のガスが噴出し、煙のように見えることがあります。
- 万一に備え、あらかじめ交換用ランプユニットをご用意ください。

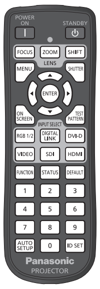
■ コンピューターや外部機器との接続について

- コンピューターまたは外部機器を接続する際は、電源コードやシールドされたケーブルの使用も含め、本書の内容をよくご確認のうえ実施してください。

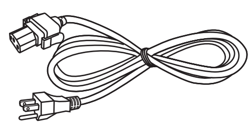
付属品の確認

以下の付属品が入っていることを確認してください。＜　＞は個数です。

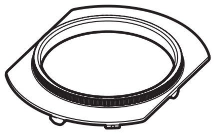
ワイヤレス / ワイヤードリモコン <1>
（N2QAYA000060）



電源コード <1>
（TXFSX02VLR9）

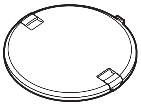


投写レンズカバー <1>
（ブラックモデル：TKPB64401）
（ホワイトモデル：TKPB64402）



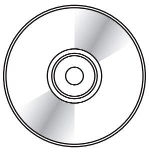
（外装ケースの色に合わせたものが付属）

レンズカバー <1>
（TKKL5244-1）

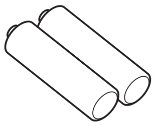


（レンズ付きモデルのみ）

CD-ROM<1>
（TXFQB02WGDZ）



単 4 形乾電池 <2>



（リモコン用）

お願い

- 電源コードキャップおよび包装材料は商品を取り出したあと、適切に処理してください。
- 付属の電源コードは本機以外の機器では使用しないでください。
- 付属品を紛失してしまった場合、販売店にご相談ください。
- 小物部品については乳幼児の手の届かない所に適切に保管してください。

お知らせ

- 付属品の品番は、予告なく変更する可能性があります。

CD-ROM の内容について

付属品の CD-ROM には、以下の内容が収録されています。

説明書 / 一覧表（PDF）	取扱説明書 詳細編	
	複数台プロジェクター 監視制御ソフトウェア 取扱説明書	
	ロゴ転送ソフトウェア 取扱説明書	
	対応プロジェクター機種一覧表	CD-ROM に収録されているソフトウェアに対応するプロジェクターの機種、および制約事項の一覧です。
ソフトウェア	複数台プロジェクター監視制御ソフトウェア（Windows）	LAN 接続された複数台のプロジェクターを監視・制御するソフトウェアです。
	ロゴ転送ソフトウェア（Windows）	スタート時に投影する会社ロゴマークなどユーザー独自の画像をプロジェクターに転送するソフトウェアです。

別売品

別売品（品名）	品番	
投写レンズ	ズームレンズ	ET-DLE085、ET-DLE150、ET-DLE250、ET-DLE350、ET-DLE450
	固定焦点レンズ	ET-DLE030、ET-DLE055
天つり金具	ET-PKD120H（高天井用）、ET-PKD120S（低天井用）、ET-PKD130H（高天井用、6 軸調整）、ET-PKD130B（取付用ベース金具）	
交換用ランプユニット	ET-LAD70（1 灯）、ET-LAD70W（2 灯）	
アップグレードキット	ET-UK20（PT-DZ780J のみ対応）	
自動スクリーン調整アップグレードキット	ET-CUK10（PT-DZ780J のみ対応）	
予兆監視ソフトウェア（基本ライセンス /3 年ライセンス）	ET-SWA100 シリーズ *1	
デジタルインターフェースボックス	ET-YFB100	
デジタルリンクスイッチャー	ET-YFB200	

*1 ライセンスの種類によって品番末尾の記号が異なります。

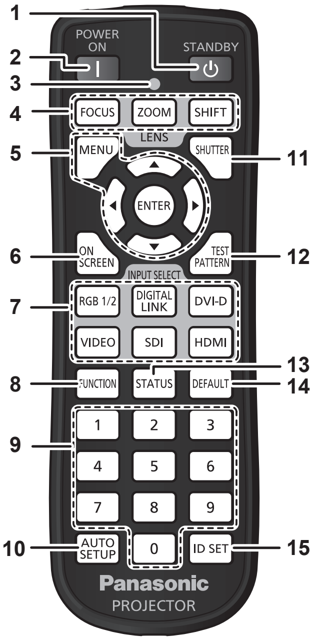
お知らせ

- 別売品の品番は、予告なく変更する可能性があります。

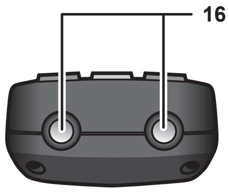
各部の名称とはたらき

リモコン

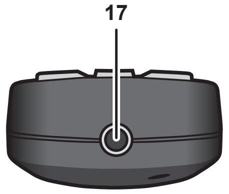
■ 正面



■ 天面



■ 底面



1　電源スタンバイ〈⏻〉ボタン
本体の主電源〈MAIN POWER〉スイッチが〈ON〉側で、投写状態のとき、本機の電源を切った状態（スタンバイ状態）にします。

2　電源入〈I〉ボタン
本体の主電源〈MAIN POWER〉スイッチが〈ON〉側で、電源が切れている状態（スタンバイ状態）のとき、本機を投写状態にします。

3　リモコン操作表示ランプ
リモコンのボタンを押すと点滅します。

4　レンズ（〈FOCUS〉、〈ZOOM〉、〈SHIFT〉）ボタン
投写レンズを調整します。（☞ 57 ページ）

5　〈MENU〉ボタン / 〈ENTER〉ボタン /▲▼◀▶ ボタン
メニュー画面の操作に使用します。（☞ 65 ページ）

6　〈ON SCREEN〉ボタン
オンスクリーン表示機能のオン（表示）/ オフ（非表示）を切り換えます。（☞ 60 ページ）

7　入力切換（〈RGB1/2〉、〈DIGITAL LINK〉、〈DVI-D〉、〈VIDEO〉、〈SDI〉、〈HDMI〉）ボタン
投写する入力を切り換えます。（☞ 61 ページ）
（SDI 入力は PT-DZ780J のみ対応）

8　〈FUNCTION〉ボタン
よく使う操作を割り当て、ショートカットボタンとして使用します。（☞ 62 ページ）

9　数字（〈0〉～〈9〉）ボタン
本体を複数台使用する環境で ID ナンバーを入力する場合や、パスワードを入力する場合などに使用します。

10　〈AUTO SETUP〉ボタン
映像を投写中に、画面表示位置を自動調整します。
自動調整中は画面に［実行中］と表示されます。（☞ 62 ページ）

11　〈SHUTTER〉ボタン
映像を一時的に消したい場合に使用します。（☞ 60 ページ）

12　〈TEST PATTERN〉ボタン
テストパターンを表示します。（☞ 62 ページ）

13　〈STATUS〉ボタン
本体の情報を表示します。

14　〈DEFAULT〉ボタン
サブメニューの設定内容を工場出荷時の状態に戻します。（☞ 66 ページ）

15　〈ID SET〉ボタン
本体を複数台使用する環境で、リモコンの ID ナンバーを設定する場合に使用します。（☞ 23 ページ）

16　リモコン発信部

17　リモコンワイヤード端子
ワイヤードリモコンとして使用する場合に、ケーブルで本体と接続して使用する端子です。（☞ 23 ページ）

お願い

- リモコンは落とさないようにしてください。
- リモコンに液状のものをかけないでください。
- リモコンを分解・修理しないでください。

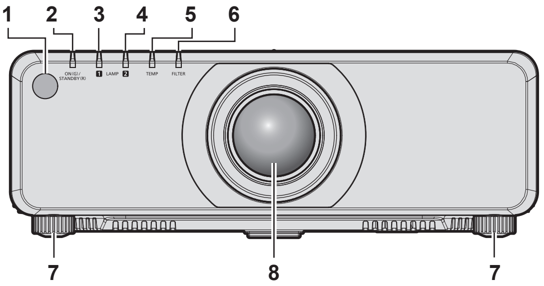
お知らせ

- リモコンを直接本体のリモコン受信部に向けて操作する場合は、リモコン受信部正面より約 30 m 以内で操作してください。また、上下左右に± 30°まで操作できますが、操作可能距離が短くなる場合があります。
- リモコンとリモコン受信部の間に障害物があると、正しく動作しない場合があります。
- リモコンからの信号を、スクリーンに反射させて本機を操作できます。ただし、スクリーン特性による光反射ロスにより、操作有効範囲が制限される場合があります。
- 本体のリモコン受信部に蛍光灯などの強い光が当たっていると、操作できなくなる場合があります。できるだけ光源から離して設置してください。

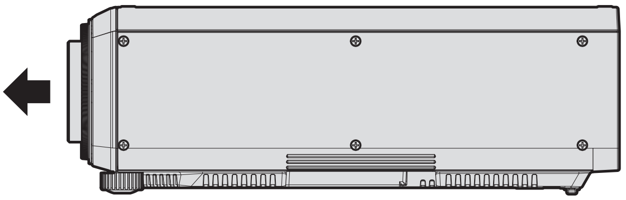
- 本体がリモコンの信号を受信すると電源インジケーター〈ON（G）/STANDBY（R）〉が点滅します。
- 工場出荷時、〈VIDEO〉ボタンによる操作は無効です。メニューの［セキュリティー］→［操作設定］（☞ 129 ページ）で、［リモコン］を［ユーザー］に設定し、［入力切換ボタン］の［VIDEO ボタン］を［無効］以外に設定している場合に有効になります。

本体

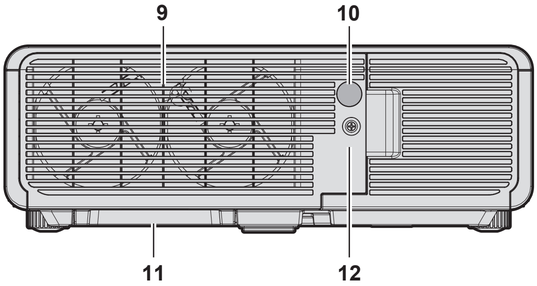
■ 前面

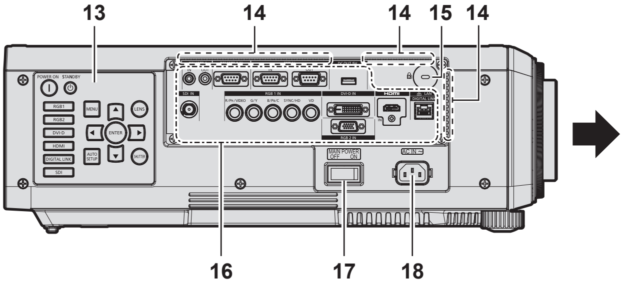


■ 側面

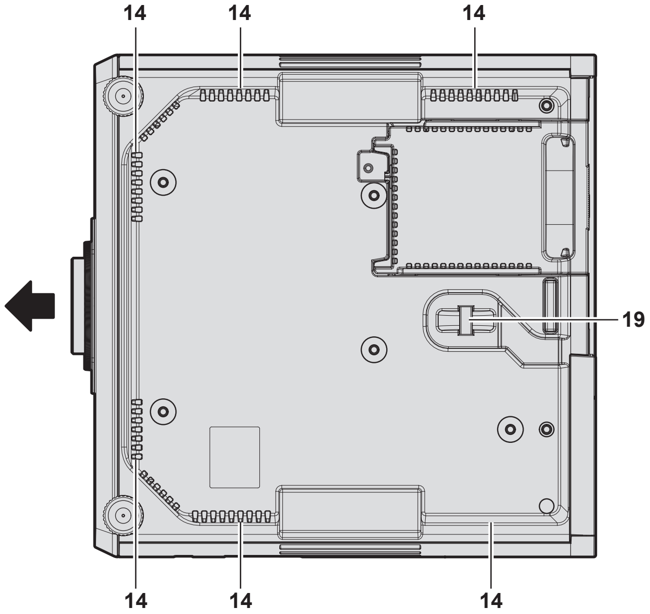


■ 後面





■ 底面



：投写方向

1　リモコン受信部（前）

2　電源インジケーター〈ON（G）/STANDBY（R）〉
電源の状態を表示します。

3　ランプインジケーター〈LAMP1〉
ランプ 1 の状態を表示します。

4　ランプインジケーター〈LAMP2〉
ランプ 2 の状態を表示します。

5　温度インジケーター〈TEMP〉
内部温度の状態を表示します。

6　フィルターインジケーター〈FILTER〉
エアフィルターケースとエアフィルターの状態を表示します。

7　アジャスター脚
設置姿勢を調整します。

8　投写レンズ
（レンズ付きモデルのみ）

9　排気口

10　リモコン受信部（後）

11　エアフィルターケース

12　ランプユニット収納扉

13　本体操作部（☞ 21 ページ）

14　吸気口
吸気口は、本体底面のほかに、側面の接続端子部周辺にもあります。

15　セキュリティースロット
このセキュリティースロットは、Kensington 社製セキュリティーケーブルに対応しています。
Kensington 社製セキュリティーケーブルについてのお問い合わせ先は、次のとおりです。

警　告

排気口には手やものを近づけない
- 手や顔を近づけない。
- 指を入れない。
- 熱に弱いものを近くに置かない。

排気口からは熱風がでているため、やけど・けが・変形の原因になります。

七陽商事株式会社　情報機器事業部
〒 103-0007
東京都中央区日本橋浜町 2-55-7 ナナヨービル
Tel 03-3663-7740
Fax 03-3669-2367
URL http://www.nanayojapan.co.jp/
* 連絡先は変更になる場合があります。ご了承ください。

16　接続端子部（☞ 21 ページ）

17　主電源〈MAIN POWER〉スイッチ
主電源を切 / 入しします。

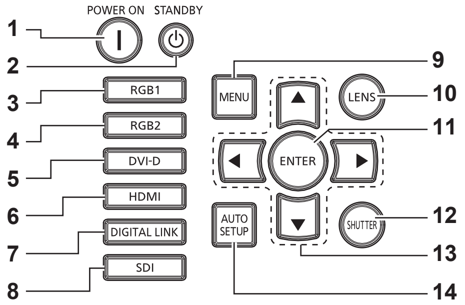
18　〈AC IN〉端子
付属の電源コードを接続します。

19　セキュリティーバー
盗難防止用にワイヤーなどを取り付けることができます。

お願い

- 本機の吸気口・排気口をふさがないでください。

■ 本体操作部



1　電源入〈I〉ボタン
本体の主電源〈MAIN POWER〉スイッチが〈ON〉側で、電源が切れている状態（スタンバイ状態）のとき、本機を投写状態にします。

2　電源スタンバイ〈⏻〉ボタン
本体の主電源〈MAIN POWER〉スイッチが〈ON〉側で、投写状態のとき、本機の電源を切った状態（スタンバイ状態）にします。

3　〈RGB1〉ボタン
RGB1 に入力を切り換えます。

4　〈RGB2〉ボタン
RGB2 に入力を切り換えます。

5　〈DVI-D〉ボタン
DVI-D に入力を切り換えます。

6　〈HDMI〉ボタン
HDMI に入力を切り換えます。

7　〈DIGITAL LINK〉ボタン
DIGITAL LINK に入力を切り換えます。

8　〈SDI〉ボタン
SDI に入力を切り換えます。
（PT-DZ780J のみ）

9　〈MENU〉ボタン
メインメニューを表示したり、消したりします。（☞ 65 ページ）
サブメニューが表示されているときは、1 つ前の画面に戻ります。
オンスクリーン表示がオフ（非表示）の状態で、本体操作部の〈MENU〉ボタンを 3 秒以上長押しすると、オンスクリーン表示の非表示状態を解除します。

10　〈LENS〉ボタン
レンズのフォーカス、ズーム、シフト（位置）の調整をします。

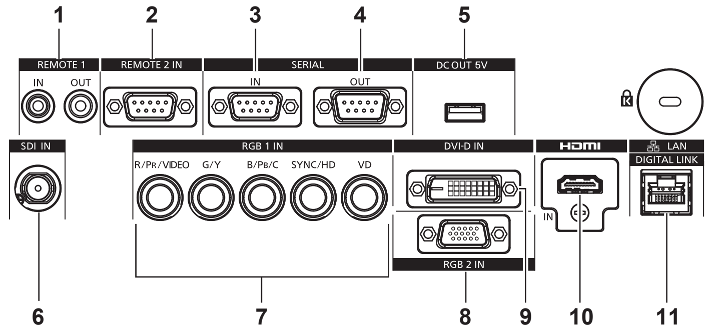
11　〈ENTER〉ボタン
メニュー画面の項目の決定や実行をします。

12　〈SHUTTER〉ボタン
映像を一時的に消したい場合に使用します。（☞ 60 ページ）

13　▲▼◀▶ 選択ボタン
メニュー画面の項目選択や、設定の切り換えおよびレベルの調整をします。
また、［セキュリティー］のパスワード入力や文字の入力にも使用します。

14　〈AUTO SETUP〉ボタン
映像を投写中に、画面表示位置を自動調整します。自動調整中は画面に［実行中］と表示されます。（☞ 62 ページ）

■ 接続端子部



1　〈REMOTE 1 IN〉端子 /〈REMOTE 1 OUT〉端子
本体を複数台使用する環境で、リモコンを接続して連結制御する端子です。

2　〈REMOTE 2 IN〉端子
外部制御回路を使用して本体を遠隔操作する端子です。

3　〈SERIAL IN〉端子
コンピューターを接続して本体を外部制御するための RS-232C 準拠の入力端子です。

4　〈SERIAL OUT〉端子
〈SERIAL IN〉端子に接続されている信号を出力する端子です。

5　〈DC OUT 5V〉端子
給電専用の USB 端子です。（DC 5 V、最大 900 mA）
ワイヤレスディスプレイアダプターなどへ電源供給が必要な場合にご使用いただけます。

6 〈SDI IN〉端子
SDI 信号を入力する端子です。
（PT-DZ780J のみ）

7 〈RGB 1 IN〉（〈R/P_R/VIDEO〉、〈G/Y〉、〈B/P_B/C〉、〈SYNC/HD〉、〈VD〉）端子
RGB 信号または YC_BC_R/YP_BP_R 信号、Y/C 信号、ビデオ信号を入力する端子です。

8 〈RGB 2 IN〉端子
RGB 信号または YC_BC_R/YP_BP_R 信号を入力する端子です。

9 〈DVI-D IN〉端子
DVI-D 信号を入力する端子です。

10 〈HDMI IN〉端子
HDMI 信号を入力する端子です。

11 〈DIGITAL LINK/LAN〉端子
ネットワーク接続する LAN 端子です。または、LAN 端子経由で映像信号を送出する機器を接続するときの端子です。

お願い

- プロジェクターに直接接続する LAN ケーブルは、屋内だけで配線してください。

リモコンの準備

電池を入れる、取り出す

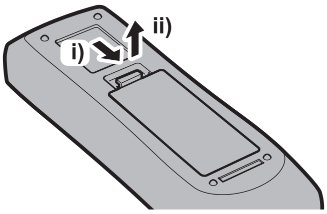


図1

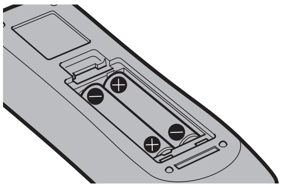


図2

1)　ふたを開ける（図 1）

2)　電池を入れ、ふたを閉じる（⊖ 側から先に入れます）（図 2）

- 電池を取り出す場合は、逆の手順で行います。

本機を複数台使用するときは

本機を複数台並べて使用する場合、それぞれの本体に個々の ID ナンバーを設定することにより、1 つのリモコンで同時制御や個別制御ができます。

ID ナンバーを設定して使用する場合は、初期設定終了後、まず本体の ID ナンバーを設定し、次にリモコンの ID ナンバーを設定します。初期設定については、“初期設定画面が表示されたら”（☞ 51 ページ）をご覧ください。

工場出荷時、本機（本体とリモコン）の ID ナンバーは［オール］に設定されていますので、そのままお使いいただけます。必要に応じて、本体とリモコンの ID ナンバーを設定してください。

リモコンの ID ナンバーの設定について、詳しくは“リモコンの ID ナンバーを設定する”（☞ 63 ページ）をご覧ください。

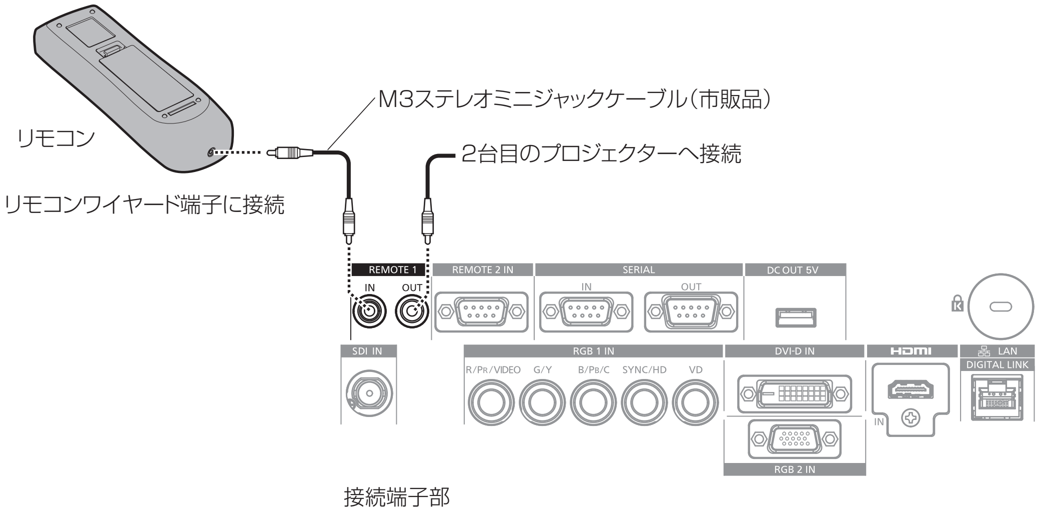
お知らせ

- 本体の ID ナンバーは、メニューの［プロジェクターセットアップ］→［プロジェクター ID］で設定してください。

ケーブルで本体と接続して使う

本機を複数台並べて、1 つのリモコンで同時制御したい場合は、本体の〈REMOTE 1 IN〉/〈REMOTE 1 OUT〉端子を利用して、市販の M3 ステレオミニジャックケーブルを使用して接続します。

本体とリモコンとの間に障害物がある場所や、外光の影響を受けやすい場所で使用する場合にも効果的です。



お願い

- ケーブルは長さが 15 m 以下、2 芯シールドのものを使用してください。ケーブルの長さが 15 m を超えるものや、ケーブルのシールドが不十分なものを使用すると、動作しない場合があります。

第２章　準備

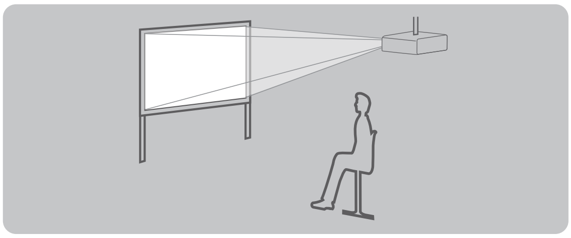
設置や接続など、ご使用前に行っていただく内容について説明しています。

設置する

設置形態

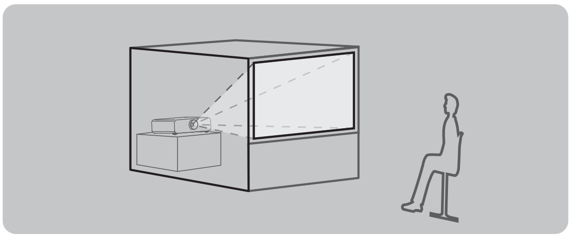
本機の設置形態は 4 通りあります。設置形態に応じてメニューの［プロジェクターセットアップ］→［投写方式］（☞ 105 ページ）を設定してください。［冷却条件］は、［オート］に設定して使用してください。［冷却条件］を誤った設定のままで使用すると、ランプの寿命を早める原因になります。

天つり設置で前方に投写する場合



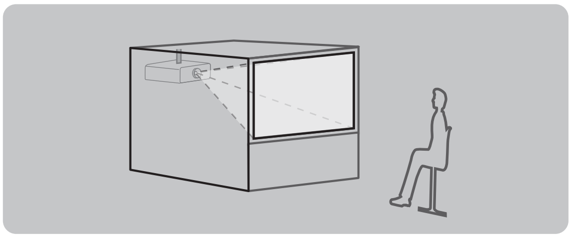
メニュー項目	設定値
［投写方式］	［フロント / 天つり］
［冷却条件］	［オート］

床置き設置で後方から投写する場合
（透過式スクリーン使用）



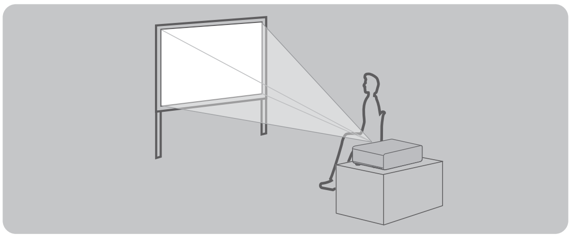
メニュー項目	設定値
［投写方式］	［リア / 床置］
［冷却条件］	［オート］

天つり設置で後方から投写する場合
（透過式スクリーン使用）



メニュー項目	設定値
［投写方式］	［リア / 天つり］
［冷却条件］	［オート］

床置き設置で前方に投写する場合



メニュー項目	設定値
［投写方式］	［フロント / 床置］
［冷却条件］	［オート］

設置オプションについて（別売品）

別売品の天つり金具（品番：ET-PKD120H（高天井用）、ET-PKD120S（低天井用）、ET-PKD130H（高天井用、6 軸調整））と、天つり金具（品番：ET-PKD130B（取付用ベース金具））とを組み合わせて、天井に取り付けて設置できます。

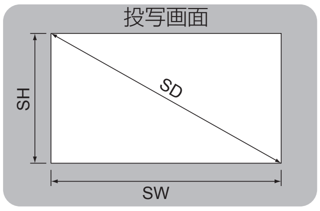
- 必ず、本機専用の天つり金具をご使用ください。
- 本機の取り付けおよび設置については、天つり金具の施工説明書をご覧ください。

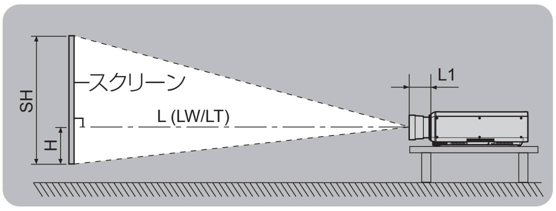
お願い

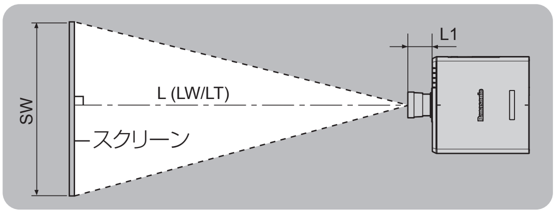
- 天つり金具の取り付け工事は、性能、安全確保のため、必ずお求めの販売店または工事専門業者に施工を依頼してください。

投写関係

本機の設置は、スクリーンサイズや投写距離を参考にして設置してください。なお、スクリーンサイズ、スクリーン位置に応じて画面サイズ、画面位置を調整できます。固定焦点レンズ（品番：ET-DLE030）を装着している場合は、スクリーンとプロジェクターの投写関係が、他のレンズと異なります。詳しくは、“固定焦点レンズ（品番：ET-DLE030）の場合”（☞ 27 ページ）をご覧ください。







（単位：m）

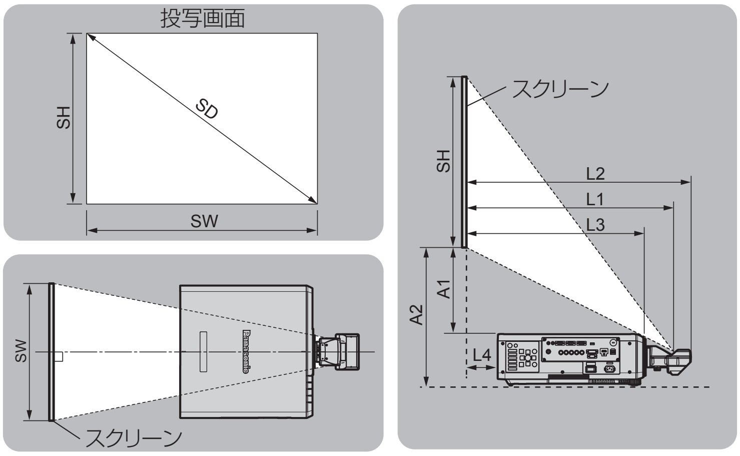
L（LW/LT）*1	投写距離
L1	レンズ突出寸法
SH	投写画面高さ
SW	投写画面幅
H	レンズセンターから投写画像下端までの距離
SD	投写画面サイズ

*1　LW：ズームレンズ使用時、最短投写距離
　　LT：ズームレンズ使用時、最長投写距離

（単位：m）

投写レンズ品番	L1 の寸法（概略値）
標準ズームレンズ	0.023
ET-DLE055	0.007
ET-DLE085	0.064
ET-DLE150	0.024
ET-DLE250	0.025
ET-DLE350	0.031
ET-DLE450	0.075

■ 固定焦点レンズ（品番：ET-DLE030）の場合



（単位：m）

SH	投写画面高さ
SW	投写画面幅
SD	投写画面サイズ
L1	投写距離（スクリーンからミラー反射面 *1 まで）
L2	プロジェクターとスクリーンの距離（スクリーンからレンズ先端まで）
L3	プロジェクターとスクリーンの距離（スクリーンからプロジェクター前面まで）
L4	プロジェクターとスクリーンの距離（スクリーンからプロジェクター後面まで）
A1	プロジェクターとスクリーンの距離（スクリーン下端からプロジェクター天面まで）
A2	プロジェクターとスクリーンの距離（スクリーン下端からプロジェクター底面まで）

*1　ミラー反射面は固定焦点レンズ内部にあるため、外側からは確認できません。

（単位：m）

プロジェクターとスクリーンの距離	計算式
L2	= L1*1 + 0.023
L3	= L1*1 − 0.146
L4	= L1*1 − 0.644
A2	= A1*1 + 0.175

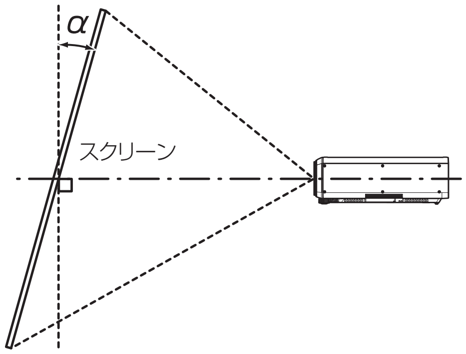
*1　数値の求め方について、詳しくは、“投写レンズ別投写距離計算式”（☞ 38 ページ）をご覧ください。

お願い

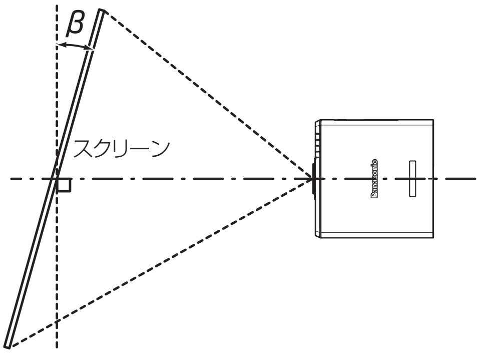
- 設置する前に“ご使用になる前に”（☞ 13 ページ）をお読みください。
  特に固定焦点レンズ（品番：ET-DLE030）をご使用の場合は、投写画面が長方形になるよう、プロジェクターはその後面とスクリーン面を平行にして設置してください。
  ただし、設置したあとでも、ある範囲の垂直方向の台形ひずみを、メニューの［位置調整］→［幾何学歪補正］→［台形補正］→［垂直台形補正］（☞ 79 ページ）で補正できます。補正できる範囲については、“［幾何学歪補正］による投写範囲”（☞ 28 ページ）をご覧ください。
- 本機と高出力のレーザー機器を同じ部屋で使用しないでください。レーザー光が投写レンズ面に入ると DLP チップの故障の原因になります。

［幾何学歪補正］による投写範囲

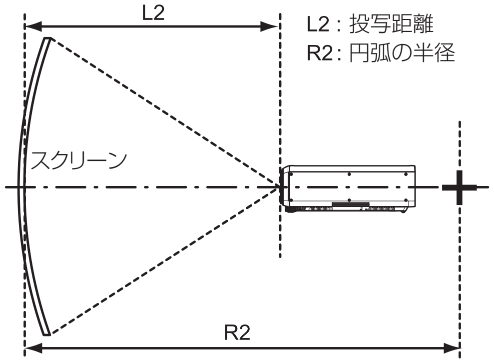
［垂直台形補正］（横から見たとき）



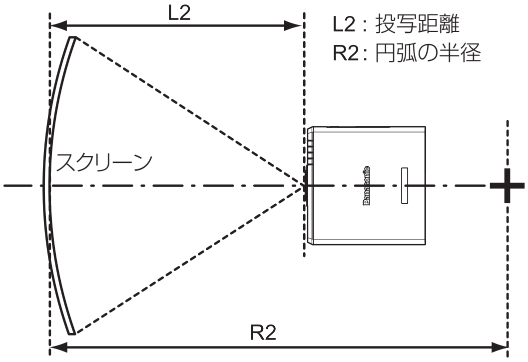
［水平台形補正］（真上から見たとき）

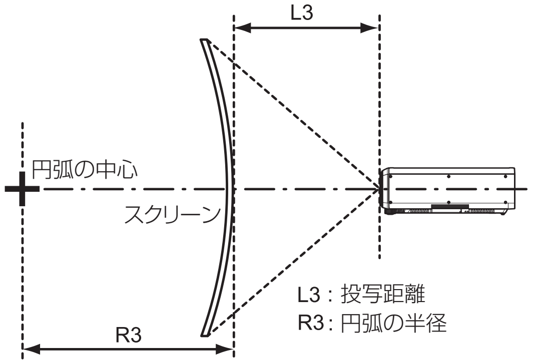


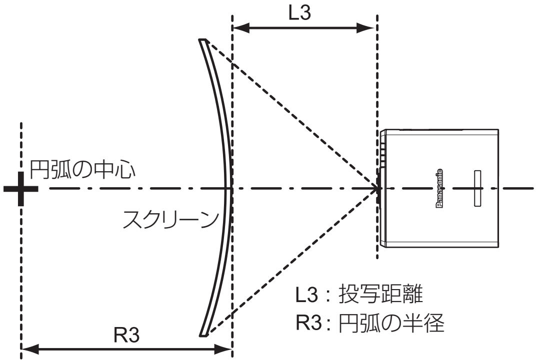
垂直弧の補正（横から見たとき）



水平弧の補正（真上から見たとき）







標準状態

投写レンズ品番	［台形補正］のみ		［台形補正］と［曲面補正］の併用時				［曲面補正］のみ	
	垂直台形補正角α（°）	水平台形補正角β（°）	垂直台形補正角α（°）	水平台形補正角β（°）	R2/L2 の最小値	R3/L3 の最小値	R2/L2 の最小値	R3/L3 の最小値
標準ズームレンズ	± 40	± 15	± 20	± 15	0.9	1.7	0.5	1
ET-DLE030*1	+5 / –0	0	—	—	—	—	—	—
ET-DLE055	± 22	± 15	± 8	± 8	1.7	4.3	1	2.6
ET-DLE085	± 22	± 15	± 8	± 8	1.7	4.3	1	2.6
ET-DLE150	± 40	± 15	± 20	± 15	1.1	2.6	0.6	1.5
ET-DLE250	± 40	± 15	± 20	± 15	0.7	1.3	0.4	0.7
ET-DLE350	± 40	± 15	± 20	± 15	0.4	0.8	0.3	0.5
ET-DLE450	± 40	± 15	± 20	± 15	0.3	0.6	0.2	0.3

*1　プロジェクター本体とスクリーンの距離が遠ざかる方向の垂直台形補正のみ補正できます。

別売品のアップグレードキット（品番：ET-UK20）適用時

（PT-DZ780J のみ）

投写レンズ品番	［台形補正］のみ *1		［台形補正］と［曲面補正］の併用時				［曲面補正］のみ	
	垂直台形補正角α（°）	水平台形補正角β（°）	垂直台形補正角α（°）	水平台形補正角β（°）	R2/L2 の最小値	R3/L3 の最小値	R2/L2 の最小値	R3/L3 の最小値
標準ズームレンズ	± 40	± 40	± 20	± 15	0.7	1.3	0.4	0.7
ET-DLE030*2	+5 / –0	0	—	—	—	—	—	—
ET-DLE055	± 22	± 15	± 8	± 8	1.3	3.3	0.8	1.9
ET-DLE085	± 22	± 15	± 8	± 8	1.3	3.3	0.8	1.9
ET-DLE150	± 40	± 40	± 20	± 15	0.9	2	0.5	1.1
ET-DLE250	± 40	± 40	± 20	± 15	0.5	1	0.3	0.6
ET-DLE350	± 45	± 40	± 20	± 15	0.3	0.6	0.2	0.4
ET-DLE450	± 45	± 40	± 20	± 15	0.2	0.4	0.2	0.3

*1　［垂直台形補正］と［水平台形補正］を同時使用時は合計で 55° を超えて補正することはできません。
*2　プロジェクター本体とスクリーンの距離が遠ざかる方向の垂直台形補正のみ補正できます。

お知らせ

- ［幾何学歪補正］を使用した場合、補正量が大きくなるとフォーカスが画面全体では合わない場合があります。
- 曲面のスクリーンは、真円の一部を切り取った円弧の形状にしてください。
- ［幾何学歪補正］の各項目の調整操作範囲は、使用する投写レンズによっては記載の投写範囲とは一致しないことがあります。投写範囲を超えると補正できないことがありますので、投写範囲内でご使用ください。

投写レンズごとの投写距離

記載の投写距離は± 5 ％の誤差が発生します。
また、［幾何学歪補正］使用時は、所定の画面サイズよりも小さくなる方向で補正されます。

PT-DZ780J の場合

■ 画面アスペクト比 16：10 のとき

（単位：m）

レンズタイプ			標準ズームレンズ		別売品レンズ								
					固定焦点レンズ				超短焦点ズームレンズ		短焦点ズームレンズ		
投写レンズ品番			—		ET-DLE030[*2]			ET-DLE055	ET-DLE085		ET-DLE150		
スローレシオ [*1]			1.7-2.4：1		0.38：1			0.8：1	0.8-1.0：1		1.3-1.9：1		
投写画面サイズ			投写距離（L）		投写距離（L1）	プロジェクターとスクリーンの距離		投写距離（L）					
対角（SD）	高さ（SH）	幅（SW）	最短（LW）	最長（LT）		（L4）	（A1）	固定	最短（LW）	最長（LT）	最短（LW）	最長（LT）	
1.27（50 型）	0.673	1.077	1.82	2.57	—	—	—	0.83	0.82	1.04	1.38	2.01	
1.52（60 型）	0.808	1.292	2.20	3.10	—	—	—	1.00	1.00	1.25	1.66	2.43	
1.78（70 型）	0.942	1.508	2.58	3.63	—	—	—	1.18	1.17	1.47	1.95	2.84	
2.03（80 型）	1.077	1.723	2.95	4.16	—	—	—	1.35	1.35	1.68	2.23	3.25	
2.29（90 型）	1.212	1.939	3.33	4.69	—	—	—	1.53	1.52	1.90	2.52	3.66	
2.54（100 型）	1.346	2.154	3.71	5.21	0.82	0.17	0.43	1.70	1.70	2.11	2.81	4.08	
3.05（120 型）	1.615	2.585	4.47	6.27	0.98	0.34	0.54	2.05	2.05	2.55	3.38	4.90	
3.81（150 型）	2.019	3.231	5.60	7.86	1.23	0.58	0.69	2.58	2.57	3.19	4.24	6.14	
5.08（200 型）	2.692	4.308	7.50	10.50	1.63	0.99	0.94	3.45	3.44	4.27	5.67	8.20	
6.35（250 型）	3.365	5.385	9.39	13.14	2.04	1.40	1.19	—	4.31	5.35	7.10	10.26	
7.62（300 型）	4.039	6.462	11.28	15.79	2.45	1.80	1.44	—	5.18	6.43	8.53	12.33	
8.89（350 型）	4.712	7.539	13.18	18.43	2.85	2.21	1.69	—	6.06	7.51	9.96	14.39	
10.16（400 型）	5.385	8.616	15.07	21.07	—	—	—	—	6.93	8.59	11.39	16.45	
12.70（500 型）	6.731	10.770	18.86	26.36	—	—	—	—	8.67	10.75	14.25	20.58	
15.24（600 型）	8.077	12.923	22.64	31.65	—	—	—	—	10.42	12.91	17.11	24.70	

レンズタイプ			別売品レンズ						高さ位置（H）[*3]	
			中焦点ズームレンズ		長焦点ズームレンズ		超長焦点ズームレンズ			
投写レンズ品番			ET-DLE250		ET-DLE350		ET-DLE450		標準ズームレンズ /ET-DLE085/ ET-DLE150/ ET-DLE250/ ET-DLE350/ ET-DLE450	ET-DLE055（固定）
スローレシオ [*1]			2.3-3.6：1		3.6-5.4：1		5.4-8.6：1			
投写画面サイズ			投写距離（L）							
対角（SD）	高さ（SH）	幅（SW）	最短（LW）	最長（LT）	最短（LW）	最長（LT）	最短（LW）	最長（LT）		
1.27（50 型）	0.673	1.077	2.42	3.87	3.80	5.81	5.66	9.12	0 ～ 0.34	0.34
1.52（60 型）	0.808	1.292	2.92	4.65	4.59	7.00	6.85	11.01	0 ～ 0.40	0.40
1.78（70 型）	0.942	1.508	3.42	5.44	5.38	8.19	8.04	12.89	0 ～ 0.47	0.47
2.03（80 型）	1.077	1.723	3.92	6.23	6.16	9.38	9.23	14.78	0 ～ 0.54	0.54
2.29（90 型）	1.212	1.939	4.42	7.02	6.95	10.57	10.43	16.66	0 ～ 0.61	0.61
2.54（100 型）	1.346	2.154	4.92	7.81	7.74	11.76	11.62	18.55	0 ～ 0.67	0.67
3.05（120 型）	1.615	2.585	5.91	9.39	9.31	14.14	14.00	22.31	0 ～ 0.81	0.81
3.81（150 型）	2.019	3.231	7.41	11.75	11.68	17.71	17.58	27.97	0 ～ 1.01	1.01
5.08（200 型）	2.692	4.308	9.91	15.70	15.61	23.66	23.54	37.39	0 ～ 1.35	1.35
6.35（250 型）	3.365	5.385	12.41	19.64	19.55	29.61	29.50	46.81	0 ～ 1.68	—
7.62（300 型）	4.039	6.462	14.91	23.59	23.49	35.56	35.46	56.24	0 ～ 2.02	—
8.89（350 型）	4.712	7.539	17.40	27.53	27.42	41.51	41.42	65.66	0 ～ 2.36	—
10.16（400 型）	5.385	8.616	19.90	31.48	31.36	47.46	47.38	75.08	0 ～ 2.69	—
12.70（500 型）	6.731	10.770	24.90	39.37	39.23	59.36	59.30	93.93	0 ～ 3.37	—
15.24（600 型）	8.077	12.923	29.89	47.25	47.11	71.25	71.22	112.77	0 ～ 4.04	—

*1　スローレシオは、投写画面サイズ 80 型投写時の値を基準にしています。固定焦点レンズ（品番：ET-DLE030）を装着している場合は、投写画面サイズ 100 型投写時の値を基準にしています。
*2　固定焦点レンズ（品番：ET-DLE030）を装着している場合は、スクリーンとプロジェクターの投写関係が、他のレンズと異なります。詳しくは、“固定焦点レンズ（品番：ET-DLE030）の場合”（☞ 27 ページ）をご覧ください。
*3　固定焦点レンズ（品番：ET-DLE055）を装着している場合は、レンズシフトが使用できないため、高さ位置（H）は SH/2 になります。

■ 画面アスペクト比 16：9 のとき

（単位：m）

レンズタイプ			標準ズームレンズ		別売品レンズ							
					固定焦点レンズ				超短焦点ズームレンズ		短焦点ズームレンズ	
投写レンズ品番			—		ET-DLE030*2			ET-DLE055	ET-DLE085		ET-DLE150	
スローレシオ *1			1.7-2.4：1		0.38：1			0.8：1	0.8-1.0：1		1.3-1.9：1	
投写画面サイズ			投写距離（L）		投写距離（L1）	プロジェクターとスクリーンの距離		投写距離（L）				
対角（SD）	高さ(SH)	幅（SW）	最短(LW)	最長(LT)		（L4）	（A1）	固定	最短(LW)	最長(LT)	最短(LW)	最長(LT)
1.27（50 型）	0.623	1.107	1.87	2.64	—	—	—	0.85	0.85	1.07	1.42	2.07
1.52（60 型）	0.747	1.328	2.26	3.19	—	—	—	1.03	1.03	1.29	1.71	2.49
1.78（70 型）	0.872	1.550	2.65	3.73	—	—	—	1.21	1.21	1.51	2.00	2.92
2.03（80 型）	0.996	1.771	3.04	4.27	—	—	—	1.39	1.39	1.73	2.30	3.34
2.29（90 型）	1.121	1.992	3.43	4.82	—	—	—	1.57	1.57	1.95	2.59	3.77
2.54（100 型）	1.245	2.214	3.82	5.36	0.84	0.20	0.52	1.75	1.75	2.17	2.89	4.19
3.05（120 型）	1.494	2.657	4.60	6.45	1.01	0.36	0.64	2.11	2.10	2.62	3.47	5.04
3.81（150 型）	1.868	3.321	5.76	8.08	1.26	0.62	0.81	2.65	2.64	3.28	4.36	6.31
5.08（200 型）	2.491	4.428	7.71	10.80	1.68	1.03	1.10	3.55	3.54	4.39	5.82	8.43
6.35（250 型）	3.113	5.535	9.65	13.51	2.10	1.45	1.40	—	4.43	5.50	7.29	10.55
7.62（300 型）	3.736	6.641	11.60	16.23	2.51	1.87	1.69	—	5.33	6.61	8.76	12.67
8.89（350 型）	4.358	7.748	13.55	18.95	2.93	2.29	1.98	—	6.23	7.72	10.23	14.79
10.16（400 型）	4.981	8.855	15.49	21.66	—	—	—	—	7.12	8.83	11.70	16.91
12.70（500 型）	6.226	11.069	19.38	27.10	—	—	—	—	8.91	11.05	14.64	21.15
15.24（600 型）	7.472	13.283	23.27	32.53	—	—	—	—	10.71	13.27	17.58	25.39

レンズタイプ			別売品レンズ						高さ位置（H）*3	
			中焦点ズームレンズ		長焦点ズームレンズ		超長焦点ズームレンズ			
投写レンズ品番			ET-DLE250		ET-DLE350		ET-DLE450		標準ズームレンズ/ET-DLE085/ET-DLE150/ET-DLE250/ET-DLE350/ET-DLE450	ET-DLE055（固定）
スローレシオ *1			2.3-3.6：1		3.6-5.4：1		5.4-8.6：1			
投写画面サイズ			投写距離（L）							
対角（SD）	高さ(SH)	幅（SW）	最短(LW)	最長(LT)	最短(LW)	最長(LT)	最短(LW)	最長(LT)		
1.27（50 型）	0.623	1.107	2.49	3.97	3.91	5.98	5.82	9.39	–0.06 ～ 0.31	0.31
1.52（60 型）	0.747	1.328	3.00	4.79	4.72	7.20	7.05	11.32	–0.07 ～ 0.37	0.37
1.78（70 型）	0.872	1.550	3.51	5.60	5.53	8.43	8.27	13.26	–0.09 ～ 0.44	0.44
2.03（80 型）	0.996	1.771	4.03	6.41	6.34	9.65	9.50	15.20	–0.10 ～ 0.50	0.50
2.29（90 型）	1.121	1.992	4.54	7.22	7.15	10.87	10.72	17.13	–0.11 ～ 0.56	0.56
2.54（100 型）	1.245	2.214	5.05	8.03	7.96	12.09	11.95	19.07	–0.12 ～ 0.62	0.62
3.05（120 型）	1.494	2.657	6.08	9.65	9.58	14.54	14.40	22.94	–0.15 ～ 0.75	0.75
3.81（150 型）	1.868	3.321	7.62	12.08	12.00	18.21	18.08	28.75	–0.19 ～ 0.93	0.93
5.08（200 型）	2.491	4.428	10.19	16.14	16.05	24.32	24.20	38.44	–0.25 ～ 1.25	1.25
6.35（250 型）	3.113	5.535	12.75	20.19	20.10	30.44	30.33	48.12	–0.31 ～ 1.56	—
7.62（300 型）	3.736	6.641	15.32	24.25	24.14	36.55	36.45	57.81	–0.37 ～ 1.87	—
8.89（350 型）	4.358	7.748	17.89	28.30	28.19	42.67	42.58	67.49	–0.44 ～ 2.18	—
10.16（400 型）	4.981	8.855	20.46	32.35	32.24	48.78	48.71	77.18	–0.50 ～ 2.49	—
12.70（500 型）	6.226	11.069	25.59	40.46	40.33	61.01	60.96	96.55	–0.62 ～ 3.11	—
15.24（600 型）	7.472	13.283	30.72	48.57	48.42	73.24	73.21	115.91	–0.75 ～ 3.74	—

*1 スローレシオは、投写画面サイズ 80 型投写時の値を基準にしています。固定焦点レンズ（品番：ET-DLE030）を装着している場合は、投写画面サイズ 100 型投写時の値を基準にしています。
*2 固定焦点レンズ（品番：ET-DLE030）を装着している場合は、スクリーンとプロジェクターの投写関係が、他のレンズと異なります。詳しくは、“固定焦点レンズ（品番：ET-DLE030）の場合”（☞ 27 ページ）をご覧ください。
*3 固定焦点レンズ（品番：ET-DLE055）を装着している場合は、レンズシフトが使用できないため、高さ位置（H）は SH/2 になります。

■ 画面アスペクト比 4：3 のとき

（単位：m）

レンズタイプ			標準ズームレンズ		別売品レンズ							
					固定焦点レンズ				超短焦点ズームレンズ		短焦点ズームレンズ	
投写レンズ品番			—		ET-DLE030*2			ET-DLE055	ET-DLE085		ET-DLE150	
スローレシオ *1			2.1-2.9：1		0.46：1			0.9：1	0.9-1.2：1		1.6-2.3：1	
投写画面サイズ			投写距離（L）		投写距離（L1）	プロジェクターとスクリーンの距離		投写距離（L）				
対角（SD）	高さ（SH）	幅（SW）	最短（LW）	最長（LT）		（L4）	（A1）	固定	最短（LW）	最長（LT）	最短（LW）	最長（LT）
1.27（50 型）	0.762	1.016	2.07	2.92	—	—	—	0.94	0.94	1.18	1.56	2.29
1.52（60 型）	0.914	1.219	2.50	3.52	—	—	—	1.14	1.14	1.42	1.89	2.75
1.78（70 型）	1.067	1.422	2.93	4.12	—	—	—	1.34	1.33	1.67	2.21	3.22
2.03（80 型）	1.219	1.626	3.35	4.72	—	—	—	1.54	1.53	1.91	2.54	3.69
2.29（90 型）	1.372	1.829	3.78	5.31	—	—	—	1.74	1.73	2.16	2.86	4.15
2.54（100 型）	1.524	2.032	4.21	5.91	0.93	0.28	0.50	1.93	1.93	2.40	3.18	4.62
3.05（120 型）	1.829	2.438	5.07	7.11	1.11	0.47	0.61	2.33	2.32	2.89	3.83	5.55
3.81（150 型）	2.286	3.048	6.35	8.91	1.39	0.74	0.79	2.93	2.91	3.62	4.80	6.96
5.08（200 型）	3.048	4.064	8.50	11.90	1.85	1.20	1.07	3.92	3.90	4.84	6.42	9.29
6.35（250 型）	3.810	5.080	10.64	14.89	2.31	1.66	1.35	—	4.89	6.07	8.04	11.63
7.62（300 型）	4.572	6.096	12.78	17.88	2.77	2.13	1.64	—	5.88	7.29	9.66	13.96
8.89（350 型）	5.334	7.112	14.93	20.88	3.23	2.59	1.92	—	6.86	8.51	11.28	16.30
10.16（400 型）	6.096	8.128	17.07	23.87	—	—	—	—	7.85	9.73	12.90	18.63
12.70（500 型）	7.620	10.160	21.36	29.85	—	—	—	—	9.82	12.17	16.13	23.30
15.24（600 型）	9.144	12.192	25.64	35.84	—	—	—	—	11.80	14.62	19.37	27.97

レンズタイプ			別売品レンズ						高さ位置（H）*3	
			中焦点ズームレンズ		長焦点ズームレンズ		超長焦点ズームレンズ			
投写レンズ品番			ET-DLE250		ET-DLE350		ET-DLE450		標準ズームレンズ/ET-DLE085/ET-DLE150/ET-DLE250/ET-DLE350/ET-DLE450	ET-DLE055（固定）
スローレシオ *1			2.7-4.3：1		4.3-6.5：1		6.5-10.3：1			
投写画面サイズ			投写距離（L）							
対角（SD）	高さ（SH）	幅（SW）	最短（LW）	最長（LT）	最短（LW）	最長（LT）	最短（LW）	最長（LT）		
1.27（50 型）	0.762	1.016	2.75	4.39	4.32	6.60	6.45	10.37	0 ～ 0.38	0.38
1.52（60 型）	0.914	1.219	3.31	5.28	5.21	7.95	7.80	12.50	0 ～ 0.46	0.46
1.78（70 型）	1.067	1.422	3.88	6.17	6.10	9.29	9.14	14.63	0 ～ 0.53	0.53
2.03（80 型）	1.219	1.626	4.44	7.07	7.00	10.64	10.49	16.77	0 ～ 0.61	0.61
2.29（90 型）	1.372	1.829	5.01	7.96	7.89	11.99	11.84	18.90	0 ～ 0.69	0.69
2.54（100 型）	1.524	2.032	5.57	8.85	8.78	13.34	13.19	21.03	0 ～ 0.76	0.76
3.05（120 型）	1.829	2.438	6.71	10.64	10.56	16.03	15.89	25.30	0 ～ 0.91	0.91
3.81（150 型）	2.286	3.048	8.40	13.32	13.24	20.07	19.94	31.70	0 ～ 1.14	1.14
5.08（200 型）	3.048	4.064	11.23	17.78	17.69	26.80	26.69	42.37	0 ～ 1.52	1.52
6.35（250 型）	3.810	5.080	14.06	22.25	22.15	33.54	33.44	53.04	0 ～ 1.91	—
7.62（300 型）	4.572	6.096	16.88	26.71	26.61	40.27	40.18	63.70	0 ～ 2.29	—
8.89（350 型）	5.334	7.112	19.71	31.18	31.06	47.01	46.93	74.37	0 ～ 2.67	—
10.16（400 型）	6.096	8.128	22.54	35.64	35.52	53.74	53.68	85.04	0 ～ 3.05	—
12.70（500 型）	7.620	10.160	28.19	44.58	44.43	67.21	67.17	106.37	0 ～ 3.81	—
15.24（600 型）	9.144	12.192	33.85	53.51	53.35	80.68	80.67	127.70	0 ～ 4.57	—

*1　スローレシオは、投写画面サイズ 80 型投写時の値を基準にしています。固定焦点レンズ（品番：ET-DLE030）を装着している場合は、投写画面サイズ 100 型投写時の値を基準にしています。
*2　固定焦点レンズ（品番：ET-DLE030）を装着している場合は、スクリーンとプロジェクターの投写関係が、他のレンズと異なります。詳しくは、“固定焦点レンズ（品番：ET-DLE030）の場合”（☞ 27 ページ）をご覧ください。
*3　固定焦点レンズ（品番：ET-DLE055）を装着している場合は、レンズシフトが使用できないため、高さ位置（H）は SH/2 になります。

PT-DW750J の場合

■ 画面アスペクト比 16：10 のとき

（単位：m）

レンズタイプ			標準ズームレンズ		別売品レンズ							
					固定焦点レンズ				超短焦点ズームレンズ		短焦点ズームレンズ	
投写レンズ品番			—		ET-DLE030*2			ET-DLE055	ET-DLE085		ET-DLE150	
スローレシオ *1			1.8-2.5：1		0.40：1			0.8：1	0.8-1.0：1		1.4-2.0：1	
投写画面サイズ			投写距離（L）		投写距離（L1）	プロジェクターとスクリーンの距離		投写距離（L）				
対角（SD）	高さ(SH)	幅（SW）	最短（LW）	最長（LT）		（L4）	（A1）	固定	最短（LW）	最長（LT）	最短（LW）	最長（LT）
1.27（50 型）	0.673	1.077	1.91	2.70	—	—	—	0.87	0.87	1.09	1.45	2.12
1.52（60 型）	0.808	1.292	2.31	3.26	—	—	—	1.06	1.05	1.32	1.75	2.55
1.78（70 型）	0.942	1.508	2.71	3.81	—	—	—	1.24	1.23	1.54	2.05	2.98
2.03（80 型）	1.077	1.723	3.11	4.37	—	—	—	1.42	1.42	1.77	2.35	3.42
2.29（90 型）	1.212	1.939	3.50	4.92	—	—	—	1.61	1.60	2.00	2.65	3.85
2.54（100 型）	1.346	2.154	3.90	5.48	0.86	0.22	0.59	1.79	1.78	2.22	2.95	4.28
3.05（120 型）	1.615	2.585	4.70	6.59	1.03	0.39	0.72	2.16	2.15	2.68	3.55	5.15
3.81（150 型）	2.019	3.231	5.89	8.25	1.29	0.64	0.92	2.71	2.70	3.36	4.45	6.45
5.08（200 型）	2.692	4.308	7.88	11.03	1.71	1.07	1.25	3.63	3.61	4.49	5.95	8.61
6.35（250 型）	3.365	5.385	9.86	13.81	2.14	1.50	1.58	—	4.53	5.62	7.45	10.78
7.62（300 型）	4.039	6.462	11.85	16.58	2.57	1.92	1.91	—	5.45	6.76	8.95	12.95
8.89（350 型）	4.712	7.539	13.84	19.36	3.00	2.35	2.24	—	6.36	7.89	10.46	15.11
10.16（400 型）	5.385	8.616	15.83	22.13	—	—	—	—	7.28	9.02	11.96	17.28
12.70（500 型）	6.731	10.770	19.80	27.68	—	—	—	—	9.11	11.29	14.96	21.61
15.24（600 型）	8.077	12.923	23.78	33.23	—	—	—	—	10.94	13.55	17.96	25.94

レンズタイプ			別売品レンズ						高さ位置（H）*3	
			中焦点ズームレンズ		長焦点ズームレンズ		超長焦点ズームレンズ			
投写レンズ品番			ET-DLE250		ET-DLE350		ET-DLE450		標準ズームレンズ/ET-DLE085/ET-DLE150/ET-DLE250/ET-DLE350/ET-DLE450	ET-DLE055（固定）
スローレシオ *1			2.4-3.8：1		3.8-5.7：1		5.6-9.0：1			
投写画面サイズ			投写距離（L）							
対角（SD）	高さ(SH)	幅（SW）	最短（LW）	最長（LT）	最短（LW）	最長（LT）	最短（LW）	最長（LT）		
1.27（50 型）	0.673	1.077	2.54	4.06	4.00	6.11	5.96	9.59	–0.07 ～ 0.34	0.34
1.52（60 型）	0.808	1.292	3.07	4.89	4.83	7.36	7.21	11.57	–0.08 ～ 0.40	0.40
1.78（70 型）	0.942	1.508	3.59	5.72	5.65	8.61	8.46	13.55	–0.09 ～ 0.47	0.47
2.03（80 型）	1.077	1.723	4.12	6.55	6.48	9.86	9.71	15.53	–0.11 ～ 0.54	0.54
2.29（90 型）	1.212	1.939	4.64	7.38	7.31	11.11	10.96	17.51	–0.12 ～ 0.61	0.61
2.54（100 型）	1.346	2.154	5.16	8.20	8.13	12.36	12.21	19.49	–0.13 ～ 0.67	0.67
3.05（120 型）	1.615	2.585	6.21	9.86	9.79	14.86	14.72	23.45	–0.16 ～ 0.81	0.81
3.81（150 型）	2.019	3.231	7.79	12.35	12.27	18.61	18.47	29.38	–0.20 ～ 1.01	1.01
5.08（200 型）	2.692	4.308	10.41	16.49	16.40	24.85	24.73	39.28	–0.27 ～ 1.35	1.35
6.35（250 型）	3.365	5.385	13.03	20.63	20.53	31.10	30.99	49.17	–0.34 ～ 1.68	—
7.62（300 型）	4.039	6.462	15.65	24.77	24.67	37.34	37.25	59.06	–0.40 ～ 2.02	—
8.89（350 型）	4.712	7.539	18.28	28.91	28.80	43.59	43.51	68.96	–0.47 ～ 2.36	—
10.16（400 型）	5.385	8.616	20.90	33.05	32.94	49.84	49.76	78.85	–0.54 ～ 2.69	—
12.70（500 型）	6.731	10.770	26.14	41.34	41.20	62.33	62.28	98.64	–0.67 ～ 3.37	—
15.24（600 型）	8.077	12.923	31.39	49.62	49.47	74.82	74.80	118.42	–0.81 ～ 4.04	—

*1　スローレシオは、投写画面サイズ 80 型投写時の値を基準にしています。固定焦点レンズ（品番：ET-DLE030）を装着している場合は、投写画面サイズ 100 型投写時の値を基準にしています。
*2　固定焦点レンズ（品番：ET-DLE030）を装着している場合は、スクリーンとプロジェクターの投写関係が、他のレンズと異なります。詳しくは、"固定焦点レンズ（品番：ET-DLE030）の場合"（☞ 27 ページ）をご覧ください。
*3　固定焦点レンズ（品番：ET-DLE055）を装着している場合は、レンズシフトが使用できないため、高さ位置（H）は SH/2 になります。

■ 画面アスペクト比 16：9 のとき

（単位：m）

レンズタイプ			標準ズームレンズ		別売品レンズ							
					固定焦点レンズ				超短焦点ズームレンズ		短焦点ズームレンズ	
投写レンズ品番			—		ET-DLE030*2			ET-DLE055	ET-DLE085		ET-DLE150	
スローレシオ *1			1.8-2.5：1		0.40：1			0.8：1	0.8-1.0：1		1.4-2.0：1	
投写画面サイズ			投写距離（L）		投写距離（L1）	プロジェクターとスクリーンの距離		投写距離（L）				
対角（SD）	高さ（SH）	幅（SW）	最短（LW）	最長（LT）		（L4）	（A1）	固定	最短（LW）	最長（LT）	最短（LW）	最長（LT）
1.27（50 型）	0.623	1.107	1.97	2.78	—	—	—	0.90	0.89	1.12	1.49	2.18
1.52（60 型）	0.747	1.328	2.38	3.35	—	—	—	1.09	1.08	1.35	1.80	2.62
1.78（70 型）	0.872	1.550	2.79	3.92	—	—	—	1.27	1.27	1.59	2.11	3.07
2.03（80 型）	0.996	1.771	3.19	4.49	—	—	—	1.46	1.46	1.82	2.42	3.51
2.29（90 型）	1.121	1.992	3.60	5.06	—	—	—	1.65	1.65	2.05	2.72	3.96
2.54（100 型）	1.245	2.214	4.01	5.63	0.88	0.24	0.68	1.84	1.83	2.29	3.03	4.40
3.05（120 型）	1.494	2.657	4.83	6.77	1.06	0.41	0.83	2.22	2.21	2.75	3.65	5.29
3.81（150 型）	1.868	3.321	6.05	8.49	1.32	0.68	1.05	2.79	2.78	3.45	4.58	6.63
5.08（200 型）	2.491	4.428	8.10	11.34	1.76	1.12	1.43	3.73	3.72	4.61	6.12	8.86
6.35（250 型）	3.113	5.535	10.14	14.19	2.20	1.56	1.80	—	4.66	5.78	7.66	11.08
7.62（300 型）	3.736	6.641	12.18	17.04	2.64	2.00	2.17	—	5.60	6.94	9.21	13.31
8.89（350 型）	4.358	7.748	14.23	19.90	3.08	2.44	2.55	—	6.54	8.11	10.75	15.53
10.16（400 型）	4.981	8.855	16.27	22.75	—	—	—	—	7.48	9.27	12.29	17.76
12.70（500 型）	6.226	11.069	20.35	28.45	—	—	—	—	9.36	11.60	15.38	22.21
15.24（600 型）	7.472	13.283	24.44	34.16	—	—	—	—	11.24	13.93	18.46	26.66

レンズタイプ			別売品レンズ						高さ位置（H）*3	
			中焦点ズームレンズ		長焦点ズームレンズ		超長焦点ズームレンズ			
投写レンズ品番			ET-DLE250		ET-DLE350		ET-DLE450		標準ズームレンズ/ET-DLE085/ET-DLE150/ET-DLE250/ET-DLE350/ET-DLE450	ET-DLE055（固定）
スローレシオ *1			2.4-3.8：1		3.8-5.7：1		5.6-9.0：1			
投写画面サイズ			投写距離（L）							
対角（SD）	高さ（SH）	幅（SW）	最短（LW）	最長（LT）	最短（LW）	最長（LT）	最短（LW）	最長（LT）		
1.27（50 型）	0.623	1.107	2.62	4.18	4.11	6.29	6.13	9.87	−0.14 ～ 0.31	0.31
1.52（60 型）	0.747	1.328	3.15	5.03	4.96	7.57	7.42	11.90	−0.16 ～ 0.37	0.37
1.78（70 型）	0.872	1.550	3.69	5.88	5.81	8.85	8.70	13.94	−0.19 ～ 0.44	0.44
2.03（80 型）	0.996	1.771	4.23	6.73	6.66	10.14	9.99	15.97	−0.22 ～ 0.50	0.50
2.29（90 型）	1.121	1.992	4.77	7.58	7.51	11.42	11.28	18.00	−0.25 ～ 0.56	0.56
2.54（100 型）	1.245	2.214	5.31	8.43	8.36	12.71	12.56	20.04	−0.27 ～ 0.62	0.62
3.05（120 型）	1.494	2.657	6.39	10.14	10.06	15.27	15.14	24.11	−0.33 ～ 0.75	0.75
3.81（150 型）	1.868	3.321	8.01	12.69	12.61	19.13	18.99	30.21	−0.41 ～ 0.93	0.93
5.08（200 型）	2.491	4.428	10.70	16.95	16.86	25.55	25.43	40.38	−0.55 ～ 1.25	1.25
6.35（250 型）	3.113	5.535	13.40	21.21	21.11	31.97	31.86	50.54	−0.68 ～ 1.56	—
7.62（300 型）	3.736	6.641	16.09	25.46	25.36	38.39	38.29	60.71	−0.82 ～ 1.87	—
8.89（350 型）	4.358	7.748	18.79	29.72	29.61	44.81	44.72	70.88	−0.96 ～ 2.18	—
10.16（400 型）	4.981	8.855	21.48	33.98	33.86	51.23	51.16	81.05	−1.10 ～ 2.49	—
12.70（500 型）	6.226	11.069	26.87	42.49	42.35	64.07	64.02	101.39	−1.37 ～ 3.11	—
15.24（600 型）	7.472	13.283	32.26	51.00	50.85	76.91	76.88	121.73	−1.64 ～ 3.74	—

*1　スローレシオは、投写画面サイズ 80 型投写時の値を基準にしています。固定焦点レンズ（品番：ET-DLE030）を装着している場合は、投写画面サイズ 100 型投写時の値を基準にしています。
*2　固定焦点レンズ（品番：ET-DLE030）を装着している場合は、スクリーンとプロジェクターの投写関係が、他のレンズと異なります。詳しくは、“固定焦点レンズ（品番：ET-DLE030）の場合”（☞ 27 ページ）をご覧ください。
*3　固定焦点レンズ（品番：ET-DLE055）を装着している場合は、レンズシフトが使用できないため、高さ位置（H）は SH/2 になります。

■ 画面アスペクト比 4：3 のとき

（単位：m）

レンズタイプ			標準ズームレンズ		別売品レンズ							
					固定焦点レンズ				超短焦点ズームレンズ		短焦点ズームレンズ	
投写レンズ品番			—		ET-DLE030*2			ET-DLE055	ET-DLE085		ET-DLE150	
スローレシオ *1			2.2-3.0：1		0.48：1			1.0：1	1.0-1.2：1		1.6-2.4：1	
投写画面サイズ			投写距離（L）		投写距離（L1）	プロジェクターとスクリーンの距離		投写距離（L）				
対角（SD）	高さ（SH）	幅（SW）	最短（LW）	最長（LT）		（L4）	（A1）	固定	最短（LW）	最長（LT）	最短（LW）	最長（LT）
1.27（50 型）	0.762	1.016	2.18	3.07	—	—	—	0.99	0.99	1.24	1.65	2.40
1.52（60 型）	0.914	1.219	2.63	3.70	—	—	—	1.20	1.20	1.50	1.99	2.89
1.78（70 型）	1.067	1.422	3.08	4.33	—	—	—	1.41	1.40	1.75	2.33	3.38
2.03（80 型）	1.219	1.626	3.53	4.95	—	—	—	1.62	1.61	2.01	2.67	3.87
2.29（90 型）	1.372	1.829	3.98	5.58	—	—	—	1.82	1.82	2.26	3.00	4.36
2.54（100 型）	1.524	2.032	4.42	6.21	0.97	0.33	0.68	2.03	2.03	2.52	3.34	4.85
3.05（120 型）	1.829	2.438	5.32	7.47	1.17	0.52	0.83	2.45	2.44	3.03	4.02	5.83
3.81（150 型）	2.286	3.048	6.67	9.35	1.46	0.81	1.05	3.07	3.06	3.80	5.04	7.31
5.08（200 型）	3.048	4.064	8.92	12.49	1.94	1.30	1.42	4.11	4.10	5.09	6.74	9.76
6.35（250 型）	3.810	5.080	11.17	15.64	2.42	1.78	1.80	—	5.13	6.37	8.44	12.21
7.62（300 型）	4.572	6.096	13.42	18.78	2.91	2.26	2.17	—	6.17	7.65	10.14	14.66
8.89（350 型）	5.334	7.112	15.67	21.92	3.39	2.75	2.55	—	7.21	8.93	11.84	17.11
10.16（400 型）	6.096	8.128	17.92	25.06	—	—	—	—	8.24	10.22	13.54	19.56
12.70（500 型）	7.620	10.160	22.42	31.34	—	—	—	—	10.31	12.78	16.94	24.47
15.24（600 型）	9.144	12.192	26.92	37.63	—	—	—	—	12.39	15.35	20.34	29.37

レンズタイプ			別売品レンズ						高さ位置（H）*3	
			中焦点ズームレンズ		長焦点ズームレンズ		超長焦点ズームレンズ			
投写レンズ品番			ET-DLE250		ET-DLE350		ET-DLE450		標準ズームレンズ/ET-DLE085/ET-DLE150/ET-DLE250/ET-DLE350/ET-DLE450	ET-DLE055（固定）
スローレシオ *1			2.9-4.6：1		4.5-6.9：1		6.8-10.8：1			
投写画面サイズ			投写距離（L）							
対角（SD）	高さ（SH）	幅（SW）	最短（LW）	最長（LT）	最短（LW）	最長（LT）	最短（LW）	最長（LT）		
1.27（50 型）	0.762	1.016	2.89	4.61	4.54	6.94	6.78	10.90	–0.08 ～ 0.38	0.38
1.52（60 型）	0.914	1.219	3.48	5.55	5.48	8.35	8.20	13.14	–0.09 ～ 0.46	0.46
1.78（70 型）	1.067	1.422	4.08	6.48	6.42	9.76	9.61	15.38	–0.11 ～ 0.53	0.53
2.03（80 型）	1.219	1.626	4.67	7.42	7.35	11.18	11.03	17.62	–0.12 ～ 0.61	0.61
2.29（90 型）	1.372	1.829	5.26	8.36	8.29	12.59	12.45	19.86	–0.14 ～ 0.69	0.69
2.54（100 型）	1.524	2.032	5.86	9.30	9.22	14.01	13.87	22.10	–0.15 ～ 0.76	0.76
3.05（120 型）	1.829	2.438	7.04	11.17	11.09	16.83	16.70	26.58	–0.18 ～ 0.91	0.91
3.81（150 型）	2.286	3.048	8.82	13.98	13.90	21.08	20.95	33.30	–0.23 ～ 1.14	1.14
5.08（200 型）	3.048	4.064	11.79	18.67	18.58	28.15	28.03	44.49	–0.30 ～ 1.52	1.52
6.35（250 型）	3.810	5.080	14.76	23.36	23.26	35.22	35.12	55.69	–0.38 ～ 1.91	—
7.62（300 型）	4.572	6.096	17.73	28.05	27.94	42.29	42.20	66.89	–0.46 ～ 2.29	—
8.89（350 型）	5.334	7.112	20.70	32.74	32.62	49.36	49.28	78.09	–0.53 ～ 2.67	—
10.16（400 型）	6.096	8.128	23.67	37.42	37.30	56.43	56.37	89.29	–0.61 ～ 3.05	—
12.70（500 型）	7.620	10.160	29.60	46.80	46.65	70.57	70.53	111.68	–0.76 ～ 3.81	—
15.24（600 型）	9.144	12.192	35.54	56.17	56.01	84.71	84.70	134.08	–0.91 ～ 4.57	—

*1 スローレシオは、投写画面サイズ 80 型投写時の値を基準にしています。固定焦点レンズ（品番：ET-DLE030）を装着している場合は、投写画面サイズ 100 型投写時の値を基準にしています。

*2 固定焦点レンズ（品番：ET-DLE030）を装着している場合は、スクリーンとプロジェクターの投写関係が、他のレンズと異なります。詳しくは、“固定焦点レンズ（品番：ET-DLE030）の場合”（☞ 27 ページ）をご覧ください。

*3 固定焦点レンズ（品番：ET-DLE055）を装着している場合は、レンズシフトが使用できないため、高さ位置（H）は SH/2 になります。

PT-DX820J の場合

■ 画面アスペクト比 4：3 のとき

（単位：m）

レンズタイプ			標準ズームレンズ		別売品レンズ								
					固定焦点レンズ				超短焦点ズームレンズ		短焦点ズームレンズ	
投写レンズ品番			—		ET-DLE030[*2]			ET-DLE055	ET-DLE085		ET-DLE150	
スローレシオ[*1]			1.8-2.5：1		0.39：1			0.8：1	0.8-1.0：1		1.3-2.0：1	
投写画面サイズ			投写距離（L）		投写距離（L1）	プロジェクターとスクリーンの距離		投写距離（L）				
対角（SD）	高さ（SH）	幅（SW）	最短（LW）	最長（LT）		（L4）	（A1）	固定	最短（LW）	最長（LT）	最短（LW）	最長（LT）
1.27（50 型）	0.762	1.016	1.78	2.51	—	—	—	0.81	0.81	1.01	1.34	1.97
1.52（60 型）	0.914	1.219	2.15	3.03	—	—	—	0.98	0.98	1.22	1.62	2.37
1.78（70 型）	1.067	1.422	2.52	3.55	—	—	—	1.15	1.15	1.43	1.90	2.77
2.03（80 型）	1.219	1.626	2.89	4.06	—	—	—	1.32	1.32	1.64	2.18	3.18
2.29（90 型）	1.372	1.829	3.26	4.58	—	—	—	1.49	1.49	1.85	2.46	3.58
2.54（100 型）	1.524	2.032	3.63	5.10	0.80	0.16	0.41	1.66	1.66	2.07	2.74	3.98
3.05（120 型）	1.829	2.438	4.37	6.13	0.96	0.32	0.51	2.01	2.00	2.49	3.30	4.79
3.81（150 型）	2.286	3.048	5.48	7.68	1.20	0.55	0.65	2.52	2.51	3.12	4.14	6.00
5.08（200 型）	3.048	4.064	7.33	10.26	1.60	0.95	0.89	3.38	3.36	4.18	5.54	8.02
6.35（250 型）	3.810	5.080	9.18	12.85	1.99	1.35	1.13	—	4.21	5.23	6.94	10.03
7.62（300 型）	4.572	6.096	11.03	15.43	2.39	1.75	1.37	—	5.07	6.29	8.33	12.05
8.89（350 型）	5.334	7.112	12.88	18.02	2.79	2.15	1.61	—	5.92	7.34	9.73	14.07
10.16（400 型）	6.096	8.128	14.73	20.60	—	—	—	—	6.77	8.40	11.13	16.08
12.70（500 型）	7.620	10.160	18.43	25.77	—	—	—	—	8.48	10.51	13.92	20.12
15.24（600 型）	9.144	12.192	22.13	30.94	—	—	—	—	10.18	12.62	16.72	24.15

レンズタイプ			別売品レンズ						高さ位置（H）[*3]		
			中焦点ズームレンズ		長焦点ズームレンズ		超長焦点ズームレンズ				
投写レンズ品番			ET-DLE250		ET-DLE350		ET-DLE450		標準ズームレンズ / ET-DLE150/ ET-DLE250/ ET-DLE350/ ET-DLE450	ET-DLE085	ET-DLE055（固定）
スローレシオ[*1]			2.4-3.7：1		3.7-5.6：1		5.5-8.9：1				
投写画面サイズ			投写距離（L）								
対角（SD）	高さ（SH）	幅（SW）	最短（LW）	最長（LT）	最短（LW）	最長（LT）	最短（LW）	最長（LT）			
1.27（50 型）	0.762	1.016	2.36	3.78	3.71	5.68	5.52	8.91	0 ～ 0.38	0.04 ～ 0.38	0.38
1.52（60 型）	0.914	1.219	2.85	4.55	4.48	6.84	6.69	10.75	0 ～ 0.46	0.05 ～ 0.46	0.46
1.78（70 型）	1.067	1.422	3.34	5.32	5.25	8.01	7.86	12.60	0 ～ 0.53	0.05 ～ 0.53	0.53
2.03（80 型）	1.219	1.626	3.83	6.09	6.02	9.17	9.02	14.44	0 ～ 0.61	0.06 ～ 0.61	0.61
2.29（90 型）	1.372	1.829	4.31	6.86	6.79	10.33	10.19	16.28	0 ～ 0.69	0.07 ～ 0.69	0.69
2.54（100 型）	1.524	2.032	4.80	7.63	7.56	11.50	11.35	18.12	0 ～ 0.76	0.08 ～ 0.76	0.76
3.05（120 型）	1.829	2.438	5.78	9.17	9.10	13.82	13.68	21.81	0 ～ 0.91	0.09 ～ 0.91	0.91
3.81（150 型）	2.286	3.048	7.24	11.49	11.41	17.31	17.18	27.33	0 ～ 1.14	0.11 ～ 1.14	1.14
5.08（200 型）	3.048	4.064	9.69	15.34	15.26	23.13	23.00	36.54	0 ～ 1.52	0.15 ～ 1.52	1.52
6.35（250 型）	3.810	5.080	12.13	19.20	19.11	28.94	28.83	45.75	0 ～ 1.91	0.19 ～ 1.91	—
7.62（300 型）	4.572	6.096	14.57	23.06	22.96	34.76	34.66	54.97	0 ～ 2.29	0.23 ～ 2.29	—
8.89（350 型）	5.334	7.112	17.01	26.91	26.80	40.57	40.48	64.18	0 ～ 2.67	0.27 ～ 2.67	—
10.16（400 型）	6.096	8.128	19.45	30.77	30.65	46.39	46.31	73.39	0 ～ 3.05	0.30 ～ 3.05	—
12.70（500 型）	7.620	10.160	24.33	38.48	38.35	58.02	57.96	91.81	0 ～ 3.81	0.38 ～ 3.81	—
15.24（600 型）	9.144	12.192	29.22	46.19	46.05	69.65	69.61	110.23	0 ～ 4.57	0.46 ～ 4.57	—

*1　スローレシオは、投写画面サイズ 80 型投写時の値を基準にしています。固定焦点レンズ（品番：ET-DLE030）を装着している場合は、投写画面サイズ 100 型投写時の値を基準にしています。

*2　固定焦点レンズ（品番：ET-DLE030）を装着している場合は、スクリーンとプロジェクターの投写関係が、他のレンズと異なります。詳しくは、"固定焦点レンズ（品番：ET-DLE030）の場合"（☞ 27 ページ）をご覧ください。

*3　固定焦点レンズ（品番：ET-DLE055）を装着している場合は、レンズシフトが使用できないため、高さ位置（H）は SH/2 になります。

■ 画面アスペクト比 16：9 のとき

（単位：m）

レンズタイプ			標準ズームレンズ		別売品レンズ							
					固定焦点レンズ				超短焦点ズームレンズ		短焦点ズームレンズ	
投写レンズ品番			—		ET-DLE030*2			ET-DLE055	ET-DLE085		ET-DLE150	
スローレシオ *1			1.8-2.5：1		0.39：1			0.8：1	0.8-1.0：1		1.3-2.0：1	
投写画面サイズ			投写距離（L）		投写距離（L1）	プロジェクターとスクリーンの距離		投写距離（L）				
対角（SD）	高さ（SH）	幅（SW）	最短（LW）	最長（LT）		（L4）	（A1）	固定	最短（LW）	最長（LT）	最短（LW）	最長（LT）
1.27（50 型）	0.623	1.107	1.94	2.74	—	—	—	0.88	0.88	1.11	1.47	2.15
1.52（60 型）	0.747	1.328	2.34	3.31	—	—	—	1.07	1.07	1.34	1.77	2.59
1.78（70 型）	0.872	1.550	2.75	3.87	—	—	—	1.26	1.25	1.57	2.08	3.03
2.03（80 型）	0.996	1.771	3.15	4.43	—	—	—	1.44	1.44	1.79	2.38	3.47
2.29（90 型）	1.121	1.992	3.55	4.99	—	—	—	1.63	1.62	2.02	2.69	3.90
2.54（100 型）	1.245	2.214	3.96	5.56	0.87	0.23	0.66	1.82	1.81	2.25	2.99	4.34
3.05（120 型）	1.494	2.657	4.76	6.68	1.04	0.40	0.81	2.19	2.18	2.71	3.60	5.22
3.81（150 型）	1.868	3.321	5.97	8.37	1.31	0.66	1.03	2.75	2.74	3.40	4.51	6.54
5.08（200 型）	2.491	4.428	7.99	11.19	1.74	1.09	1.39	3.68	3.67	4.55	6.04	8.74
6.35（250 型）	3.113	5.535	10.01	14.00	2.17	1.53	1.75	—	4.60	5.70	7.56	10.93
7.62（300 型）	3.736	6.641	12.02	16.82	2.61	1.96	2.12	—	5.52	6.85	9.08	13.13
8.89（350 型）	4.358	7.748	14.04	19.63	3.04	2.39	2.48	—	6.45	8.00	10.61	15.33
10.16（400 型）	4.981	8.855	16.05	22.45	—	—	—	—	7.38	9.15	12.13	17.53
12.70（500 型）	6.226	11.069	20.09	28.08	—	—	—	—	9.24	11.45	15.17	21.92
15.24（600 型）	7.472	13.283	24.12	33.71	—	—	—	—	11.10	13.75	18.22	26.31

レンズタイプ			別売品レンズ						高さ位置（H）*3		
			中焦点ズームレンズ		長焦点ズームレンズ		超長焦点ズームレンズ				
投写レンズ品番			ET-DLE250		ET-DLE350		ET-DLE450		標準ズームレンズ / ET-DLE150/ ET-DLE250/ ET-DLE350/ ET-DLE450	ET-DLE085	ET-DLE055（固定）
スローレシオ *1			2.4-3.8：1		3.7-5.6：1		5.6-8.9：1				
投写画面サイズ			投写距離（L）								
対角（SD）	高さ（SH）	幅（SW）	最短（LW）	最長（LT）	最短（LW）	最長（LT）	最短（LW）	最長（LT）			
1.27（50 型）	0.623	1.107	2.58	4.12	4.06	6.20	6.05	9.74	–0.21～0.31	–0.16～0.31	0.31
1.52（60 型）	0.747	1.328	3.11	4.96	4.90	7.47	7.32	11.74	–0.25～0.37	–0.19～0.37	0.37
1.78（70 型）	0.872	1.550	3.64	5.80	5.73	8.74	8.58	13.75	–0.29～0.44	–0.23～0.44	0.44
2.03（80 型）	0.996	1.771	4.18	6.64	6.57	10.00	9.85	15.76	–0.33～0.50	–0.26～0.50	0.50
2.29（90 型）	1.121	1.992	4.71	7.48	7.41	11.27	11.12	17.76	–0.37～0.56	–0.29～0.56	0.56
2.54（100 型）	1.245	2.214	5.24	8.32	8.25	12.54	12.39	19.77	–0.41～0.62	–0.32～0.62	0.62
3.05（120 型）	1.494	2.657	6.30	10.00	9.93	15.07	14.93	23.78	–0.49～0.75	–0.39～0.75	0.75
3.81（150 型）	1.868	3.321	7.90	12.52	12.44	18.87	18.74	29.81	–0.62～0.93	–0.49～0.93	0.93
5.08（200 型）	2.491	4.428	10.56	16.72	16.64	25.21	25.09	39.84	–0.82～1.25	–0.65～1.25	1.25
6.35（250 型）	3.113	5.535	13.22	20.93	20.83	31.54	31.44	49.88	–1.03～1.56	–0.81～1.56	—
7.62（300 型）	3.736	6.641	15.88	25.13	25.02	37.88	37.78	59.91	–1.23～1.87	–0.97～1.87	—
8.89（350 型）	4.358	7.748	18.54	29.33	29.22	44.22	44.13	69.95	–1.44～2.18	–1.13～2.18	—
10.16（400 型）	4.981	8.855	21.20	33.53	33.41	50.55	50.48	79.98	–1.64～2.49	–1.30～2.49	—
12.70（500 型）	6.226	11.069	26.52	41.93	41.79	63.22	63.17	100.05	–2.05～3.11	–1.62～3.11	—
15.24（600 型）	7.472	13.283	31.84	50.33	50.18	75.89	75.87	120.12	–2.47～3.74	–1.94～3.74	—

*1　スローレシオは、投写画面サイズ 80 型投写時の値を基準にしています。固定焦点レンズ（品番：ET-DLE030）を装着している場合は、投写画面サイズ 100 型投写時の値を基準にしています。
*2　固定焦点レンズ（品番：ET-DLE030）を装着している場合は、スクリーンとプロジェクターの投写関係が、他のレンズと異なります。詳しくは、“固定焦点レンズ（品番：ET-DLE030）の場合”（☞ 27 ページ）をご覧ください。
*3　固定焦点レンズ（品番：ET-DLE055）を装着している場合は、レンズシフトが使用できないため、高さ位置（H）は SH/2 になります。

投写レンズ別投写距離計算式

本書に記載のない画面サイズでご使用の場合は、投写画面サイズ SD（m）をご確認のうえ、それぞれの計算式で投写距離を求めてください。

式の単位はすべて m です。（下記の計算式で求められる値には、若干の誤差があります。）

投写距離を、画面サイズ呼称（インチ数値）を用いて計算する場合は、インチ数値を 0.0254 倍したものを投写距離計算式の SD に代入してください。

PT-DZ780J の場合

■ 標準ズームレンズ

投写レンズ品番	スローレシオ	アスペクト比	投写距離（L）計算式	
			最短（LW）	最長（LT）
—	1.7 ～ 2.4 : 1	16 : 10	=1.4906 × SD − 0.0746	=2.0814 × SD − 0.0725
	1.7 ～ 2.4 : 1	16 : 9	=1.5320 × SD − 0.0746	=2.1393 × SD − 0.0725
	2.1 ～ 2.9 : 1	4 : 3	=1.6874 × SD − 0.0746	=2.3563 × SD − 0.0725

■ ズームレンズ

投写レンズ品番	スローレシオ	アスペクト比	投写距離（L）計算式	
			最短（LW）	最長（LT）
ET-DLE085	0.8 ～ 1.0 : 1	16 : 10	=0.6865 × SD − 0.0471	=0.8498 × SD − 0.0442
	0.8 ～ 1.0 : 1	16 : 9	=0.7056 × SD − 0.0471	=0.8735 × SD − 0.0442
	0.9 ～ 1.2 : 1	4 : 3	=0.7772 × SD − 0.0471	=0.9621 × SD − 0.0442
ET-DLE150	1.3 ～ 1.9 : 1	16 : 10	=1.1259 × SD − 0.0540	=1.6243 × SD − 0.0498
	1.3 ～ 1.9 : 1	16 : 9	=1.1572 × SD − 0.0540	=1.6695 × SD − 0.0498
	1.6 ～ 2.3 : 1	4 : 3	=1.2747 × SD − 0.0540	=1.8388 × SD − 0.0498
ET-DLE250	2.3 ～ 3.6 : 1	16 : 10	=1.9665 × SD − 0.0800	=3.1059 × SD − 0.0792
	2.3 ～ 3.6 : 1	16 : 9	=2.0212 × SD − 0.0800	=3.1923 × SD − 0.0792
	2.7 ～ 4.3 : 1	4 : 3	=2.2263 × SD − 0.0800	=3.5161 × SD − 0.0792
ET-DLE350	3.6 ～ 5.4 : 1	16 : 10	=3.1000 × SD − 0.1351	=4.6843 × SD − 0.1346
	3.6 ～ 5.4 : 1	16 : 9	=3.1862 × SD − 0.1351	=4.8146 × SD − 0.1346
	4.3 ～ 6.5 : 1	4 : 3	=3.5094 × SD − 0.1351	=5.3030 × SD − 0.1346
ET-DLE450	5.4 ～ 8.6 : 1	16 : 10	=4.6931 × SD − 0.3017	=7.4193 × SD − 0.2991
	5.4 ～ 8.6 : 1	16 : 9	=4.8236 × SD − 0.3017	=7.6256 × SD − 0.2991
	6.5 ～ 10.3 : 1	4 : 3	=5.3129 × SD − 0.3017	=8.3992 × SD − 0.2991

■ 固定焦点レンズ（品番：ET-DLE055）の場合

投写レンズ品番	スローレシオ	アスペクト比	投写距離（L）計算式
ET-DLE055	0.8 : 1	16 : 10	=0.6893 × SD − 0.0476
	0.8 : 1	16 : 9	=0.7084 × SD − 0.0476
	0.9 : 1	4 : 3	=0.7803 × SD − 0.0476

■ 固定焦点レンズ（品番：ET-DLE030）の場合

投写レンズ品番	スローレシオ	アスペクト比	投写距離（L1）計算式	プロジェクターとスクリーンの距離（A1）計算式
ET-DLE030	0.38 : 1	16 : 10	=0.3205 × SD + 0.0047	=0.1977 × SD − 0.0671
	0.38 : 1	16 : 9	=0.3294 × SD + 0.0047	=0.2304 × SD − 0.0671
	0.46 : 1	4 : 3	=0.3628 × SD + 0.0047	=0.2238 × SD − 0.0671

PT-DW750J の場合

■ 標準ズームレンズ

投写レンズ品番	スローレシオ	アスペクト比	投写距離（L）計算式	
			最短（LW）	最長（LT）
—	1.8 ～ 2.5 : 1	16 : 10	=1.5651 × SD – 0.0746	=2.1855 × SD – 0.0725
	1.8 ～ 2.5 : 1	16 : 9	=1.6086 × SD – 0.0746	=2.2462 × SD – 0.0725
	2.2 ～ 3.0 : 1	4 : 3	=1.7715 × SD – 0.0746	=2.4736 × SD – 0.0725

■ ズームレンズ

投写レンズ品番	スローレシオ	アスペクト比	投写距離（L）計算式	
			最短（LW）	最長（LT）
ET-DLE085	0.8 ～ 1.0 : 1	16 : 10	=0.7209 × SD – 0.0471	=0.8923 × SD – 0.0442
	0.8 ～ 1.0 : 1	16 : 9	=0.7409 × SD – 0.0471	=0.9171 × SD – 0.0442
	1.0 ～ 1.2 : 1	4 : 3	=0.8159 × SD – 0.0471	=1.0100 × SD – 0.0442
ET-DLE150	1.4 ～ 2.0 : 1	16 : 10	=1.1822 × SD – 0.0540	=1.7055 × SD – 0.0498
	1.4 ～ 2.0 : 1	16 : 9	=1.2151 × SD – 0.0540	=1.7529 × SD – 0.0498
	1.6 ～ 2.4 : 1	4 : 3	=1.3381 × SD – 0.0540	=1.9304 × SD – 0.0498
ET-DLE250	2.4 ～ 3.8 : 1	16 : 10	=2.0649 × SD – 0.0800	=3.2612 × SD – 0.0792
	2.4 ～ 3.8 : 1	16 : 9	=2.1223 × SD – 0.0800	=3.3519 × SD – 0.0792
	2.9 ～ 4.6 : 1	4 : 3	=2.3371 × SD – 0.0800	=3.6912 × SD – 0.0792
ET-DLE350	3.8 ～ 5.7 : 1	16 : 10	=3.2550 × SD – 0.1351	=4.9185 × SD – 0.1346
	3.8 ～ 5.7 : 1	16 : 9	=3.3455 × SD – 0.1351	=5.0553 × SD – 0.1346
	4.5 ～ 6.9 : 1	4 : 3	=3.6842 × SD – 0.1351	=5.5671 × SD – 0.1346
ET-DLE450	5.6 ～ 9.0 : 1	16 : 10	=4.9277 × SD – 0.3017	=7.7903 × SD – 0.2991
	5.6 ～ 9.0 : 1	16 : 9	=5.0647 × SD – 0.3017	=8.0069 × SD – 0.2991
	6.8 ～ 10.8 : 1	4 : 3	=5.5775 × SD – 0.3017	=8.8174 × SD – 0.2991

■ 固定焦点レンズ（品番：ET-DLE055）の場合

投写レンズ品番	スローレシオ	アスペクト比	投写距離（L）計算式
ET-DLE055	0.8 : 1	16 : 10	=0.7237 × SD – 0.0476
	0.8 : 1	16 : 9	=0.7438 × SD – 0.0476
	1.0 : 1	4 : 3	=0.8191 × SD – 0.0476

■ 固定焦点レンズ（品番：ET-DLE030）の場合

投写レンズ品番	スローレシオ	アスペクト比	投写距離（L1）計算式	プロジェクターとスクリーンの距離（A1）計算式
ET-DLE030	0.40 : 1	16 : 10	=0.3365 × SD + 0.0047	=0.2597 × SD – 0.0690
	0.40 : 1	16 : 9	=0.3459 × SD + 0.0047	=0.2942 × SD – 0.0690
	0.48 : 1	4 : 3	=0.3809 × SD + 0.0047	=0.2941 × SD – 0.0690

PT-DX820J の場合

■ 標準ズームレンズ

投写レンズ品番	スローレシオ	アスペクト比	投写距離（L）計算式	
			最短（LW）	最長（LT）
—	1.8 ～ 2.5：1	16：9	=1.5875 × SD − 0.0746	=2.2167 × SD − 0.0725
	1.8 ～ 2.5：1	4：3	=1.4571 × SD − 0.0746	=2.0346 × SD − 0.0725

■ ズームレンズ

投写レンズ品番	スローレシオ	アスペクト比	投写距離（L）計算式	
			最短（LW）	最長（LT）
ET-DLE085	0.8 ～ 1.0：1	16：9	=0.7311 × SD − 0.0471	=0.9051 × SD − 0.0442
	0.8 ～ 1.0：1	4：3	=0.6711 × SD − 0.0471	=0.8307 × SD − 0.0442
ET-DLE150	1.3 ～ 2.0：1	16：9	=1.1991 × SD − 0.0540	=1.7299 × SD − 0.0498
	1.3 ～ 2.0：1	4：3	=1.1006 × SD − 0.0540	=1.5878 × SD − 0.0498
ET-DLE250	2.4 ～ 3.8：1	16：9	=2.0943 × SD − 0.0800	=3.3078 × SD − 0.0792
	2.4 ～ 3.7：1	4：3	=1.9224 × SD − 0.0800	=3.0361 × SD − 0.0792
ET-DLE350	3.7 ～ 5.6：1	16：9	=3.3015 × SD − 0.1351	=4.9888 × SD − 0.1346
	3.7 ～ 5.6：1	4：3	=3.0304 × SD − 0.1351	=4.5791 × SD − 0.1346
ET-DLE450	5.6 ～ 8.9：1	16：9	=4.9981 × SD − 0.3017	=7.9015 × SD − 0.2991
	5.5 ～ 8.9：1	4：3	=4.5876 × SD − 0.3017	=7.2526 × SD − 0.2991

■ 固定焦点レンズ（品番：ET-DLE055）の場合

投写レンズ品番	スローレシオ	アスペクト比	投写距離（L）計算式
ET-DLE055	0.8：1	16：9	=0.7340 × SD − 0.0476
	0.8：1	4：3	=0.6738 × SD − 0.0476

■ 固定焦点レンズ（品番：ET-DLE030）の場合

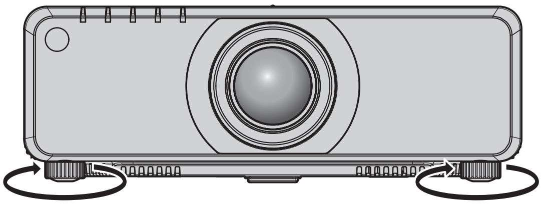
投写レンズ品番	スローレシオ	アスペクト比	投写距離（L1）計算式	プロジェクターとスクリーンの距離（A1）計算式
ET-DLE030	0.39：1	16：9	=0.3413 × SD + 0.0047	=0.2866 × SD − 0.0665
	0.39：1	4：3	=0.3133 × SD + 0.0047	=0.1881 × SD − 0.0665

アジャスター脚の調整

投写画面が長方形になるよう、プロジェクターは、その前面がスクリーン面と平行になるように水平な場所に設置してください。

スクリーンが下向きに傾いている場合は、投写画面が長方形になるように、前面アジャスター脚を伸ばすことで調整します。プロジェクターが水平方向に傾いている場合も、アジャスター脚で水平になるように調整します。

図のようにアジャスター脚を回すと脚を伸ばすことができます。また、逆に回すと元に戻すことができます。



調整可能量

各アジャスター脚：約30 mm

お願い

- ランプ点灯中は排気口から熱風が出ています。アジャスター脚を調整するときは、排気口に直接手を触れないでください。(☞ 20 ページ)

投写レンズの取り外し / 取り付け方

投写レンズの取り外し / 取り付けかたは、標準ズームレンズと別売品で同じです。
投写レンズの交換や取り外しの際は、あらかじめレンズ位置をホームポジションに移動させておいてください。
（☞ 58 ページ）

お願い

- 投写レンズの交換は本機の電源を切ってから行ってください。
- 投写レンズの電気接点には指を触れないようにしてください。ほこりや汚れなどにより、接触不良の原因となることがあります。
- 投写レンズ面は素手でさわらないでください。
- 投写レンズを取り付ける前に、投写レンズに付いているレンズカバーを取り外してください。

お知らせ

- 超短焦点ズームレンズ（品番：ET-DLE085）の場合、投写レンズカバーの取り付け / 取り外しの順序が異なります。詳しくは、ET-DLE085 の取扱説明書をご覧ください。
- 固定焦点レンズ（品番：ET-DLE030）の場合、レンズの取り扱いに関する注意事項や、投写レンズカバーの取り付け / 取り外しの順序が異なります。詳しくは、ET-DLE030 の取扱説明書をご覧ください。

投写レンズの取り外し方

以下の手順で投写レンズを取り外してください。

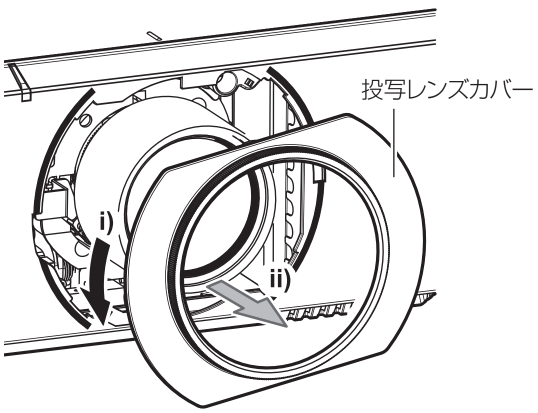


図1

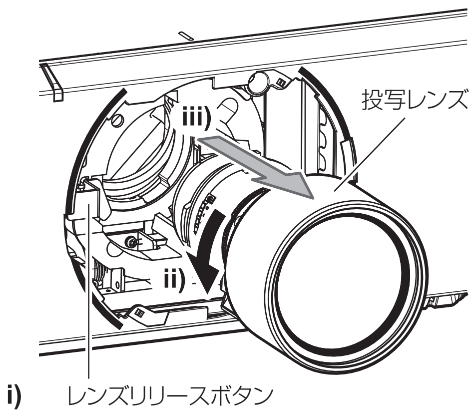


図2

1)　投写レンズカバーを反時計方向に回し、取り外す（図 1）

2)　レンズリリースボタンを押しながら反時計方向に投写レンズを回しきり、投写レンズを取り出す（図 2）

お願い

- 取り外した投写レンズは振動や衝撃を与えないように保管してください。

投写レンズの取り付け方

以下の手順で投写レンズを取り付けてください。

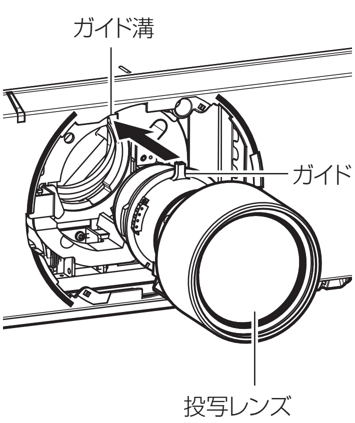


図1

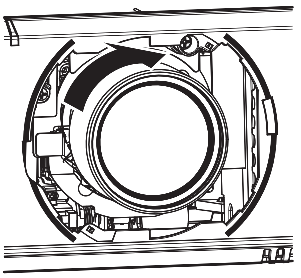


図2

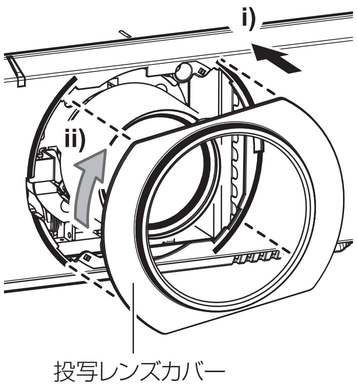


図3

1)　投写レンズカバーを取り外し、投写レンズのガイドを本体のガイド溝に合わせて奥まで差し込む（図 1）

2)　時計方向に「カチッ」と音がするまで回す（図 2）

3)　投写レンズカバーを取り付ける（図 3）

- 投写レンズカバーと本体を図の破線の位置で合わせて取り付け、投写レンズカバーを時計方向に回して固定します。

お願い

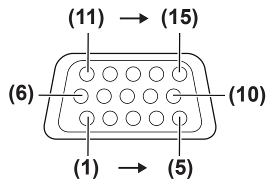
- 投写レンズを反時計方向に回して、抜けないことを確認してください。

接続する

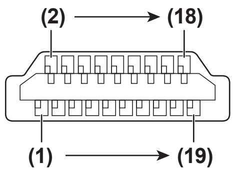
接続の前に

- 接続の前に、本機と接続する外部機器の取扱説明書もよくお読みください。
- 各機器の電源を切ってからケーブルの接続をしてください。
- 下記の点に注意して、ケーブルを接続してください。行わない場合、故障の要因になります。
  - ケーブルを本機、あるいは本機と接続する外部機器に接続するときは、ケーブルを持つ前に周辺の金属に触れて身体の帯電を除去した状態で作業してください。
  - 本機と、本機に接続する機器とを接続するケーブルは、必要以上に長くしないでください。長くするほどノイズの影響を受けやすくなります。巻いた状態で使用するとアンテナになりますので、さらにノイズの影響を受けやすくなります。
  - ケーブル接続時は、GND が先に接続されるように、接続する機器の接続端子部にまっすぐに挿入してください。
- システム接続に必要な接続ケーブルは、各機器の付属品、別売品がない場合は接続される外部機器に合わせて準備してください。
- 映像機器からの映像信号にジッター成分が多い場合は、画像がふらつくことがあります。この場合はタイムベースコレクター（TBC）の接続が必要です。
- 本機に接続できる信号はビデオ信号、Y/C 信号、YCBCR/YPBPR 信号、アナログ RGB 信号（同期信号は TTL レベル）、およびデジタル信号です。
- コンピューターのモデルによっては、本機と接続して使用できないものもあります。
- 各機器と本機を、長いケーブルを使用して接続する場合は、ケーブル補償器などを使用してください。本機が正常に映像を表示できないことがあります。
- 本機が投写できる映像信号については“対応信号リスト”（☞ 182 ページ）をご覧ください。

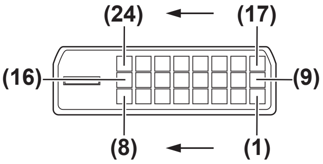
〈RGB 2 IN〉端子のピン配列と信号名

外側から見た図	ピン No.	信号名	ピン No.	信号名
	(1)	R/PR	(9)	—
	(2)	G/Y	(10)	GND
	(3)	B/PB	(11)	GND
	(4)	—	(12)	DDC データ
	(5)	GND	(13)	SYNC/HD
	(6)	GND	(14)	VD
	(7)	GND	(15)	DDC クロック
	(8)	GND		

〈HDMI IN〉端子のピン配列と信号名

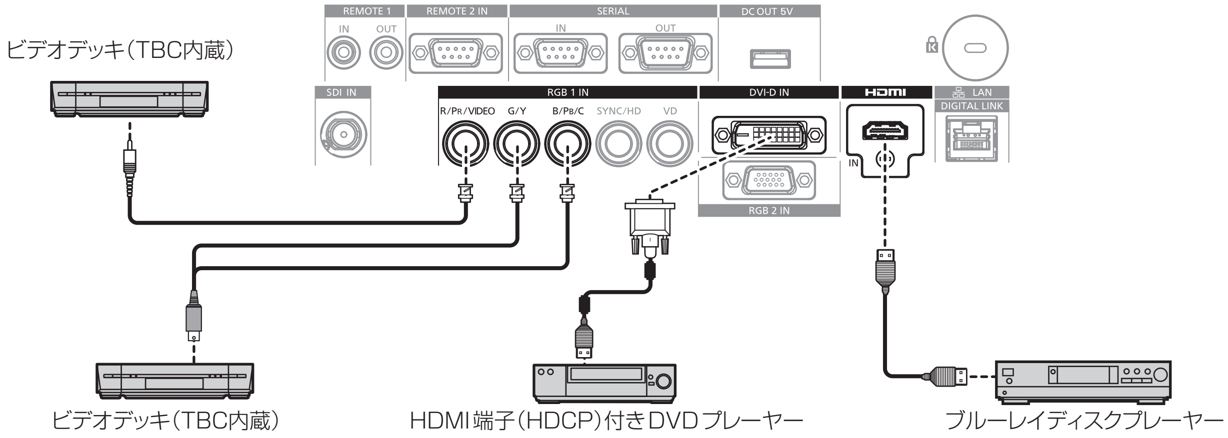
外側から見た図	ピン No.	信号名	ピン No.	信号名
(2) ～ (18) の偶数ピン  (1) ～ (19) の奇数ピン	(1)	T.M.D.S データ 2+	(11)	T.M.D.S クロックシールド
	(2)	T.M.D.S データ 2 シールド	(12)	T.M.D.S クロック –
	(3)	T.M.D.S データ 2–	(13)	CEC
	(4)	T.M.D.S データ 1+	(14)	—
	(5)	T.M.D.S データ 1 シールド	(15)	SCL
	(6)	T.M.D.S データ 1–	(16)	SDA
	(7)	T.M.D.S データ 0+	(17)	DDC/CEC GND
	(8)	T.M.D.S データ 0 シールド	(18)	+5 V
	(9)	T.M.D.S データ 0–	(19)	ホットプラグ検出
	(10)	T.M.D.S クロック +		

〈DVI-D IN〉端子のピン配列と信号名

外側から見た図	ピン No.	信号名	ピン No.	信号名
	(1)	T.M.D.S データ 2–	(13)	—
	(2)	T.M.D.S データ 2+	(14)	+5 V
	(3)	T.M.D.S データ 2/4 シールド	(15)	GND
	(4)	—	(16)	ホットプラグ検出
	(5)	—	(17)	T.M.D.S データ 0–
	(6)	DDC クロック	(18)	T.M.D.S データ 0+
	(7)	DDC データ	(19)	T.M.D.S データ 0/5 シールド
	(8)	—	(20)	—
	(9)	T.M.D.S データ 1–	(21)	—
	(10)	T.M.D.S クロック 1+	(22)	T.M.D.S クロックシールド
	(11)	T.M.D.S データ 1/3 シールド	(23)	T.M.D.S クロック +
	(12)	—	(24)	T.M.D.S クロック –

映像機器との接続（例）

〈HDMI IN〉/〈DVI-D IN〉/〈RGB 1 IN〉端子の場合



お願い

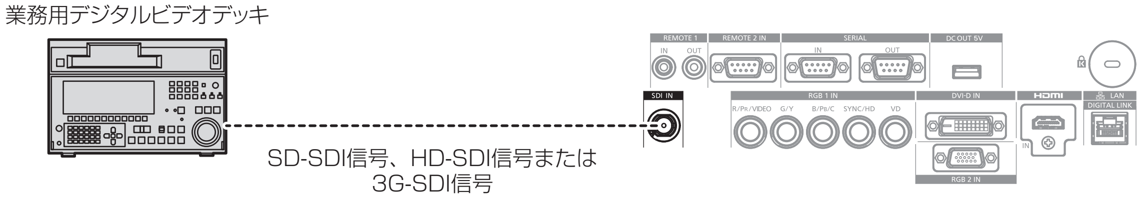
- ビデオデッキを接続するときは、必ず、次のどちらかを使用してください。
  - タイムベースコレクター（TBC）内蔵のビデオデッキを使用する
  - 本機とビデオデッキの間にタイムベースコレクター（TBC）を使用する
- バースト信号が非標準の信号を接続すると、映像が乱れる場合があります。その場合は、本機と外部機器との間にタイムベースコレクター（TBC）を接続してください。

お知らせ

- DVI-D 入力時は、接続する外部機器によっては、メニューの［表示オプション］→［DVI-D IN］→［EDID 選択］で設定切り換えが必要になることがあります。
- 〈DVI-D IN〉端子は、HDMI および DVI-D 対応機器との接続ができます。ただし、一部の外部機器では映像が出ないなど、正常に表示しない場合があります。
- HDMI ケーブルは、HDMI 規格に適合している HDMI High Speed ケーブルをご使用ください。HDMI 規格に適合するケーブル以外のものを使用すると、映像が途切れる、映らないなど正常に動作しない場合があります。
- 本機の〈HDMI IN〉端子は HDMI/DVI 変換ケーブルを使用することで、DVI-D 端子がある外部機器とも接続できます。ただし、一部の外部機器では、映像が出ないなど正常に動作しない場合があります。
- 本機はビエラリンク（HDMI）に対応していません。
- ビデオ信号および Y/C 信号入力時は、メニューの［表示オプション］→［RGB IN］→［RGB1 入力設定］（☞ 92 ページ）で設定を切り換える必要があります。

〈SDI IN〉端子の場合

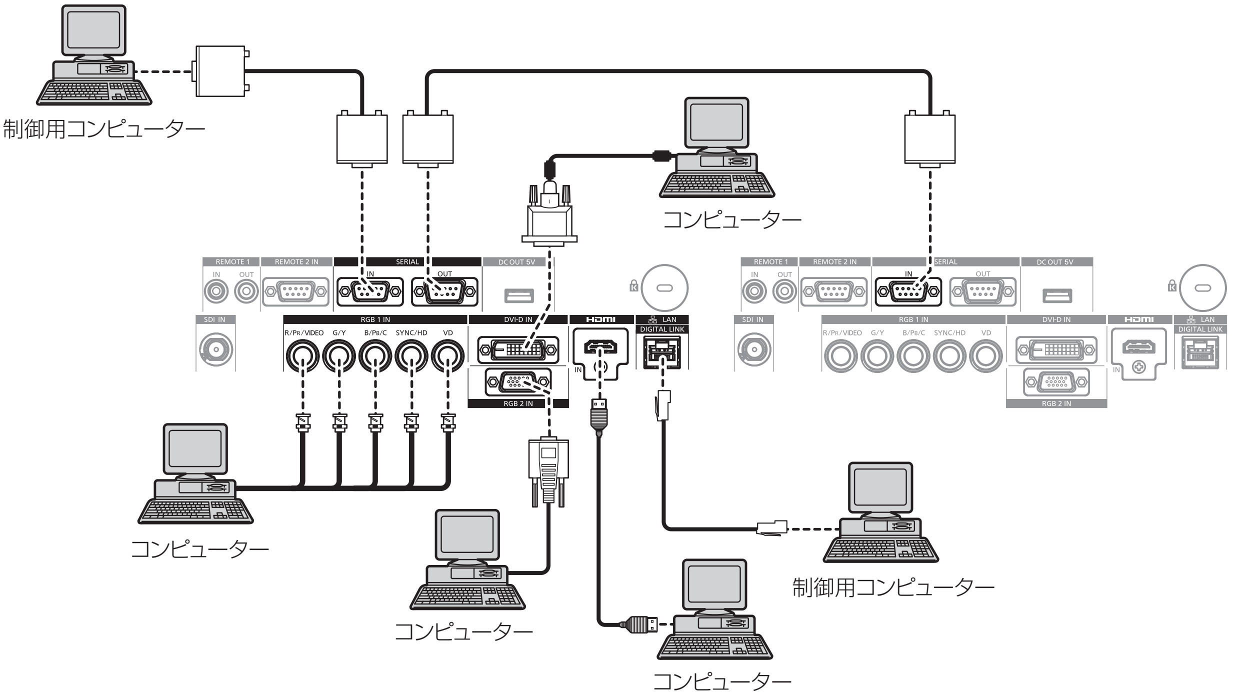
（PT-DZ780J のみ）



お知らせ

- 入力フォーマットの方式切り換えは、メニューの［映像］→［システムセレクター］で切り換えができます。
- 接続する外部機器によってメニューの［表示オプション］→［SDI IN］の設定が必要です。
- 接続ケーブルは、画像を正しく伝達するために 5CFB 以上（5CFB、7CFB など）または Belden 1694A 以上のケーブルを使用してください。また、接続ケーブルの長さは 100 m 以下のものを使用してください。
- 不安定な信号を接続した場合は、信号判別を誤ることがあります。その場合は、メニューの［映像］→［システムセレクター］で信号フォーマットに合った方式に切り換えてください。

コンピューターとの接続（例）



お願い

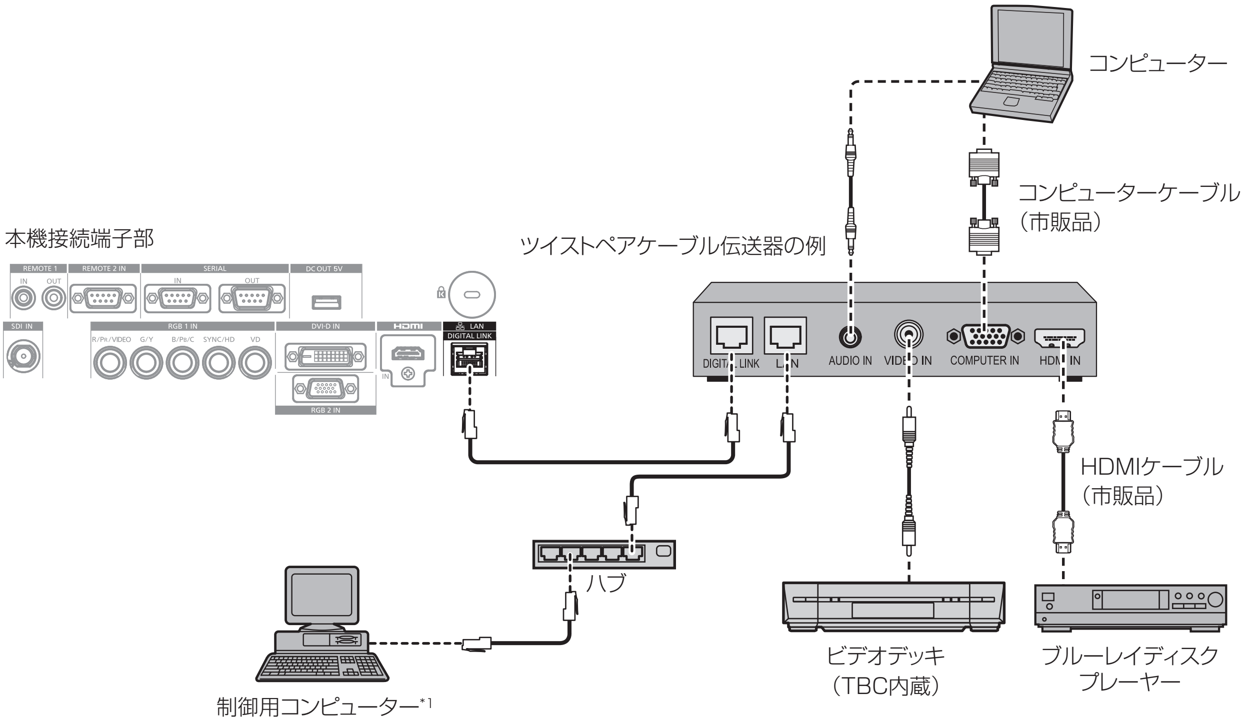
- コンピューターや外部機器に接続する際、各々の機器に付属の電源コードと、シールドされた市販のケーブルを使用してください。

お知らせ

- DVI-D 入力時は、接続する外部機器によっては、メニューの［表示オプション］→［DVI-D IN］→［EDID 選択］で設定切り換えが必要になることがあります。
- HDMI ケーブルは、HDMI 規格に適合している HDMI High Speed ケーブルをご使用ください。HDMI 規格に適合するケーブル以外のものを使用すると、映像が途切れる、映らないなど正常に動作しない場合があります。
- 本機の〈HDMI IN〉端子は HDMI/DVI 変換ケーブルを使用することで、DVI-D 端子がある外部機器とも接続できます。ただし、一部の外部機器では、映像が出ないなど正常に動作しない場合があります。
- 〈DVI-D IN〉端子はシングルリンクのみ対応しています。
- SYNC ON GREEN 信号入力時には〈SYNC/HD〉端子、〈VD〉端子へ同期信号を入力しないでください。
- レジューム機能（ラストメモリー）を持つコンピューターを使用して本機を動作させるには、レジューム機能のリセットが必要になることがあります。

DIGITAL LINK での接続（例）

別売品の DIGITAL LINK 出力対応機器（品番：ET-YFB100、ET-YFB200）をはじめ、通信規格 HDBaseT™ をベースとしたツイストペアケーブル伝送器は、入力された映像・イーサネット・シリアル制御信号をツイストペアケーブルを使用して伝送するもので、本機はそのデジタル信号を〈DIGITAL LINK/LAN〉端子に入力できます。



*1　制御対象は本機、またはツイストペアケーブル伝送器になります。ツイストペアケーブル伝送器によっては制御そのものができない場合がありますので、接続する機器の取扱説明書をご確認ください。

お願い

- ビデオデッキを接続するときは、必ず、次のどちらかを使用してください。
  - タイムベースコレクター（TBC）内蔵のビデオデッキを使用する
  - 本機とビデオデッキの間にタイムベースコレクター（TBC）を使用する
- バースト信号が非標準の信号を接続すると、映像が乱れる場合があります。その場合は、本機と外部機器との間にタイムベースコレクター（TBC）を接続してください。
- ツイストペアケーブル伝送器と本機間のケーブル配線工事は、工事専門業者または販売店に依頼してください。工事の不備によりケーブル伝送特性が得られず、映像が途切れたり乱れたりする原因となります。
- ツイストペアケーブル伝送器と本機間の LAN ケーブルは、次の条件に適合したケーブルをお使いください。
  - CAT5e 以上の規格に適合
  - シールドタイプ（コネクターを含む）
  - ストレート結線
  - 単線
- ツイストペアケーブル伝送器と本機間のケーブル敷設時には、ケーブルテスターやケーブルアナライザーなどを使用して、ケーブルの特性が CAT5e 以上の特性を満たしていることをご確認ください。
  途中に中継コネクターを介している場合は、それも含めて測定してください。
- ツイストペアケーブル伝送器と本機間にハブを使用しないでください。
- 他社製ツイストペアケーブル伝送器（受信器）を使用して本機に接続を行うとき、他社製ツイストペアケーブル伝送器と本機の間に別のツイストペアケーブル伝送器（送信器）を経由させないでください。映像が途切れたり乱れたりする原因となります。
- ケーブルを強い力で引っ張らないでください。また、無理に曲げたり折り畳んだりしないようにしてください。
- ノイズの影響を少なくするため、ツイストペアケーブル伝送器と本機間のケーブルはできるだけ巻かずに引き伸ばした状態で、設置・使用してください。
- ツイストペアケーブル伝送器と本機間のケーブルは、他のケーブル、特に電源ケーブルからは離して敷設してください。
- 複数のケーブルを敷設するときは、束ねないで並走する距離をできるだけ短くしてください。
- ケーブル敷設後にメニューの［ネットワーク］→［DIGITAL LINK ステータス］で［信号品質］の数値が、正常な品質を示す緑色で表示されることを確認してください。（☞ 133 ページ）

お知らせ

- HDMI ケーブルは、HDMI 規格に適合している HDMI High Speed ケーブルをご使用ください。HDMI 規格に適合するケーブル以外のものを使用すると、映像が途切れる、映らないなど正常に動作しない場合があります。
- 本機はビエラリンク（HDMI）に対応していません。
- ツイストペアケーブル伝送器と本機間の伝送可能距離は、通常は最長 100 m です。またツイストペアケーブル伝送器がロングリーチの通信方式に対応している場合は、最長 150 m まで伝送できます。これを上回ると映像が途切れたり、LAN 通信で誤動作したりすることがあります。最長伝送距離以上でのご使用は、当社サポートの対象外となりますので、ご注意ください。なお、ロングリーチで接続する場合、ツイストペアケーブル伝送器の仕様によって伝送できる映像信号や距離に制限がある場合があります。

- 本機で動作確認済みの他社製ツイストペアケーブル伝送器については、弊社 WEB サイト（http://panasonic.biz/projector/）をご覧ください。他社製機器の動作確認は、弊社確認項目について実施したものであり、すべての動作を保証するものではありません。他社製機器に起因する操作や性能上の不具合などについては、各メーカーにお問い合わせください。

第３章　基本的な使い方

まず使っていただくための操作方法について説明しています。

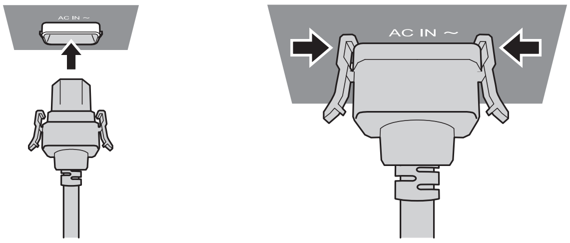
電源を入れる / 切る

電源コードを接続する

電源コードの抜けを防止するため、付属の電源コードを使用して、本体に根元まで確実に差し込んで固定してください。

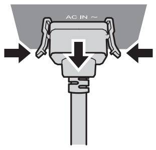
主電源〈MAIN POWER〉スイッチが〈OFF〉側になっていることを確認してから、電源コードを接続してください。
電源コードの詳しい取り扱いについては“安全上のご注意”（☞ 5 ページ）をご覧ください。

取り付け方



1)　本体側面の〈AC IN〉端子と、電源コードのコネクターの形状を確認し、向きを合わせて左右のつまみがカチッと音がするまで、しっかりと差し込む

取り外し方

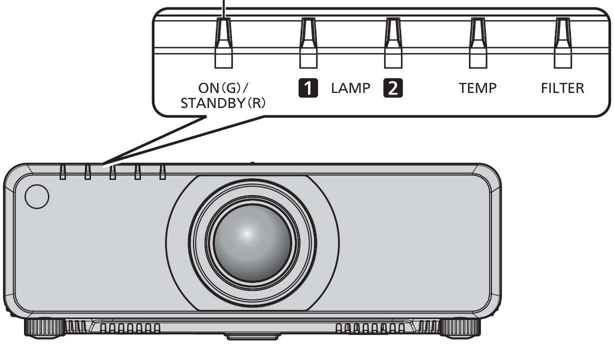


1)　本体側面の主電源〈MAIN POWER〉スイッチが〈OFF〉側になっていることを確認し、コンセントから電源プラグを抜く

2)　本体の〈AC IN〉端子から電源コードのコネクターを、左右のつまみを押しながら抜く

電源インジケーターについて

電源の状態を表示します。電源インジケーター〈ON（G）/STANDBY（R）〉の状態をよく確認し、操作してください。



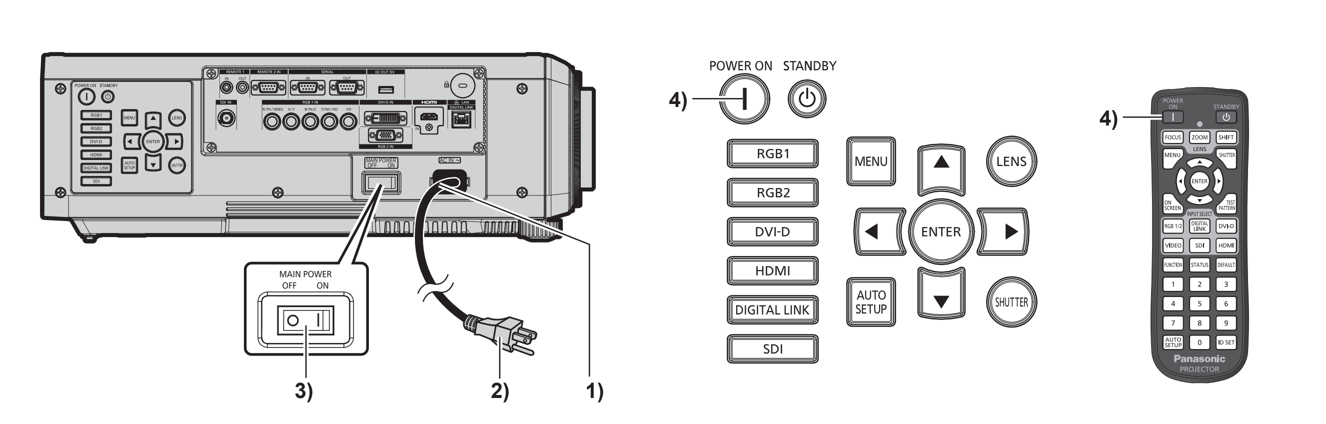
点灯状況		本機の状態
消灯		主電源が切れています。
赤色	点灯	電源が切れています。（スタンバイ状態です。） 電源入〈I〉ボタンを押すと、本機は投写を開始します。 ● ランプインジケーター〈LAMP1〉/〈LAMP2〉、温度インジケーター〈TEMP〉点滅時は、動作しないことがあります。（☞ 157 ページ）
緑色	点灯	投写状態です。
オレンジ色	点灯	電源を切る準備をしています。 しばらくすると、電源が切れます。（スタンバイ状態になります。）

お知らせ

- 電源インジケーター〈ON（G）/STANDBY（R）〉がオレンジ色に点灯中は、ファンが回転し、本機を冷却しています。
- 電源を切ったあとの光源ランプ冷却開始から約 75 秒間は、電源を入れても点灯しません。電源インジケーター〈ON（G）/STANDBY（R）〉が赤色に点灯してから、電源を入れ直してください。
- スタンバイ状態（電源インジケーター〈ON（G）/STANDBY（R）〉が赤色に点灯）でも、電力を消費しています。消費電力については、“消費電力”（☞ 185 ページ）をご覧ください。
- 本体がリモコンの信号を受信すると電源インジケーター〈ON（G）/STANDBY（R）〉が点滅します。
- シャッター機能を使用中（シャッター：閉）は、電源インジケーター〈ON（G）/STANDBY（R）〉がゆっくりと緑色点滅します。
- 電源インジケーター〈ON（G）/STANDBY（R）〉が赤色点滅している場合は、販売店にご相談ください。

電源を入れる

別売品の投写レンズをご使用の場合は、電源を入れる前に投写レンズを取り付けてください。
あらかじめレンズカバーを取り外してください。



1)　本体に電源コードを接続する

2)　電源プラグをコンセントに接続する

3)　主電源〈MAIN POWER〉スイッチの〈ON〉側を押して電源を入れる

- 電源インジケーター〈ON（G）/STANDBY（R）〉が赤色に点灯してスタンバイ状態になります。

4)　電源入〈I〉ボタンを押す

- 電源インジケーター〈ON（G）/STANDBY（R）〉が緑色に点灯し、しばらくすると映像が投写されます。

お知らせ

- 0 ℃付近で電源を入れた場合、表示までに 10 分程度のウォームアップ時間が必要なことがあります。
  ウォームアップ中は温度インジケーター〈TEMP〉が点灯します。ウォームアップが完了すると温度インジケーター〈TEMP〉が消灯し、映像を投写します。インジケーターによる状態表示については、“インジケーターが点灯したら”（☞ 157 ページ）をご覧ください。
- 使用環境温度が低く、ウォームアップ時間が 10 分を超える場合は異常とみなし、自動的に電源をスタンバイ状態にします。この場合は使用環境温度を 0 ℃以上にして、主電源を切ったあと、電源を入れる操作をやり直してください。
- メニューの［プロジェクターセットアップ］→［スタンバイモード］を［ECO］に設定した場合、［ノーマル］設定時と比べて、電源を入れてから投写を開始するまでの時間が、約 10 秒多くかかることがあります。
- メニューの［プロジェクターセットアップ］→［起動方法］を［ラストメモリー］に設定している場合、前回使用時に、投写中に主電源〈MAIN POWER〉スイッチの〈OFF〉側を押して電源を切ったり、直接電源ブレーカーで電源を落として終了したりしたときは、電源プラグをコンセントに接続した状態で主電源〈MAIN POWER〉スイッチの〈ON〉側を押して電源を入れる、あるいは電源ブレーカーを「入」にすると、電源インジケーター〈ON（G）/STANDBY（R）〉が緑色に点灯し、しばらくすると映像が投写されます。

初期設定画面が表示されたら

本機をご購入後はじめて電源を入れたとき、およびメニューの［プロジェクターセットアップ］→［初期化］の［全ユーザーデータ］を実行した場合、投写開始後にフォーカス調整画面、続いて**［初期設定］**画面が表示されます。ご使用になる場合や状況に応じて設定してください。
それ以外の場合でも、メニュー操作で設定を変更できます。
なお、**［初期設定］**画面を表示中に〈MENU〉ボタンを押すと、1 つ前の画面に戻ることができます。

フォーカス調整

メニュー画面をはっきり表示させるために、フォーカスを調整してください。
場合によってはズーム、シフトの調整が必要になります。
詳しくは“フォーカス調整、ズーム調整、シフト調整のしかた”（☞ 57 ページ）をご覧ください。

1)　▲▼◀▶ ボタンでフォーカスを調整する

2)　〈MENU〉ボタンを押し、以降の初期設定を行う

初期設定（表示言語）

オンスクリーンに表示させる言語を選択してください。
初期設定終了後は、メニューの［表示言語（LANGUAGE)］で言語を変更できます。

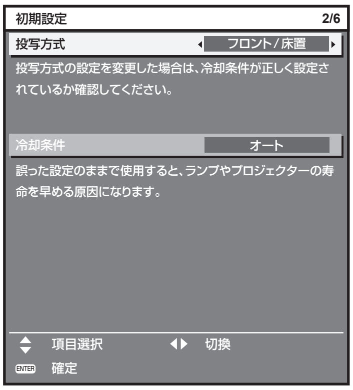
1)　▲▼ ボタンで表示言語を選択する

2)　〈ENTER〉ボタンを押し、次の初期設定を行う

初期設定（設置設定）

設置形態に応じて［投写方式］および［冷却条件］を設定してください。詳しくは、“設置形態”（☞ 25 ページ）をご覧ください。
初期設定終了後は、メニューの［プロジェクターセットアップ］から各項目の設定を変更できます。

1)　▲▼ ボタンで項目を選択する



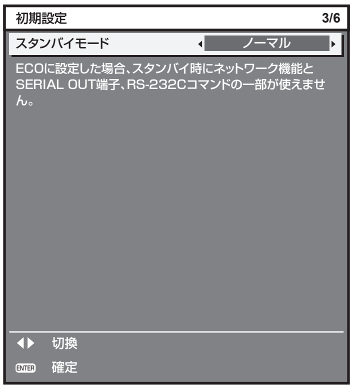
2)　◀▶ ボタンで設定を切り換える

3)　〈ENTER〉ボタンを押し、次の初期設定を行う

初期設定（スタンバイモード）

スタンバイ時の動作モードを設定してください。工場出荷時の設定は、スタンバイ時にもネットワーク機能を使用できる［ノーマル］です。スタンバイ時の消費電力を低く抑える場合は、［ECO］に設定してください。初期設定終了後は、メニューの［プロジェクターセットアップ］→［スタンバイモード］で設定を変更できます。

1)　◀▶ ボタンで設定を切り換える



2)　〈ENTER〉ボタンを押し、次の初期設定を行う

お知らせ

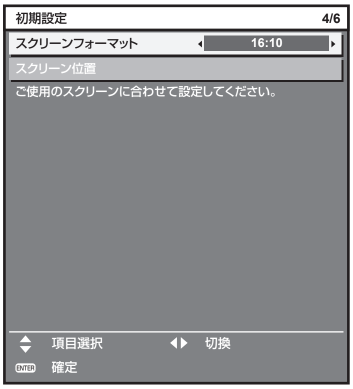
- 上記の初期設定の画面は、本機をご購入後はじめて電源を入れたときのものです。メニューの［プロジェクターセットアップ］→［初期化］の［全ユーザーデータ］を実行した場合は、実行する前の［スタンバイモード］の設定が表示されています。

初期設定（スクリーン設定）

スクリーンのフォーマット（縦横比）と映像の表示位置を設定してください。初期設定終了後は、メニューの［表示オプション］→［スクリーン設定］から各項目の設定を変更できます。

1)　▲▼ ボタンで項目を選択する

2)　◀▶ ボタンで設定を切り換える

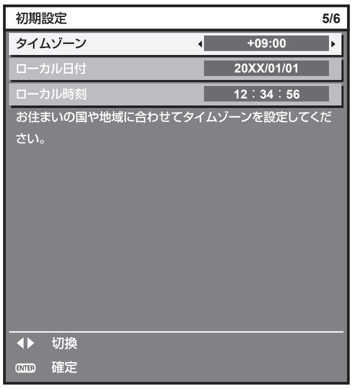


3)　〈ENTER〉ボタンを押し、次の初期設定を行う

初期設定（タイムゾーン）

ご使用の国または地域に応じて［タイムゾーン］を設定してください。日本のタイムゾーンは +09:00 です。
初期設定終了後は、メニューの［プロジェクターセットアップ］→［日付と時刻］で設定を変更できます。［ローカル日付］と［ローカル時刻］には、現在設定されている内容が表示されます。

1)　◀▶ ボタンで設定を切り換える

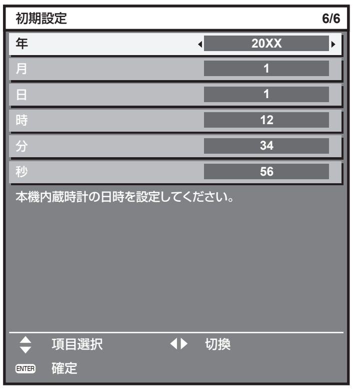


2)　〈ENTER〉ボタンを押し、次の初期設定を行う

初期設定（日付と時刻）

ローカル日時を設定してください。初期設定終了後は、メニューの[プロジェクターセットアップ]→[日付と時刻]で設定を変更できます。
自動で日時を設定する場合は、“自動で日時を設定する場合”（☞ 119 ページ）をご覧ください。

1)　▲▼ ボタンで項目を選択する



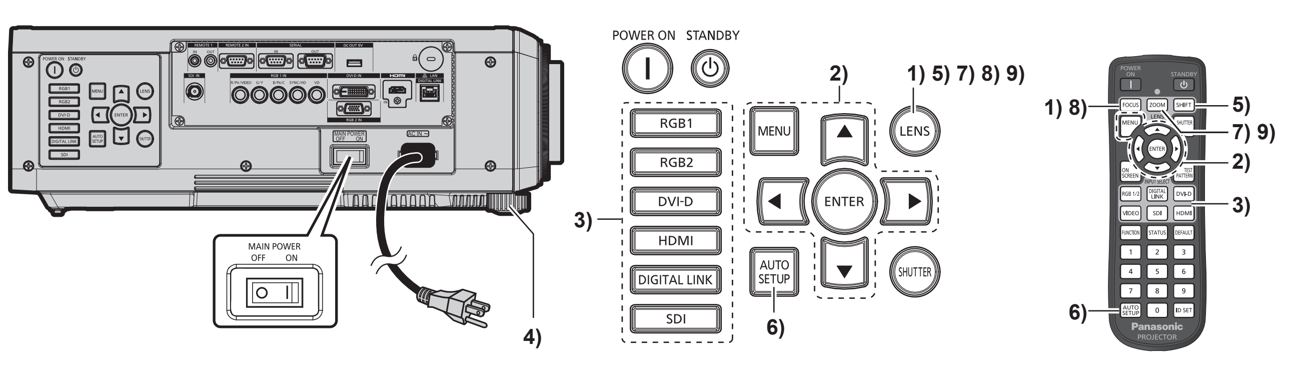
2)　◀▶ ボタンで設定を切り換える

3)　〈ENTER〉ボタンを押す

- 設定値を確定し、初期設定を終了します。

調整・選択をする

フォーカス調整は、映像を映した状態で 30 分以上経過したのちに行うことをお勧めします。



1)　〈FOCUS〉ボタンを押して、画像のフォーカスをおおまかに合わせる（☞ 57 ページ）

2) 設置形態に応じて、メニューの［プロジェクターセットアップ］→［投写方式］の設定を変更する（☞ 25 ページ）

- メニューの操作については、“メニュー画面の操作方法”（☞ 65 ページ）をご覧ください。

3) 入力切換（〈RGB1〉と〈RGB2〉または〈RGB1/2〉、〈DIGITAL LINK〉、〈DVI-D〉、〈VIDEO〉、〈SDI〉、〈HDMI〉）ボタンを押して入力信号を選択する
（SDI 入力は PT-DZ780J のみ対応）

4) 本体の前後左右の傾きをアジャスター脚で調整する（☞ 41 ページ）

5) 〈SHIFT〉ボタンを押して画像の位置を調整する

6) 入力信号が RGB 信号の場合は〈AUTO SETUP〉ボタンを押す

7) 〈ZOOM〉ボタンを押して、画像の大きさをスクリーンに合わせる

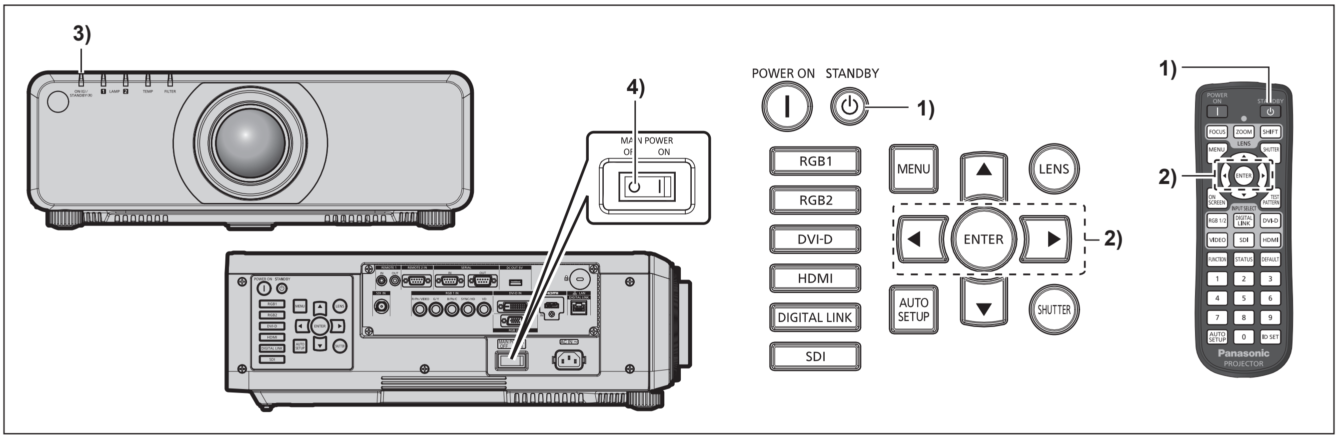
8) 再度、〈FOCUS〉ボタンでフォーカスを調整する

9) 再度、〈ZOOM〉ボタンでズームを調整して画像の大きさをスクリーンに合わせる

お知らせ

- 本機をご購入後はじめて電源を入れたとき、およびメニューの［プロジェクターセットアップ］→［初期化］の［全ユーザーデータ］を実行した場合、投写開始後にフォーカス調整画面、続いて**［初期設定］**画面が表示されます。詳しくは、“初期設定画面が表示されたら”（☞ 51 ページ）をご覧ください。

電源を切る



1)　電源スタンバイ〈⏻〉ボタンを押す

- ［電源オフ（スタンバイ）］確認画面が表示されます。

2)　◀▶ ボタンで［実行］を選択し、〈ENTER〉ボタンを押す
（または、電源スタンバイ〈⏻〉ボタンを再度押す）

- 映像の投写が停止し、本体の電源インジケーター〈ON（G）/STANDBY（R）〉がオレンジ色に点灯します。（ファンは回転したままです。）

3)　本体の電源インジケーター〈ON（G）/STANDBY（R）〉が赤色に点灯（ファンが停止）するまで 170 秒間待つ

4)　主電源〈MAIN POWER〉スイッチの〈OFF〉側を押して電源を切る

お知らせ

- 電源を切ったあと、すぐに電源を入れて投写しないでください。
  ランプの温度が高い状態で電源を入れるとランプの寿命を早めるおそれがあります。
- 電源を切ったあとの光源ランプ冷却開始から約 75 秒間は、電源を入れても点灯しません。また、それ以降に電源を入れた場合でも点灯しないことがあります。その場合は、電源インジケーター〈ON（G）/STANDBY（R）〉が赤色に点灯してから、電源を入れ直してください。
- **電源スタンバイ〈⏻〉ボタンを押して電源を切っても、本体の主電源が入っていると、電力が消費されます。**
  メニューの［プロジェクターセットアップ］→［スタンバイモード］の設定を［ECO］にした場合、一部機能の利用が制限されますが、スタンバイ時の消費電力を節約できます。

ダイレクトパワーオフ機能

投写中や光源ランプ消灯直後に主電源〈MAIN POWER〉スイッチを〈OFF〉にしても、内部に蓄えられた電力によりファンが動作し、光源ランプを冷却します。天つり設置など、プロジェクターの主電源〈MAIN POWER〉スイッチを容易に〈OFF〉にできない環境でも、直接電源ブレーカーで電源を落とすことができます。また、万一停電になった場合や電源を切った直後に電源コードを抜いてしまった場合でも安心です。

お知らせ

- メニューの［プロジェクターセットアップ］→［起動方法］を［ラストメモリー］に設定している場合、前回使用時に、投写中に直接電源ブレーカーで電源を落として終了したときは、電源ブレーカーを入れるとしばらくして電源インジケーター〈ON（G）/STANDBY（R）〉が緑色に点灯し、映像投写へと移行します。
- ダイレクトパワーオフで冷却した場合、次回電源を入れたときに、投写状態になるまで通常よりも時間がかかる場合があります。
- 運搬・保管のために梱包する場合、ファンが停止していることを確認してください。

投写する

投写レンズの取り付け（☞ 42 ページ）、外部機器の接続（☞ 44 ページ）、電源コードの接続（☞ 50 ページ）を確認し、電源を入れる（☞ 51 ページ）と投写を開始します。投写する映像を選択し、映像の映り具合を調整してください。

投写する映像を選択する

映像の入力を切り換えます。

1)　リモコンまたは本体操作部の入力切換（〈RGB1〉と〈RGB2〉または〈RGB1/2〉、〈DIGITAL LINK〉、〈DVI-D〉、〈VIDEO〉、〈SDI〉、〈HDMI〉）ボタンを押す

（SDI 入力は PT-DZ780J のみ対応）

- 選択した端子に入力されている信号の映像が投写されます。

お願い

- 外部機器や再生するブルーレイディスク、DVD などによっては、正常に映像が映らない場合があります。
  メニューの［映像］→［システムセレクター］を設定してください。
- 投写するスクリーンと映像の縦横比を確認し、メニューの［位置調整］→［アスペクト］で最適な縦横比に切り換えてください。

フォーカス調整、ズーム調整、シフト調整のしかた

本機とスクリーンの位置関係が正しく設置された状態で、スクリーンに投写された映像や位置がずれている場合は、フォーカス、ズーム、シフトを調整してください。

固定焦点レンズ（品番：ET-DLE030）以外をご使用時の調整のしかたです。固定焦点レンズ（品番：ET-DLE030）をご使用時は、“固定焦点レンズ（品番：ET-DLE030）使用時のレンズ位置調整とフォーカス調整のしかた”（☞ 58 ページ）をご覧ください。

本体で操作する場合

1)　本体操作部の〈LENS〉ボタンを押す

- ボタンを押すごとに［フォーカス］、［ズーム］、［シフト］の順に調整画面が切り換わります。

2)　それぞれの調整項目を選択し、▲▼◀▶ ボタンで調整する

リモコンで操作する場合

1)　リモコンのレンズ（〈FOCUS〉、〈ZOOM〉、〈SHIFT〉）ボタンを押す

- 〈FOCUS〉ボタンを押す：フォーカス調整をします。
- 〈ZOOM〉ボタンを押す：ズーム調整をします。
- 〈SHIFT〉ボタンを押す：シフト調整をします。

2)　それぞれの調整項目を選択し、▲▼◀▶ ボタンで調整する

注 意

指に注意

レンズシフト動作中は、レンズ周辺の開口部に手を入れない

手を挟み、けがの原因になることがあります。

お知らせ

- ズーム機能のない投写レンズを取り付けている場合、ズーム調整画面は表示されますが、動作しません。
- 固定焦点レンズ（品番:ET-DLE055）をご使用の場合は、シフト調整はせずに、レンズ位置をホームポジションにして使用してください。（☞ 58 ページ）
- 約 3 秒以上 ▲▼◀▶ ボタンを押し続けると、速く動作させることができます。
- フォーカス調整は、映像を映した状態で 30 分以上経過したのちに行うことをお勧めします。
- （フォーカスがずれて文字が判別できない状態でも）表示されているメニュー項目が色で判別できるように、［フォーカス］のみ黄色で表示されます。（工場出荷時の状態）
  ［フォーカス］の表示色は、メニューの［表示オプション］→［オンスクリーン表示］→［OSD デザイン］の設定によって異なります。
- シフト調整中に電源が切れた場合、次回電源を入れたときにレンズキャリブレーションを行う必要があります。（☞ 119 ページ）

- シフト調整中に主電源が切れた場合、次回シフト調整時にレンズキャリブレーションのエラー画面が表示されます。メニューの［プロジェクターセットアップ］→［レンズキャリブレーション］を実行してください。
- ［レンズキャリブレーション］を実行してもレンズキャリブレーションのエラー画面が表示される場合は、販売店に修理をご依頼ください。

固定焦点レンズ（品番：ET-DLE030）使用時のレンズ位置調整とフォーカス調整のしかた

投写レンズを取り付け後、本機とスクリーンの位置関係が正しく設置された状態で、レンズ位置とフォーカスを調整してください。

なお、固定焦点レンズ（品番：ET-DLE030）を装着している場合、投写画面の中央部とその周辺のフォーカスバランスは画面サイズにより異なります。状態に応じて、固定焦点レンズ（品番:ET-DLE030）側で周辺のフォーカスバランスを調整してください。

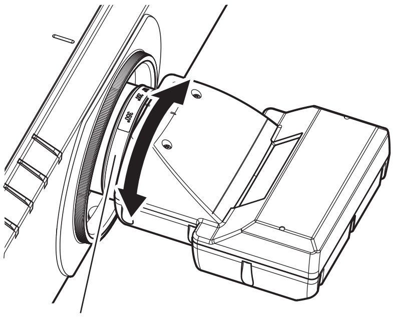
1)　レンズを ET-DLE030 用のレンズ基準位置に移動する

- シフト調整画面表示中にリモコンの〈DEFAULT〉ボタンを押して、**[ホームポジション]** 画面を表示します。［DLE030］を選択して、レンズをレンズ基準位置に移動します。詳しくは、“レンズ位置の設定のしかた”（☞ 58 ページ）をご覧ください。

2)　投写画面中央部のフォーカスを合わせる

- フォーカス調整の手順については、“フォーカス調整、ズーム調整、シフト調整のしかた”（☞ 57 ページ）をご覧ください。

3)　周辺フォーカス調整リングを手で回して、画面周辺のフォーカスを合わせる



周辺フォーカス調整リング

4)　再度、画面中央部のフォーカスを確認して、微調整する

お知らせ

- 周辺フォーカス調整リングに表示されている投写画面サイズとその目盛りは、おおよその目安です。

レンズ位置の設定のしかた

レンズ位置をホームポジションまたはレンズ基準位置へ移動する場合は、次の手順で操作してください。

1)　シフト調整画面表示中にリモコンの〈DEFAULT〉ボタンを押す

- **[ホームポジション]** 画面が表示されます。

2)　◀▶ ボタンで項目を切り換える

- ボタンを押すごとに、項目が切り換わります。

［ノーマル］	レンズをホームポジションに移動します。 投写レンズの交換や取り外しの際に選択します。または、固定焦点レンズ（品番：ET-DLE055）を使用して投写する際に選択します。
[DLE030]	レンズを ET-DLE030 用のレンズ基準位置に移動します。 固定焦点レンズ（品番：ET-DLE030）を使用して投写する際に選択します。

3)　〈ENTER〉ボタンを押す

- **[ホームポジション]** 画面に［実行中］と表示され、レンズ位置がホームポジションまたはレンズ基準位置に戻ります。

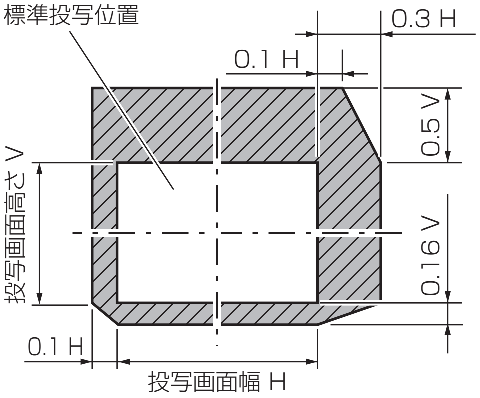
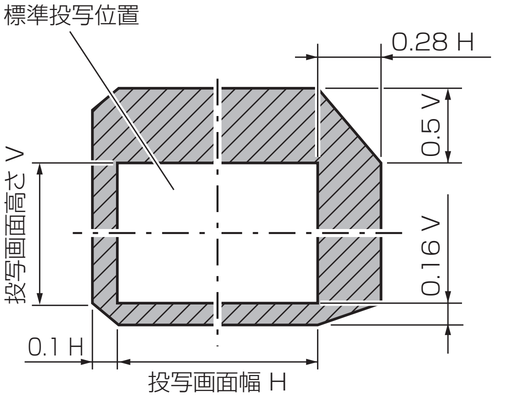
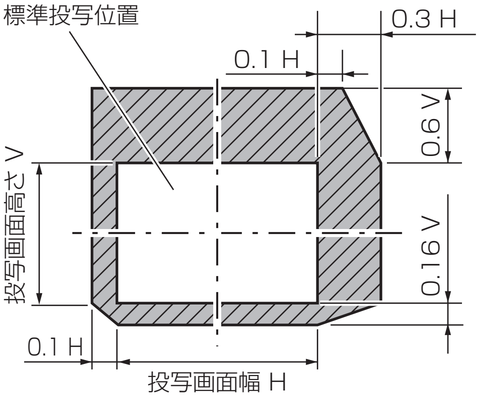
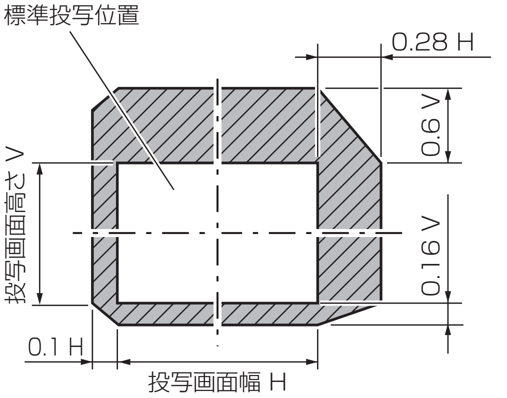
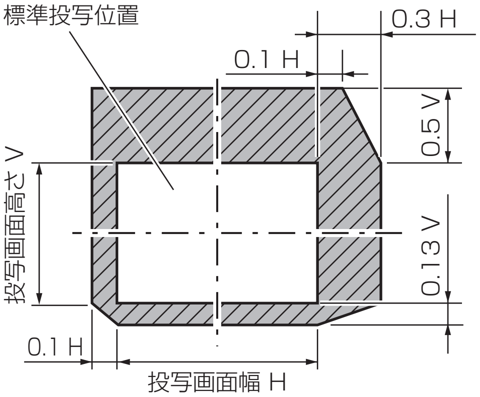
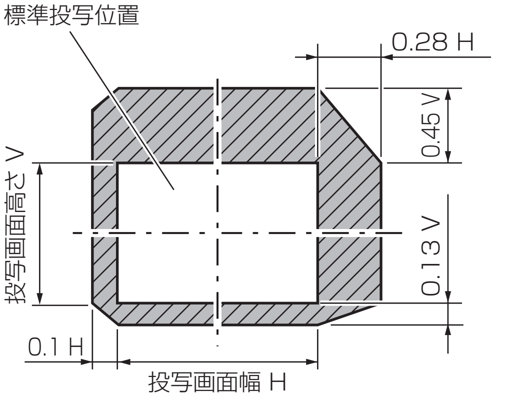
お知らせ

- **[ホームポジション]**画面が表示されてから約 5 秒以内に操作を完了してください。制限時間を超えると**[ホームポジション]**画面が消えます。
- レンズのホームポジションは、レンズ交換やプロジェクター保管のためのレンズ位置で、光学的な画面中央位置ではありません。
- 本体操作部の〈LENS〉ボタンまたはリモコンの〈SHIFT〉ボタンを 3 秒以上押しても、**[ホームポジション]** 画面を表示できます。

レンズ位置移動による（光学シフト）調整範囲

レンズ位置の移動は調整範囲内で行ってください。

調整範囲外へレンズ位置を移動すると、フォーカスが変化する場合がありますのでご注意ください。このような動作になるのは、光学部品の保護のために、レンズの移動を規制しているためです。光軸シフト機能により、ホームポジションでの投写画面の位置（標準投写位置）を基準に、それぞれの範囲で投写位置を調整できます。

レンズタイプ	ズームレンズ	
	標準ズームレンズ、ET-DLE150、ET-DLE250、ET-DLE350、ET-DLE450	ET-DLE085
PT-DZ780J		
PT-DW750J		
PT-DX820J		

お知らせ

- 別売品の固定焦点レンズ（品番：ET-DLE055）を装着している場合は、シフト調整をせずに、レンズ位置をホームポジションにして使用してください。
- 別売品の固定焦点レンズ（品番：ET-DLE030）を装着している場合は、レンズ基準位置での投写画面の位置を基準に、投写映像の端部がプロジェクター本体に遮られない範囲でシフト調整してご使用いただけます。

リモコンで操作する

シャッター機能を使う

会議の休憩時間や準備などの一定時間だけ本機を使用しない場合には、映像を一時的に消すことができます。

SHUTTER ボタン

1)〈SHUTTER〉ボタンを押す

- 映像が消えます。
- 本体操作部の〈SHUTTER〉ボタンを押しても操作できます。

2) 再度〈SHUTTER〉ボタンを押す

- 映像がでます。

お知らせ

- シャッター機能を使用中（シャッター：閉）は、電源インジケーター〈ON（G）/STANDBY（R)〉がゆっくりと緑色点滅します。

オンスクリーン表示機能を使う

メニューや入力端子名などのオンスクリーン表示を視聴者に見せたくない場合に、オンスクリーン表示機能をオフ（非表示）にします。

ON SCREEN ボタン

1)〈ON SCREEN〉ボタンを押す

- オンスクリーン表示が消えます。

2) 再度〈ON SCREEN〉ボタンを押す

- オンスクリーン表示がでます。

お知らせ

- オンスクリーン表示がオフ（非表示）の状態で、本体操作部の〈MENU〉ボタンを 3 秒以上長押しすると、オンスクリーン表示の非表示状態を解除します。

入力を切り換える

投写する入力を切り換えることができます。

INPUT SELECT

RGB 1/2　DIGITAL LINK　DVI-D

VIDEO　SDI　HDMI　ボタン

1) 入力切換（〈RGB1/2〉、〈DIGITAL LINK〉、〈DVI-D〉、〈VIDEO〉、〈SDI〉、〈HDMI〉）ボタンを押す

- 本体操作部のボタンを押しても操作できます。

〈RGB1/2〉	RGB1 または RGB2 に入力を切り換えます。すでにどちらかの入力が選択されている場合は、もう一方の入力に切り換えます。
〈DIGITAL LINK〉	DIGITAL LINK に入力を切り換えます。
〈DVI-D〉	DVI-D に入力を切り換えます。
〈VIDEO〉 *1	RGB1 に入力を切り換えます。
〈SDI〉 *2	SDI に入力を切り換えます。
〈HDMI〉	HDMI に入力を切り換えます。

*1　工場出荷時、操作は無効です。メニューの［セキュリティー］→［操作設定］で、［リモコン］を［ユーザー］に設定し、［入力切換ボタン］の［VIDEO ボタン］を［無効］以外に設定している場合に有効になります。

*2　SDI 入力は PT-DZ780J のみ対応

お知らせ

- 別売品の DIGITAL LINK 出力対応機器（品番：ET-YFB100、ET-YFB200）を〈DIGITAL LINK/LAN〉端子に接続している場合は、〈DIGITAL LINK〉ボタンを押すごとに、DIGITAL LINK 出力対応機器側の入力が切り換わります。また、RS-232C の操作コマンドでも入力の切り換えができます。
  他社製ツイストペアケーブル伝送器の場合は、DIGITAL LINK 入力に切り換えたうえで、ツイストペアケーブル伝送器側の入力切り換えを行ってください。

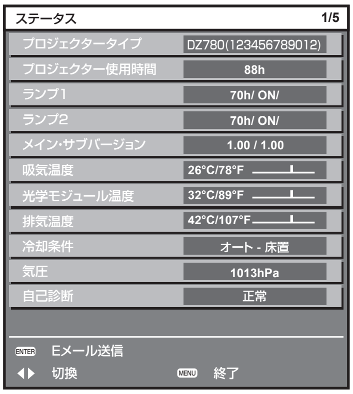
ステータス機能を使う

本体の状態を表示します。

STATUS　ボタン

1) 〈STATUS〉ボタンを押す

- **［ステータス］**画面が表示されます。



お知らせ

- メニューの［プロジェクターセットアップ］→［ステータス］（☞ 116 ページ）から表示させることもできます。

オートセットアップ機能を使う

コンピューター信号のようなドット構成されたアナログ RGB 信号入力時の解像度、クロックフェーズ、映像位置、または DVI-D/HDMI 信号入力時の映像位置を自動で調整できます。自動調整時は、最外郭が明るい白枠で、白黒がはっきりしたキャラクター文字などを含む画像を入力することをお勧めします。
写真や CG のような中間調を含む画像は適しません。

AUTO SETUP ボタン

1) 〈AUTO SETUP〉ボタンを押す

- 正常に終了した場合は［正常終了］と表示されます。
- 本体操作部の〈AUTO SETUP〉ボタンを押しても操作できます。

お知らせ

- 正常終了した場合でもクロックフェーズがずれることがあります。このときは、メニューの［位置調整］→［クロックフェーズ］（☞ 79 ページ）で調整してください。
- 画面の端がわからないような画像や暗い画像を入力すると、[異常終了］となったり、[正常終了］と表示されても正しく調整できていなかったりすることがあります。このときは、メニューの［アドバンスドメニュー］→［入力解像度］（☞ 83 ページ）、[位置調整］→［クロックフェーズ］（☞ 79 ページ）、[シフト］（☞ 77 ページ）の設定を調整してください。
- 特殊な信号は、メニューの［表示オプション］→［自動調整］（☞ 90 ページ）に従って調整してください。
- コンピューターの機種によっては自動調整できない場合があります。
- コンポジットシンクや SYNC ON GREEN の同期信号では自動調整できない場合があります。
- 自動調整中、数秒間画像が乱れる場合がありますが、異常ではありません。
- 入力信号ごとに調整が必要です。
- 自動調整中に〈MENU〉ボタンを押すと、自動調整を取り消すことができます。
- オートセットアップが可能な RGB 信号であっても、動画映像が入力されている状態でオートセットアップ機能を使用した場合、正常に調整できていないことがあります。[異常終了］と表示されるか、[正常終了］と表示されても正常に調整できていないことがあります。

ファンクションボタンを使う

リモコンの〈FUNCTION〉ボタンに、[P IN P]、[サブメモリー]、[システムセレクター]、[システムデイライトビュー]、[フリーズ]、[波形モニター]、[アスペクト］を割り当てることで、簡単なショートカットボタンとして使用できます。

FUNCTION ボタン

1) 〈FUNCTION〉ボタンを押す

お知らせ

- 機能の割り当ては、メニューの［プロジェクターセットアップ］→［ファンクションボタン］（☞ 118 ページ）で行います。

内蔵テストパターンを表示する

本体の状態を確認するために、8 種類の内蔵テストパターンを表示させることができます。テストパターンを表示させる場合は、次の手順で操作してください。

TEST PATTERN ボタン

1) 〈TEST PATTERN〉ボタンを押す

2) ◀▶ ボタンでテストパターンを選択する

お知らせ

- メニューの［テストパターン］（☞ 124 ページ）でも設定できます。
- 位置、サイズなどの設定内容はテストパターンには反映されません。必ず入力信号を表示させた状態で各種調整を行ってください。

リモコンの ID ナンバーを設定する

本機を複数台並べて使用する場合、それぞれの本体に個々の ID ナンバーを設定することにより、1 つのリモコンで同時制御や個別制御ができます。

本体の ID ナンバーを設定したあと、同じ ID ナンバーをリモコンに指定してください。

本機の ID ナンバーは、工場出荷時、［オール］に設定されています。1 台だけでご使用の場合は、リモコンの〈ID SET〉ボタンを 3 秒以上長押しして、リモコンの ID ナンバーを［オール］に設定してください。また、本体の ID がわからない場合でも、リモコンの ID ナンバーを［オール］に設定すると制御できます。

ID SET ボタン

1)　リモコンの〈ID SET〉ボタンを押す

2)　5 秒以内に、本体側で設定した 1 桁または 2 桁の ID ナンバーを、数字（〈0〉～〈9〉）ボタンを押して設定する

- ID ナンバーを［オール］に設定した場合は、本体の ID ナンバー設定に関係なく制御できます。

お願い

- リモコンの ID ナンバー指定は、本体がなくても可能なため、リモコンの〈ID SET〉ボタンは不用意に押さないでください。〈ID SET〉ボタンを押した場合は、5 秒以内に数字（〈0〉～〈9〉）ボタンを押さないと〈ID SET〉ボタンを押す以前の ID ナンバーに戻ります。
- リモコンに入力された ID ナンバーの指定は、再度指定しない限り記憶しています。ただし、リモコンの電池が消耗したまま放置しておくと消去されます。乾電池を交換した場合は、同じ ID ナンバーを再度設定してください。

お知らせ

- リモコンの ID ナンバーを［0］に設定した場合でも、［オール］に設定した場合と同様に、本体の ID ナンバー設定に関係なく制御できます。
- 本体の ID ナンバーは、メニューの［プロジェクターセットアップ］→［プロジェクター ID］で設定してください。

第 4 章　調整と設定

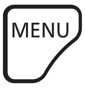
オンスクリーンメニューを使ってできる設定や調整方法について説明しています。

オンスクリーンメニューについて

本機の各種設定や調整は、オンスクリーンメニュー（メニュー画面）を使用します。

メニュー画面の操作方法

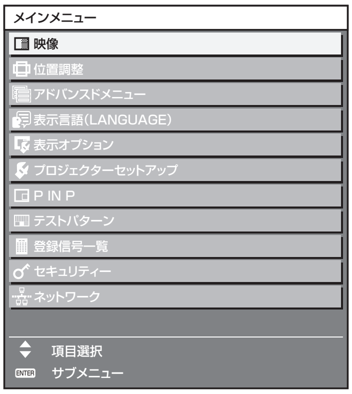
操作の手順



ボタン

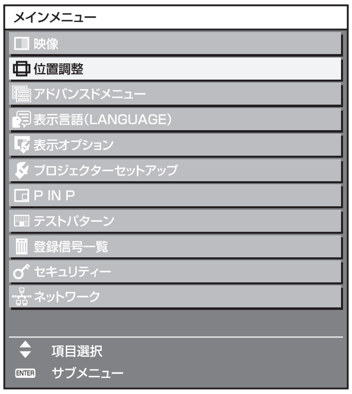
1)　リモコンまたは本体操作部の〈MENU〉ボタンを押す

- ［メインメニュー］画面が表示されます。



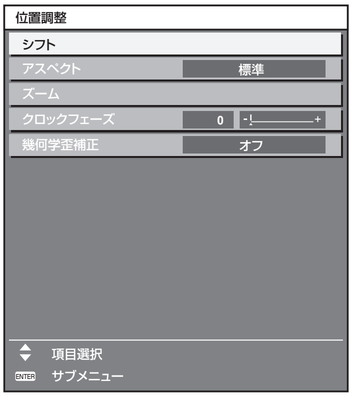
2)　▲▼ ボタンを押してメインメニュー項目を選択する

- 選択中の項目は黄色のカーソルで表示されます。



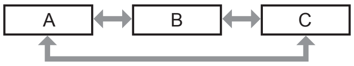
3)　〈ENTER〉ボタンを押す

- 選択したメインメニューのサブメニューが表示されます。



4)　▲▼ ボタンを押してサブメニュー項目を選択し、◀▶ ボタンまたは〈ENTER〉ボタンを押して設定の切り換えや調整を行う

- 項目によっては ◀▶ ボタンを押すごとに、下図のように順繰りに項目が切り換わります。



- 項目によっては ◀▶ ボタンを押すと、下図のようなバースケールの個別調整画面が表示されます。

お知らせ

- メニュー画面を表示中に〈MENU〉ボタンを押すと、1 つ上の階層のメニュー画面に戻ります。
- 本機に入力される信号によっては、調整できない項目や使用できない機能があります。調整または使用できない状態のときは、メニュー画面の項目が黒色文字で表示され、項目は選択できません。[デジタルシネマリアリティー]は、入力信号によって表示されない場合があります。
- 信号が入力されていない場合でも、調整できるものがあります。
- 約 5 秒間何も操作しないで放置していると、個別調整画面は自動的に消えます。
- メニューの項目については“メインメニュー”（☞ 66 ページ）や“サブメニュー”（☞ 67 ページ）をご覧ください。
- カーソルの表示色は、メニューの [表示オプション] → [オンスクリーン表示] → [OSD デザイン] の設定によって異なります。工場出荷時、選択中の項目は黄色のカーソルで表示されます。

調整値を工場出荷時の状態に戻す

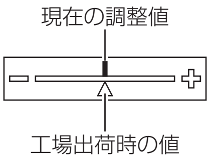
リモコンの〈DEFAULT〉ボタンを押すと、メニュー項目で調整した値が工場出荷時の状態に戻ります。

ボタン

1)　リモコンの〈DEFAULT〉ボタンを押す

お知らせ

- すべての設定を一度に工場出荷時の状態には戻せません。
- サブメニュー項目で調整した値を、一度に工場出荷時の状態に戻すには、メニューの [プロジェクターセットアップ] → [初期化]（☞ 120 ページ）で行います。
- リモコンの〈DEFAULT〉ボタンを押しても、工場出荷時の状態に戻らない項目もあります。それらの項目は個別に操作してください。
- 個別調整画面のバースケールの下にある三角マークは、工場出荷時の値を示しています。また、三角マークは、入力される信号によって位置が異なります。



メインメニュー

メインメニューには以下の項目があります。
メインメニューを選択すると、サブメニューの選択画面に移ります。

メインメニュー項目		ページ
	[映像]	70
	[位置調整]	77
	[アドバンスドメニュー]	82
	[表示言語（LANGUAGE)]	87
	[表示オプション]	88
	[プロジェクターセットアップ]	105

メインメニュー項目		ページ
	[P IN P]	122
	[テストパターン]	124
	[登録信号一覧]	125
	[セキュリティー]	128
	[ネットワーク]	132

サブメニュー

選択したメインメニュー項目のサブメニューが表示され、各項目の設定・調整ができます。

[映像]

サブメニュー項目	工場出荷時	ページ
[映像モード]	[スタンダード] *1	70
[ピクチャー]	[0]	70
[黒レベル]	[0]	70
[色の濃さ]	[0]	71
[色あい]	[0]	71
[色温度設定]	[デフォルト]	71
[白ゲイン]	[+10]	73
[ガンマ選択]	[デフォルト]	73
[システムデイライトビュー]	[オフ]	74
[シャープネス]	[+6]	74
[ノイズリダクション]	[オフ]	74
[AI]	[オン]	74
[システムセレクター]	[YP_BP_R] *1	75

*1　入力信号により異なります。

お知らせ

- 映像モードによって工場出荷時の値が異なる場合があります。

[位置調整]

サブメニュー項目	工場出荷時	ページ
[シフト]	—	77
[アスペクト]	[標準] *1	77
[ズーム]	—	78
[クロックフェーズ]	[0] *1	79
[幾何学歪補正]	[オフ]	79

*1　入力信号により異なります。

[アドバンスドメニュー]

サブメニュー項目	工場出荷時	ページ
[デジタルシネマリアリティー]	[オート] *1	82
[ブランキング]	—	82
[入力解像度]	—	83
[クランプ位置]	[24] *1	83
[エッジブレンディング]	[オフ]	84
[フレームレスポンス]	[通常]	85
[ラスターポジション]	—	86

*1　入力信号により異なります。

お知らせ

- サブメニューの項目、および工場出荷時の値は、選択している入力端子により表示が異なります。

[表示言語（LANGUAGE)]

項目の詳細（☞ 87 ページ）

[表示オプション]

サブメニュー項目	工場出荷時	ページ
[カラーマッチング]	[オフ]	88
[カラーコレクション]	[オフ]	89
[スクリーン設定]	―	89
[入力自動セットアップ]	[オフ]	90
[自動調整]	―	90
[バックアップ入力設定]	―	91
[RGB IN]	―	92
[DVI-D IN]	―	93
[HDMI IN]	―	95
[DIGITAL LINK IN]	―	96
[SDI IN] *1	―	97
[オンスクリーン表示]	―	98
[クローズドキャプション設定]	―	100
[バックカラー]	[ブルー]	101
[スタートアップロゴ]	[デフォルトロゴ]	101
[ユニフォーミティー]	―	101
[シャッター設定]	―	102
[フリーズ]	―	102
[波形モニター]	[オフ]	103
[カットオフ]	―	104

*1　PT-DZ780J のみ

[プロジェクターセットアップ]

サブメニュー項目	工場出荷時	ページ
[プロジェクター ID]	[オール]	105
[投写方式]	[フロント / 床置]	105
[冷却条件]	[オート]	106
[ランプ選択]	[デュアル]	106
[ランプリレー]	[オフ]	107
[ランプパワー]	[ノーマル]	107
[輝度コントロール]	―	108
[スタンバイモード]	[ノーマル]	112
[スケジュール]	[オフ]	112
[起動方法]	[ラストメモリー]	114
[スタートアップ入力選択]	[維持]	114
[RS-232C]	―	115
[ステータス]	―	116
[無信号自動オフ]	[無効]	118
[REMOTE2 端子モード]	[標準]	118
[ファンクションボタン]	―	118
[日付と時刻]	―	118
[レンズキャリブレーション]	[ノーマル]	119
[全ユーザーデータ保存]	―	120
[全ユーザーデータ呼出]	―	120

サブメニュー項目	工場出荷時	ページ
[初期化]	—	120
[サービスパスワード]	—	121

[P IN P]

項目の詳細（☞ 122 ページ）

[テストパターン]

項目の詳細（☞ 124 ページ）

[登録信号一覧]

項目の詳細（☞ 125 ページ）

[セキュリティー]

サブメニュー項目	工場出荷時	ページ
[セキュリティーパスワード]	[オフ]	128
[セキュリティーパスワード変更]	—	128
[表示設定]	[オフ]	128
[テキスト変更]	—	129
[操作設定]	—	129
[操作設定パスワード変更]	—	130

[ネットワーク]

サブメニュー項目	工場出荷時	ページ
[DIGITAL LINK モード]	[オート]	132
[DIGITAL LINK 設定]	—	132
[DIGITAL LINK ステータス]	—	133
[ネットワーク設定]	—	133
[ネットワークコントロール]	—	134
[ネットワークステータス]	—	134
[DIGITAL LINK メニュー]	—	135
[Art-Net 設定]	[オフ]	135

お知らせ

- 本機に入力される信号によっては、調整できない項目や使用できない機能があります。
  調整または使用できない状態のときは、メニュー画面の項目が黒色文字で表示され、項目は選択できません。
- サブメニューの項目、および工場出荷時の値は、選択している入力端子により表示が異なります。

[映像] について

メニュー画面で、メインメニューから [映像] を選択し、サブメニューから項目を選択してください。
メニュー画面の操作については、"メニュー画面の操作方法" (☞ 65 ページ) をご覧ください。
- 項目を選択したら ▲▼◀▶ ボタンで調整してください。

[映像モード]

ご覧になる映像や視聴環境に合わせて最適な映像モードに設定します。

1) ▲▼ ボタンで [映像モード] を選択する

2) ◀▶ ボタンまたは〈ENTER〉ボタンを押す
- **[映像モード]** 個別調整画面が表示されます。

3) ◀▶ ボタンで項目を切り換える
- ボタンを押すごとに、項目が切り換わります。

[スタンダード]	動画系全般に適した画像になります。
[シネマ]	映画コンテンツに適した画像になります。
[ナチュラル]	sRGB に準拠した画像になります。
[REC709] *1	Rec.709 に準拠した画像になります。
[簡易 DICOM]	DICOM Part14 グレースケール規格に近い画像になります。
[ダイナミック]	明るい場所で使用する場合に適した画像になります。
[グラフィック]	コンピューター入力に適した画像になります。

*1 [映像モード] 以外の設定は工場出荷時の設定にしてください。

お知らせ

- 工場出荷時の映像モードは、静止画系信号入力時は [グラフィック]、動画系信号入力時は [スタンダード] です。
- Rec.709 とは「ITU-R Recommendation BT.709」の略称で、ハイビジョン放送の色規格です。
- DICOM とは「Digital Imaging and COmmunication in Medicine」の略称で、医療用画像機器のための規格です。DICOM の名称を用いていますが、本機は医療機器ではありませんので、表示画像を診断などの用途に使用しないでください。

[ピクチャー]

色の明暗度を調整します。

1) ▲▼ ボタンで [ピクチャー] を選択する

2) ◀▶ ボタンまたは〈ENTER〉ボタンを押す
- **[ピクチャー]** 個別調整画面が表示されます。

3) ◀▶ ボタンでレベルを調整する

操作	変化内容	調整範囲
▶ ボタンを押す	画面が明るくなります。	–31 ～ +31
◀ ボタンを押す	画面が暗くなります。	

お願い

- 黒レベルを調整する必要がある場合には、[黒レベル] を先に調整してください。

[黒レベル]

画面の暗い部分 (黒色) を調整します。

1) ▲▼ ボタンで [黒レベル] を選択する

2) ◀▶ ボタンまたは〈ENTER〉ボタンを押す
- **[黒レベル]** 個別調整画面が表示されます。

3) ◀▶ ボタンでレベルを調整する

操作	変化内容	調整範囲
▶ ボタンを押す	画面の暗い部分（黒色）が明るくなります。	–31 ～ +31
◀ ボタンを押す	画面の暗い部分（黒色）が暗くなります。	

[色の濃さ]

色の濃さを調整します。

1) ▲▼ ボタンで [色の濃さ] を選択する

2) ◀▶ ボタンまたは〈ENTER〉ボタンを押す
- **[色の濃さ]** 個別調整画面が表示されます。

3) ◀▶ ボタンでレベルを調整する

操作	変化内容	調整範囲
▶ ボタンを押す	色が濃くなります。	–31 ～ +31
◀ ボタンを押す	色が薄くなります。	

[色あい]

肌色の部分を調整します。

1) ▲▼ ボタンで [色あい] を選択する

2) ◀▶ ボタンまたは〈ENTER〉ボタンを押す
- **[色あい]** 個別調整画面が表示されます。

3) ◀▶ ボタンでレベルを調整する

操作	変化内容	調整範囲
▶ ボタンを押す	色あいが変化し肌色が緑色がかります。	–31 ～ +31
◀ ボタンを押す	色あいが変化し肌色が赤紫色がかります。	

[色温度設定]

映像の白色部分が青みがかったり、赤みがかったりする場合に切り換えます。

色温度で調整する場合

1) ▲▼ ボタンで [色温度設定] を選択する

2) ◀▶ ボタンまたは〈ENTER〉ボタンを押す
- **[色温度設定]** 個別調整画面が表示されます。

3) ◀▶ ボタンで項目を切り換える
- ボタンを押すごとに、項目が切り換わります。

[デフォルト]	工場出荷時の状態です。
[ユーザー 1]	お好みに合わせてホワイトバランスが調整できます。詳しくは、“お好みのホワイトバランスに調整する場合”（☞ 71 ページ）をご覧ください。
[ユーザー 2]	
[3200K] ～ [9300K]	100 K 単位で設定できます。自然な色あいになるよう選択してください。

お知らせ

- [映像モード]（☞ 70 ページ）が [簡易 DICOM] に設定されている場合、[デフォルト] は選択できません。
- [カラーマッチング]（☞ 88 ページ）の調整が [オフ] 以外に設定されている場合、[色温度設定] は [ユーザー 1] 固定になります。
- 色温度の数値は目安です。

お好みのホワイトバランスに調整する場合

1) ▲▼ ボタンで [色温度設定] を選択する

2) ◀▶ ボタンまたは〈ENTER〉ボタンを押す
- **[色温度設定]** 個別調整画面が表示されます。

3) ◀▶ ボタンで [ユーザー 1] または [ユーザー 2] を選択する

4) 〈ENTER〉ボタンを押す
- **[色温度設定]** 画面が表示されます。

5) ▲▼ ボタンで [ホワイトバランス] を選択する

6) 〈ENTER〉ボタンを押す
- **[ホワイトバランス]** 画面が表示されます。

7) ▲▼ ボタンで [ホワイトバランス 高] または [ホワイトバランス 低] を選択する

8) 〈ENTER〉ボタンを押す
- **[ホワイトバランス 高]** 画面、または **[ホワイトバランス 低]** 画面が表示されます。

9) ▲▼ ボタンで [赤]、[緑]、[青] を選択する

10) ◀▶ ボタンでレベルを調整する

調整項目	操作	変化内容	調整範囲
[赤]	▶ ボタンを押す	赤色が強くなります。	[ホワイトバランス 高]：0 ～ +255（出荷設定値 +255） [ホワイトバランス 低]：−127 ～ +127（出荷設定値 0）
	◀ ボタンを押す	赤色が弱くなります。	
[緑]	▶ ボタンを押す	緑色が強くなります。	
	◀ ボタンを押す	緑色が弱くなります。	
[青]	▶ ボタンを押す	青色が強くなります。	
	◀ ボタンを押す	青色が弱くなります。	

お知らせ

- [色温度設定] は、正しく調整してください。間違った調整をすると、すべての色が正常にでなくなります。調整が合わなくなった場合は、リモコンの〈DEFAULT〉ボタンを押すと、選択中の項目のみ工場出荷時の値に戻せます。

既存の色温度設定を元にお好みのホワイトバランスに調整する場合

1) ▲▼ ボタンで [色温度設定] を選択する

2) ◀▶ ボタンまたは〈ENTER〉ボタンを押す
- **[色温度設定]** 個別調整画面が表示されます。

3) ◀▶ ボタンで [デフォルト]、[ユーザー 1]、[ユーザー 2] 以外を選択する

4) 〈ENTER〉ボタンを押す
- **[***** への変換]** 画面が表示されます。

5) ▲▼ ボタンで [ユーザー 1] または [ユーザー 2] を選択する
- 選択した項目に色温度を変換した状態を保存します。

6) 〈ENTER〉ボタンを押す
- 確認画面が表示されます。

7) ◀▶ ボタンで [実行] を選択し、〈ENTER〉ボタンを押す
- [ユーザー 1] または [ユーザー 2] のデータを上書きします。
- ◀▶ ボタンで [中止] を選択し、〈ENTER〉ボタンを押すとデータの上書きはしません。
- **[ホワイトバランス 高]** 画面が表示されます。

8) ▲▼ ボタンで [赤]、[緑]、[青] を選択する

9) ◀▶ ボタンでレベルを調整する

お知らせ

- [色温度設定] は、正しく調整してください。間違った調整をすると、すべての色が正常にでなくなります。調整が合わなくなった場合は、リモコンの〈DEFAULT〉ボタンを押すと、選択中の項目のみ工場出荷時の値に戻せます。
- 色温度の変換を行った場合、変換前後で多少色が異なることがあります。

[ユーザー 1] または [ユーザー 2] の名称を変更する場合

1) ▲▼ ボタンで [色温度設定] を選択する

2) ◀▶ ボタンまたは〈ENTER〉ボタンを押す
- **[色温度設定]** 個別調整画面が表示されます。

3) ◀▶ ボタンで [ユーザー 1] または [ユーザー 2] を選択する

4) 〈ENTER〉ボタンを押す
- **[色温度設定]** 画面が表示されます。

5) ▲▼ ボタンで [色温度設定名称変更] を選択する

6) 〈ENTER〉ボタンを押す
- **[色温度設定名称変更]** 画面が表示されます。

7) ▲▼◀▶ ボタンで文字を選択し、〈ENTER〉ボタンを押して入力する

8) ▲▼◀▶ ボタンで [OK] を選択し、〈ENTER〉ボタンを押す
- 色温度設定名称が変更されます。

お知らせ

- 名称を変更すると、[ユーザー 1]、[ユーザー 2] の表示も変更されます。

[白ゲイン]

映像の白色部分の明るさを調整します。

1) ▲▼ ボタンで [白ゲイン] を選択する

2) ◀▶ ボタンまたは〈ENTER〉ボタンを押す
- **[白ゲイン]** 個別調整画面が表示されます。

3) ◀▶ ボタンでレベルを調整する

操作	変化内容	調整範囲
▶ ボタンを押す	白色の輝きが強くなります。	0 ～ +10
◀ ボタンを押す	より自然な映像になります。	

[ガンマ選択]

ガンマモードの切り換えをします。

1) ▲▼ ボタンで [ガンマ選択] を選択する

2) ◀▶ ボタンまたは〈ENTER〉ボタンを押す
- **[ガンマ選択]** 個別調整画面が表示されます。

3) ◀▶ ボタンで項目を切り換える
- ボタンを押すごとに、項目が切り換わります。

[デフォルト]	工場出荷時の状態です。
[1.8]	お好みの画像になるように設定してください。
[2.0]	
[2.2]	

お知らせ

- [デフォルト] を選択したときに、エッジブレンディング調整を行うと、[2.2] を選択したときと同じガンマモードになります。(PT-DW750J、PT-DX820J のみ)

[システムデイライトビュー]

明るい照明下で映像を投写する場合でも、映像を最適な鮮やかさに補正します。

1)　▲▼ ボタンで［システムデイライトビュー］を選択する

2)　◀▶ ボタンまたは〈ENTER〉ボタンを押す
- ［システムデイライトビュー］個別調整画面が表示されます。

3)　◀▶ ボタンで項目を切り換える
- ボタンを押すごとに、項目が切り換わります。

[オフ]	補正なしの状態です。
[1]	映像の鮮やかさを弱めに補正します。
[2]	映像の鮮やかさを中程度に補正します。
[3]	映像の鮮やかさを強めに補正します。

[シャープネス]

映像のシャープ感を調整します。

1)　▲▼ ボタンで［シャープネス］を選択する

2)　◀▶ ボタンまたは〈ENTER〉ボタンを押す
- ［シャープネス］個別調整画面が表示されます。

3)　◀▶ ボタンでレベルを調整する

操作	変化内容	調整範囲
▶ ボタンを押す	輪郭がシャープになります。	0 ～ +15
◀ ボタンを押す	輪郭がやわらかくなります。	

お知らせ

- 調整値が［+15］のときに ▶ ボタンを押すと、［0］になります。また、調整値が［0］のときに ◀ ボタンを押すと、［+15］になります。

[ノイズリダクション]

入力された映像が劣化して、映像信号ノイズが発生している場合に切り換えます。

1)　▲▼ ボタンで［ノイズリダクション］を選択する

2)　◀▶ ボタンまたは〈ENTER〉ボタンを押す
- ［ノイズリダクション］個別調整画面が表示されます。

3)　◀▶ ボタンで項目を切り換える
- ボタンを押すごとに、項目が切り換わります。

[オフ]	補正なしの状態です。
[1]	ノイズを弱めに補正します。
[2]	ノイズを中程度に補正します。
[3]	ノイズを強めに補正します。

お願い

- ノイズが少ない入力信号に対して設定すると、映像本来のイメージと違って見える場合があります。その際は［オフ］に設定してください。

[AI]

AI 補正機能（自動階調制御）を有効にするかどうかを設定します。有効にすると、映像に合わせて階調制御を行い、コントラスト感がある最適な画像にします。

1)　▲▼ ボタンで［AI］を選択する

2)　◀▶ ボタンまたは〈ENTER〉ボタンを押す
- ［AI］個別調整画面が表示されます。

3) ◀▶ ボタンで項目を切り換える

- ボタンを押すごとに、項目が切り換わります。

[オン]	AI 補正機能を有効にします。
[オフ]	AI 補正機能を無効にします。

[システムセレクター]

本機は入力信号を自動判別しますが、不安定な信号を入力する場合は、手動でシステム方式を設定します。入力信号に合ったシステム方式を設定してください。

1) ▲▼ ボタンで [システムセレクター] を選択する

2) 〈ENTER〉ボタンを押す

3) ▲▼ ボタンでシステム方式を選択する

- 〈SDI IN〉端子に接続して信号を入力している場合は、▲▼◀▶ ボタンでシステム方式を選択します。(PT-DZ780J のみ)
- 入力信号によって、選択できるシステム方式が異なります。

<table>
<tr><th>接続端子</th><th colspan="2">システム方式</th></tr>
<tr><td>〈R/P_R/VIDEO〉端子、〈G/Y〉/〈B/P_B/C〉端子</td><td colspan="2">[オート]、[NTSC]、[NTSC4.43]、[PAL]、[PAL-M]、[PAL-N]、[SECAM]、[PAL60] から選択します。
通常は [オート] に設定してください。([オート] は、[NTSC]、[NTSC4.43]、[PAL]、[PAL-M]、[PAL-N]、[SECAM]、[PAL60] の中から自動的に判別します。)
それぞれのテレビの信号方式に設定を切り換えてください。日本国内では NTSC の信号方式が使われています。</td></tr>
<tr><td rowspan="3">〈RGB 1 IN〉端子、〈RGB 2 IN〉端子</td><td>480i、576i、576p 信号</td><td>[RGB]、[YC_BC_R] から選択します。</td></tr>
<tr><td>VGA60、480p 信号</td><td>[VGA60]、[480p YC_BC_R]、[480p RGB] から選択します。</td></tr>
<tr><td>上記以外の動画系信号</td><td>[RGB]、[YP_BP_R] から選択します。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">〈DVI-D IN〉端子</td><td>480i、576i、480p、576p 信号</td><td>[RGB]、[YC_BC_R] から選択します。</td></tr>
<tr><td>上記以外の動画系信号</td><td>[RGB]、[YP_BP_R] から選択します。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">〈HDMI IN〉端子、〈DIGITAL LINK/LAN〉端子</td><td>480i、576i、480p、576p 信号</td><td>[オート]、[RGB]、[YC_BC_R] から選択します。</td></tr>
<tr><td>上記以外の動画系信号</td><td>[オート]、[RGB]、[YP_BP_R] から選択します。</td></tr>
<tr><td>〈SDI IN〉端子
(PT-DZ780J のみ)</td><td colspan="2">[オート]、[480i YC_BC_R]、[576i YC_BC_R]、[720/50p YP_BP_R]、[720/60p YP_BP_R]、[1035/60i YP_BP_R]、[1080/24p YP_BP_R]、[1080/24sF YP_BP_R]、[1080/25p YP_BP_R]、[1080/30p YP_BP_R]、[1080/50i YP_BP_R]、[1080/60i YP_BP_R]、[1080/50p YP_BP_R]、[1080/60p YP_BP_R]、[1080/24p RGB]、[1080/24sF RGB]、[1080/25p RGB]、[1080/30p RGB]、[1080/50i RGB]、[1080/60i RGB] から選択します。</td></tr>
</table>

4) 〈ENTER〉ボタンを押す

お知らせ

- 本機が投写できる映像信号については "対応信号リスト" (☞ 182 ページ) をご覧ください。
- 接続する一部の外部機器では、正常に動作しない場合があります。

sRGB に準拠した映像にするには

sRGB とは、IEC (International Electrotechnical Commission) で定められた色再現国際規格 (IEC61966-2-1) です。
sRGB に準拠した、より忠実な色を再現させたい場合は、下記の手順で設定します。

1) [カラーマッチング] を [オフ] に設定する

- [カラーマッチング] (☞ 88 ページ) をご覧ください。

2) [映像] メニューを表示する

- "[映像] について" (☞ 70 ページ) をご覧ください。

3) ▲▼ ボタンで [映像モード] を選択する

4) ◀▶ ボタンで [ナチュラル] に設定する

5) ▲▼ ボタンで [色の濃さ] を選択する

6) **リモコンの〈DEFAULT〉ボタンを押し、工場出荷時の値にする**

7) **［色あい］、［色温度設定］、［白ゲイン］、［ガンマ選択］、［システムデイライトビュー］ も、手順 5) ～ 6) に従って工場出荷時の値にする**

お知らせ

- RGB 信号入力時のみ、sRGB に対応します。

［位置調整］について

メニュー画面で、メインメニューから［位置調整］を選択し、サブメニューから項目を選択してください。
メニュー画面の操作については、“メニュー画面の操作方法”（☞ 65 ページ）をご覧ください。

- 項目を選択したら ▲▼◀▶ ボタンで調整してください。

お知らせ

- 別売品の DIGITAL LINK 出力対応機器（品番：ET-YFB100、ET-YFB200）を〈DIGITAL LINK/LAN〉端子に接続している場合、シフト、アスペクト、クロックフェーズの調整は、まず DIGITAL LINK 出力対応機器側のメニューで設定してください。

［シフト］

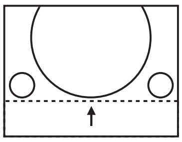
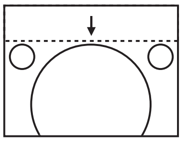
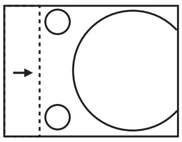
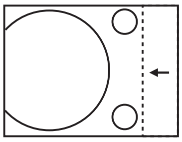
本機とスクリーンの位置関係が正しく設置された状態で、スクリーンに投写された映像位置がずれている場合は、上下左右に映像位置を移動します。

1)　▲▼ ボタンで［シフト］を選択する

2)　〈ENTER〉ボタンを押す

- ［シフト］画面が表示されます。

3)　▲▼◀▶ ボタンで位置を調整する

調整方向	操作	変化内容	
垂直位置（上下）調整	▲ ボタンを押す	映像位置が上へ移動します。	
	▼ ボタンを押す	映像位置が下へ移動します。	
水平位置（左右）調整	▶ ボタンを押す	映像位置が右へ移動します。	
	◀ ボタンを押す	映像位置が左へ移動します。	

［アスペクト］

映像の縦横比（アスペクト比）を切り換えます。
［スクリーン設定］で選択したスクリーン範囲でアスペクトを切り換えます。［スクリーン設定］を先に設定してください。（☞ 89 ページ）

1)　▲▼ ボタンで［アスペクト］を選択する

2)　◀▶ ボタンまたは〈ENTER〉ボタンを押す

- ［アスペクト］個別調整画面が表示されます。

3)　◀▶ ボタンで項目を切り換える

- ボタンを押すごとに、項目が切り換わります。

［標準］	入力信号のアスペクト比のまま表示します。
［オート］*1	映像信号に組み入れられたビデオ ID（VID）を判別し、4：3、16：9 の画面サイズを自動的に切り換えて表示します。480i/480p 信号入力時に有効です。
［VID オート］*2	映像信号に組み入れられたビデオ ID（VID）を判別し、4：3、16：9 の画面サイズを自動的に切り換えて表示します。NTSC 信号入力時に有効です。

[等倍]	入力信号の解像度のまま表示します。
[16 : 9]	標準信号入力時 *3 は、アスペクト比を 16 : 9 に変換して表示します。ワイド信号入力時 *4 は、入力アスペクト比のまま表示します。
[4 : 3]	標準信号入力時 *3 は、入力アスペクト比のまま表示します。ワイド信号入力時 *4 は、4:3 スクリーンに収まるように入力アスペクト比のまま縮小して表示します。
[H フィット]	スクリーン範囲の幅をすべて使って表示します。[スクリーンフォーマット] で選択されたスクリーンのアスペクトよりも縦長のアスペクト比を持つ信号は、画像の上下が切れて表示されます。
[V フィット]	[スクリーンフォーマット] で選択したスクリーン範囲の高さをすべて使って表示します。[スクリーンフォーマット] で選択されたスクリーンのアスペクトよりも横長のアスペクト比を持つ信号は、画像の左右が切れて表示されます。
[HV フィット]	[スクリーンフォーマット]で選択したスクリーン範囲全体に映像を表示します。入力信号とスクリーン範囲のアスペクト比が異なる場合は、[スクリーンフォーマット] で選択されたスクリーンのアスペクトに変換して表示します。

*1　RGB 信号（480i、480p）入力時のみ
*2　ビデオ信号、Y/C 信号（NTSC）入力時のみ
*3　標準信号入力時とは、アスペクト比 4 : 3、5 : 4 の信号入力時です。
*4　ワイド信号入力時とは、アスペクト比 16 : 10、16 : 9、15 : 9、15 : 10 の信号入力時です。

お知らせ

- 入力信号によっては、選択できないサイズモードがあります。ビデオ信号、Y/C 信号（NTSC）、RGB 信号（480i、480p）の場合、[標準] は選択できません。
- 入力信号と異なるアスペクト比を選択すると、オリジナルの映像と見え方に差が出ます。この点に注意して、アスペクト比を選択してください。
- 営利目的または公衆に視聴させることを目的として、喫茶店やホテルなどの場所で、本機を使用して画面の圧縮や引き伸ばしなどをすると、著作権法上で保護されている著作者の権利を侵害するおそれがあります。本機のアスペクト調整、ズーム機能などの機能を利用するときはご注意ください。
- ワイド画面ではない従来（通常）の 4 : 3 の映像をワイド画面で投写すると、周辺画像が一部見えなくなることや、変形して見えることがあります。制作者の意図を尊重したオリジナルの映像は、4 : 3 の映像でご覧ください。

[ズーム]

画像のサイズを調整します。

[アスペクト] を [標準] および [等倍] 以外に設定している場合

1)　▲▼ ボタンで [ズーム] を選択する

2)　〈ENTER〉ボタンを押す
- **[ズーム]** 画面が表示されます。

3)　▲▼ ボタンで [連動] を選択する

4)　◀▶ ボタンで項目を切り換える

[オフ]	[垂直] と [水平] のズーム比をそれぞれ設定します。
[オン]	[水平垂直] でズーム比を設定します。垂直と水平を等倍で拡大・縮小できます。

5)　▲▼ ボタンで [垂直] または [水平] を選択する
- [オン] を選択した場合は、[水平垂直] を選択します。

6)　◀▶ ボタンで調整する

お知らせ

- [アスペクト] を [等倍] に設定している場合、[ズーム] は調整できません。

[アスペクト] を [標準] に設定している場合

1)　▲▼ ボタンで [ズーム] を選択する

2)　〈ENTER〉ボタンを押す
- **[ズーム]** 画面が表示されます。

3)　▲▼ ボタンで [モード] を選択する

4)　◀▶ ボタンで項目を切り換える

[インターナル]	[スクリーンフォーマット] で設定されたアスペクト領域内でサイズを拡大します。
[フル]	[スクリーンフォーマット] で設定された表示エリアの全領域を使って拡大・縮小します。

5)　▲▼ ボタンで [連動] を選択する

6)　◀▶ ボタンで項目を切り換える

[オフ]	[垂直] と [水平] のズーム比をそれぞれ設定します。
[オン]	[水平垂直] でズーム比を設定します。垂直と水平を等倍で拡大・縮小できます。

7)　▲▼ ボタンで [垂直] または [水平] を選択する

- [オン] を選択した場合は、[水平垂直] を選択します。

8)　◀▶ ボタンで調整する

お知らせ

- [アスペクト] を [標準] 以外に設定した場合、[モード] は表示されません。

[クロックフェーズ]

画像のちらつきや輪郭のにじみが発生しているとき、最適な画像になるように調整します。

1)　▲▼ ボタンで [クロックフェーズ] を選択する

2)　◀▶ ボタンまたは〈ENTER〉ボタンを押す

- **[クロックフェーズ]** 個別調整画面が表示されます。

3)　◀▶ ボタンで調整する

- 調整値は、[0] ～ [+31] まで変化します。ノイズが少なくなるように調整してください。

お知らせ

- 信号によっては調整できない場合があります。
- 入力しているコンピューターの出力が不安定であると最適値がない場合があります。
- 総ドット数がずれていると最適値がない場合があります。
- [クロックフェーズ] の調整ができるのは、〈RGB 1 IN〉端子または〈RGB 2 IN〉端子に信号を入力した場合のみです。
- デジタル信号入力時は [クロックフェーズ] の調整ができません。
- 調整値が [+31] のときに ▶ ボタンを押すと、[0] になります。また、調整値が [0] のときに ◀ ボタンを押すと、[+31] になります。

[幾何学歪補正]

投写映像の多様なゆがみを補正します。
独自の画像処理技術により特殊な形状のスクリーンにスクエアな映像を投写できます。

1)　▲▼ ボタンで [幾何学歪補正] を選択する

2)　◀▶ ボタンで項目を切り換える

- ボタンを押すごとに、項目が切り換わります。

[オフ]	幾何学歪補正を行いません。
[台形補正]	投写映像が台形にゆがむ場合に調整します。
[コーナー補正]	投写映像の四隅がゆがむ場合に調整します。
[曲面補正]	投写映像が曲面にゆがむ場合に調整します。
[PC-1] *1	コンピューターを用いた幾何学歪補正を行います。 別売品のアップグレードキット（品番：ET-UK20）が必要です。
[PC-2] *1	
[PC-3] *1	

*1　PT-DZ780J のみ。
コンピューター制御で幾何学歪補正を使用する場合には、熟練を要します。販売店にご相談ください。コンピューター制御で調整した幾何学歪補正は 3 つまで保存できます。

[台形補正] または [曲面補正] を設定する場合

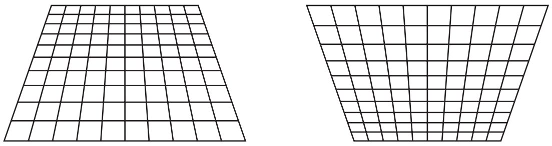
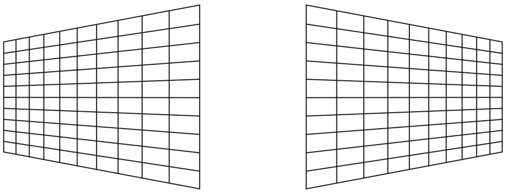
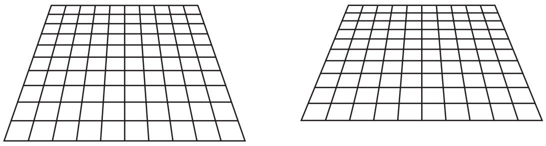
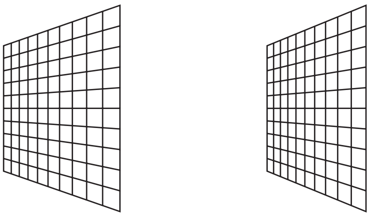
1)　▲▼ ボタンで [幾何学歪補正] を選択する

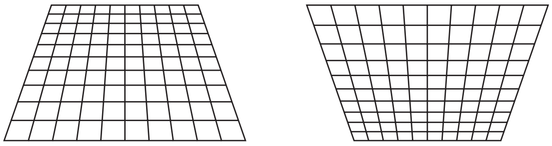
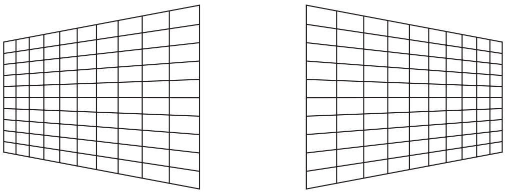
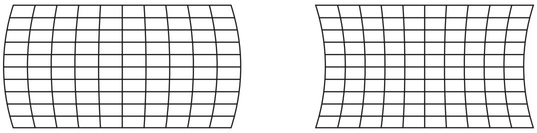
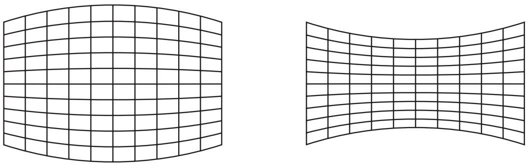
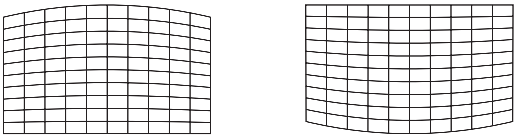
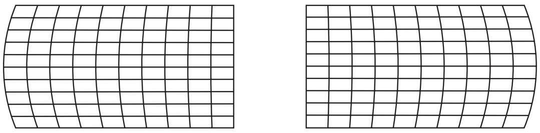
2)　◀▶ ボタンで [台形補正] または [曲面補正] を選択する

3)　〈ENTER〉ボタンを押す
- **［幾何学歪補正：台形補正］**または**［幾何学歪補正：曲面補正］**画面が表示されます。

4)　▲▼ ボタンで調整する項目を選択する

5)　◀▶ ボタンで調整する

［台形補正］	
［レンズスローレシオ］ ご使用のレンズのスローレシオを設定してください。	
［垂直台形補正］ 	**［水平台形補正］** 
［垂直バランス］  垂直方向のレンズシフト量に応じて設定してください。	**［水平バランス］**  水平方向のレンズシフト量に応じて設定してください。

［曲面補正］	
［レンズスローレシオ］ ご使用のレンズのスローレシオを設定してください。	
［垂直台形補正］ 	**［水平台形補正］** 
［垂直弧］ 	**［水平弧］** 
［垂直バランス］ 	**［水平バランス］** 
［アスペクト維持］ アスペクト比を維持したまま補正する場合は、［オン］を選択します。	

［コーナー補正］を設定する場合

1)　▲▼ ボタンで［幾何学歪補正］を選択する

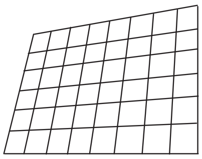
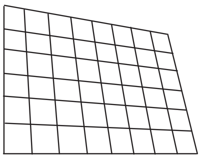
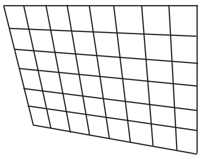
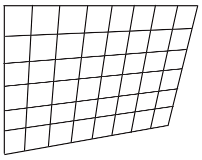
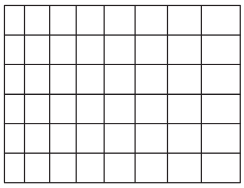
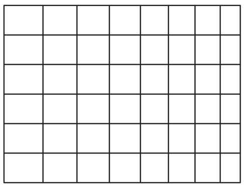
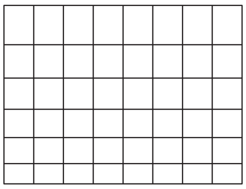
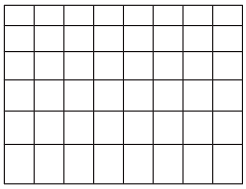
2)　◀▶ ボタンで［コーナー補正］を選択する

3) 〈ENTER〉ボタンを押す

- **[幾何学歪補正：コーナー補正]** 画面が表示されます。

4) ▲▼ ボタンで調整する項目を選択し、〈ENTER〉ボタンを押す

5) ▲▼◀▶ ボタンで調整する

[コーナー補正]			
[左上] 	[右上] 	[左下] 	[右下] 
[リニアリティー] 水平方向 		垂直方向 	

お知らせ

- [幾何学歪補正] を設定した場合、メニューやロゴがスクリーンからはみ出る場合があります。
- [エッジブレンディング] (☞ 84 ページ) の調整と [幾何学歪補正] を併用する場合は、環境によって正しくエッジブレンディング調整ができない場合があります。
- 別売品のアップグレードキット（品番：ET-UK20）を適用することで補正可能範囲を広げることができます。ご購入の際は、販売店にご相談ください。(PT-DZ780J のみ)
- 調整中に一瞬映像が消える場合がありますが、異常ではありません。

［アドバンスドメニュー］について

メニュー画面で、メインメニューから［アドバンスドメニュー］を選択し、サブメニューから項目を選択してください。
メニュー画面の操作については、“メニュー画面の操作方法”（☞ 65 ページ）をご覧ください。
- 項目を選択したら ▲▼◀▶ ボタンで調整してください。

［デジタルシネマリアリティー］

PAL（または SECAM）の 576i 信号や NTSC の 480i 信号、および 1080/50i、1080/60i 信号が入力されたとき、シネマ処理をして垂直解像度をさらに上げ、画質を向上させます。

1)　▲▼ ボタンで［デジタルシネマリアリティー］を選択する

2)　◀▶ ボタンで項目を切り換える
- ボタンを押すごとに、項目が切り換わります。

［オート］	自動検出し、シネマ処理をします。（工場出荷時の値）	
［オフ］	シネマ処理をしません。	
［30p 固定］	480i、1080/60i 信号入力時	強制シネマ処理（2：2 プルダウン）になります。
［25p 固定］	576i、1080/50i 信号入力時	

お知らせ

- ［デジタルシネマリアリティー］では、2：2 でプルダウンされた信号以外を［25p 固定］または、［30p 固定］に設定すると、画質が劣化します。（垂直解像度が悪くなります。）
- ［フレームレスポンス］を［高速］に設定している場合、［デジタルシネマリアリティー］は設定できません。

［ブランキング］

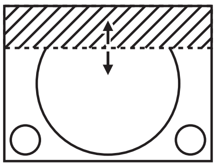
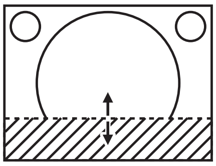
ビデオデッキなどの映像投写時、画面端にノイズがでている場合やスクリーンから画像がわずかにはみ出ている場合などにブランキング幅を調整します。

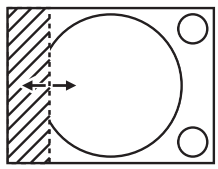
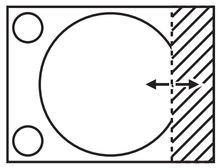
1)　▲▼ ボタンで［ブランキング］を選択する

2)　〈ENTER〉ボタンを押す
- **［ブランキング］**調整画面が表示されます。

3)　▲▼ ボタンで［上］、［下］、［左］、［右］を選択する
- ［カスタムマスキング］を［オフ］以外（［PC-1］、［PC-2］、［PC-3］）に設定すると、コンピューターを用いて任意の形状にブランキング幅を調整できます。コンピューター制御で調整したブランキング設定は 3 つまで保存できます。（PT-DZ780J のみ）
［カスタムマスキング］の機能をご使用の場合は、別売品のアップグレードキット（品番：ET-UK20）が必要です。ご購入の際は、販売店にご相談ください。

4)　◀▶ ボタンでブランキング幅を調整する

ブランキング補正	調整項目	操作	変化内容		調整範囲
画面上側	［上］	◀ ボタンを押す	ブランキング幅が上へ移動します。		PT-DZ780J：上下 0 ～ 599 PT-DW750J：上下 0 ～ 399 PT-DX820J：上下 0 ～ 383
		▶ ボタンを押す	ブランキング幅が下へ移動します。		
画面下側	［下］	▶ ボタンを押す	ブランキング幅が上へ移動します。		
		◀ ボタンを押す	ブランキング幅が下へ移動します。		

ブランキング補正	調整項目	操作	変化内容		調整範囲
画面左側	[左]	▶ ボタンを押す	ブランキング幅が右へ移動します。		PT-DZ780J：左右 0 ～ 959 PT-DW750J：左右 0 ～ 639 PT-DX820J：左右 0 ～ 511
		◀ ボタンを押す	ブランキング幅が左へ移動します。		
画面右側	[右]	◀ ボタンを押す	ブランキング幅が右へ移動します。		
		▶ ボタンを押す	ブランキング幅が左へ移動します。		

[入力解像度]

画像のちらつきや輪郭のにじみが発生しているとき、最適な画像になるように調整します。

1)　▲▼ ボタンで [入力解像度] を選択する

2)　〈ENTER〉ボタンを押す

- **[入力解像度]** 画面が表示されます。

3)　▲▼ ボタンで [総ドット数]、[表示ドット数]、[総ライン数]、[表示ライン数] を選択し、◀▶ ボタンで各項目を調整する

- 各項目には入力している信号に応じた数値が自動的に表示されます。画面に縦縞や画面欠けが発生する場合、表示された数値を増減させて画面を見ながら最適な状態に調整してください。

お知らせ

- 全白信号入力では上記縦縞は発生しません。
- 調整中に画像が乱れる場合がありますが、異常ではありません。
- [入力解像度] の調整ができるのは、〈RGB 1 IN〉端子または〈RGB 2 IN〉端子に RGB 信号を入力した場合のみです。
- 信号によっては調整できない場合があります。

[クランプ位置]

映像の黒部分がつぶれている場合や、緑色になっている場合に最良点に調整します。

1)　▲▼ ボタンで [クランプ位置] を選択する

2)　◀▶ ボタンで調整する

状態	最適値の目安	調整範囲
黒部分がつぶれている	黒部分のつぶれが最も改善する点が最適値です。	1 ～ 255
黒部分が緑色になっている	緑色部分が黒くなり、つぶれが改善する点が最適値です。	

お知らせ

- [クランプ位置] の調整ができるのは、〈RGB 1 IN〉端子または〈RGB 2 IN〉端子に信号を入力した場合のみです。
- 信号によっては調整できない場合があります。

［エッジブレンディング］

マルチ画面で使用する場合に、重なっている部分に明るさの傾斜をつけることで、画面のつなぎ目を目立ちにくくします。

1)　▲▼ ボタンで［エッジブレンディング］を選択する

2)　◀▶ ボタンで項目を切り換える

- ボタンを押すごとに、項目が切り換わります。

［オフ］	エッジブレンディング機能をオフにします。
［オン］	エッジブレンディング部の傾斜に、本機内蔵の設定値を使用します。
［ユーザー］	エッジブレンディング部の傾斜に、ユーザーが登録した設定値を使用します。（設定登録には別途ソフトウェアが必要です。販売店にご相談ください。）

- エッジブレンディングの調整を行う場合は、手順 **3)** に進みます。

3)　［オン］または［ユーザー］を選択した場合は〈ENTER〉ボタンを押す

- **［エッジブレンディング］**画面が表示されます。

4)　▲▼ ボタンで補正する場所を指定する

- 上をつなぐ場合：［上］を［オン］
- 下をつなぐ場合：［下］を［オン］
- 左をつなぐ場合：［左］を［オン］
- 右をつなぐ場合：［右］を［オン］

5)　◀▶ ボタンで［オン］に切り換える

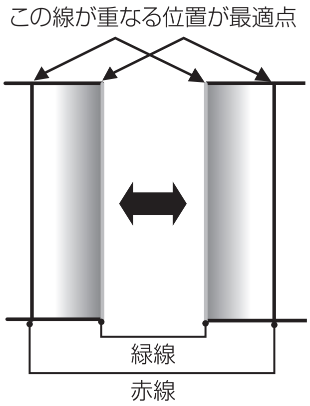
6)　▲▼ ボタンで［開始］または［幅］を選択する

7)　◀▶ ボタンで開始位置または補正幅を調整する

8)　▲▼ ボタンで［マーカー］を選択する

9)　◀▶ ボタンで［オン］に切り換える

- 映像位置調整用のマーカーが表示されます。つなぎ合わせるプロジェクター同士で赤と緑の線が重なる位置が最適点です。つなぎ合わせるプロジェクター同士の補正幅は必ず同じ値にしてください。補正幅が異なるプロジェクター同士では、最適なつなぎ合わせができなくなります。



10)　▲▼ ボタンで［黒レベル調整］を選択する

11)〈ENTER〉ボタンを押す

- **［黒レベル調整］**画面が表示されます。
- **［エッジブレンディング］**画面の［自動テストパターン］を［オン］にしておくと、**［黒レベル調整］**画面に入ったときに黒色のテストパターンが表示されます。

12)　▲▼ ボタンで［黒レベル 非重複領域］を選択する

13)〈ENTER〉ボタンを押す

- **［黒レベル 非重複領域］**画面が表示されます。
- ［連動］を［オフ］に設定すると、［赤］、［緑］、［青］の個別調整ができます。

14) ▲▼ ボタンで項目を選択し、◀▶ ボタンで調整する
- 調整が終わったら、〈MENU〉ボタンを押して **[黒レベル調整]** 画面に戻ります。

15) ▲▼ ボタンで [境界幅] の [上]、[下]、[左]、[右] を選択する

16) ◀▶ ボタンで [境界幅] の調整をする領域（幅）を設定する

17) ▲▼ ボタンで [上 - 傾き]、[下 - 傾き]、[左 - 傾き]、[右 - 傾き] を選択する

18) ◀▶ ボタンで [黒レベル 非重複領域] と [黒レベル 境界] との境界の傾きを調整する

19) ▲▼ ボタンで [黒レベル 境界] を選択する

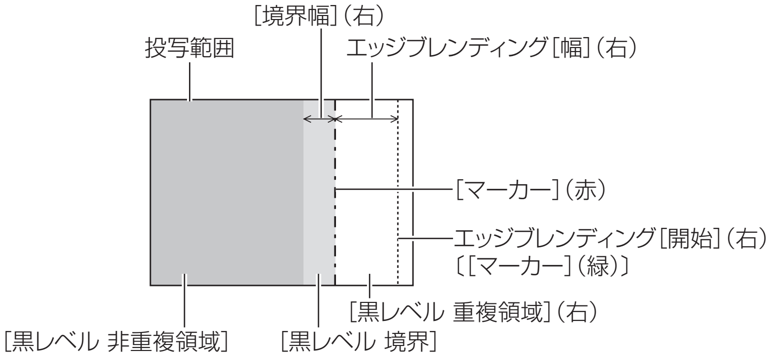
20) 〈ENTER〉ボタンを押す
- **[黒レベル 境界]** 画面が表示されます。
- [連動] を [オフ] に設定すると、[赤]、[緑]、[青] の個別調整ができます。

21) ▲▼ ボタンで項目を選択し、◀▶ ボタンで調整する
- 調整が終わったら、〈MENU〉ボタンを押して **[黒レベル 境界]** 画面に戻ります。

22) ▲▼ ボタンで [黒レベル 重複領域] の [上]、[下]、[左]、[右] を選択する

23) 〈ENTER〉ボタンを押す
- **[黒レベル 重複領域]** 画面が表示されます。
- [連動] を [オフ] に設定すると、[赤]、[緑]、[青] の個別調整ができます。

24) ▲▼ ボタンで項目を選択し、◀▶ ボタンで調整する



お知らせ

- [黒レベル調整] 機能は、[エッジブレンディング] を用いてマルチ画面を構成した場合に、映像を重ね合わせた部分の黒レベルが明るくなるのを目立ちにくくします。[黒レベル 非重複領域] を調整し、映像を重ね合わせた部分と重ね合わせていない部分の黒レベルが同じになる補正量が最適点です。[黒レベル 非重複領域] を調整後、映像を重ね合わせた部分と重ね合わせていない部分の境目付近のみが明るくなる場合は、上、下、左、右の幅を調整してください。幅調整により境目付近のみ暗くなった場合は、[黒レベル 境界] を調整してください。
- ゲインの高いスクリーンやリアスクリーン使用時は、見る位置によってつなぎ合わせ部が不連続に見えることがあります。
- 横、縦両方向のエッジブレンディングを同時に使用してマルチ画面を構成する場合は、手順 **12)** の調整前に [黒レベル 重複領域] の調整を実施してください。調整方法は、[黒レベル 非重複領域] の手順と同様です。
- 横方向のみ、縦方向のみエッジブレンディングを使用する場合は [黒レベル 重複領域] の項目をすべて 0 に設定してください。
- [自動テストパターン] の設定は、[カラーマッチング] の [自動テストパターン] の設定と連動して変わります。
- [黒レベル 非重複領域] と [黒レベル 境界] との境界の傾き調整は、[幾何学歪補正] (☞ 79 ページ) の調整と併用してエッジブレンディングを行うための機能です。[幾何学歪補正] の [台形補正] で台形ひずみを補正することによって [黒レベル 非重複領域] が傾いている場合、手順 **17)18)** の調整を行って [黒レベル 非重複領域] の形状に合わせたエッジブレンディング調整を行ってください。

[フレームレスポンス]

映像のフレーム遅延を設定します。

1) ▲▼ ボタンで [フレームレスポンス] を選択する

2) ◀▶ ボタンで項目を切り換える
- ボタンを押すごとに、項目が切り換わります。

[通常]	標準の設定です。
[高速] *1	映像処理を簡略化し、映像のフレーム遅延を短くします。

［固定］*2	画像位置、拡大率によらず、映像のフレーム遅延を一定にします。

*1　入力信号がインターレース信号以外の場合、［高速］は設定できません。
*2　動画系信号、および垂直走査周波数が 50 Hz または 60 Hz の静止画系信号入力時のみ

お知らせ

- ［フレームレスポンス］が［高速］に設定されているときは、画質が劣化します。また［デジタルシネマリアリティー］は設定できません。
- P IN P 中は、［フレームレスポンス］は設定できません。

［ラスターポジション］

入力された映像が表示可能エリア全体を使用していない場合、映像を表示エリア内で任意の位置に移動させることができます。

1)　▲▼ ボタンで［ラスターポジション］を選択する

2)　〈ENTER〉ボタンを押す

- ［ラスターポジション］画面が表示されます。

3)　▲▼◀▶ ボタンで位置を調整する

[表示言語（LANGUAGE)］について

メニュー画面で、メインメニューから［表示言語（LANGUAGE)］を選択し、サブメニューを表示させます。
メニュー画面の操作については、“メニュー画面の操作方法”（☞ 65 ページ）をご覧ください。

- ▲▼ ボタンで選択し、〈ENTER〉ボタンで言語の設定をしてください。

表示言語を切り換える

オンスクリーン表示の言語を切り換えます。

- 切り換えた言語で各種メニューや設定、調整画面、操作ボタン名などが表示されます。
- 英語、ドイツ語、フランス語、スペイン語、イタリア語、ポルトガル語、日本語、中国語、ロシア語、韓国語への切り換えができます。

お知らせ

- 工場出荷時、および［初期化］の［全ユーザーデータ］（☞ 121 ページ）を実行した場合、日本語でオンスクリーン表示するように設定されています。

［表示オプション］について

メニュー画面で、メインメニューから［表示オプション］を選択し、サブメニューから項目を選択してください。
メニュー画面の操作については、“メニュー画面の操作方法”（☞ 65 ページ）をご覧ください。

- 項目を選択したら ▲▼◀▶ ボタンで設定してください。

［カラーマッチング］

複数のプロジェクターを同時に使うような場合に、プロジェクター間の色ばらつきを補正します。

お好みでカラーマッチングの調整をする場合

1) ▲▼ ボタンで［カラーマッチング］を選択する

2) ◀▶ ボタンで項目を切り換える

- ボタンを押すごとに、項目が切り換わります。

［オフ］	カラーマッチングの調整をしません。
［3 カラーズ］	［赤］、［緑］、［青］の 3 色を調整できます。
［7 カラーズ］	［赤］、［緑］、［青］、［シアン］、［マゼンタ］、［イエロー］、［白］の 7 色を調整できます。
［測定］	このモードについての詳細は、“測定器を用いてカラーマッチングの調整をする場合”（☞ 89 ページ）をご覧ください。

3) ［3 カラーズ］または［7 カラーズ］を選択し、〈ENTER〉ボタンを押す

- **［3 カラーズ］**または**［7 カラーズ］**画面が表示されます。

4) ▲▼ ボタンで［赤］、［緑］、［青］（［7 カラーズ］の場合は、［赤］、［緑］、［青］、［シアン］、［マゼンタ］、［イエロー］、［白］）を選択する

5) 〈ENTER〉ボタンを押す

- **［3 カラーズ：赤］、［3 カラーズ：緑］、［3 カラーズ：青］**画面が表示されます。
  ［7 カラーズ］の場合は、**［7 カラーズ：赤］、［7 カラーズ：緑］、［7 カラーズ：青］、［7 カラーズ：シアン］、［7 カラーズ：マゼンタ］、［7 カラーズ：イエロー］、［7 カラーズ：白］**画面が表示されます。
- ［自動テストパターン］を［オン］にしておくと、選択した色のテストパターンが表示されます。

6) ▲▼ ボタンで［赤］、［緑］、［青］を選択する

7) ◀▶ ボタンで調整する

- 調整値は 0*1 ～ 2 048 まで変化します。

*1　調整する色によって下限値が異なります。

お知らせ

- 調整色を補正する場合の動作
  調整色と同じ補正色を動かす場合：調整色の輝度が変化します。
  補正色赤を動かす場合：調整色に赤を加減します。
  補正色緑を動かす場合：調整色に緑を加減します。
  補正色青を動かす場合：調整色に青を加減します。
- 調整には熟練を要しますので、プロジェクターに関する知識がある方、またはサービスマンの方が調整してください。
- 各調整項目はすべてリモコンの〈DEFAULT〉ボタンを押すと工場出荷時の値に戻すことができます。
- ［カラーマッチング］を［オフ］以外に設定した場合、［カラーコレクション］は［オフ］に固定され、［色温度設定］は［ユーザー 1］に固定されます。
- ［自動テストパターン］の設定は、［エッジブレンディング］の［自動テストパターン］の設定と連動して変わります。

測定器を用いてカラーマッチングの調整をする場合

色度座標と輝度が測定できる色彩色度計を用いて［赤］、［緑］、［青］、［シアン］、［マゼンタ］、［イエロー］、［白］の色をお好みの色に変更できます。

1) ▲▼ ボタンで［カラーマッチング］を選択する

2) ◀▶ ボタンで［測定］を選択する

3) 〈ENTER〉ボタンを押す
- **［カラーマッチング：測定］**画面が表示されます。

4) ▲▼ ボタンで［測定データ］を選択する

5) 〈ENTER〉ボタンを押す
- **［測定データ］**画面が表示されます。

6) 色彩色度計で現在の輝度（Y）と色度座標（x、y）を測定する

7) ▲▼ ボタンで色を選択し、◀▶ ボタンで数値を調整する
- **［カラーマッチング：測定］**画面の［自動テストパターン］を［オン］にしておくと、選択した色のテストパターンが表示されます。

8) すべての入力が終わったら、〈MENU〉ボタンを押す
- **［カラーマッチング：測定］**画面が表示されます。

9) ▲▼ ボタンで［ターゲットデータ］を選択する

10) 〈ENTER〉ボタンを押す
- **［ターゲットデータ］**画面が表示されます。

11) ▲▼ ボタンで色を選択し、◀▶ ボタンでお好みの色の座標を入力する
- **［カラーマッチング：測定］**画面の［自動テストパターン］を［オン］にしておくと、選択した色のテストパターンが表示されます。

12) すべての入力が終わったら、〈MENU〉ボタンを押す

お知らせ

- ターゲットデータが本機の色域外の場合、正しい色が表示できません。
- ［自動テストパターン］を［オン］にしておくと、選択された調整色の調整用テストパターンが自動的に表示されます。
- ［自動テストパターン］の設定は、［エッジブレンディング］の［自動テストパターン］の設定と連動して変わります。
- 色彩色差計などの計測器を使用して測定データを測定する場合は、［自動テストパターン］で表示される色を測定してください。
- 使用される計測器および測定環境によってターゲットデータの色度座標と測定器の測定値にずれが発生する場合があります。

［カラーコレクション］

入力信号の方式ごとに、色の調整・登録ができます。

1) ▲▼ ボタンで［カラーコレクション］を選択する

2) ◀▶ ボタンで項目を切り換える
- ボタンを押すごとに、項目が切り換わります。

［オフ］	標準設定
［ユーザー］	VIDEO、Y/C、RGB、YC_BC_R/YP_BP_R の 4 つの信号方式ごとに赤、緑、青、シアン、マゼンタ、イエローの 6 色を調整し、登録できます。〈ENTER〉ボタンを押し、詳細を設定してください。−31 ～ +31 の範囲で調整できます。

［スクリーン設定］

スクリーンサイズを設定します。

投写映像のアスペクト比変更の際に、設定したスクリーンに合わせて最適な映像位置に補正します。ご使用のスクリーンに合わせて設定してください。

1) ▲▼ ボタンで［スクリーン設定］を選択する

2) 〈ENTER〉ボタンを押す
- **[スクリーン設定]** 画面が表示されます。

3) ◀▶ ボタンで [スクリーンフォーマット] の項目を切り換える
- ボタンを押すごとに、項目が切り換わります。

品番	[スクリーンフォーマット]	[スクリーン位置] 選択時の調整範囲
PT-DZ780J	[16：10]	調整できません。
	[4：3]	水平位置を –160 〜 160 の間で調整できます。
	[16：9]	垂直位置を –60 〜 60 の間で調整できます。
PT-DW750J	[16：10]	調整できません。
	[16：9]	垂直位置を –40 〜 40 まで調整できます。
PT-DX820J	[4：3]	調整できません。
	[16：9]	垂直位置を –96 〜 96 の間で調整できます。

4) ▲▼ ボタンで [スクリーン位置] を選択する
- PT-DZ780J、PT-DW750J で [スクリーンフォーマット] を [16：10] に設定した場合、または PT-DX820J で [スクリーンフォーマット] を [4：3] に設定した場合、[スクリーン位置] は選択・調整できません。

5) ◀▶ ボタンで [スクリーン位置] を調整する

[入力自動セットアップ]

オートセットアップの自動実行を設定します。
会議などで未登録の信号を頻繁に入力する場合、その都度リモコンの〈AUTO SETUP〉ボタンを押さなくても画面表示位置や信号レベルを自動で調整できます。

1) ▲▼ ボタンで [入力自動セットアップ] を選択する

2) ◀▶ ボタンで項目を切り換える
- ボタンを押すごとに、項目が切り換わります。

[オフ]	入力自動セットアップ機能をオフにします。
[オン]	投写中の映像が、未登録の信号に変わった場合、自動的にオートセットアップを行います。

[自動調整]

特殊な信号や横長（16：9 など）の信号を調整するときに設定します。

[モード] で設定する場合

1) ▲▼ ボタンで [自動調整] を選択する

2) 〈ENTER〉ボタンを押す
- **[自動調整]** 画面が表示されます。

3) ▲▼ ボタンで [モード] を選択する

4) ◀▶ ボタンで項目を切り換える
- ボタンを押すごとに、項目が切り換わります。

[標準]	標準の設定です。
[ワイド]	[標準] 設定で合わない、映像アスペクト比がワイドの信号の場合に選択します。
[ユーザー]	特殊な水平解像度（表示ドット数）の信号を受像する場合に選択します。

- [標準] または [ワイド] を選択した場合は、手順 **7)** に進みます。

5) ▲▼ ボタンで [表示ドット数] を選択し、◀▶ ボタンで [表示ドット数] を信号源の水平解像度に合わせる

6) ▲▼ ボタンで [モード] を選択する

7) 〈ENTER〉ボタンを押す

- 自動調整を実行します。自動調整中は画面に［実行中］と表示されます。終了すると **[自動調整]** 画面に戻ります。

お知らせ

- コンピューター信号のようなドット構成されたアナログ RGB 信号入力時、または DVI-D/HDMI 信号入力時に自動調整を実行できます。

位置を自動で調整する場合

1) ▲▼ ボタンで［自動調整］を選択する

2) 〈ENTER〉ボタンを押す

- **[自動調整]** 画面が表示されます。

3) ▲▼ ボタンで［位置自動調整］を選択する

4) ◀▶ ボタンで項目を切り換える

[オン]	オートセットアップ実行時に画面の位置、サイズを調整します。
[オフ]	自動調整を行いません。

信号レベルを自動で調整する場合

1) ▲▼ ボタンで［自動調整］を選択する

2) 〈ENTER〉ボタンを押す

- **[自動調整]** 画面が表示されます。

3) ▲▼ ボタンで［信号レベル自動調整］を選択する

4) ◀▶ ボタンで項目を切り換える

[オフ]	自動調整を行いません。
[オン]	オートセットアップ実行時に黒レベル（オンスクリーンメニュー［黒レベル］）と白レベル（オンスクリーンメニュー［ピクチャー］）を調整します。

お知らせ

- ［信号レベル自動調整］は白と黒がはっきりした静止映像を入力しないと正しく動作しないことがあります。

[バックアップ入力設定]

入力信号が乱れたときに、可能な限りシームレスにバックアップ入力の信号に切り換えるバックアップ機能の設定をします。

1) ▲▼ ボタンで［バックアップ入力設定］を選択する

2) 〈ENTER〉ボタンを押す

- **[バックアップ入力設定]** 画面が表示されます。

3) ▲▼ ボタンで［バックアップ入力モード］を選択する

4) ◀▶ ボタンで項目を切り換える

- ボタンを押すごとに、項目が切り換わります。

[オフ]	バックアップ機能を無効にします。
[オン]	DVI-D 入力と HDMI 入力との間のバックアップ機能を有効にします。プライマリー入力とセカンダリー入力に同じ信号が入力されている場合に、可能な限りシームレスに入力を切り換える設定にします。 プライマリー入力は〈DVI-D IN〉端子、セカンダリー入力は〈HDMI IN〉端子固定です。

5) ▲▼ ボタンで［自動入力切換設定］を選択する

- ［バックアップ入力モード］を［オフ］に設定している場合、［自動入力切換設定］は選択できません。

6)　◀▶ ボタンで項目を切り換える

- ボタンを押すごとに、項目が切り換わります。

［有効］	プライマリー入力の入力信号が乱れたときに自動でセカンダリー入力に切り換えます。
［無効］	自動入力切換機能を無効にします。

お知らせ

- ［バックアップ入力モード］が［オン］で、〈DVI-D IN〉端子と〈HDMI IN〉端子に同じ信号が入力されている場合のみ、バックアップ機能が有効になります。
- バックアップ機能を用いてバックアップ入力側の信号に切り換えるには、次の 3 つの条件を満たして準備状態にする必要があります。
  - ［バックアップ入力モード］を［オン］に設定する。
  - プライマリー入力とセカンダリー入力に同じ信号を入力する。
  - プライマリー入力の映像を表示する。
- 一度準備状態にしても、プライマリー入力またはセカンダリー入力以外の入力に切り換えると、準備状態が解除されます。引き続きバックアップ機能を用いてバックアップ入力側の信号に切り換える場合は、プライマリー入力に切り換えてください。
- ［バックアップ入力モード］が［オン］のとき、入力ガイド（☞ 98 ページ）と **［ステータス］** 画面（☞ 61、116 ページ）に［バックアップ入力ステータス］を表示します。
  ［バックアップ入力ステータス］には、バックアップ機能を用いてバックアップ入力側の信号に切り換え可能な場合は［切換可能］、切り換え不可能な場合は［切換不可］と表示されます。
  プライマリー入力の映像を表示中に［バックアップ入力ステータス］が［切換可能］である場合は、セカンダリー入力がバックアップ入力になります。
  セカンダリー入力の映像を表示中に［バックアップ入力ステータス］が［切換可能］である場合は、プライマリー入力がバックアップ入力になります。
- ［バックアップ入力モード］が［オン］のとき、バックアップ入力の信号に切り換え可能な状態で DVI-D と HDMI の入力を切り換えると、シームレスに入力が切り換わります。
- ［自動入力切換設定］を［有効］に設定し、［バックアップ入力ステータス］が［切換可能］の場合、入力している信号に乱れが発生すると自動的にバックアップ入力に切り換わります。
- ［自動入力切換設定］を［有効］に設定している場合、入力信号が乱れて自動的にバックアップ入力に切り換わると、［バックアップ入力ステータス］が［切換不可］になり、元の入力の信号が回復するまでバックアップ入力側の信号に切り換えできません。また、自動的にバックアップ入力に切り換わった場合、元の入力の信号が回復すればバックアップ入力側の信号に切り換えが可能になりますが、現在の入力を維持します。
- P IN P 中は、［バックアップ入力設定］は設定できません。また、バックアップ動作は行いません。

[RGB IN]

〈RGB 1 IN〉端子に入力する信号に合わせて設定します。

［RGB1 入力設定］を設定する場合

1)　▲▼ ボタンで［RGB IN］を選択する

2)　〈ENTER〉ボタンを押す

- ［RGB IN］画面が表示されます。

3)　▲▼ ボタンで［RGB1 入力設定］を選択する

4)　◀▶ ボタンで項目を切り換える

- ボタンを押すごとに、項目が切り換わります。

［RGB/YP_BP_R］	〈RGB 1 IN〉端子に RGB 信号または YC_BC_R/YP_BP_R 信号を入力するときに選択します。
［VIDEO］	〈RGB 1 IN〉（〈R/P_R/VIDEO〉）端子にビデオ信号を入力するときに選択します。
［Y/C］	〈RGB 1 IN〉（〈G/Y〉、〈B/P_B/C〉）端子に輝度信号と色信号を入力するときに選択します。

お知らせ

- メニューの［セキュリティー］→［操作設定］（☞ 129 ページ）で、［リモコン］を［ユーザー］に設定し、［入力切換ボタン］の［VIDEO ボタン］を［無効］以外に設定している場合、リモコンの〈VIDEO〉ボタンを押すと、［RGB1 入力設定］が［VIDEO］または［Y/C］に切り換わります。

入力された同期信号のスライスレベルを切り換える場合

1)　▲▼ ボタンで［RGB IN］を選択する

2)　〈ENTER〉ボタンを押す

- ［RGB IN］画面が表示されます。

3)　▲▼ ボタンで［RGB1 同期スライスレベル］または［RGB2 同期スライスレベル］を選択する

4) ◀▶ ボタンで項目を切り換える

[低]	スライスレベルを [低] にします。
[高]	スライスレベルを [高] にします。

[RGB2 EDID モード] を設定する場合

1) ▲▼ ボタンで [RGB IN] を選択する

2) 〈ENTER〉ボタンを押す
- [RGB IN] 画面が表示されます。

3) ▲▼ ボタンで [RGB2 EDID モード] を選択する

4) 〈ENTER〉ボタンを押す
- [RGB2 EDID モード] 画面が表示されます。

5) ◀▶ ボタンで [EDID モード] を切り換える
- ボタンを押すごとに、項目が切り換わります。

[デフォルト]	標準の設定です。
[スクリーンフィット]	[スクリーンフォーマット] の設定に合わせて EDID のデータを変更します。
[ユーザー]	[解像度] および [垂直走査周波数] の項目を EDID に設定します。

- [デフォルト] または [スクリーンフィット] を選択した場合は、手順 **10)** に進みます。

6) 〈ENTER〉ボタンを押す
- [解像度] 画面が表示されます。

7) ▲▼◀▶ ボタンで [解像度] を選択する
- [1024x768p]、[1280x720p]、[1280x768p]、[1280x800p]、[1280x1024p]、[1366x768p]、[1400x1050p]、[1440x900p]、[1600x900p]、[1600x1200p]、[1680x1050p]、[1920x1080p]、[1920x1080i]、[1920x1200p] から選択します。

8) 〈ENTER〉ボタンを押す
- [垂直走査周波数] 画面が表示されます。

9) ◀▶ ボタンで [垂直走査周波数] を選択する
- [解像度] で [1920x1080p] を選択した場合は、[60Hz]、[50Hz]、[30Hz]、[25Hz]、[24Hz] から選択します。
- [解像度] で [1920x1080i] を選択した場合は、[60Hz]、[50Hz]、[48Hz] から選択します。
- [解像度] で、[1920x1080p] および [1920x1080i] 以外を選択した場合は、[60Hz]、[50Hz] から選択します。

10) 〈ENTER〉ボタンを押す
- 確認画面が表示されます。

11) ◀▶ ボタンで [実行] を選択し、〈ENTER〉ボタンを押す

お知らせ

- 設定した内容は [EDID ステータス] の [解像度]、[垂直走査周波数] に表示されます。
- ご使用のコンピューターや映像機器側でも、解像度と垂直走査周波数の設定が必要な場合があります。
- 設定したあと、ご使用のコンピューターや映像機器またはプロジェクター本体の電源を入れ直す必要がある場合があります。
- ご使用のコンピューターや映像機器によっては、設定した解像度や垂直走査周波数で出力できない場合があります。

[DVI-D IN]

本機の〈DVI-D IN〉端子を使用して外部機器と接続しているときに、正常な映像が映らない場合は、設定を切り換えます。

1) ▲▼ ボタンで [DVI-D IN] を選択する

2) 〈ENTER〉ボタンを押す
- [DVI-D IN] 画面が表示されます。

3)　▲▼ ボタンで［EDID 選択］を選択する

4)　◀▶ ボタンで項目を切り換える

- ボタンを押すごとに、項目が切り換わります。

［EDID3］	動画系、静止画系の映像信号を自動的に判別します。
［EDID1］	動画系の映像信号を出力する外部機器（ブルーレイディスクプレーヤーなど）を、〈DVI-D IN〉端子に接続しているときに主に選択します。
［EDID2：PC］	静止画系の映像信号を出力する外部機器（コンピューターなど）を、〈DVI-D IN〉端子に接続しているときに主に選択します。

5)　▲▼ ボタンで［信号レベル］を選択する

6)　◀▶ ボタンで項目を切り換える

- ボタンを押すごとに、項目が切り換わります。

［オート］	信号レベルを自動的に設定します。
［0-255：PC］	外部機器（コンピューターなど）の DVI-D 端子出力を、〈DVI-D IN〉端子に入力している場合などに選択します。
［16-235］	外部機器（ブルーレイディスクプレーヤーなど）の HDMI 端子出力を、変換ケーブルなどを使用して〈DVI-D IN〉端子に入力している場合などに選択します。

お知らせ

- 最適な設定は、接続する外部機器の出力設定によって異なります。外部機器の出力については、外部機器の取扱説明書などをご覧ください。
- 設定を変更するとプラグアンドプレイ用のデータが変更されます。プラグアンドプレイ対応可能な解像度は“対応信号リスト”（☞ 182 ページ）をご覧ください。

［EDID モード］を設定する場合

1)　▲▼ ボタンで［DVI-D IN］を選択する

2)　〈ENTER〉ボタンを押す

- **［DVI-D IN］**画面が表示されます。

3)　▲▼ ボタンで［EDID モード］を選択する

4)　〈ENTER〉ボタンを押す

- **［DVI-D EDID モード］**画面が表示されます。

5)　◀▶ ボタンで［EDID モード］を切り換える

- ボタンを押すごとに、項目が切り換わります。

［デフォルト］	標準の設定です。
［スクリーンフィット］	［スクリーンフォーマット］の設定に合わせて EDID のデータを変更します。
［ユーザー］	［解像度］および［垂直走査周波数］の項目を EDID に設定します。

- ［デフォルト］または［スクリーンフィット］を選択した場合は、手順 **10)** に進みます。

6)　〈ENTER〉ボタンを押す

- **［解像度］**画面が表示されます。

7)　▲▼◀▶ ボタンで［解像度］を選択する

- ［1024x768p］、［1280x720p］、［1280x768p］、［1280x800p］、［1280x1024p］、［1366x768p］、［1400x1050p］、［1440x900p］、［1600x900p］、［1600x1200p］、［1680x1050p］、［1920x1080p］、［1920x1080i］、［1920x1200p］から選択します。

8)　〈ENTER〉ボタンを押す

- **［垂直走査周波数］**画面が表示されます。

9)　◀▶ ボタンで［垂直走査周波数］を選択する

- ［解像度］で［1920x1080p］を選択した場合は、［60Hz］、［50Hz］、［30Hz］、［25Hz］、［24Hz］から選択します。
- ［解像度］で［1920x1080i］を選択した場合は、［60Hz］、［50Hz］、［48Hz］から選択します。

- [解像度] で、[1920x1080p] および [1920x1080i] 以外を選択した場合は、[60Hz]、[50Hz] から選択します。

10) 〈ENTER〉ボタンを押す

- 確認画面が表示されます。

11) ◀▶ ボタンで [実行] を選択し、〈ENTER〉ボタンを押す

お知らせ

- 設定した内容は [EDID ステータス] の [解像度]、[垂直走査周波数] に表示されます。
- ご使用のコンピューターや映像機器側でも、解像度と垂直走査周波数の設定が必要な場合があります。
- 設定したあと、ご使用のコンピューターや映像機器またはプロジェクター本体の電源を入れ直す必要がある場合があります。
- ご使用のコンピューターや映像機器によっては、設定した解像度や垂直走査周波数で出力できない場合があります。

[HDMI IN]

本機の〈HDMI IN〉端子を使用して外部機器と接続しているときに、正常な映像が映らない場合は、設定を切り換えます。

1) ▲▼ ボタンで [HDMI IN] を選択する

2) 〈ENTER〉ボタンを押す

- **[HDMI IN]** 画面が表示されます。

3) ▲▼ ボタンで [信号レベル] を選択する

4) ◀▶ ボタンで項目を切り換える

- ボタンを押すごとに、項目が切り換わります。

[オート]	信号レベルを自動的に設定します。
[64-940]	外部機器（ブルーレイディスクプレーヤーなど）の HDMI 端子出力を、〈HDMI IN〉端子に入力している場合などに選択します。
[0-1023]	外部機器（コンピューターなど）の DVI-D 端子出力を、変換ケーブルなどを使用して〈HDMI IN〉端子に入力している場合などに選択します。 コンピューターなどの HDMI 端子出力を、〈HDMI IN〉端子に入力している場合も同様です。

お知らせ

- 最適な設定は、接続する外部機器の出力設定によって異なります。外部機器の出力については、外部機器の取扱説明書などをご覧ください。
- 信号レベルの表示は、入力が 30 ビット時の表示としています。

[EDID モード] を設定する場合

1) ▲▼ ボタンで [HDMI IN] を選択する

2) 〈ENTER〉ボタンを押す

- **[HDMI IN]** 画面が表示されます。

3) ▲▼ ボタンで [EDID モード] を選択する

4) 〈ENTER〉ボタンを押す

- **[HDMI EDID モード]** 画面が表示されます。

5) ◀▶ ボタンで [EDID モード] を切り換える

- ボタンを押すごとに、項目が切り換わります。

[デフォルト]	標準の設定です。
[スクリーンフィット]	[スクリーンフォーマット] の設定に合わせて EDID のデータを変更します。
[ユーザー]	[解像度] および [垂直走査周波数] の項目を EDID に設定します。

- [デフォルト] または [スクリーンフィット] を選択した場合は、手順 **10)** に進みます。

6) 〈ENTER〉ボタンを押す

- **[解像度]** 画面が表示されます。

7)　▲▼◀▶ ボタンで［解像度］を選択する

- ［1024x768p］、［1280x720p］、［1280x768p］、［1280x800p］、［1280x1024p］、［1366x768p］、［1400x1050p］、［1440x900p］、［1600x900p］、［1600x1200p］、［1680x1050p］、［1920x1080p］、［1920x1080i］、［1920x1200p］から選択します。

8)　〈ENTER〉ボタンを押す

- **［垂直走査周波数］**画面が表示されます。

9)　◀▶ ボタンで［垂直走査周波数］を選択する

- ［解像度］で［1920x1080p］を選択した場合は、［60Hz］、［50Hz］、［30Hz］、［25Hz］、［24Hz］から選択します。
- ［解像度］で［1920x1080i］を選択した場合は、［60Hz］、［50Hz］、［48Hz］から選択します。
- ［解像度］で、［1920x1080p］および［1920x1080i］以外を選択した場合は、［60Hz］、［50Hz］から選択します。

10)〈ENTER〉ボタンを押す

- 確認画面が表示されます。

11)　◀▶ ボタンで［実行］を選択し、〈ENTER〉ボタンを押す

お知らせ

- 設定した内容は［EDID ステータス］の［解像度］、［垂直走査周波数］に表示されます。
- ご使用のコンピューターや映像機器側でも、解像度と垂直走査周波数の設定が必要な場合があります。
- 設定したあと、ご使用のコンピューターや映像機器またはプロジェクター本体の電源を入れ直す必要がある場合があります。
- ご使用のコンピューターや映像機器によっては、設定した解像度や垂直走査周波数で出力できない場合があります。

[DIGITAL LINK IN]

DIGITAL LINK 入力を選択しているときの信号レベルを設定します。

1)　▲▼ ボタンで［DIGITAL LINK IN］を選択する

2)　〈ENTER〉ボタンを押す

- **［DIGITAL LINK IN］**画面が表示されます。

3)　▲▼ ボタンで［信号レベル］を選択する

4)　◀▶ ボタンで項目を切り換える

- ボタンを押すごとに、項目が切り換わります。

[オート]	信号レベルを自動的に設定します。
[64-940]	外部機器（ブルーレイディスクプレーヤーなど）の HDMI 端子出力を、ツイストペアケーブル伝送器を経由して〈DIGITAL LINK/LAN〉端子に入力している場合などに選択します。
[0-1023]	外部機器（コンピューターなど）の DVI-D 端子出力や HDMI 端子出力を、ツイストペアケーブル伝送器を経由して〈DIGITAL LINK/LAN〉端子に入力している場合などに選択します。

お知らせ

- 最適な設定は、接続する外部機器の出力設定によって異なります。外部機器の出力については、外部機器の取扱説明書などをご覧ください。
- 信号レベルの表示は、入力が 30 ビット時の表示としています。

［EDID モード］を設定する場合

1)　▲▼ ボタンで［DIGITAL LINK IN］を選択する

2)　〈ENTER〉ボタンを押す

- **［DIGITAL LINK IN］**画面が表示されます。

3)　▲▼ ボタンで［EDID モード］を選択する

4)　〈ENTER〉ボタンを押す

- **［DIGITAL LINK EDID モード］**画面が表示されます。

5)　◀▶ ボタンで［EDID モード］を切り換える

- ボタンを押すごとに、項目が切り換わります。

［デフォルト］	標準の設定です。
［スクリーンフィット］	［スクリーンフォーマット］の設定に合わせて EDID のデータを変更します。
［ユーザー］	［解像度］および［垂直走査周波数］の項目を EDID に設定します。

- ［デフォルト］または［スクリーンフィット］を選択した場合は、手順 **10)** に進みます。

6) 〈ENTER〉ボタンを押す
- **［解像度］**画面が表示されます。

7) ▲▼◀▶ ボタンで［解像度］を選択する
- ［1024x768p］、［1280x720p］、［1280x768p］、［1280x800p］、［1280x1024p］、［1366x768p］、［1400x1050p］、［1440x900p］、［1600x900p］、［1600x1200p］、［1680x1050p］、［1920x1080p］、［1920x1080i］、［1920x1200p］から選択します。

8) 〈ENTER〉ボタンを押す
- **［垂直走査周波数］**画面が表示されます。

9) ◀▶ ボタンで［垂直走査周波数］を選択する
- ［解像度］で［1920x1080p］を選択した場合は、［60Hz］、［50Hz］、［30Hz］、［25Hz］、［24Hz］から選択します。
- ［解像度］で［1920x1080i］を選択した場合は、［60Hz］、［50Hz］、［48Hz］から選択します。
- ［解像度］で、［1920x1080p］および［1920x1080i］以外を選択した場合は、［60Hz］、［50Hz］から選択します。

10) 〈ENTER〉ボタンを押す
- 確認画面が表示されます。

11) ◀▶ ボタンで［実行］を選択し、〈ENTER〉ボタンを押す

お知らせ

- 設定した内容は［EDID ステータス］の［解像度］、［垂直走査周波数］に表示されます。
- ご使用のコンピューターや映像機器側でも、解像度と垂直走査周波数の設定が必要な場合があります。
- 設定したあと、ご使用のコンピューターや映像機器またはプロジェクター本体の電源を入れ直す必要がある場合があります。
- ご使用のコンピューターや映像機器によっては、設定した解像度や垂直走査周波数で出力できない場合があります。

［SDI IN］

（PT-DZ780J のみ）
〈SDI IN〉端子に入力する信号に合わせて設定します。

［信号レベル］を設定する場合

入力する信号の振幅を選択します。

1) ▲▼ ボタンで［SDI IN］を選択する

2) 〈ENTER〉ボタンを押す
- **［SDI IN］**画面が表示されます。

3) ▲▼ ボタンで［信号レベル］を選択する

4) ◀▶ ボタンで項目を切り換える

［64-940］	通常はこの設定にしてください。
［4-1019］	グレーが黒く表示される場合に選択します。

［色深度］を設定する場合

1) ▲▼ ボタンで［SDI IN］を選択する

2) 〈ENTER〉ボタンを押す
- **［SDI IN］**画面が表示されます。

3) ▲▼ ボタンで［色深度］を選択する

4) ◀▶ ボタンで項目を切り換える

［オート］	［12 ビット］か［10 ビット］を自動選択します。
［12 ビット］	［12 ビット］に固定します。
［10 ビット］	［10 ビット］に固定します。

［3G-SDI マッピング］を設定する場合

1)　▲▼ ボタンで［SDI IN］を選択する

2)　〈ENTER〉ボタンを押す
- ［SDI IN］画面が表示されます。

3)　▲▼ ボタンで［3G-SDI マッピング］を選択する

4)　◀▶ ボタンで項目を切り換える

［オート］	［レベル A］か［レベル B］を自動選択します。
［レベル A］	［レベル A］に固定します。
［レベル B］	［レベル B］に固定します。

お知らせ

- SD-SDI、HD-SDI 信号入力時は動作しません。

［オンスクリーン表示］

オンスクリーン表示を設定します。

［OSD 位置］を設定する場合

メニュー画面（OSD）の位置を設定します。

1)　▲▼ ボタンで［オンスクリーン表示］を選択する

2)　〈ENTER〉ボタンを押す
- ［オンスクリーン表示］画面が表示されます。

3)　▲▼ ボタンで［OSD 位置］を選択する

4)　◀▶ ボタンで項目を切り換える
- ボタンを押すごとに、項目が切り換わります。

［2］	画面の左中部に設定します。
［3］	画面の左下部に設定します。
［4］	画面の中央上部に設定します。
［5］	画面の中央部に設定します。
［6］	画面の中央下部に設定します。
［7］	画面の右上部に設定します。
［8］	画面の右中部に設定します。
［9］	画面の右下部に設定します。
［1］	画面の左上部に設定します。

［OSD デザイン］を設定する場合

メニュー画面（OSD）の色を設定します。

1)　▲▼ ボタンで［オンスクリーン表示］を選択する

2)　〈ENTER〉ボタンを押す
- ［オンスクリーン表示］画面が表示されます。

3)　▲▼ ボタンで［OSD デザイン］を選択する

4)　◀▶ ボタンで項目を切り換える
- ボタンを押すごとに、項目が切り換わります。

［1］	黄色に設定します。
［2］	青色に設定します。
［3］	白色に設定します。
［4］	緑色に設定します。
［5］	桃色に設定します。
［6］	茶色に設定します。

［OSD メモリー］を設定する場合

メニュー画面（OSD）のカーソルの位置を保持するかどうかを設定します。

1)　▲▼ ボタンで［オンスクリーン表示］を選択する

2)　〈ENTER〉ボタンを押す
- **［オンスクリーン表示］**画面が表示されます。

3)　▲▼ ボタンで［OSD メモリー］を選択する

4)　◀▶ ボタンで項目を切り換える
- ボタンを押すごとに、項目が切り換わります。

［オン］	カーソルの位置を保持します。
［オフ］	カーソルの位置を保持しません。

お知らせ

- ［OSD メモリー］を［オン］に設定している場合でも、本体の主電源〈MAIN POWER〉スイッチを〈OFF〉にすると、カーソル位置は保持されません。

［入力ガイド］を設定する場合

［OSD 位置］で設定された位置に入力ガイド（現在選択している入力端子名、信号名、メモリー番号表示）を表示するかどうかを設定します。

1)　▲▼ ボタンで［オンスクリーン表示］を選択する

2)　〈ENTER〉ボタンを押す
- **［オンスクリーン表示］**画面が表示されます。

3)　▲▼ ボタンで［入力ガイド］を選択する

4)　◀▶ ボタンで項目を切り換える
- ボタンを押すごとに、項目が切り換わります。

［オン］	入力ガイドを表示します。
［オフ］	入力ガイドを表示しません。

［警告メッセージ］を設定する場合

警告メッセージの表示 / 非表示を設定します。

1) ▲▼ ボタンで［オンスクリーン表示］を選択する

2) 〈ENTER〉ボタンを押す
- **［オンスクリーン表示］**画面が表示されます。

3) ▲▼ ボタンで［警告メッセージ］を選択する

4) ◀▶ ボタンで項目を切り換える
- ボタンを押すごとに、項目が切り換わります。

［オン］	警告メッセージを表示します。
［オフ］	警告メッセージを表示しません。

［クローズドキャプション設定］（NTSC、480i YC_BC_R 信号入力時のみ）

クローズドキャプションを設定します。

クローズドキャプションの表示を選択する場合

1) ▲▼ ボタンで［クローズドキャプション設定］を選択する

2) 〈ENTER〉ボタンを押す
- **［クローズドキャプション設定］**画面が表示されます。

3) ▲▼ ボタンで［クローズドキャプション］を選択する

4) ◀▶ ボタンで項目を切り換える
- ボタンを押すごとに、項目が切り換わります。

［オフ］	クローズドキャプションを表示しません。
［オン］	クローズドキャプションを表示します。

- ［オン］を選択した場合は、手順 **5)** に進みます。

5) 確認画面が表示されるので、◀▶ ボタンで［実行］を選択し、〈ENTER〉ボタンを押す

クローズドキャプションのモードを設定する場合

1) ▲▼ ボタンで［クローズドキャプション設定］を選択する

2) 〈ENTER〉ボタンを押す
- **［クローズドキャプション設定］**画面が表示されます。

3) ▲▼ ボタンで［モード］を選択する
- ［クローズドキャプション］を［オフ］に設定している場合、［モード］は選択できません。

4) ◀▶ ボタンで項目を切り換える
- ボタンを押すごとに、項目が切り換わります。

［CC1］	CC1 のデータを表示します。
［CC2］	CC2 のデータを表示します。
［CC3］	CC3 のデータを表示します。
［CC4］	CC4 のデータを表示します。

お知らせ

- クローズドキャプションは、主に北米で使用されている映像信号の文字情報を表示する機能です。接続する機器や再生するコンテンツによってはキャプションが表示できません。
- NTSC、480i YC_BC_R 信号が入力されている場合にのみ［クローズドキャプション設定］を選択できます。
- ［クローズドキャプション］を［オン］に設定すると、接続するクローズドキャプション対応の外部機器や使用するコンテンツによっては、映像の明るさが変化する場合があります。

- 選択したモードのクローズドキャプション信号が入力された場合、メニューの［セキュリティー］→［表示設定］（☞ 128 ページ）で設定したセキュリティーメッセージは表示されません。
- メニュー画面表示中は、クローズドキャプションは表示されません。

［バックカラー］

信号が入力されていないときの投写画面の表示を設定します。

1)　▲▼ ボタンで［バックカラー］を選択する

2)　◀▶ ボタンで項目を切り換える

- ボタンを押すごとに、項目が切り換わります。

［ブルー］	投写画面全体に青色を表示します。
［ブラック］	投写画面全体に黒色を表示します。
［デフォルトロゴ］	投写画面に Panasonic ロゴを表示します。
［ユーザーロゴ］	投写画面にユーザーが登録した画像を表示します。

お知らせ

- ［ユーザーロゴ］の画像作成・登録には、付属の CD-ROM に収録されている「ロゴ転送ソフトウェア」を使用します。

［スタートアップロゴ］

電源を入れたときのロゴ表示を設定します。

1)　▲▼ ボタンで［スタートアップロゴ］を選択する

2)　◀▶ ボタンで項目を切り換える

- ボタンを押すごとに、項目が切り換わります。

［デフォルトロゴ］	Panasonic ロゴを表示します。
［ユーザーロゴ］	ユーザーが登録した画像を表示します。
［なし］	スタートアップロゴ表示を無効にします。

お知らせ

- スタートアップロゴは、約 15 秒で消えます。
- ［ユーザーロゴ］の画像作成・登録には、付属の CD-ROM に収録されている「ロゴ転送ソフトウェア」を使用します。

［ユニフォーミティー］

画面全体の明るさ、色のムラを補正します。

色ごとに調整する場合

1)　▲▼ ボタンで［ユニフォーミティー］を選択する

2)　〈ENTER〉ボタンを押す

- **［ユニフォーミティー］**画面が表示されます。

3)　▲▼ ボタンで［垂直］または［水平］を選択する

4)　◀▶ ボタンでレベルを調整する

項目	操作	変化内容	調整範囲
［垂直］	▶ ボタンを押す	下側の色が薄くなる、または上側の色が濃くなります。	−127 ～ 127
	◀ ボタンを押す	上側の色が薄くなる、または下側の色が濃くなります。	
［水平］	▶ ボタンを押す	左側の色が薄くなる、または右側の色が濃くなります。	
	◀ ボタンを押す	右側の色が薄くなる、または左側の色が濃くなります。	

[PC 補正] を設定する場合

[PC補正]の機能をご使用の場合は、別売品のアップグレードキット(品番:ET-UK20)が必要です。ご購入の際は、販売店にご相談ください。

1) ▲▼ ボタンで [ユニフォーミティー] を選択する

2) 〈ENTER〉ボタンを押す
- **[ユニフォーミティー]** 画面が表示されます。

3) ▲▼ ボタンで [PC 補正] を選択する

4) ◀▶ ボタンで項目を切り換える

[オフ]	コンピューターを用いて補正しません。
[オン] [*1]	コンピューターを用いて画面全体の明るさ、色のムラを補正します。

*1　コンピューター制御で補正する場合には、熟練を要します。販売店にご相談ください。

お知らせ

- [ランプ選択] の設定ごとに [ユニフォーミティー] を設定できます。
- [ユニフォーミティー] の設定値は、メニューの [プロジェクターセットアップ] → [初期化] (☞ 120 ページ) の [全ユーザーデータ] を実行しても、工場出荷時の値に戻りません。

[シャッター設定]

電源を入れたときに自動でシャッター機能を有効 / 無効 (シャッター : 閉 / 開) にする設定ができます。

[スタートアップ] を設定する場合

1) ▲▼ ボタンで [シャッター設定] を選択する

2) 〈ENTER〉ボタンを押す
- **[シャッター設定]** 画面が表示されます。

3) ▲▼ ボタンで [スタートアップ] を選択する

4) ◀▶ ボタンで項目を切り換える

[開]	電源を入れたときにシャッター機能無効の状態 (シャッター : 開) で投写を開始します。
[閉]	電源を入れたときにシャッター機能有効の状態 (シャッター : 閉) で投写を開始します。

[シャットオフ] を設定する場合

1) ▲▼ ボタンで [シャッター設定] を選択する

2) 〈ENTER〉ボタンを押す
- **[シャッター設定]** 画面が表示されます。

3) ▲▼ ボタンで [シャットオフ] を選択する

4) ◀▶ ボタンで項目を切り換える

[維持]	電源を切ったときにシャッターの状態を維持したままスタンバイ状態にします。
[開]	電源を切ったときにシャッターを開いた状態でスタンバイ状態にします。
[閉]	電源を切ったときにシャッターを閉じた状態でスタンバイ状態にします。

[フリーズ]

外部機器の再生に関係なく、一時的に投写映像を静止させます。

1) ▲▼ ボタンで [フリーズ] を選択する

2) 〈ENTER〉ボタンを押す
- 〈MENU〉 ボタンを押すと解除されます。

お知らせ

- 静止中は画面に［フリーズ］と表示されます。
- 動画を投写中に、［フリーズ］を操作して映像を静止した場合、静止する前に一瞬画像が乱れることがあります。

［波形モニター］

接続した外部機器からの入力信号を用いて波形表示します。映像出力（輝度）信号レベルが本機の推奨する範囲に収まっているかを確認し、調整できます。

1)　▲▼ ボタンで［波形モニター］を選択する

2)　◀▶ ボタンで項目を切り換える

［オフ］	波形モニターを表示しません。
［オン］	波形モニターを表示します。

3)　〈MENU〉ボタンを 2 回押してメニュー画面を消す

4)　▲▼ ボタンで任意の横ラインを選択する

5)　〈ENTER〉ボタンを押してライン選択を輝度、赤、緑、青のいずれかに切り換える

- 波形モニターを表示しているときのみ、〈ENTER〉ボタンを押すごとにライン選択が切り換わります。

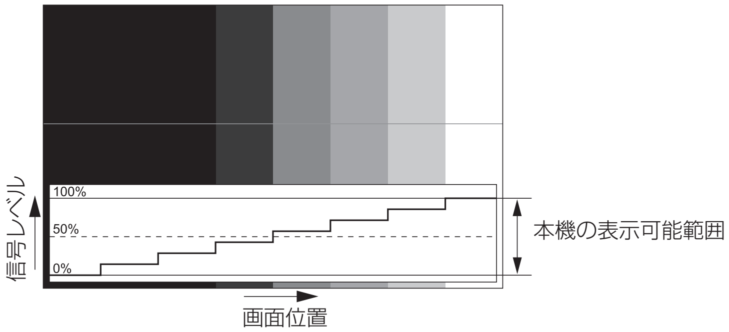
「ライン選択（輝度）」	白色の波形で表示されます。
「ライン選択（赤）」	赤色の波形で表示されます。
「ライン選択（緑）」	緑色の波形で表示されます。
「ライン選択（青）」	青色の波形で表示されます。

お知らせ

- ［ファンクションボタン］（☞ 118 ページ）でも、設定ができます。
- ［P IN P］中は波形モニターを表示できません。
- 波形モニター中に［P IN P］を実行すると波形モニターはオフになります。
- オンスクリーン表示が非表示（オフ）のときは波形モニターは表示されません。

波形を調整するには

市販の調整用ディスクなどの輝度調整用信号（0 %（0 IRE または 7.5 IRE）～ 100 %（100 IRE））を投写し、調整します。



1)　波形モニターの「ライン選択（輝度）」を選択する

2)　黒レベルを調整する

- オンスクリーンメニュー［映像］の［黒レベル］で、映像信号の黒レベル 0 % を、波形モニターの 0 % の位置に調整します。

3)　白レベルを調整する

- オンスクリーンメニュー［映像］の［ピクチャー］で、映像信号の白レベル 100 % を、波形モニターの 100 % の位置に調整します。

赤、緑、青の調整

1)　［色温度設定］を［ユーザー 1］または［ユーザー 2］にする（☞ 71 ページ）

2)　波形モニターの「ライン選択（赤)」を選択する

3)　赤の暗部を調整する

- ［ホワイトバランス 低］の［赤］で、映像信号の黒レベル 0 ％を、波形モニターの 0 ％の位置に調整します。

4)　赤の明部を調整する

- ［ホワイトバランス 高］の［赤］で、映像信号の白レベル 100 ％を、波形モニターの 100 ％の位置に調整します。

5)　［赤］の手順と同様に［緑］、［青］の調整をする

お知らせ

- DVI-D 信号、HDMI 信号、SDI 信号、DIGITAL LINK 信号の場合は［信号レベル］の設定が正しいことを、黒レベル調整より先に確認してください。（SDI 信号は PT-DZ780J のみ対応）

［カットオフ］

赤、緑、青それぞれの色成分を抜くことができます。

1)　▲▼ ボタンで［カットオフ］を選択する

2)　〈ENTER〉ボタンを押す

- **［カットオフ］**画面が表示されます。

3)　▲▼ ボタンで［赤］、［緑］、［青］を選択する

4)　◀▶ ボタンで項目を切り換える

［オフ］	カットオフを無効にします。
［オン］	カットオフを有効にします。

お知らせ

- カットオフの設定は入力を切り換えるか、信号が切り換わると元の設定（オフ）に戻ります。

[プロジェクターセットアップ] について

メニュー画面で、メインメニューから [プロジェクターセットアップ] を選択し、サブメニューから項目を選択してください。
メニュー画面の操作については、"メニュー画面の操作方法"(☞ 65 ページ)をご覧ください。
- 項目を選択したら ▲▼◀▶ ボタンで設定してください。

[プロジェクター ID]

本機には ID ナンバーの設定機能があり、本機を複数台並べて使用する場合、1 つのリモコンで同時制御や個別制御ができます。

1) ▲▼ ボタンで [プロジェクター ID] を選択する

2) ◀▶ ボタンで項目を切り換える
- ボタンを押すごとに、項目が切り換わります。

[オール]	ID ナンバーを指定しないで制御する場合に選択します。
[1] ～ [64]	ID ナンバーを指定して個別制御する場合に選択します。

お知らせ

- ID ナンバーを指定して個別制御する場合は、リモコンの ID ナンバーを本機の ID ナンバーに合わせる必要があります。
- ID ナンバーを [オール] に設定すると、リモコンまたはコンピューターで制御の際、ID ナンバーを何番に指定しても本機は動作します。本機を複数台並べて設置する場合、ID ナンバーを [オール] に設定していると、他の ID ナンバーを設定した本機と分けて制御できなくなります。
- リモコンの ID ナンバーを設定する方法は "リモコンの ID ナンバーを設定する"(☞ 63 ページ)をご覧ください。

[投写方式]

本機の設置状態に合わせて、投写方式を設定します。
画面表示が上下逆になったり、反転して映ったりしている場合は、投写方式を変更してください。

1) ▲▼ ボタンで [投写方式] を選択する

2) 〈ENTER〉ボタンを押す
- **[投写方式]** 画面が表示されます。

3) ▲▼ ボタンで投写方式を選択する

[フロント / 床置]	スクリーン前方にある机の上などに設置する場合
[フロント / 天つり]	スクリーン前方に、天つり金具 (別売品) を使用して設置する場合
[リア / 床置]	スクリーン後方 (透過式スクリーン使用) にある机の上などに設置する場合
[リア / 天つり]	スクリーン後方 (透過式スクリーン使用) に、天つり金具 (別売品) を使用して設置する場合

4) 〈ENTER〉ボタンを押す

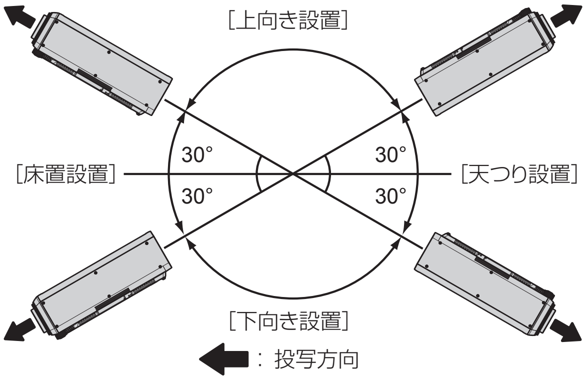
5) 確認画面が表示されるので、◀▶ ボタンで [実行] を選択し、〈ENTER〉ボタンを押す

お願い

- [投写方式] の設定を変更した場合は、[冷却条件] (☞ 106 ページ) が正しく設定されているか確認してください。

［冷却条件］

投写する方向によってファンの制御を変更します。
投写する方向に合わせて［冷却条件］を設定しますが、通常は［オート］に設定して使用してください。［冷却条件］を誤った設定のままで使用すると、ランプの寿命を早める原因になります。



1) ▲▼ ボタンで［冷却条件］を選択する

2) 〈ENTER〉ボタンを押す

- **［冷却条件］**画面が表示されます。

3) ▲▼ ボタンで冷却条件を選択する

- ［オート］を選択した場合は［床置設置］、［天つり設置］、［上向き設置］、［下向き設置］の冷却条件が自動で設定されます。
  設定された内容は**［ステータス］**画面の［冷却条件］で確認できます。

4) 〈ENTER〉ボタンを押す

5) 確認画面が表示されるので、◀▶ ボタンで［実行］を選択し、〈ENTER〉ボタンを押す

［ランプ選択］

本体に内蔵されている 2 個の光源ランプのうち、使用条件や目的に合わせて点灯するランプを選択します。

1) ▲▼ ボタンで［ランプ選択］を選択する

2) ◀▶ ボタンで項目を切り換える

［デュアル］	2 灯が点灯します。
［シングル］	1 灯が点灯します。（使用時間の短いランプを自動選択します。）
［ランプ 1］	ランプ 1 が点灯します。
［ランプ 2］	ランプ 2 が点灯します。

3) 〈ENTER〉ボタンを押す

お知らせ

- ランプの交換サイクルが早くなるため、［ランプ選択］の切り換えを行ったあとの一定時間は、再度［ランプ選択］の切り換えをすることができません。また、短時間での［ランプ選択］の切り換えを繰り返すことも、ランプの交換サイクルを早めます。
- 項目の色は状態を示しています。

緑	現在の設定
黄	現在の設定（失灯か、点灯に失敗しているランプがあるとき）
赤	点灯に失敗したランプ
白	上記以外

- ［シングル］、［ランプ 1］、［ランプ 2］のとき、ランプが不点灯状態になったり、使用時間が 4 000 時間（［ランプパワー］を［ノーマル］に設定時）を超えたりするともう一方のランプが点灯します。［デュアル］のとき、いずれかのランプが不点灯状態になったり、使用時間が 4 000 時間（［ランプパワー］を［ノーマル］に設定時）を超えたりすると、もう一方のランプのみ点灯します。ただし、ランプ 2 灯とも不点灯状態になった場合や、どちらのランプも 4 000 時間（［ランプパワー］を［ノーマル］に設定時）を超えている場合、本機はスタンバイ状態になります。
- 点灯させないランプユニットも、必ず装着してください。
- ［シングル］、［ランプ 1］、［ランプ 2］に切り換えた場合、照度低下を防ぐため、一時的にランプ 2 灯が点灯します。

［ランプリレー］

曜日と時刻を指定することにより、点灯するランプを自動で切り換えることができます。
1 週間以上連続で使用する場合に、点灯するランプを自動で切り換えることにより、ランプの連続使用による劣化を軽減できます。

1) ▲▼ ボタンで［ランプリレー］を選択する

2) ◀▶ ボタンで項目を切り換える

［オフ］	ランプリレーを無効にする場合
［24 時間］	1 日単位で切り換える場合
［1 週間］	1 週間単位で切り換える場合

- ［24 時間］または［1 週間］を選択した場合は、手順 **3)** に進みます。

3) ▲▼ ボタンで［時刻］を選択する

4) 〈ENTER〉ボタンを押す

- 調整モード（点滅表示）になります。

5) ◀▶ ボタンで「時」または「分」を選択し、▲▼ ボタンまたは数字（〈0〉～〈9〉）ボタンで時刻を設定する

- 「時」を選択すると時間のみが 1 時間単位で設定でき、「分」を選択すると分のみが 00 ～ 59 まで 1 分単位で設定できます。

6) 〈ENTER〉ボタンを押す

- 調整した時刻に確定されます。
- 手順 **2)** で［1 週間］を選択した場合は、手順 **7)** に進みます。

7) ▲▼ ボタンで［曜日］を選択する

8) ◀▶ ボタンで項目を切り換える

［日曜日］	設定した曜日にランプを自動で切り換えます。
［月曜日］	
［火曜日］	
［水曜日］	
［木曜日］	
［金曜日］	
［土曜日］	

お知らせ

- ［ランプリレー］機能は、［ランプ選択］で［デュアル］または［シングル］を選択した場合に有効になります。
- ［ランプ選択］で［デュアル］を選択した場合、指定時刻から 4 時間の間はランプ 1 灯のみ点灯状態となります。
- 時刻はローカル時刻で動作します。（☞ 118 ページ）

［ランプパワー］

本機の使用環境や目的に合わせてランプの明るさを切り換えます。

1) ▲▼ ボタンで［ランプパワー］を選択する

2) ◀▶ ボタンで項目を切り換える

［ノーマル］	高い輝度が必要な場合に選択します。
［ECO］	高い輝度を必要としない場合に選択します。

お知らせ

- ［ECO］の場合は消費電力の節約、動作音の低減、ランプ寿命の延長ができます。

［輝度コントロール］

本機はランプの明るさを測定する輝度センサーを内蔵し、ランプの明るさの変化に応じて、画面の明るさを補正する機能を備えています。

本機能を使うことにより、複数のプロジェクターを使ってマルチ画面を構成する場合などに、ランプの経時劣化による、マルチ画面全体の明るさの変化を低減したり、明るさのばらつきを抑えて均一に保ったりすることができます。

［輝度コントロールゲイン］を設定する場合

複数のプロジェクターでマルチ画面を表示するなどの場合に明るさを調整します。

1)　▲▼ ボタンで［輝度コントロール］を選択する

2)　〈ENTER〉ボタンを押す

- **［輝度コントロール］**画面が表示されます。

3)　▲▼ ボタンで［輝度コントロールゲイン］を選択する

4)　◀▶ ボタンで調整する

操作	変化内容		調整範囲
	明るさ	明るさの最大補正量	
▶ ボタンを押す	画面が明るくなります。	最大補正量が減ります。	20 %～ 100 %
◀ ボタンを押す	画面が暗くなります。	最大補正量が増えます。	

お知らせ

- 本機を 1 台で使用する場合、100 % から［輝度コントロールゲイン］の値を引いた値が明るさの最大補正量になります。［輝度コントロールゲイン］が 100 % のときは最大補正量が 0 % になり輝度コントロールによる明るさ補正はできません。
- ランプ点灯後 8 分間は輝度が安定しません。投写を開始して 8 分以上経過してから調整してください。
- ［輝度コントロールゲイン］はすべての映像信号、内蔵テストパターン、オンスクリーンメニューに調整結果が反映されます。
- ［輝度コントロール設定］が［オフ］でも［輝度コントロールゲイン］の設定は有効です。

［輝度コントロール設定］を設定する場合

輝度コントロールの動作を設定します。

1)　▲▼ ボタンで［輝度コントロール］を選択する

2)　〈ENTER〉ボタンを押す

- **［輝度コントロール］**画面が表示されます。

3)　▲▼ ボタンで［輝度コントロール設定］を選択する

4)　〈ENTER〉ボタンを押す

- **［輝度コントロール設定］**画面が表示されます。

5)　▲▼ ボタンで［モード］を選択する

6)　◀▶ ボタンで項目を切り換える

- ボタンを押すごとに、項目が切り換わります。

［オフ］	輝度センサーによる補正を行いません。
［オート］	輝度センサーによる補正を行います。 ランプの明るさが変化したときは自動で画面の明るさを補正します。
［PC］	コンピューターと専用ソフトウェア「複数台プロジェクター 監視制御ソフトウェア」[*1] を使って 9 台以上のプロジェクターを連動させます。

*1 「複数台プロジェクター 監視制御ソフトウェア」は付属の CD-ROM に収録されています。

- ［PC］を選択した場合は、手順 **9)** に進みます。

7)　▲▼ ボタンで［リンク］を選択する

8)　◀▶ ボタンで項目を切り換える

- ボタンを押すごとに、項目が切り換わります。

［オフ］	他のプロジェクターと連動しないで、プロジェクター 1 台での輝度センサーによる補正を行います。 ［輝度コントロールゲイン］の値が小さいほど一定の明るさを維持できる期間が長くなります。
［グループ A］ ［グループ B］ ［グループ C］ ［グループ D］	輝度センサーによる補正を複数のプロジェクターが連動して行います。 ネットワーク機能を使って、同一サブネット内に A ～ D の 4 つまでのグループを設定できます。 1 つのグループにプロジェクターを 8 台まで登録して連動させることができます。

9)　▲▼ ボタンで［キャリブレーション時刻］を選択する

10)〈ENTER〉ボタンを押す

- 調整モード（時刻が点滅している状態）になります。

11) ◀▶ ボタンで「時」または「分」を選択し、▲▼ ボタンまたは数字（〈0〉～〈9〉）ボタンで時刻を設定する

- 「時」を選択すると時間のみが 1 時間単位で設定でき、「分」を選択すると分のみが 00 ～ 59 まで 1 分単位で設定できます。
- 時刻を指定しない場合は、23 時と 00 時の間、また 59 分と 00 分の間の［オフ］を選択してください。

12)〈ENTER〉ボタンを押す

- ［キャリブレーション時刻］が確定されます。
- 指定した時刻に明るさを測定します。

13) ▲▼ ボタンで［キャリブレーションメッセージ］を選択する

14) ◀▶ ボタンで項目を切り換える

- ボタンを押すごとに、項目が切り換わります。

［オン］	キャリブレーション実行中にメッセージを表示します。
［オフ］	キャリブレーション実行中にメッセージを表示しません。

15) ▲▼ ボタンで［実行］を選択する

16)〈ENTER〉ボタンを押す

- 設定された［モード］と［リンク］が有効になり、［ランプリレー］の設定が［オフ］の場合は、ランプリレー注意喚起画面が表示されます。その後、［キャリブレーションメッセージ］を［オン］にしている場合はキャリブレーション実行中のメッセージを表示し、キャリブレーション完了後 30 秒経過すると、自動的に表示が消えます。
- ［輝度コントロール設定］の［モード］が［オフ］以外の状態で〈ENTER〉ボタンが押された場合、そのときのランプの明るさを、基準の明るさとして記憶します。
- ［リンク］が［グループ A］～［グループ D］の状態で〈ENTER〉ボタンが押されると、同一グループとして設定されているプロジェクターの画面にグループ名が表示されます。

お知らせ

- ［輝度コントロール設定］の［モード］を［オート］または［PC］に設定した場合は、［輝度コントロール設定］の設定完了後に輝度センサーのキャリブレーションを行うため、2 分以上シャッター機能無効の状態（シャッター：開）を維持してください。
- ［輝度コントロール設定］の［モード］が［オート］または［PC］で動作している場合、ランプ点灯から約 10 分以内にシャッター機能を有効（シャッター：閉）にすると、明るさの測定ができないため、シャッター機能を無効（シャッター：開）にしてから約 2 分後に明るさの補正をすることがあります。
- ［輝度コントロール設定］の［モード］が［オート］または［PC］で動作しているとき、ランプ点灯から約 8 分後にランプの明るさを自動で測定し、輝度コントロールで調整したときの基準の明るさと、同じ画面の明るさになるように補正します。ランプ点灯から約 8 分間は、ランプの明るさが安定しないため、明るさの測定は行いません。
- ［輝度コントロール設定］の［モード］が［オート］、メニューの［プロジェクターセットアップ］→［ランプ選択］が［デュアル］で動作しているときにランプが失灯したり、ランプリレーを行ったりした場合、約 1 分後に可能な限り明るさを補正します。
- ［輝度コントロール設定］の［モード］が［オート］、［リンク］が［オフ］で動作している場合、明るさの補正は最大補正値に達するまで補正します。
- プロジェクターの設置環境によってはレンズやスクリーン、プロジェクター内部にほこりが付き、明るさのばらつきが大きくなることがあります。
- ランプの経時変化によって明るさのばらつきが大きくなった場合やランプを交換した場合は、輝度コントロールを再度調整してください。
- 24 時間以上連続でご使用になる場合は［輝度コントロール設定］の［キャリブレーション時刻］を設定するか、［ランプリレー］（☞ 107 ページ）を設定してください。設定していない場合、補正が自動的に実行されません。
- ［キャリブレーション時刻］は、時刻を入力した時点で、設定の変更が反映されます。
- ［キャリブレーションメッセージ］は、◀▶ ボタンを操作して項目を切り換えた時点で、設定の変更が反映されます。

［輝度コントロールステータス］を表示する場合

輝度コントロールの状態を表示します。

1)　▲▼ ボタンで［輝度コントロール］を選択する

2)　〈ENTER〉ボタンを押す

- **［輝度コントロール］**画面が表示されます。

3)　▲▼ ボタンで［輝度コントロールステータス］を選択する

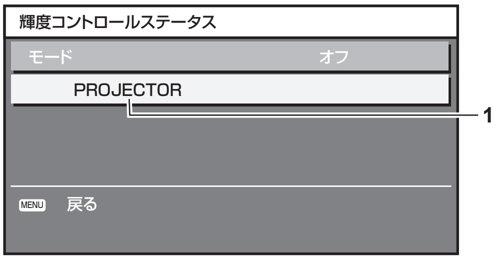
4)　〈ENTER〉ボタンを押す

- **［輝度コントロールステータス］**画面が表示されます。

［輝度コントロールステータス］画面の表示例

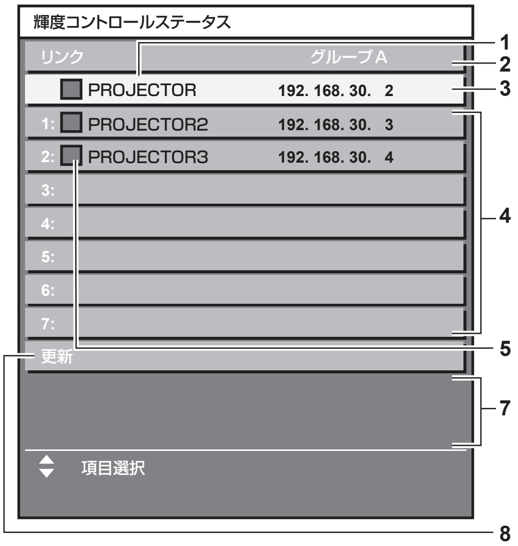
［輝度コントロール設定］の［モード］が［オフ］のとき

輝度コントロールが無効の状態を表示します。



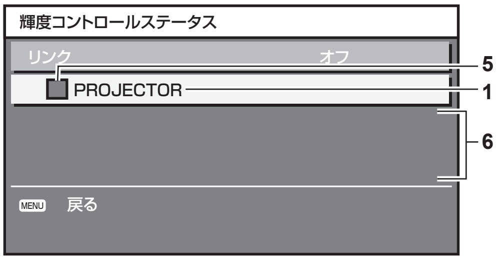
［輝度コントロール設定］の［モード］が［オート］で、［リンク］が［グループ A］～［グループ D］のとき

オンスクリーンメニューで操作しているプロジェクターを含め、連動しているプロジェクター（8 台まで）の輝度コントロールの状態を表示します。

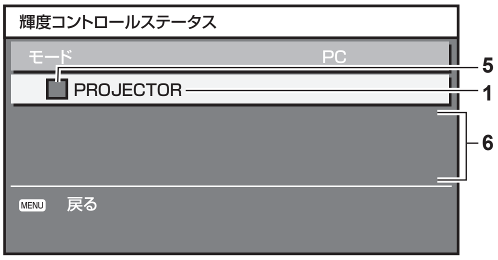


［輝度コントロール設定］の［モード］が［オート］で、［リンク］が［オフ］のとき

プロジェクター 1 台での輝度コントロールの状態を表示します。



［輝度コントロール設定］の［モード］が［PC］のとき



1　**自機のプロジェクター名を表示します。**

2　**連動するグループを表示します。**

3　**自機の IP アドレスを表示します。**

4　**ネットワーク上で検出した同一グループのプロジェクター名と IP アドレスを表示します。**

5　**色で状態を表します。**
緑：明るさの補正量に余裕があります。
黄：明るさの補正の余裕が少なくなっています。
赤：輝度コントロールにエラーがあります。

6　**エラーの詳細メッセージを表示します。**

7　**エラーメッセージを表示します。**
［輝度コントロールに失敗したプロジェクターがあります。］とメッセージが表示されている場合、赤色表示しているプロジェクターは連動が失敗しています。
▲▼ ボタンで赤色表示しているプロジェクターを選択し、〈ENTER〉ボタンを押すとエラーの詳細を表示します。

8　**情報を最新の状態に更新します。**

■ エラーの詳細

エラーメッセージ	対応方法
［プロジェクターの制限台数を超えています。］	● 同一グループの台数は 8 台以下で構成してください。 ● 9 台以上を連動させる場合はコンピューターと専用ソフトウェア「複数台プロジェクター 監視制御ソフトウェア」*1 をお使いください。
［コマンドコントロールの設定を確認してください。］	● エラー表示しているプロジェクターの［ネットワークコントロール］→［コマンドコントロール］を［オン］にしてください。 ● 連動するすべてのプロジェクターの［ネットワークコントロール］→［コマンドポート］を同じ値にしてください。
［コマンドコントロールのユーザー名とパスワードを確認してください。］	● 連動するすべてのプロジェクターの、WEB 制御のアドミニストレーター権限の［ユーザー名］と［パスワード］を同じ文字列にしてください。
［輝度コントロールできない状態です。プロジェクターの状態を確認してください。］	● プロジェクターがスタンバイなどの状態になっています。電源を入れてください。
［輝度センサーエラー］	● 輝度センサーに異常があります。電源を入れ直しても直らない場合は販売店にご相談ください。

*1 「複数台プロジェクター 監視制御ソフトウェア」は付属の CD-ROM に収録されています。

お知らせ

- 連動させるプロジェクターが一覧に表示されない場合は、次の項目を確認してください。
  - ネットワーク上に同じ IP アドレスの機器がないか
  - LAN ケーブルが正しく接続されているか（☞ 136 ページ）
  - プロジェクターのサブネットが同一になっているか
  - ［リンク］の設定が同じグループになっているか
- プロジェクター名の変更については、［ネットワーク設定］（☞ 133 ページ）または、“［LAN 設定］ページ”（☞ 145 ページ）をご覧ください。

輝度コントロールの調整手順例

ネットワーク接続した 8 台のプロジェクターの明るさを、連動させる場合の調整手順例です。

1) すべてのプロジェクターを LAN ケーブルでハブに接続する（☞ 136 ページ）

2) すべてのプロジェクターの電源を入れ、投写を開始する

3) すべてのプロジェクターの［ランプ選択］を［デュアル］か［シングル］のどちらかで統一する

4) ［輝度コントロール設定］の［モード］を［オフ］にし、［実行］を選択して〈ENTER〉ボタンを押す

5) 各プロジェクターの［サブネットマスク］と［IP アドレス］を設定する

- ネットワークが通信できるように、プロジェクターの［サブネットマスク］はすべて同じ値に、［IP アドレス］は 1 台ずつ異なる値に設定してください。

6) ランプの明るさが安定するまで投写を開始してから 8 分以上待つ

7) すべてのプロジェクターの［映像］メニュー内全項目を同じ値にする

8) 色を合わせる場合は、［カラーマッチング］を調整する

9) すべてのプロジェクターの内蔵テストパターン「全白」を表示する

10) すべてのプロジェクターの［輝度コントロールゲイン］を、100 % に設定する

11) 一番暗いプロジェクターの［輝度コントロールゲイン］を、90 % に設定する

12) 各プロジェクターの［輝度コントロールゲイン］を調整する

- ［輝度コントロールゲイン］を 90 % に設定したプロジェクターと明るさがそろうように、他のプロジェクターの［輝度コントロールゲイン］を調整してください。

13) すべてのプロジェクターで［輝度コントロール設定］の［モード］を［オート］に、［リンク］を［グループ A］に設定する

14) すべてのプロジェクターで［輝度コントロール設定］の［実行］を選択し、〈ENTER〉ボタンを押す

- 輝度コントロールが開始されます。

お知らせ

- 電源の入 / 切などでランプが点灯するたびに自動で明るさを補正します。
- ランプの経時変化によって明るさのばらつきが大きくなった場合やランプを交換した場合は、輝度コントロールを再度調整してください。

［スタンバイモード］

スタンバイ時の電力を設定します。

1) ▲▼ ボタンで［スタンバイモード］を選択する

2) ◀▶ ボタンで項目を切り換える

- ボタンを押すごとに、項目が切り換わります。

［ノーマル］	スタンバイ時にネットワーク機能を使用する場合に選択します。
［ECO］	スタンバイ時の消費電力を低く抑えたい場合に選択します。

お知らせ

- ［ECO］に設定した場合、スタンバイ時にネットワーク機能と〈SERIAL OUT〉端子、RS-232C コマンドの一部が使えません。［ノーマル］に設定した場合、スタンバイ時にネットワーク機能と〈SERIAL OUT〉端子が使えます。
- ［ECO］に設定した場合、［ノーマル］設定時と比べて、電源を入れてから投写を開始するまでの時間が、約 10 秒多くかかることがあります。
- ［スタンバイモード］の設定は、メニューの［プロジェクターセットアップ］→［初期化］（☞ 120 ページ）の［全ユーザーデータ］を実行しても、工場出荷時の設定に戻りません。

［スケジュール］

コマンドの実行スケジュールを曜日ごとに設定します。

スケジュール機能の有効 / 無効を設定する

1) ▲▼ ボタンで［スケジュール］を選択する

2)　◀▶ ボタンで項目を切り換える
- ボタンを押すごとに、項目が切り換わります。

［オフ］	スケジュール機能を無効にします。
［オン］	スケジュール機能を有効にします。スケジュールの設定方法については、“プログラムの割り当て方法”（☞ 113 ページ）または“各プログラムの設定方法”（☞ 113 ページ）をご覧ください。

お知らせ

- ［スケジュール］を［オン］に設定すると、［スタンバイモード］の設定は強制的に［ノーマル］となり、設定の変更はできなくなります。この状態で［スケジュール］を［オフ］にしても、［スタンバイモード］の設定は［ノーマル］のままです。

プログラムの割り当て方法

1)　▲▼ ボタンで［スケジュール］を選択する

2)　◀▶ ボタンで［オン］を選択し、〈ENTER〉ボタンを押す
- **［スケジュール］**画面が表示されます。

3)　曜日ごとにプログラムを選択し、割り当てる
- ▲▼ ボタンで曜日を選択し、◀▶ ボタンでプログラム番号を選択します。
- プログラムは、プログラム番号 1 ～ 7 まで設定できます。“- - -”は未設定を表します。

各プログラムの設定方法

1 プログラムにつき 16 コマンドまでの設定ができます。

1)　▲▼ ボタンで［スケジュール］を選択する

2)　◀▶ ボタンで［オン］を選択し、〈ENTER〉ボタンを押す
- **［スケジュール］**画面が表示されます。

3)　▲▼ ボタンで［プログラム編集］を選択する

4)　◀▶ ボタンで設定したいプログラム番号を選択し、〈ENTER〉ボタンを押す

5)　▲▼ ボタンでコマンド番号を選択し、〈ENTER〉ボタンを押す
- ◀▶ ボタンでページの切り換えができます。

6)　▲▼◀▶ ボタンで［時刻］を選択し、〈ENTER〉ボタンを押す
- 調整モード（時刻が点滅している状態）になります。

7)　◀▶ ボタンで「時」または「分」を選択して、▲▼ ボタンまたは数字（〈0〉～〈9〉）ボタンで時刻を設定し、〈ENTER〉ボタンを押す

8)　▲▼◀▶ ボタンで［コマンド］を選択する

9)　〈ENTER〉ボタンを押す
- **［コマンド］**詳細設定画面が表示されます。

10)　▲▼ ボタンで設定したい［コマンド］を選択する
- 詳細設定が必要な［コマンド］については、◀▶ ボタンを押すごとに、その詳細設定の項目が切り換わります。
- ［入力］を選択した場合は、続けて〈ENTER〉ボタンを押して、▲▼◀▶ ボタンで設定したい入力を選択します。

［コマンド］	［コマンド］の詳細設定	説明
［電源オン］	―	電源を入れます。
［スタンバイ］	―	スタンバイ状態にします。
［シャッター］	［開］	シャッター機能を無効（シャッター：開）にします。
	［閉］	シャッター機能を有効（シャッター：閉）にします。

[コマンド]	[コマンド] の詳細設定	説明
[入力]	[RGB1]	RGB1 に入力を切り換えます。
	[RGB2]	RGB2 に入力を切り換えます。
	[DVI-D]	DVI-D に入力を切り換えます。
	[HDMI]	HDMI に入力を切り換えます。
	[DIGITAL LINK]	DIGITAL LINK に入力を切り換えます。
	[SDI] *1	SDI に入力を切り換えます。
	[入力 1] ～ [入力 10] *2	DIGITAL LINK に入力を切り換え、さらに当社製ツイストペアケーブル伝送器の入力を指定入力に切り換えます。
[ランプ選択]	[デュアル]	ランプを 2 灯とも点灯します。
	[シングル]	ランプの 1 灯を点灯します。（使用時間の短いランプを自動選択します。）
[ランプパワー]	[ノーマル]	ランプの明るさを高い輝度に設定します。
	[ECO]	ランプの明るさを低い輝度に設定します。
[P IN P]	[オフ]	P IN P 機能を使用しません。
	[ユーザー 1]	[ユーザー 1] に設定した内容でサブ画面を配置します。
	[ユーザー 2]	[ユーザー 2] に設定した内容でサブ画面を配置します。
	[ユーザー 3]	[ユーザー 3] に設定した内容でサブ画面を配置します。

*1　PT-DZ780J のみ

*2　別売品の DIGITAL LINK 出力対応機器（品番：ET-YFB100、ET-YFB200）を本機に接続している場合、その入力名が [入力 1] ～ [入力 10] に自動的に反映されます。入力名が反映されていない項目を選択した場合は無効になります。

11) 〈ENTER〉ボタンを押す

- コマンドが確定し、選択しているコマンドの左側に ● が表示されます。
- コマンドが確定したあとは〈MENU〉ボタンを押して詳細設定画面を閉じます。

12) ▲▼◀▶ ボタンで [登録] を選択し、〈ENTER〉ボタンを押す

お知らせ

- ランプの短時間点灯を行うような設定を登録しようとすると、画面上にエラーメッセージが表示されます。再度時刻とコマンドの設定を行ってください。
- すでに設定されているコマンドを削除する場合は、手順 **5)** の画面を表示中にリモコンの〈DEFAULT〉ボタンを押すか、手順 **6)** の画面で [削除] を選択し、〈ENTER〉ボタンを押してください。
- 同じ時刻に設定されたコマンドは、コマンド番号の若い順に実行されます。
- 時刻はローカル時刻で動作します。（☞ 118 ページ）
- [スケジュール] で設定されたコマンドの実行前に、リモコンや本体操作部での操作、制御コマンドによる操作を実行した場合、スケジュール機能で設定したコマンドが実行されないことがあります。

[起動方法]

主電源〈MAIN POWER〉スイッチを〈ON〉にしたときの起動方法を設定します。

1)　▲▼ ボタンで [起動方法] を選択する

2)　◀▶ ボタンで項目を切り換える

- ボタンを押すごとに、項目が切り換わります。

[ラストメモリー]	主電源〈MAIN POWER〉スイッチを〈OFF〉にする前の状態で起動します。
[スタンバイ]	スタンバイ状態で起動します。
[オン]	すぐに投写を開始します。

[スタートアップ入力選択]

電源を入れて投写を開始する際の入力を設定します。

1)　▲▼ ボタンで [スタートアップ入力選択] を選択する

2)　〈ENTER〉ボタンを押す

- **[スタートアップ入力選択]** 画面が表示されます。

3)　▲▼◀▶ ボタンで入力を選択する

- ボタンを押すごとに、項目が切り換わります。

[維持]	最後に選択した入力を維持します。
[RGB1]	入力を RGB1 にします。
[RGB2]	入力を RGB2 にします。
[DVI-D]	入力を DVI-D にします。
[HDMI]	入力を HDMI にします。
[DIGITAL LINK]	入力を DIGITAL LINK にします。
[SDI] *1	入力を SDI にします。
[入力 1] ～ [入力 10] *2	入力を DIGITAL LINK にし、さらに当社製ツイストペアケーブル伝送器の入力を指定入力に切り換えます。

*1 PT-DZ780J のみ
*2 別売品の DIGITAL LINK 出力対応機器（品番 : ET-YFB100、ET-YFB200）を本機に接続している場合、その入力名が [入力 1] ～ [入力 10] に自動的に反映されます。入力名が反映されていない項目を選択した場合は無効になります。

お知らせ

- メニューの [表示オプション] → [バックアップ入力設定]（☞ 91 ページ）の [バックアップ入力モード] を [オン] に設定していて、前回使用時に入力が HDMI の状態で電源を切った場合、[スタートアップ入力選択] を [維持] に設定していても DVI-D 入力で投写を開始します。

[RS-232C]

〈SERIAL IN〉/〈SERIAL OUT〉端子の通信条件を設定します。“〈SERIAL IN〉/〈SERIAL OUT〉端子について”（☞ 175 ページ）をご覧ください。

〈SERIAL IN〉端子の通信条件を設定する場合

1) ▲▼ ボタンで [RS-232C] を選択する

2) 〈ENTER〉ボタンを押す
- [RS-232C] 画面が表示されます。

3) ▲▼ ボタンで [接続先選択] を選択する

4) ◀▶ ボタンで項目を切り換える

[プロジェクター]	プロジェクター本体の〈SERIAL IN〉端子で RS-232C 通信を行います。
[DIGITAL LINK]	別売品の DIGITAL LINK 出力対応機器（品番 : ET-YFB100、ET-YFB200）と〈DIGITAL LINK/LAN〉端子を経由して RS-232C 通信を行います。

5) ▲▼ ボタンで [(入力) 通信速度] を選択する

6) ◀▶ ボタンで項目を切り換える
- ボタンを押すごとに、項目が切り換わります。

[9600]	適切な速度を選択してください。
[19200]	
[38400]	

7) ▲▼ ボタンで [(入力) パリティー] を選択する

8) ◀▶ ボタンで項目を切り換える
- ボタンを押すごとに、項目が切り換わります。

[なし]	パリティーの条件を選択してください。
[偶数]	
[奇数]	

〈SERIAL OUT〉端子の通信条件を設定する場合

1) ▲▼ ボタンで [RS-232C] を選択する

2) 〈ENTER〉ボタンを押す
- [RS-232C] 画面が表示されます。

3) ▲▼ ボタンで［(出力) 通信速度］を選択する

4) ◀▶ ボタンで項目を切り換える

[9600]	適切な速度を選択してください。
[19200]	
[38400]	

5) ▲▼ ボタンで［(出力) パリティー］を選択する

6) ◀▶ ボタンで項目を切り換える

- ボタンを押すごとに、項目が切り換わります。

［なし］	パリティーの条件を選択してください。
［偶数］	
［奇数］	

応答を設定する場合

1) ▲▼ ボタンで［RS-232C］を選択する

2) 〈ENTER〉ボタンを押す

- **［RS-232C］**画面が表示されます。

3) ▲▼ ボタンで［応答（ID オール）］を選択する

4) ◀▶ ボタンで項目を切り換える

［オン］	ID 指定がオールの場合に応答を返します。
［オフ］	ID 指定がオールの場合に応答を返しません。

5) ▲▼ ボタンで［グループ］を選択する

6) ◀▶ ボタンで項目を切り換える

[A] ～［Z］	RS-232C の ID 送信により複数のプロジェクターを同時に制御します。[A] ～［Z］までのグループを設定できます。RS-232C の ID と設定が一致すれば本機は応答します。

7) ▲▼ ボタンで［応答（ID グループ）］を選択する

8) ◀▶ ボタンで項目を切り換える

［オン］	ID 指定がグループの場合に応答を返します。
［オフ］	ID 指定がグループの場合に応答を返しません。

お知らせ

- ［接続先選択］を［DIGITAL LINK］に設定した場合は、該当の機器（たとえば、別売品の DIGITAL LINK 出力対応機器（品番：ET-YFB100、ET-YFB200））を〈DIGITAL LINK/LAN〉端子に接続しているときのみ、そのシリアル端子を使用して通信できます。
- 別売品の DIGITAL LINK 出力対応機器（品番：ET-YFB100、ET-YFB200）経由でロゴ転送を行う場合は、通信が途絶えないよう DIGITAL LINK 出力対応機器側の「無信号休止」の設定を「オフ」にしておく必要があります。
- ［接続先選択］を［DIGITAL LINK］に設定した場合は、通信速度は 9 600 bps に固定されます。

［ステータス］

本機の状態を表示します。

1) ▲▼ ボタンで［ステータス］を選択する

2) 〈ENTER〉ボタンを押す

- **［ステータス］**画面が表示されます。

3) ◀▶ ボタンを押してページを切り換える

- ボタンを押すごとに、ページが切り換わります。

<table>
<tr><td>［プロジェクタータイプ］</td><td colspan="2">プロジェクターの種類と本機のシリアル番号を表示します。</td></tr>
<tr><td>［プロジェクター使用時間］</td><td colspan="2">プロジェクターの稼働時間を表示します。</td></tr>
<tr><td>［ランプ 1］*3</td><td colspan="2">ランプ 1 の使用時間、点灯状態を表示します。</td></tr>
<tr><td>［ランプ 2］*3</td><td colspan="2">ランプ 2 の使用時間、点灯状態を表示します。</td></tr>
<tr><td>［メイン・サブバージョン］</td><td colspan="2">本機のファームウェアのメインバージョン、サブバージョンを表示します。</td></tr>
<tr><td>［吸気温度］*1</td><td colspan="2">プロジェクターの吸気温度状態を表示します。</td></tr>
<tr><td>［光学モジュール温度］*1</td><td colspan="2">プロジェクターの内部温度状態を表示します。</td></tr>
<tr><td>［排気温度］*1</td><td colspan="2">プロジェクターの排気温度状態を表示します。</td></tr>
<tr><td>［冷却条件］</td><td colspan="2">設定されている冷却条件を表示します。［オート］に設定している場合は、自動判別結果を表示します。</td></tr>
<tr><td>［気圧］</td><td colspan="2">気圧を表示します。</td></tr>
<tr><td>［自己診断］</td><td colspan="2">プロジェクターの状態を表示します。</td></tr>
<tr><td>［入力］</td><td colspan="2">現在選択している入力端子を表示します。</td></tr>
<tr><td>［バックアップ入力ステータス］</td><td colspan="2">バックアップ状態を表示します。</td></tr>
<tr><td>［信号名］</td><td colspan="2">入力信号名を表示します。</td></tr>
<tr><td>［信号周波数］</td><td colspan="2">入力信号の周波数を表示します。</td></tr>
<tr><td>［登録信号数］</td><td colspan="2">登録信号数を表示します。</td></tr>
<tr><td>［REMOTE2 ステータス］</td><td colspan="2">REMOTE2 の制御状態を表示します。</td></tr>
<tr><td>［AC 電圧］</td><td colspan="2">AC 電圧の状態を表示します。</td></tr>
<tr><td>［ランプ品番］</td><td colspan="2">ランプユニットの品番を表示します。</td></tr>
<tr><td>［ランプ 1 シリアル番号］</td><td colspan="2">ランプ 1 のシリアル番号を表示します。</td></tr>
<tr><td>［ランプ 2 シリアル番号］</td><td colspan="2">ランプ 2 のシリアル番号を表示します。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">［アップグレード］*2</td><td>［ET-UK20］</td><td>アップグレードキット（品番:ET-UK20）によるアクティベーション状態を表示します。</td></tr>
<tr><td>［ET-CUK10］</td><td>自動スクリーン調整アップグレードキット（品番：ET-CUK10）によるアクティベーション状態を表示します。</td></tr>
<tr><td rowspan="4">［オンカウント］</td><td>［パワーオン］</td><td>電源を入れた回数を表示します。</td></tr>
<tr><td>［ランプ 1 オン］</td><td rowspan="2">ランプの点灯回数を表示します。</td></tr>
<tr><td>［ランプ 2 オン］</td></tr>
<tr><td>［シャッター］</td><td>シャッターを閉じた回数を表示します。</td></tr>
<tr><td>［ランプ 1］</td><td colspan="2">使用時間の詳細を表示します。</td></tr>
<tr><td>［ランプ 2］</td><td colspan="2">使用時間の詳細を表示します。</td></tr>
<tr><td rowspan="14">［信号情報］</td><td>［メモリー番号］</td><td>入力信号のメモリー番号を表示します。</td></tr>
<tr><td>［入力］</td><td>現在選択している入力端子を表示します。</td></tr>
<tr><td>［信号名］</td><td>入力信号名を表示します。</td></tr>
<tr><td>［信号周波数］</td><td>入力信号の周波数を表示します。</td></tr>
<tr><td>［同期極性］</td><td>入力信号の同期極性を表示します。</td></tr>
<tr><td>［垂直同期信号パルス幅］</td><td>入力信号の垂直同期信号パルス幅を表示します。</td></tr>
<tr><td>［スキャンタイプ］</td><td>入力信号のスキャンタイプを表示します。</td></tr>
<tr><td>［総ドット数］</td><td>入力信号の総ドット数を表示します。</td></tr>
<tr><td>［表示ドット数］</td><td>入力信号の表示ドット数を表示します。</td></tr>
<tr><td>［総ライン数］</td><td>入力信号の総ライン数を表示します。</td></tr>
<tr><td>［表示ライン数］</td><td>入力信号の表示ライン数を表示します。</td></tr>
<tr><td>［サンプリング］</td><td>入力信号のサンプリング情報を表示します。</td></tr>
<tr><td>［信号レベル］</td><td>入力信号の信号レベルを表示します。</td></tr>
<tr><td>［色深度］*2</td><td>入力信号の階調を表示します。</td></tr>
</table>

*1　温度状態を文字色（緑 / 黄 / 赤）とバースケールで表示します。緑色表示の範囲内でご使用ください。
*2　PT-DZ780J のみ
*3　表示されるランプ使用時間は実時間です。ランプ交換の目安を算出するには、以下のような換算が必要になります。

ランプ交換の時間（目安）の計算式
（**A** × 6 ＋ **B** × 4）÷ 6 ● **A**：［ランプパワー］を［ノーマル］に設定時の使用時間 ● **B**：［ランプパワー］を［ECO］に設定時の使用時間

お知らせ

- **[ステータス]** 画面を表示中に〈ENTER〉ボタンを押すと、"[E メール設定] ページ"(☞ 147 ページ)で設定した E メールアドレス(最大 2 か所)にステータス内容を E メールで送信できます。
- [信号情報] は入力されている信号によって、表示される項目と表示されない項目があります。
- プロジェクターに何らかの異常が発生している場合には、**[ステータス]** 画面を表示中に〈DEFAULT〉ボタンを押すと、エラー情報の詳細画面を表示します。
- [自己診断] に表示される内容について、詳しくは、"[自己診断] の表示について"(☞ 166 ページ)をご覧ください。

[無信号自動オフ]

入力信号がない状態が続くと、自動的に本機の電源をスタンバイ状態にする機能です。スタンバイ状態にするまでの時間を設定できます。

1) ▲▼ ボタンで [無信号自動オフ] を選択する

2) ◀▶ ボタンで項目を切り換える

- ボタンを押すごとに、項目が切り換わります。

[無効]	無信号自動オフ機能を無効にします。
[10 分] ～ [90 分]	10 分単位で設定できます。

[REMOTE2 端子モード]

〈REMOTE 2 IN〉端子を設定します。

1) ▲▼ ボタンで [REMOTE2 端子モード] を選択する

2) ◀▶ ボタンで項目を切り換える

- ボタンを押すごとに、項目が切り換わります。

[標準]	〈REMOTE 2 IN〉端子のピン配列を本機標準の設定で使用します。
[ユーザー]	〈REMOTE 2 IN〉端子の設定を変更する場合に使用します。(☞ 180 ページ)
[L6500 シリーズ]	〈REMOTE 2 IN〉端子の設定を L6500 シリーズ互換で使用します。

- [ユーザー] を選択した場合は、手順 **3)** に進みます。

3) 〈ENTER〉ボタンを押す

4) ▲▼ ボタンで [2 番ピン] から [8 番ピン] までのいずれかを選択し、◀▶ ボタンで設定を切り換える

[ファンクションボタン]

リモコンの〈FUNCTION〉ボタンの機能を設定します。

1) ▲▼ ボタンで [ファンクションボタン] を選択する

2) 〈ENTER〉ボタンを押す

- **[ファンクションボタン]** 画面が表示されます。

3) ▲▼ ボタンで機能を選択する

[無効]	〈FUNCTION〉ボタンを無効にします。
[P IN P]	[P IN P] の設定を [オフ]、[ユーザー 1]、[ユーザー 2]、[ユーザー 3] に切り換えます。(☞ 122 ページ)
[サブメモリー]	サブメモリー一覧を表示します。(☞ 127 ページ)
[システムセレクター]	[システムセレクター] の設定を切り換えます。(☞ 75 ページ)
[システムデイライトビュー]	[システムデイライトビュー] の設定を切り換えます。(☞ 74 ページ)
[フリーズ]	映像を一時的に静止させます。(☞ 102 ページ)
[波形モニター]	入力信号の波形を表示します。(☞ 103 ページ)
[アスペクト]	アスペクトの設定を切り換えます。(☞ 77 ページ)

4) 〈ENTER〉ボタンを押す

[日付と時刻]

本機内蔵時計のタイムゾーンと日時を設定します。

タイムゾーンを設定する場合

1) ▲▼ ボタンで［日付と時刻］を選択する

2) 〈ENTER〉ボタンを押す
- **［日付と時刻］**画面が表示されます。

3) ▲▼ ボタンで［タイムゾーン］を選択する

4) ◀▶ ボタンで［タイムゾーン］を切り換える

手動で日時を設定する場合

1) ▲▼ ボタンで［日付と時刻］を選択する

2) 〈ENTER〉ボタンを押す
- **［日付と時刻］**画面が表示されます。

3) ▲▼ ボタンで［時刻設定］を選択する

4) 〈ENTER〉ボタンを押す
- **［時刻設定］**画面が表示されます。

5) ▲▼ ボタンで項目を選択し、◀▶ ボタンでローカル日時を設定する

6) ▲▼ ボタンで［設定］を選択し、〈ENTER〉ボタンを押す
- 日時設定が完了します。

自動で日時を設定する場合

1) ▲▼ ボタンで［日付と時刻］を選択する

2) 〈ENTER〉ボタンを押す
- **［日付と時刻］**画面が表示されます。

3) ▲▼ ボタンで［時刻設定］を選択する

4) 〈ENTER〉ボタンを押す
- **［時刻設定］**画面が表示されます。

5) ▲▼ ボタンで［NTP 同期］を選択し、◀▶ ボタンで［オン］に切り換える

6) ▲▼ ボタンで［設定］を選択し、〈ENTER〉ボタンを押す
- 日時設定が完了します。

お知らせ

- 自動で日時を設定するには、ネットワークへの接続が必要です。
- ［NTP 同期］を［オン］にした直後の NTP サーバーとの同期に失敗したときは、［NTP 同期］は［オフ］に戻ります。また、NTP サーバーの設定がされていない状態で［NTP 同期］を［オン］にした場合も、［NTP 同期］は［オフ］に戻ります。
- NTP サーバーの設定は WEB ブラウザーから本機にアクセスして実行してください。詳しくは、“［時刻設定］ページ”（☞ 146 ページ）をご覧ください。
- メニューの［プロジェクターセットアップ］→［初期化］（☞ 120 ページ）の［全ユーザーデータ］を実行すると、［タイムゾーン］の設定は工場出荷時の状態に戻ります。しかし、ローカル日時の設定に基づく日付と時刻（協定世界時、UTC、Universal Time, Coordinated）は初期化されずに保持されます。

［レンズキャリブレーション］

本機のレンズシフトの限界値を検出し、ホームポジションと ET-DLE030 用のレンズ基準位置の自動設定を行います。

1) ▲▼ ボタンで［レンズキャリブレーション］を選択する

2) ◀▶ ボタンで項目を切り換える
- ボタンを押すごとに、項目が切り換わります。

[ノーマル]	固定焦点レンズ（品番：ET-DLE030）以外を使用時に選択します。 キャリブレーション終了後、レンズをホームポジションに移動します。
[DLE030]	固定焦点レンズ（品番：ET-DLE030）を使用時に選択します。 キャリブレーション終了後、レンズを ET-DLE030 用のレンズ基準位置に移動します。

3)　〈ENTER〉ボタンを押す
- 確認画面が表示されます。

4)　◀▶ ボタンで［実行］を選択し、〈ENTER〉ボタンを押す
- 中止する場合は［中止］を選択してください。
- レンズが上下左右に移動してレンズシフトの限界値を検出し、ホームポジションと ET-DLE030 用のレンズ基準位置を自動的に設定します。
- レンズが停止して終了します。

お知らせ

- レンズキャリブレーション実行中はメニューに［実行中］と表示されます。途中でキャンセルできません。
- レンズキャリブレーションが正しく実行された場合は［正常終了］、正しく実行できなかった場合は［異常終了］と表示されます。

[全ユーザーデータ保存]

各種設定値をプロジェクター内部のメモリーにバックアップとして保存します。

1)　▲▼ ボタンで［全ユーザーデータ保存］を選択する

2)　〈ENTER〉ボタンを押す
- **［セキュリティーパスワード］**画面が表示されます。

3)　セキュリティーパスワードを入力し、〈ENTER〉ボタンを押す

4)　確認画面が表示されるので、◀▶ ボタンで［実行］を選択し、〈ENTER〉ボタンを押す
- データ保存中は［実行中］と表示されます。

お知らせ

- ［全ユーザーデータ］にはコンピューターのアプリケーションから設定したデータは含まれません。

[全ユーザーデータ呼出]

プロジェクター内部のメモリーにバックアップとして保存した各種設定値を読み込みます。

1)　▲▼ ボタンで［全ユーザーデータ呼出］を選択する

2)　〈ENTER〉ボタンを押す
- **［セキュリティーパスワード］**画面が表示されます。

3)　セキュリティーパスワードを入力し、〈ENTER〉ボタンを押す

4)　確認画面が表示されるので、◀▶ ボタンで［実行］を選択し、〈ENTER〉ボタンを押す

お知らせ

- ［全ユーザーデータ呼出］を実行すると、設定値を反映させるために、プロジェクターはスタンバイ状態になります。
- ［全ユーザーデータ］にはコンピューターを用いて登録したデータは含まれません。

[初期化]

各種設定値を工場出荷時の値に戻します。

1)　▲▼ ボタンで［初期化］を選択する

2)　〈ENTER〉ボタンを押す
- **［セキュリティーパスワード］**画面が表示されます。

3)　セキュリティーパスワードを入力し、〈ENTER〉ボタンを押す
- **［初期化］**画面が表示されます。

4)　▲▼ ボタンで初期化したい項目を選択する

［全ユーザーデータ］	［登録信号］、［ネットワーク設定］、［E メール設定］、［ユーザーロゴ］を含めた全設定値を工場出荷時の値に戻します。 設定値を反映させるために、プロジェクターはスタンバイ状態になります。
［登録信号］	入力信号ごとに保存している設定値をすべて消去します。 登録信号の一部分だけを消去する場合は、“登録した信号を削除する”（☞ 125 ページ）を行ってください。
［ネットワーク /E メール］	［ネットワーク設定］、［E メール設定］を工場出荷時の値に戻します。
［ロゴイメージ］	［ユーザーロゴ］に登録された画像を消去します。

5)　〈ENTER〉ボタンを押す

6)　確認画面が表示されるので、◀▶ ボタンで［実行］を選択し、〈ENTER〉ボタンを押す

お知らせ

- ［全ユーザーデータ］を実行しても、［ユニフォーミティー］、［スタンバイモード］の設定は初期化されません。

［サービスパスワード］

サービスマンが使用します。

[P IN P] について

メニュー画面で、メインメニューから [P IN P] を選択し、サブメニューから項目を選択してください。
メニュー画面の操作については、“メニュー画面の操作方法”（☞ 65 ページ）をご覧ください。
- 項目を選択したら ▲▼◀▶ ボタンで設定してください。

P IN P 機能を使用する

メイン画面中に別の小さなサブ画面を配置することで、2 つの映像を同時に投写できます。

1)　▲▼ ボタンで [P IN P モード] を選択する

2)　〈ENTER〉ボタンを押す
- [P IN P モード] 画面が表示されます。

3)　▲▼ ボタンで機能を選択する

[オフ]	P IN P 機能を使用しません。
[ユーザー 1]	“P IN P 機能を設定する”（☞ 122 ページ）で設定した内容で P IN P 機能を使用します。
[ユーザー 2]	
[ユーザー 3]	

4)　〈ENTER〉ボタンを押す

P IN P 機能を設定する

P IN P 機能の設定を [ユーザー 1]、[ユーザー 2]、[ユーザー 3] に保存できます。

1)　▲▼ ボタンで [P IN P モード] を選択する

2)　〈ENTER〉ボタンを押す
- [P IN P モード] 画面が表示されます。

3)　▲▼ ボタンで [ユーザー 1]、[ユーザー 2]、[ユーザー 3] の中からお好みのモードを選択し、〈ENTER〉ボタンを押す

4)　▲▼ ボタンで [メインウィンドウ] または [サブウィンドウ] を選択し、〈ENTER〉ボタンを押す

5)　▲▼ ボタンでウィンドウに表示する入力端子を選択し、〈ENTER〉ボタンを押す

6)　▲▼ ボタンで項目を選択する

[サイズ]	ウィンドウの表示サイズを 10 % ～ 100 % の間で設定します。
[位置調整]	ウィンドウの表示位置を画面内で設定します。
[クロックフェーズ]	サブウィンドウが〈RGB 1 IN〉端子、または〈RGB 2 IN〉端子からの入力のとき、画像のちらつきや輪郭のにじみが見られる場合に、0 ～ +31 の間で設定します。

7)　手順 6) で [サイズ] を選択した場合、〈ENTER〉ボタンを押す
- サブメニューを表示します。

8)　▲▼ ボタンで項目を選択する

9)　◀▶ ボタン調整し、〈MENU〉ボタンを押す

10) 手順 6) で [位置調整] を選択した場合、〈ENTER〉ボタンを押す

11) ▲▼◀▶ ボタンで位置を調整し、〈MENU〉ボタンを押す

12) 手順 6) で [クロックフェーズ] を選択した場合、◀▶ ボタンで調整する

13) ▲▼ ボタンで [フレームロック] を選択する

14) ◀▶ ボタンで項目を切り換える

[サブウィンドウ]	サブウィンドウに設定されている入力信号に対してフレームロックを設定します。
[メインウィンドウ]	メインウィンドウに設定されている入力信号に対してフレームロックを設定します。

15) ▲▼ ボタンで［タイプ］を選択する

16) ◀▶ ボタンで項目を切り換える

［サブウィンドウ］	サブウィンドウを優先的に表示します。
［メインウィンドウ］	メインウィンドウを優先的に表示します。

お知らせ

- 入力されている信号および選択している入力端子によってはＰ IN Ｐ機能を使用できません。詳しくは、“2 画面表示組み合わせ一覧”（☞ 181 ページ）をご覧ください。
- ［映像モード］、［ガンマ選択］、［色温度設定］などの映像調整値はメインウィンドウの設定値が適用されます。
- 通常画面（メニューが表示されていない状態）において、Ｐ IN Ｐ動作中に ◀▶ ボタンでメインウィンドウとサブウィンドウのサイズと位置を入れ換えることができます。
- ［フレームレスポンス］を［通常］以外に設定している場合、［P IN P］は設定できません。
- DIGITAL LINK と他入力の組み合わせは、Ｐ IN Ｐで表示できません。
- ［バックアップ入力モード］を［オン］に設定している場合、［P IN P］は設定できません。

［テストパターン］について

メニュー画面で、メインメニューから［テストパターン］を選択します。
メニュー画面の操作については、“メニュー画面の操作方法”（☞ 65 ページ）をご覧ください。

- ◀▶ ボタンで切り換えてください。

［テストパターン］

本機内蔵のテストパターンを表示します。
位置、サイズなどの設定内容はテストパターンには反映されません。必ず入力信号を表示させた状態で各種調整を行ってください。

1) ◀▶ ボタンで［テストパターン］の項目を切り換える

- ボタンを押すごとに、項目が切り換わります。

メニュー画面＋全白	メニュー画面とともにテストパターンが表示されます。各種調整を行いやすいテストパターンを選択してください。
メニュー画面＋全黒	
メニュー画面＋ウィンドウ	
メニュー画面＋ウィンドウ（反転）	
メニュー画面＋カラーバー（縦）	
メニュー画面＋カラーバー（横）	
メニュー画面＋ 16：9/4：3 アスペクト枠	
メニュー画面＋フォーカス	
メニュー画面＋入力画面	メニュー画面と入力信号が表示されます。 内蔵テストパターンを表示していない状態です。

お知らせ

- テストパターンの表示中にリモコンの〈ON SCREEN〉ボタンを押すと、メニュー画面を非表示にすることができます。

フォーカステストパターンの色を変更する場合

「メニュー画面 ＋ フォーカス」のテストパターンを表示している場合、色を変更できます。

1) ◀▶ ボタンで「メニュー画面 ＋ フォーカス」のテストパターンを選択する

2) 〈ENTER〉ボタンを押す

- **［テストパターンカラー］**画面が表示されます。

3) ▲▼ ボタンで色を選択し、〈ENTER〉ボタンを押す

- テストパターンの色が選択した色に変わります。

お知らせ

- テストパターンカラーの設定は電源を切ると［白］に戻ります。
- フォーカステストパターン以外のテストパターンの色は変更できません。

［登録信号一覧］について

メニュー画面で、メインメニューから［登録信号一覧］を選択します。
メニュー画面の操作については、“メニュー画面の操作方法”（☞ 65 ページ）をご覧ください。

■ 登録信号詳細

メモリー番号：**A1 (1-2)**

サブメモリー番号

アドレス番号(A1、A2、…L7、L8)信号が登録されている場合

- 名前は、サブメモリー（☞ 127 ページ）ごとに設定できます。

新規登録

新規信号が入力され、リモコンまたは本体操作部の〈MENU〉ボタンを押すと登録が完了し、**［メインメニュー］**画面が表示されます。

お知らせ

- 本機に対して登録できる信号数は、サブメモリーを含めて 96 個までです。
- メモリー番号は 12 ページ（A ～ L 各 8 メモリー、1 ページに 8 メモリーが可能）あり、空いているメモリーの中で若い番号に登録されます。メモリーの空きがない場合は古い信号から順番に上書きされます。
- 登録される名前は入力信号とメモリー番号により自動で決定されます。
- メニューが表示されている場合は、新規信号が入力された時点で登録が完了します。

登録信号の名前の変更

登録した信号の名前を変更できます。

1)　▲▼◀▶ ボタンで名称を変更したい信号を選択する

2)　〈ENTER〉ボタンを押す
- **［登録信号詳細］**画面が表示されます。
- メモリー番号、入力端子、入力信号の名前、周波数、同期極性などが表示されます。
- 〈MENU〉ボタンを押すと**［登録信号一覧］**画面に戻ります。

3)　〈ENTER〉ボタンを押す
- **［登録信号設定］**画面が表示されます。

4)　▲▼ ボタンで［信号名称変更］を選択する

5)　〈ENTER〉ボタンを押す
- **［信号名称変更］**画面が表示されます。

6)　▲▼◀▶ ボタンで文字を選択し、〈ENTER〉ボタンを押して入力する

7)　名前の変更を完了後 ▲▼◀▶ ボタンで［OK］を選択し、〈ENTER〉ボタンを押す
- 登録が完了し**［登録信号設定］**画面に戻ります。
- ▲▼◀▶ ボタンで［CANCEL］を選択して〈ENTER〉ボタンを押すと、変更した信号名は登録されず、自動登録された信号名のままになります。

登録した信号を削除する

登録した信号を削除できます。

1)　▲▼◀▶ ボタンで削除する信号を選択する

2)　リモコンの〈DEFAULT〉ボタンを押す
- **［登録信号削除］**画面が表示されます。
- 削除を取りやめる場合、〈MENU〉ボタンを押すと**［登録信号一覧］**画面に戻ります。

3)　〈ENTER〉ボタンを押す
- 選択した信号が削除されます。

お知らせ

- **［登録信号設定］**画面の［登録信号削除］からも登録した信号を削除できます。

登録した信号を保護する

1) ▲▼◀▶ ボタンで保護する信号を選択する

2) 〈ENTER〉ボタンを押す
- **［登録信号詳細］**画面が表示されます。

3) 〈ENTER〉ボタンを押す
- **［登録信号設定］**画面が表示されます。

4) ▲▼ ボタンで［ロック］を選択する

5) ◀▶ ボタンで項目を切り換える
- ボタンを押すごとに、項目が切り換わります。

［オフ］	信号を保護しません。
［オン］	信号を保護します。

お知らせ

- ［ロック］を［オン］に設定すると、信号の削除、映像調整、オートセットアップができなくなります。これらの動作を行うには、［ロック］を［オフ］に設定してください。
- 信号を保護していてもサブメモリーに登録できます。
- 信号を保護していても［初期化］を実行すると削除されます。

信号の引き込み範囲を拡大する

1) ▲▼◀▶ ボタンで設定する信号を選択する

2) 〈ENTER〉ボタンを押す
- **［登録信号詳細］**画面が表示されます。

3) 〈ENTER〉ボタンを押す
- **［登録信号設定］**画面が表示されます。

4) ▲▼ ボタンで［引込範囲］を選択する

5) ◀▶ ボタンで項目を切り換える
- ボタンを押すごとに、項目が切り換わります。

［ノーマル］	通常はこちらを選択してください。
［ワイド］	引き込み範囲を広げます。

お知らせ

- 入力される信号が、登録済みの信号と同一信号であると判別する範囲を切り換えます。
- 優先的に登録済みの信号と同一信号と判別させたい場合は、設定を［ワイド］に設定してください。
- 入力される信号の同期周波数が少し変化し、複数の信号リストが登録される場合などに使用できます。
- 〈RGB 1 IN〉端子、〈RGB 2 IN〉端子、〈DVI-D IN〉端子、〈HDMI IN〉端子、〈DIGITAL LINK/LAN〉端子から信号が入力される場合のみ使用できます。
- ［ワイド］に設定した場合、同期周波数が少し変化しても同一信号と判別するため、映像が乱れる場合があります。
- 入力される信号が複数の［ワイド］に設定した信号に該当する場合は、メモリー番号の大きい登録信号が優先されます。例：入力される信号が、メモリー番号の A2、A4、B1 に該当する場合は B1 と判別します。
- 登録信号が削除されると、設定も解除されます。
- 同一端子に複数の種類の信号が入力される環境で、設定を［ワイド］にすると、正しく信号の判別ができない場合があります。

サブメモリーについて

本機は同期信号源の周波数や形態により同一信号と判断した場合でも画像調整データを複数登録できるサブメモリー機能を持っています。

同一信号源によるアスペクト切り換えやホワイトバランスなどの、画質調整が必要な場合にご使用ください。サブメモリーは、画面アスペクト比、［映像］項目で調整したデータ（［ピクチャー］、［黒レベル］などの項目）など、信号ごとに調整できるデータすべてを含みます。

サブメモリーへの登録方法

1) 通常画面（メニューが表示されていない状態）において ◀▶ ボタンを押す

- サブメモリーが登録されていない場合は、サブメモリー登録確認画面が表示されます。手順 **3)** に進んでください。
- 現在入力している信号に対して登録されているサブメモリーの一覧が表示されます。
- メニューの［プロジェクターセットアップ］→［ファンクションボタン］で［サブメモリー］を選択すると、◀▶ ボタンの代わりにリモコンの〈FUNCTION〉ボタンを使用できます。

2) ［サブメモリー一覧］において ▲▼◀▶ ボタンで登録するサブメモリー番号を選択する

3) 〈ENTER〉ボタンを押す

- **［信号名称変更］**画面が表示されます。

4) ▲▼◀▶ ボタンで［OK］を選択し、〈ENTER〉ボタンを押す

- 登録信号の名前を変更する場合は、“登録信号の名前の変更”（☞ 125 ページ）の手順 **6)**、**7)** を行ってください。

サブメモリーへの切り換え方法

1) 通常画面（メニューが表示されていない状態）において ◀▶ ボタンを押す

- 現在入力している信号に対して登録されているサブメモリーの一覧が表示されます。

2) ［サブメモリー一覧］において ▲▼◀▶ ボタンで切り換える信号を選択する

3) 〈ENTER〉ボタンを押す

- 手順 **2)** で選択した信号に切り換わります。

サブメモリーの削除方法

1) 通常画面（メニューが表示されていない状態）において ◀▶ ボタンを押す

- **［サブメモリー一覧］**画面が表示されます。

2) ▲▼◀▶ ボタンで削除したいサブメモリーを選択し、リモコンの〈DEFAULT〉ボタンを押す

- **［登録信号削除］**画面が表示されます。
- 削除を取りやめる場合、〈MENU〉ボタンを押すと**［サブメモリー一覧］**画面に戻ります。

3) 〈ENTER〉ボタンを押す

- 選択したサブメモリーが削除されます。

[セキュリティー] について

メニュー画面で、メインメニューから [セキュリティー] を選択し、サブメニューから項目を選択してください。
メニュー画面の操作については、“メニュー画面の操作方法”(☞ 65 ページ)をご覧ください。

- 初めてご使用になる場合
  初期パスワード:▲▶▼◀▲▶▼◀ ボタンの順に押し、〈ENTER〉ボタンを押してください。
- 項目を選択したら ▲▼◀▶ ボタンで設定してください。

お願い

- メニューの [セキュリティー] を選択し、〈ENTER〉ボタンを押すと、パスワードの入力が求められます。設定したセキュリティーパスワードを入力してから [セキュリティー] メニューの操作を続けてください。
- 以前にパスワードを変更した場合、変更後のパスワードを入力し、〈ENTER〉ボタンを押してください。

お知らせ

- 入力したパスワードは画面上では、* 印で表示されます。
- パスワードを間違えると、画面上にエラーメッセージが表示されます。再度正しいパスワードを入力してください。

[セキュリティーパスワード]

主電源〈MAIN POWER〉スイッチが〈OFF〉側になっている状態から電源を入れたときに **[セキュリティーパスワード]** 画面を表示させます。間違ったパスワードを入力した場合、電源スタンバイ〈⏻〉ボタン、〈SHUTTER〉ボタン、〈LENS〉(〈FOCUS〉、〈ZOOM〉、〈SHIFT〉)ボタンでの操作に限定されます。

1)　▲▼ ボタンで [セキュリティーパスワード] を選択する

2)　◀▶ ボタンで項目を切り換える

- ボタンを押すごとに、項目が切り換わります。

[オフ]	セキュリティーパスワード入力を無効にします。
[オン]	セキュリティーパスワード入力を有効にします。

お知らせ

- 工場出荷時、または [初期化](☞ 120 ページ)の [全ユーザーデータ] を実行したあと、[セキュリティーパスワード] の設定は [オフ] になっています。
- パスワードは定期的に変更し、推測されにくいものにしてください。
- セキュリティーパスワードは、[セキュリティーパスワード] を [オン] に設定したあと、主電源〈MAIN POWER〉スイッチを〈OFF〉にすると有効になります。

[セキュリティーパスワード変更]

セキュリティーパスワードを変更します。

1)　▲▼ ボタンで [セキュリティーパスワード変更] を選択する

2)　〈ENTER〉ボタンを押す

- **[セキュリティーパスワード変更]** 画面が表示されます。

3)　▲▼◀▶ ボタンや、数字(〈0〉～〈9〉)ボタンでパスワードを設定する

- 最大 8 つのボタン操作を設定できます。

4)　〈ENTER〉ボタンを押す

5)　確認のため、再度パスワードを入力する

6)　〈ENTER〉ボタンを押す

お知らせ

- 入力したパスワードは画面上では、* 印で表示されます。
- セキュリティーパスワードに数字を用いた場合、リモコンを紛失すると、セキュリティーパスワードの初期化が必要になります。初期化方法については、販売店にご相談ください。

[表示設定]

投写中の映像に、セキュリティーメッセージ(文字や画像)を重ねて表示させます。

1)　▲▼ ボタンで [表示設定] を選択する

2)　◀▶ ボタンで項目を切り換える
- ボタンを押すごとに、項目が切り換わります。

［オフ］	セキュリティーメッセージを表示しません。
［テキスト］	メニューの［セキュリティー］→［テキスト変更］で設定したテキストを表示します。
［ユーザーロゴ］	ユーザーが登録した画像を表示します。

お知らせ

- ［ユーザーロゴ］の画像作成・登録には、付属の CD-ROM に収録されている「ロゴ転送ソフトウェア」を使用します。

［テキスト変更］

［表示設定］で［テキスト］を選択したときに表示する文字を編集します。

1)　▲▼ ボタンで［テキスト変更］を選択する

2)　〈ENTER〉ボタンを押す
- **［テキスト変更］**画面が表示されます。

3)　▲▼◀▶ ボタンで文字を選択し、〈ENTER〉ボタンを押して入力する

4)　▲▼◀▶ ボタンで［OK］を選択し、〈ENTER〉ボタンを押す
- テキストが変更されます。

［操作設定］

本体操作部とリモコンのボタン操作の有効 / 無効を設定します。

1)　▲▼ ボタンで［操作設定］を選択する

2)　〈ENTER〉ボタンを押す
- **［操作設定］**画面が表示されます。

3)　▲▼ ボタンで［本体操作部］または［リモコン］を選択する

［本体操作部］	本体操作部からの制御の制限を設定できます。
［リモコン］	リモコンからの制御の制限を設定できます。

4)　〈ENTER〉ボタンを押す
- **［本体操作部］**画面、または**［リモコン］**画面が表示されます。

5)　▲▼ ボタンで［本体操作部］または［リモコン］を選択する

6)　◀▶ ボタンで項目を切り換える
- 本体操作部またはリモコンからの制御の制限を設定できます。

［有効］	すべてのボタン操作を有効にします。
［無効］	すべてのボタン操作を無効にします。
［ユーザー］	各ボタンに対して操作有効 / 操作無効を個別に設定できます。 詳しくは、“任意のボタンの有効 / 無効を設定する場合”（☞ 129 ページ）をご覧ください。

7)　▲▼ ボタンで［設定］を選択し、〈ENTER〉ボタンを押す
- 確認画面が表示されます。

8)　◀▶ ボタンで［実行］を選択し、〈ENTER〉ボタンを押す

任意のボタンの有効 / 無効を設定する場合

1)　▲▼ ボタンで［操作設定］を選択する

2)　〈ENTER〉ボタンを押す
- **［操作設定］**画面が表示されます。

3)　▲▼ ボタンで［本体操作部］または［リモコン］を選択する

4) 〈ENTER〉ボタンを押す

5) ▲▼ ボタンで [本体操作部] または [リモコン] を選択する

6) ◀▶ ボタンで [ユーザー] に切り換える

7) ▲▼ ボタンで設定したいボタンの項目を選択する
- [入力切換ボタン] を選択した場合は、続けて〈ENTER〉ボタンを押して、▲▼ ボタンで設定したいボタンを選択します。

	設定できるボタン	
	[本体操作部]	[リモコン]
[電源ボタン]	電源スタンバイ〈⏻〉ボタン、電源入〈|〉ボタン	
[入力切換ボタン]	〈RGB1〉ボタン、〈RGB2〉ボタン〈DVI-D〉ボタン、〈HDMI〉ボタン、〈DIGITAL LINK〉ボタン、〈SDI〉ボタン *1	〈VIDEO〉ボタン、〈RGB1/2〉ボタン、〈DVI-D〉ボタン、〈HDMI〉ボタン、〈DIGITAL LINK〉ボタン、〈SDI〉ボタン *1
[メニューボタン]	〈MENU〉ボタン	
[レンズボタン]	〈LENS〉ボタン	レンズ（〈FOCUS〉、〈ZOOM〉、〈SHIFT〉）ボタン
[オートセットアップボタン]	〈AUTO SETUP〉ボタン	
[シャッターボタン]	〈SHUTTER〉ボタン	
[オンスクリーンボタン]	—	〈ON SCREEN〉ボタン
[その他のボタン]	▲▼◀▶ ボタン、〈ENTER〉ボタン	上記以外のボタン

*1　SDI 入力は PT-DZ780J のみ対応

8) ◀▶ ボタンで項目を切り換える

[有効]	ボタン操作を有効にします。
[無効]	ボタン操作を無効にします。

- [入力切換ボタン] の [RGB1/2 ボタン] を選択している場合のみ、次の項目を選択できます。

[トグル]	ボタン操作時に [RGB1] と [RGB2] を切り換えます。
[RGB1]	[RGB1] に固定します。
[RGB2]	[RGB2] に固定します。
[無効]	ボタン操作を無効にします。

- [入力切換ボタン] の [VIDEO ボタン] を選択している場合のみ、次の項目を選択できます。

[無効]	ボタン操作を無効にします。
[VIDEO]	[VIDEO] に固定します。
[Y/C]	[Y/C] に固定します。
[トグル]	ボタン操作時に [VIDEO] と [Y/C] を切り換えます。

- 手順 **7)** で [入力切換ボタン] を選択した場合は、項目の切り換えが終わると、〈MENU〉ボタンを押して、**[本体操作部]** 画面、または **[リモコン]** 画面に戻ります。

9) ▲▼ ボタンで [設定] を選択し、〈ENTER〉ボタンを押す
- 確認画面が表示されます。

10) ◀▶ ボタンで [実行] を選択し、〈ENTER〉ボタンを押す

お知らせ

- [無効] に設定した側のボタンで操作すると、**[操作設定パスワード]** 画面が表示されます。
  操作設定パスワードを入力してください。
- **[操作設定パスワード]** 画面は約 10 秒何も操作しなければ消えます。
- [本体操作部] と [リモコン] の操作を両方とも [無効] にした場合、電源を切る（スタンバイ状態にする）ことができなくなります。
- 設定が反映されるとメニュー画面が消えます。継続して操作する場合は、〈MENU〉ボタンを押してメインメニューを表示させてください。
- リモコンのボタン操作を無効にしても、リモコンの〈ID SET〉ボタンの操作は有効です。

[操作設定パスワード変更]

操作設定パスワードを変更できます。

1) ▲▼ ボタンで [操作設定パスワード変更] を選択する

2) **〈ENTER〉ボタンを押す**

- **［操作設定パスワード変更］**画面が表示されます。

3) **▲▼◀▶ ボタンで文字を選択し、〈ENTER〉ボタンを押して入力する**

4) **▲▼◀▶ ボタンで［OK］を選択し、〈ENTER〉ボタンを押す**

- 中止する場合は［CANCEL］を選択してください。

お願い

- 工場出荷時、または［初期化］（☞ 120 ページ）の［全ユーザーデータ］を実行したあと、初期のパスワードは「AAAA」です。
- パスワードは定期的に変更し、推測されにくいものにしてください。

［ネットワーク］について

メニュー画面で、メインメニューから［ネットワーク］を選択し、サブメニューから項目を選択してください。
メニュー画面の操作については、“メニュー画面の操作方法”（☞ 65 ページ）をごご覧ください。
- 項目を選択したら ▲▼◀▶ ボタンで設定してください。

［DIGITAL LINK モード］

本機の〈DIGITAL LINK/LAN〉端子の通信方式を切り換えます。

1)　▲▼ ボタンで［DIGITAL LINK モード］を選択する

2)　◀▶ ボタンで項目を切り換える
- ボタンを押すごとに、項目が切り換わります。

［オート］	通信方式が DIGITAL LINK、ロングリーチ、イーサネットのいずれかに自動的に切り換わります。
［DIGITAL LINK］	通信方式が DIGITAL LINK に固定されます。
［ロングリーチ］	通信方式がロングリーチに固定されます。
［イーサネット］	通信方式がイーサネットに固定されます。

通信可能なモードについて

✓：通信可能
―：通信不可

設定		通信可否			
		映像伝送（100 m）	映像伝送（150 m）	イーサネット	RS-232C
［オート］	DIGITAL LINK の場合	✓	―	✓	✓
	ロングリーチの場合	―	✓	✓	✓
	イーサネットの場合	―	―	✓	―
［DIGITAL LINK］		✓	―	✓	✓
［ロングリーチ］		―	✓	✓	✓
［イーサネット］		―	―	✓	―

お知らせ

- ロングリーチの通信方式で接続した場合の最長伝送距離は 150 m です。ただし、その場合に本機が受像できる信号は、1080/60p（148.5 MHz）までになります。
- ツイストペアケーブル伝送器側の通信方式がロングリーチに設定されている場合、［DIGITAL LINK モード］を［オート］に設定すると、ロングリーチの通信方式で接続します。別売品のデジタルリンクスイッチャー（品番：ET-YFB200）との間をロングリーチの通信方式で接続する場合は、［DIGITAL LINK モード］を［ロングリーチ］に設定してください。
- ［DIGITAL LINK モード］を［ロングリーチ］に設定しても、ツイストペアケーブル伝送器がロングリーチの通信方式に対応していない場合は正常に接続できません。

［DIGITAL LINK 設定］

DIGITAL LINK またはイーサネットの通信方式を設定します。

本機に直接イーサネットを接続している場合

1)　▲▼ ボタンで［DIGITAL LINK 設定］を選択する

2)　〈ENTER〉ボタンを押す
- ［DIGITAL LINK 設定］画面が表示されます。

3)　▲▼ ボタンで［DUPLEX（イーサネット)］を選択する

4)　◀▶ ボタンで通信方式を切り換える
- ボタンを押すごとに、項目が切り換わります。

［オート］	通信方式が自動で設定されます。
［100BaseTX-Full］	全二重通信方式が設定されます。

［100BaseTX-Half］	半二重通信方式が設定されます。

5)　▲▼ ボタンで［保存］を選択する

6)　〈ENTER〉ボタンを押す

7)　確認画面が表示されるので、◀▶ ボタンで［実行］を選択し、〈ENTER〉ボタンを押す

お知らせ

- 10BaseT Full/Half には対応していません。

本機にツイストペアケーブル伝送器を接続している場合

1)　▲▼ ボタンで［DIGITAL LINK 設定］を選択する

2)　〈ENTER〉ボタンを押す
- ［DIGITAL LINK 設定］画面が表示されます。

3)　▲▼ ボタンで［DUPLEX（DIGITAL LINK）］を選択する

4)　◀▶ ボタンで通信方式を切り換える
- ボタンを押すごとに、項目が切り換わります。

［100BaseTX-Full］	全二重通信方式が設定されます。
［100BaseTX-Half］	半二重通信方式が設定されます。
［オート］	通信方式が自動で設定されます。

5)　▲▼ ボタンで［保存］を選択する

6)　〈ENTER〉ボタンを押す

7)　確認画面が表示されるので、◀▶ ボタンで［実行］を選択し、〈ENTER〉ボタンを押す

［DIGITAL LINK ステータス］

DIGITAL LINK の接続環境を表示します。

1)　▲▼ ボタンで［DIGITAL LINK ステータス］を選択する

2)　〈ENTER〉ボタンを押す
- ［DIGITAL LINK ステータス］画面が表示されます。

［リンク状態］	［NO LINK］、［DIGITAL LINK］、［ロングリーチ］、［イーサネット］のいずれかが表示されます。
［HDCP ステータス］	［無信号］、［オフ］、［オン］のいずれかが表示されます。
［信号品質］	［信号品質］はエラー発生量を数値化したもので、その数値によって表示色が緑色 / 黄色 / 赤色に変わります。 ツイストペアケーブル伝送器を受信した状態で信号品質レベルを確認してください。 ● ［最大］/［最小］：エラー発生量の最大値 / 最小値 ● 緑色（−12 dB 以下）→ 正常な信号品質レベルです。 ● 黄色（−11 〜 −8 dB）→ 画面にノイズが出る可能性がある注意レベルです。 ● 赤色（−7 dB 以上）→ 同期乱れ、および受信不可能な異常レベルです。

［ネットワーク設定］

ネットワーク機能を使用する前に、ネットワークの初期設定を行ってください。

1)　▲▼ ボタンで［ネットワーク設定］を選択する

2)　〈ENTER〉ボタンを押す
- ［ネットワーク設定］画面が表示されます。

3)　▲▼ ボタンで各項目を選択し、メニューの操作指示に従って設定を変更する

［プロジェクター名］	プロジェクター名を変更できます。DHCP サーバーを利用する場合などにホスト名が必要であれば入力してください。

[DHCP]	[オン]	プロジェクターを接続するネットワークに DHCP サーバーが存在する場合、自動的に IP アドレスを取得します。
	[オフ]	プロジェクターが接続するネットワークに DHCP サーバーが存在しない場合、[IP アドレス]、[サブネットマスク]、[デフォルトゲートウェイ］の設定を行ってください。
[IP アドレス]	DHCP サーバーを利用しない場合は IP アドレスを入力します。	
[サブネットマスク]	DHCP サーバーを利用しない場合はサブネットマスクを入力します。	
[デフォルトゲートウェイ]	DHCP サーバーを利用しない場合はデフォルトゲートウェイアドレスを入力します。	
[保存]	現在のネットワーク設定を保存します。	

4)　▲▼ ボタンで［保存］を選択し、〈ENTER〉ボタンを押す

5)　確認画面が表示されるので、◀▶ ボタンで［実行］を選択し、〈ENTER〉ボタンを押す

お知らせ

- DHCP サーバーを利用する場合、DHCP サーバーが立ち上がっていることを確認してください。
- IP アドレス、サブネットマスク、デフォルトゲートウェイは、ネットワーク管理者にお問い合わせください。
- ［Art-Net 設定］を［オン 2.X.X.X］、［オン 10.X.X.X］に設定している場合、［ネットワーク設定］は選択できません。

［ネットワークコントロール］

ネットワークのコントロール方法を設定します。

1)　▲▼ ボタンで［ネットワークコントロール］を選択する

2)　〈ENTER〉ボタンを押す

- **［ネットワークコントロール］** 画面が表示されます。

3)　▲▼ ボタンで各項目を選択し、◀▶ ボタンで設定を変更する

[WEB 制御]	WEB 制御したい場合、［オン］に設定します。
[PJLink コントロール]	PJLink プロトコルで制御したい場合、［オン］に設定します。
[コマンドコントロール]	〈SERIAL IN〉/〈SERIAL OUT〉端子の制御コマンド形式（☞ 178 ページ）で制御したい場合、［オン］に設定します。“LAN 経由の制御コマンドについて”（☞ 172 ページ）をご覧ください。
[コマンドポート]	コマンドコントロールで使用するポート番号を設定します。
[Crestron Connected(TM)]	Crestron 社の Crestron Connected™ で制御したい場合、［オン］に設定します。
[AMX D.D.]	AMX 社のコントローラーで制御したい場合、［オン］に設定します。 この機能を［オン］に設定すると、「AMX デバイスディスカバリー」による検知を有効にすることができます。詳細については、AMX 社の WEB サイトをご覧ください。 URL http://www.amx.com/
[EXTRON XTP]	Extron 社製の「XTP トランスミッター」を〈DIGITAL LINK/LAN〉端子に接続する場合、［オン］に設定します。 別売品の DIGITAL LINK 出力対応機器（品番：ET-YFB100、ET-YFB200）を接続する場合は、［EXTRON XTP］の設定を［オフ］にする必要があります。 「XTP トランスミッター」の詳細については、Extron 社の WEB サイトをご覧ください。 URL http://www.extron.co.jp/
[保存]	現在のネットワークコントロール設定を保存します。

4)　▲▼ ボタンで［保存］を選択し、〈ENTER〉ボタンを押す

5)　確認画面が表示されるので、◀▶ ボタンで［実行］を選択し、〈ENTER〉ボタンを押す

［ネットワークステータス］

本機のネットワーク状態を表示します。

1)　▲▼ ボタンで［ネットワークステータス］を選択する

2)　〈ENTER〉ボタンを押す

- **［ネットワークステータス］** 画面が表示されます。

[DHCP]	DHCP サーバーの利用状態を表示します。
[IP アドレス]	［IP アドレス］を表示します。
[サブネットマスク]	［サブネットマスク］を表示します。
[デフォルトゲートウェイ]	［デフォルトゲートウェイ］を表示します。

［DNS1］	優先 DNS サーバーのアドレスを表示します。
［DNS2］	代替 DNS サーバーのアドレスを表示します。
［MAC アドレス］	［MAC アドレス］を表示します。

［DIGITAL LINK メニュー］

別売品の DIGITAL LINK 出力対応機器（品番：ET-YFB100、ET-YFB200）を〈DIGITAL LINK/LAN〉端子に接続している場合、その DIGITAL LINK 出力対応機器のメインメニューが表示されます。詳しくは、DIGITAL LINK 出力対応機器の取扱説明書をご覧ください。

お知らせ

- ［EXTRON XTP］を［オン］に設定している場合、［DIGITAL LINK メニュー］は選択できません。
- デジタルインターフェースボックスおよびデジタルリンクスイッチャーのメニュー画面に、「RETURN」ボタンの操作案内表示があります。本機に「RETURN」ボタンはありませんが、〈MENU〉ボタンで同様に操作できます。

［Art-Net 設定］

Art-Net 機能を使用するための設定を行います。Art-Net 機能で本機を制御する際のチャンネル定義について、詳しくは“Art-Net 機能を使用する”（☞ 170 ページ）をご覧ください。

1)　▲▼ ボタンで［Art-Net 設定］を選択する

2)　◀▶ ボタンで項目を選択する

- ボタンを押すごとに、項目が切り換わります。

［オフ］	Art-Net 機能を無効にします。
［オン 2.X.X.X］	Art-Net 機能を有効に設定し、IP アドレスを 2.X.X.X に設定します。
［オン 10.X.X.X］	Art-Net 機能を有効に設定し、IP アドレスを 10.X.X.X に設定します。
［オン マニュアル］	Art-Net 機能を有効に設定し、IP アドレスは［ネットワーク設定］の設定を使用します。

- ［オフ］以外を選択した場合は、手順 **3)** に進みます。

3)　〈ENTER〉ボタンを押す

- **［Art-Net 設定］**画面が表示されます。

4)　▲▼ ボタンで［チャンネル設定］を選択する

5)　◀▶ ボタンで項目を切り換える

［デフォルト］	チャンネルの割り当てを本機標準の設定で使用します。
［ユーザー］	チャンネルの割り当てを変更する場合に使用します。
［DZ870/DZ21K］	チャンネルの割り当てを DZ870 シリーズおよび DZ21K シリーズ互換で使用します。 DZ870 シリーズ：DZ870 系、DW830 系、DX100 系 DZ21K シリーズ：DZ21K 系、DS20K 系、DW17K 系、DZ16K 系

- ［デフォルト］または［DZ870/DZ21K］を選択している場合、〈ENTER〉ボタンを押すと、チャンネルに割り当てられている機能が表示されます。
- ［デフォルト］または［DZ870/DZ21K］を選択した場合は、手順 **9)** に進みます。

6)　〈ENTER〉ボタンを押す

- **［チャンネル設定］**画面が表示されます。

7)　▲▼ ボタンで設定したいチャンネルを選択し、◀▶ ボタンで項目を切り換える

［光出力］	光量を調整します。
［入力選択］	入力を切り換えます。
［レンズ位置］	レンズ位置を移動します。
［レンズ水平シフト］	水平方向のレンズシフト調整をします。
［レンズ垂直シフト］	垂直方向のレンズシフト調整をします。
［レンズフォーカス］	フォーカス調整をします。
［レンズズーム］	ズーム調整をします。
［電源］	電源状態を制御します。
［シャッター］	シャッターを制御します。
［幾何学歪補正］	幾何学歪補正を行います。

[カスタムマスキング] *1	コンピューターを用いた幾何学歪補正を行います。 PC-1、PC-2、PC-3 を使用する場合、別売品のアップグレードキット（品番：ET-UK20）が必要です。
[フリーズ]	投写映像を静止させます。
[色の濃さ]	色の濃さを調整します。
[色あい]	色あいを調整します。
[ラスターパターン]	ラスターパターンを表示します。
[有効 / 無効]	Art-Net 機能による本機の制御の有効 / 無効を切り換えます。
[なし]	定義なし。

*1　PT-DZ780J のみ

- ▲▼ ボタンで設定したいチャンネルを選択し、〈ENTER〉ボタンを押して項目一覧を表示させ、▲▼ ボタンで項目を選択して〈ENTER〉ボタンを押すことでも設定できます。
- [なし] を除き、複数のチャンネルに同一項目を設定できません。

8)〈MENU〉ボタンを押す

- **[Art-Net 設定]** 画面が表示されます。

9) ▲▼ ボタンで項目を選択し、◀▶ ボタンで設定を切り換える

[NET]	プロジェクターが Art-Net を処理する [NET] を入力します。
[SUB NET]	プロジェクターが Art-Net を処理する [SUB NET] を入力します。
[UNIVERSE]	プロジェクターが Art-Net を処理する [UNIVERSE] を入力します。
[開始アドレス]	プロジェクターが Art-Net を処理する [開始アドレス] を入力します。

10) ▲▼ ボタンで [保存] を選択し、〈ENTER〉ボタンを押す

11) 確認画面が表示されるので、◀▶ ボタンで [実行] を選択し、〈ENTER〉ボタンを押す

お知らせ

- [オン 2.X.X.X] または [オン 10.X.X.X] を選択すると、IP アドレスを自動で計算・設定します。

ネットワーク接続

本機はネットワーク機能を備えており、WEB 制御を使用してコンピューターから下記のような操作ができます。

- プロジェクターの設定と調整
- プロジェクターの状態表示
- プロジェクターが異常時に E メールメッセージを送信

また、本機は「Crestron ConnectedTM」に対応しており、Crestron Electronics, Inc. の以下のアプリケーションソフトを使用できます。

- RoomView Express
- Fusion RV
- RoomView Server Edition

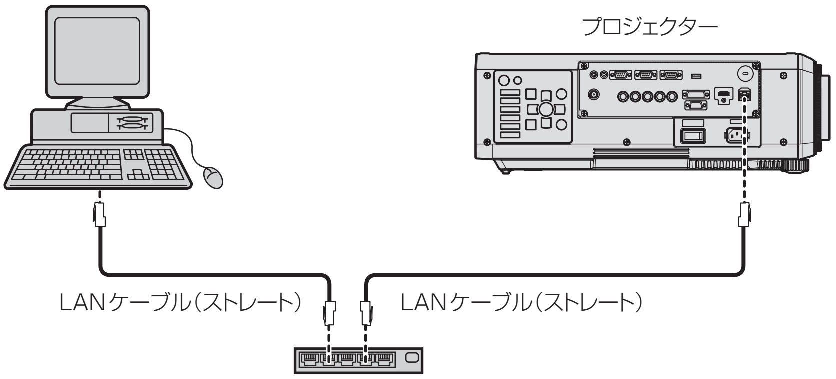
お願い

- プロジェクターに直接接続する LAN ケーブルは、屋内だけで配線してください。

お知らせ

- 「Crestron ConnectedTM」はネットワークに接続された複数のシステムの様々な機器を、コンピューターで一括して管理・制御する Crestron Electronics, Inc. 製のシステムです。
- 「Crestron ConnectedTM」の詳細については、Crestron Electronics, Inc. の WEB サイトをご覧ください。（英語表示のみとなります。）
  URL http://www.crestron.com
  また、「RoomView Express」は、Crestron Electronics, Inc. の WEB サイトよりダウンロードしてください。（英語表示のみとなります。）
  URL http://www.crestron.com/getroomview
- ネットワーク機能を使用する場合は、LAN ケーブルが必要です。

■ 通常のネットワーク接続例

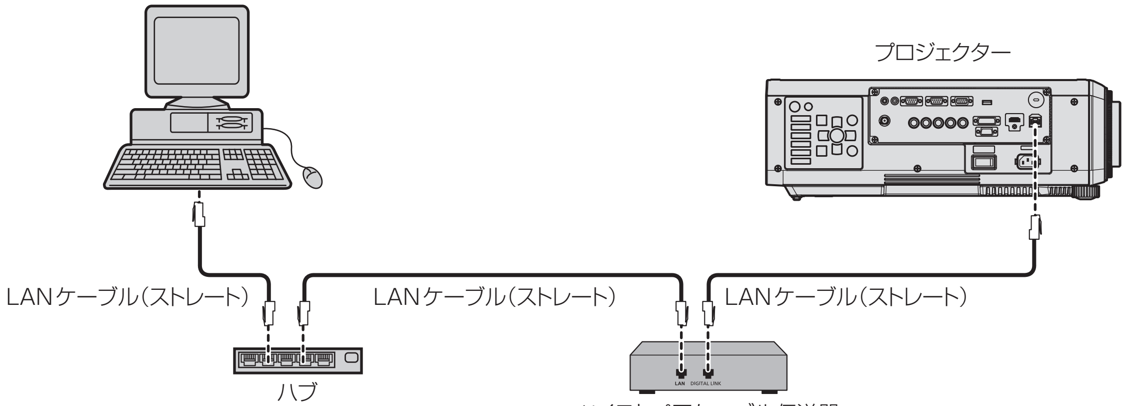


- ネットワーク機能をご使用になる場合は、WEB ブラウザーが必要です。あらかじめ WEB ブラウザーが利用できることを確認してください。
  対応ブラウザー：Internet Explorer 8.0/9.0/10.0/11.0（Windows OS）、Safari 6.0/7.0/8.0（Mac OS）
- E メール機能をご使用になる場合は、E メールサーバーと通信する必要があります。あらかじめ E メールが利用できることを確認してください。
- LAN ケーブルはカテゴリー 5 以上対応のものをご使用ください。
- LAN ケーブル長は 100 m 以下のものをご使用ください。

ツイストペアケーブル伝送器との接続

本機は、ツイストペアケーブル伝送器からのイーサネット信号を映像・音声信号とともに LAN ケーブルを介して受信する機能を備えています。LAN ケーブルは本機の〈DIGITAL LINK/LAN〉端子に接続します。（☞ 15、22 ページ）

■ ツイストペアケーブル伝送器経由のネットワーク接続例



- ツイストペアケーブル伝送器と本機間の LAN ケーブルは、次の条件に適合したケーブルをお使いください。
  - CAT5e 以上の規格に適合
  - シールドタイプ（コネクターを含む）
  - ストレート結線
  - 単線
- ツイストペアケーブル伝送器と本機間の伝送可能距離は、通常は最長 100 m です。またツイストペアケーブル伝送器がロングリーチの通信方式に対応している場合は、最長 150 m まで伝送できます。これを上回ると映像が途切れたり、LAN 通信で誤動作したりすることがあります。
- ツイストペアケーブル伝送器と本機間のケーブル敷設時には、ケーブルテスターやケーブルアナライザーなどを使用して、ケーブルの特性が CAT5e 以上の特性を満たしていることをご確認ください。
  途中に中継コネクターを介している場合は、それも含めて測定してください。
- ツイストペアケーブル伝送器と本機間にハブを使用しないでください。
- ケーブルを強い力で引っ張らないでください。また、無理に曲げたり折り畳んだりしないようにしてください。
- ノイズの影響を少なくするため、ツイストペアケーブル伝送器と本機間のケーブルはできるだけ巻かずに引き伸ばした状態で、設置・使用してください。
- ツイストペアケーブル伝送器と本機間のケーブルは、他のケーブル、特に電源ケーブルからは離して敷設してください。
- 複数のケーブルを敷設するときは、束ねないで並走する距離をできるだけ短くしてください。
- ケーブル敷設後にメニューの［ネットワーク］→［DIGITAL LINK ステータス］で［信号品質］の数値が、正常な品質を示す緑色で表示されることを確認してください。(☞ 133 ページ)
- 本機で動作確認済みの他社製ツイストペアケーブル伝送器については、弊社 WEB サイト（http://panasonic.biz/projector/）をご覧ください。他社製機器の動作確認は、弊社確認項目について実施したものであり、すべての動作を保証するものではありません。他社製機器に起因する操作や性能上の不具合などについては、各メーカーにお問い合わせください。

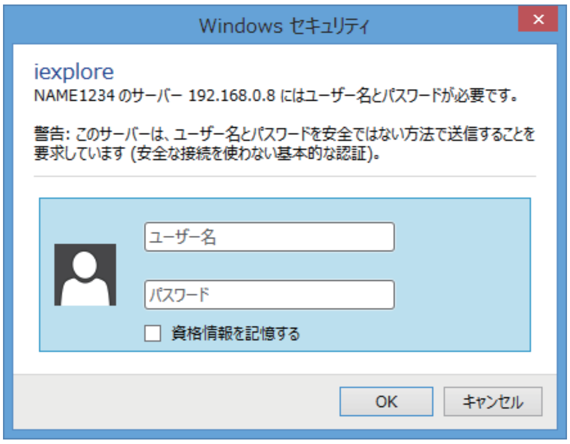
WEB ブラウザーからのアクセスのしかた

1)　コンピューターの WEB ブラウザーを起動する

2)　WEB ブラウザーの URL 入力欄に本機で設定した IP アドレスを入力する

3)　ユーザー名とパスワードを入力する

- 工場出荷時の設定は、ユーザー名：user1（ユーザー権限）/admin1（アドミニストレーター権限）、パスワード：panasonic（小文字）です。



4)　OK をクリックする

- ［プロジェクター情報］ページが表示されます。

お知らせ

- WEB ブラウザーで制御する場合は、［ネットワークコントロール］（☞ 134 ページ）で［WEB 制御］を［オン］に設定してください。
- WEB ブラウザーを同時に複数立ち上げて、設定や制御をすることは避けてください。また、複数台のコンピューターから同一のプロジェクターに対して設定や制御をすることも避けてください。
- 最初にパスワードを変更してください。（☞ 151 ページ）
- アドミニストレーター権限は、全機能を使用できます。ユーザー権限は、［プロジェクター情報］（☞ 140 ページ）、エラー情報ページの確認（☞ 141 ページ）、［ネットワーク情報］（☞ 142 ページ）、［基本制御］（☞ 143 ページ）、［パスワード変更］（☞ 151 ページ）のみ使用できます。
- パスワードを 3 回続けて間違えると、数分間ロックされます。
- 本機の設定ページには、WEB ブラウザーの Javascript 機能を利用している項目があります。WEB ブラウザーがこの機能を使用していない設定になっている場合には、正常にコントロールできない場合があります。
- WEB 制御の画面が表示されない場合は、ネットワーク管理者にご相談ください。
- WEB 制御の画面更新時に、画面が一瞬白くなることがありますが、故障ではありません。

各項目の説明

1　ページ切り換えタブ
クリックすると、ページが切り換わります。

2　［モニター情報］
この項目をクリックすると、プロジェクターの状態が表示されます。

3　［プロジェクターコントロール］
この項目をクリックすると、［プロジェクターコントロール］ページが表示されます。

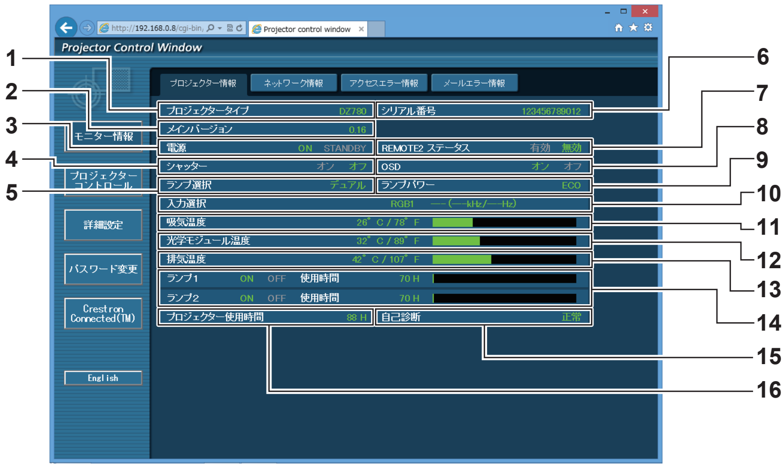
4　［詳細設定］
この項目をクリックすると、［詳細設定］ページが表示されます。

5　［パスワード変更］
この項目をクリックすると、［パスワード変更］ページが表示されます。

6　［Crestron Connected(TM)］
この項目をクリックすると、Crestron Connected™ の操作ページが表示されます。

［プロジェクター情報］ページ

［モニター情報］→［プロジェクター情報］をクリックします。
以下の項目における本機の状態を表示します。



1　［プロジェクタータイプ］
プロジェクターの種類を表示します。

2　［メインバージョン］
プロジェクター本体のファームウェアバージョンを表示します。

3　［電源］
電源の状態を表示します。

4　［シャッター］
シャッター機能の状態（オン：有効（閉）、オフ：無効（開））を表示します。

5　［ランプ選択］
［ランプ選択］（☞ 106 ページ）の設定状態を表示します。

6　［シリアル番号］
プロジェクターのシリアル番号を表示します。

7　［REMOTE2 ステータス］
〈REMOTE 2 IN〉端子による制御状態を表示します。

8　［OSD］
オンスクリーン表示の状態を表示します。

9　［ランプパワー］
［ランプパワー］（☞ 107 ページ）の設定状態を表示します。

10　［入力選択］
選択している入力の状態を表示します。

11　［吸気温度］
プロジェクターの吸気温度状態を表示します。

12　［光学モジュール温度］
プロジェクターの内部温度状態を表示します。

13　［排気温度］
プロジェクターの排気温度状態を表示します。

14　［ランプ 1］、［ランプ 2］、［使用時間］
ランプの点灯状態、使用時間を表示します。

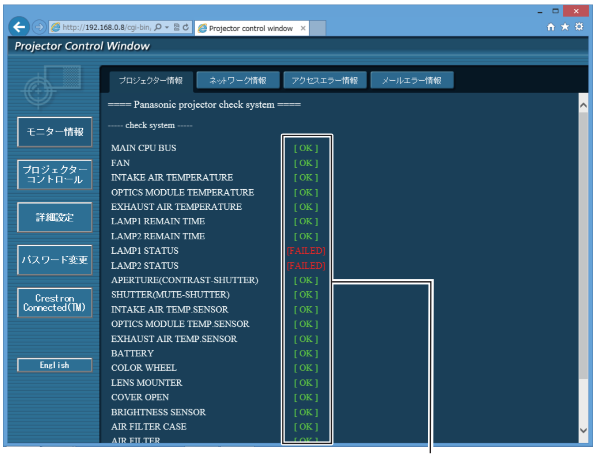
15　［自己診断］
自己診断情報を表示します。

16　［プロジェクター使用時間］
プロジェクターの稼働時間を表示します。

エラー情報ページ

[プロジェクター情報] 画面の自己診断情報表示欄に［エラー（詳細表示）］または［警告（詳細表示）］が表示されたとき、その部分をクリックするとエラー / 警告内容が表示されます。

- エラーの内容によっては、プロジェクター保護のためスタンバイ状態になります。



1

1　自己診断の結果表示
項目のチェック結果を表します。
[OK]：
正常に動作していることを表します。
[FAILED]：
異常が発生していることを表します。
[WARNING]：
警告が発せられていることを表します。

■ [FAILED] の項目について

項目	説明
[MAIN CPU BUS]	マイコン回路に異常があります。販売店にご相談ください。
[FAN]	ファンやファン駆動回路に異常があります。販売店にご相談ください。
[INTAKE AIR TEMPERATURE]	吸気温度が高くなっています。暖房機器の近くなど、温度が高い環境で使用している可能性があります。
[OPTICS MODULE TEMPERATURE]	本機内部の光学モジュール周辺の温度が高くなっています。暖房機器の近くなど、温度が高い環境で使用している可能性があります。
[EXHAUST AIR TEMPERATURE]	排気温度が高くなっています。排気口がふさがれている可能性があります。
[LAMP1 REMAIN TIME]	ランプ使用時間が所定の時間を超えており、ランプを交換する時期になっています。
[LAMP2 REMAIN TIME]	
[LAMP1 STATUS]	ランプ点灯に失敗しています。光源ランプが冷えるまでしばらく待ってから電源を入れてください。
[LAMP2 STATUS]	
[APERTURE（CONTRAST-SHUTTER)]	コントラストシャッター回路に異常があります。販売店にご相談ください。
[SHUTTER（MUTE-SHUTTER)]	シャッター回路に異常があります。販売店にご相談ください。
[INTAKE AIR TEMP.SENSOR]	吸気温度感知用センサーに異常があります。販売店にご相談ください。
[OPTICS MODULE TEMP.SENSOR]	本機内部の温度感知センサーに異常があります。販売店にご相談ください。
[EXHAUST AIR TEMP.SENSOR]	排気温度感知センサーに異常があります。販売店にご相談ください。
[COLOR WHEEL]	カラーホイールやカラーホイール駆動回路に異常があります。販売店にご相談ください。
[LENS MOUNTER]	レンズマウンターに異常があります。販売店にご相談ください。
[COVER OPEN]	ランプユニット収納扉の取り付けが不完全です。ランプユニット収納扉の取り付けを確認してください。（☞ 162 ページ）
[BRIGHTNESS SENSOR]	輝度センサーに異常があります。電源を入れ直しても直らない場合は販売店にご相談ください。

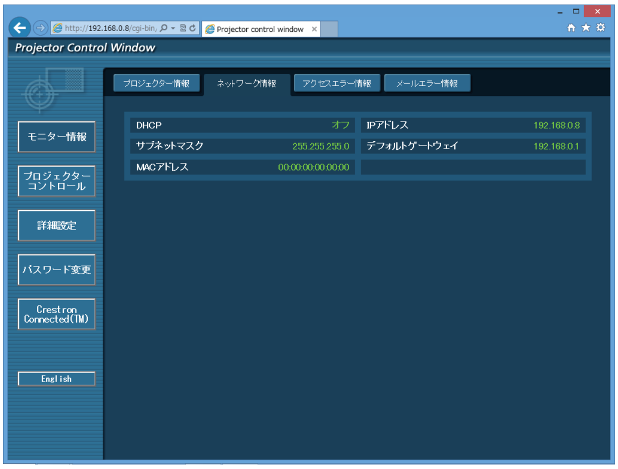
■ [WARNING] の項目について

項目	説明
[AC POWER]	AC 入力の電圧が低下しています。本機の消費電流に対し、余裕がある電気配線にしてください。

項目	説明
[LOW-TEMPERATURE]	本機内部の光学モジュール周辺の温度が低くなっています。光学モジュールが温まるまで映像を投写できません。
[HORIZONTAL TILT]	本機が水平から垂直方向に 15° 以上傾いて使用されています。
[LIGHT OUTPUT LIMIT]	温度が高い環境で使用している可能性があり、プロジェクターを保護するために、光出力を約 20 %低下させています。
[INTAKE AIR TEMPERATURE]	吸気温度が高くなっています。暖房機器の近くなど、温度が高い環境で使用している可能性があります。
[OPTICS MODULE TEMPERATURE]	本機内部の光学モジュール周辺の温度が高くなっています。暖房機器の近くなど、温度が高い環境で使用している可能性があります。
[EXHAUST AIR TEMPERATURE]	排気温度が高くなっています。排気口がふさがれている可能性があります。
[LAMP1 REMAIN TIME]	ランプ使用時間が所定の時間を超えており、ランプを交換する時期になっています。
[LAMP2 REMAIN TIME]	
[BATTERY]	電池交換が必要です。販売店にご相談ください。
[AIR FILTER CASE]	エアフィルターケースが装着されていません。エアフィルターの取り付けを確認してください。(☞ 160 ページ)
[AIR FILTER]	エアフィルターにほこりがたまりすぎています。主電源〈MAIN POWER〉スイッチを〈OFF〉にして（☞ 56 ページ)、エアフィルターのお手入れをしてください。(☞ 160 ページ)

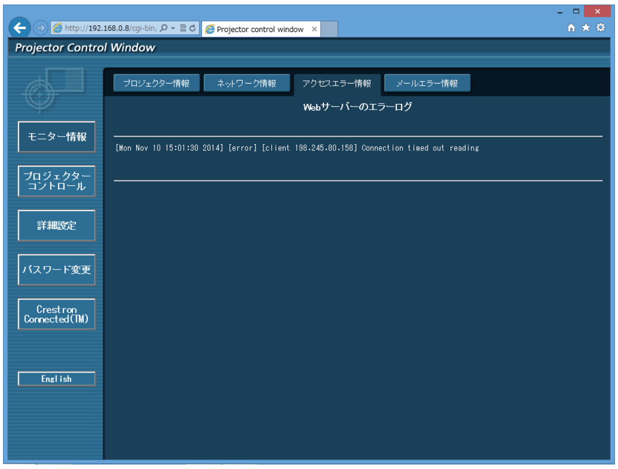
[ネットワーク情報] ページ

[モニター情報] → [ネットワーク情報] をクリックします。
現在のネットワークの設定情報が表示されます。



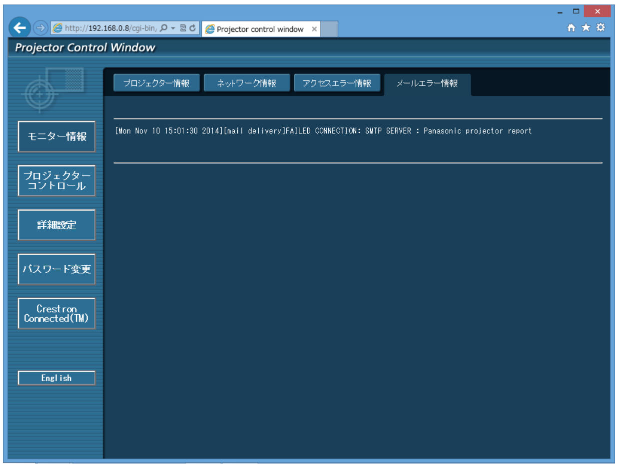
[アクセスエラー情報] ページ

[モニター情報] → [アクセスエラー情報] をクリックします。
存在しないページへのアクセスや不正なユーザー名、パスワードでのアクセスなど、WEB サーバーのエラー情報が表示されます。



［メールエラー情報］ページ

［モニター情報］→［メールエラー情報］をクリックします。
定期的な E メールの送信に失敗した場合の、メールのエラー情報が表示されます。

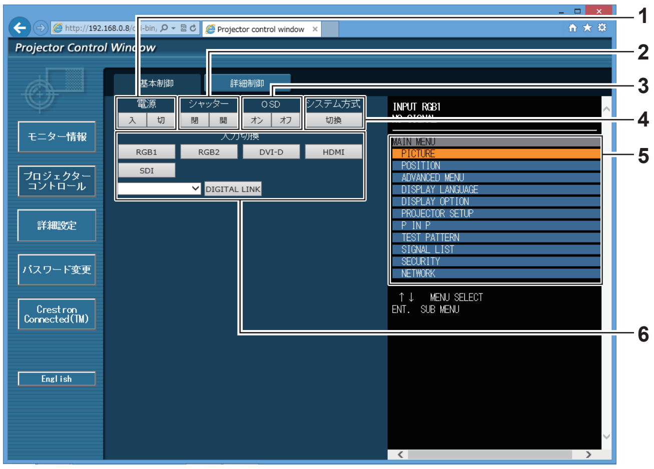


お知らせ

- ［アクセスエラー情報］および［メールエラー情報］は、過去数千回分のアクセス / リクエストを表示します。一度に多量のアクセス / リクエストが発生した場合は、すべての情報を表示できない可能性があります。
- ［アクセスエラー情報］および［メールエラー情報］は、一定量を超えると古い情報から消えます。
- ［アクセスエラー情報］および［メールエラー情報］は、定期的に確認してください。

［基本制御］ページ

［プロジェクターコントロール］→［基本制御］をクリックします。



1　［電源］
電源の入 / 切を行います。

2　［シャッター］
シャッター機能を使用するかどうか（有効（シャッター：閉）/ 無効（シャッター：開））を切り換えます。

3　［OSD］
オンスクリーン表示機能のオン（表示）/ オフ（非表示）を切り換えます。

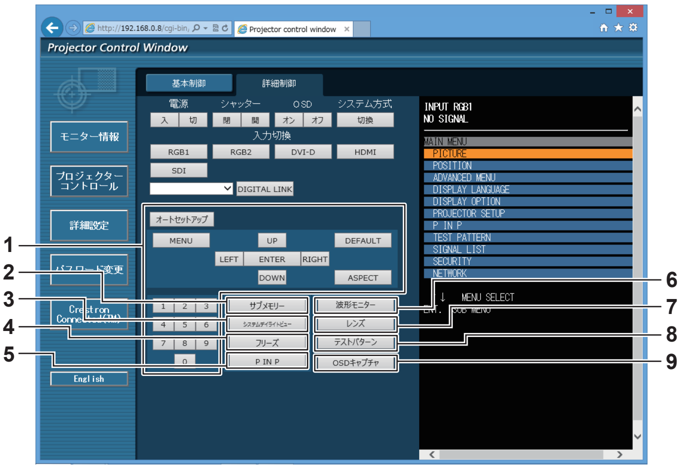
4　［システム方式］
システム方式を切り換えます。

5　プロジェクターのオンスクリーン表示
プロジェクターのオンスクリーン表示と同じ内容が表示されます。メニューの設定内容の確認や変更ができます。オンスクリーン表示機能がオフ（非表示）に設定されていても表示されます。

6　［入力切換］
入力信号を切り換えます。
（SDI 入力は PT-DZ780J のみ対応）

[詳細制御] ページ

[プロジェクターコントロール] → [詳細制御] をクリックします。



1　**プロジェクターの制御**
リモコンのボタンと同じように各ボタンをクリックすることによりプロジェクターを制御します。制御後に制御ページ右側のプロジェクターのオンスクリーン表示を更新します。

2　**[サブメモリー]**
サブメモリーの切り換えをします。

3　**[システムデイライトビュー]**
システムデイライトビューの設定を切り換えます。

4　**[フリーズ]**
映像を一時的に静止させます。

5　**[P IN P]**
P IN P の設定を切り換えます。

6　**[波形モニター]**
入力信号の波形を表示します。

7　**[レンズ]**
投写レンズを調整します。

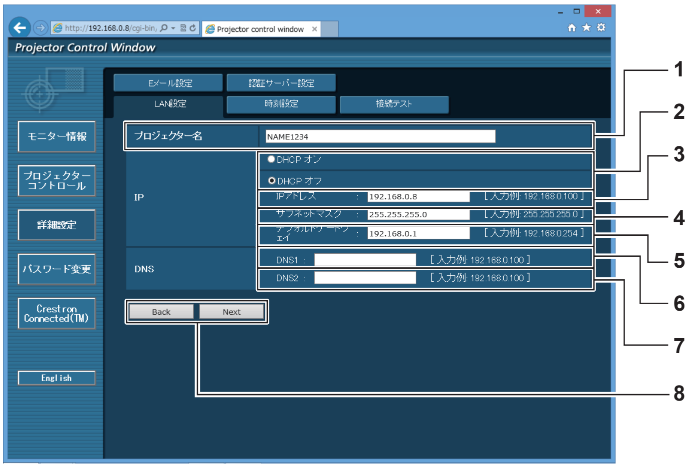
8　**[テストパターン]**
テストパターンを表示します。

9　**[OSD キャプチャ]**
制御ページ右側のプロジェクターのオンスクリーン表示を、最新の状態に更新します。

[LAN 設定] ページ

[詳細設定] → [LAN 設定] をクリックします。

- [LAN 設定] をクリックすると、**[CAUTION!]** 画面が表示されます。
- [Next] ボタンをクリックすると、現在の設定内容が表示されます。
- [Change] ボタンをクリックすると、設定変更画面が表示されます。



1　[プロジェクター名]
プロジェクターの名前を入力します。DHCP サーバーを利用する場合などにホスト名が必要であれば入力してください。

2　[DHCP オン]、[DHCP オフ]
DHCP クライアント機能を有効にする場合は [DHCP オン] にします。

3　[IP アドレス]
DHCP サーバーを利用しない場合は IP アドレスを入力します。

4　[サブネットマスク]
DHCP サーバーを利用しない場合はサブネットマスクを入力します。

5　[デフォルトゲートウェイ]
DHCP サーバーを利用しない場合はデフォルトゲートウェイアドレスを入力します。

6　[DNS1]
DNS1 サーバーアドレスを入力します。
DNS1 サーバーアドレス (プライマリー) の入力使用可能文字：数字 (0 ～ 9)、ピリオド (.)
(例：192.168.0.253)

7　[DNS2]
DNS2 サーバーアドレスを入力します。
DNS2 サーバーアドレス (セカンダリー) の入力使用可能文字：数字 (0 ～ 9)、ピリオド (.)
(例：192.168.0.254)

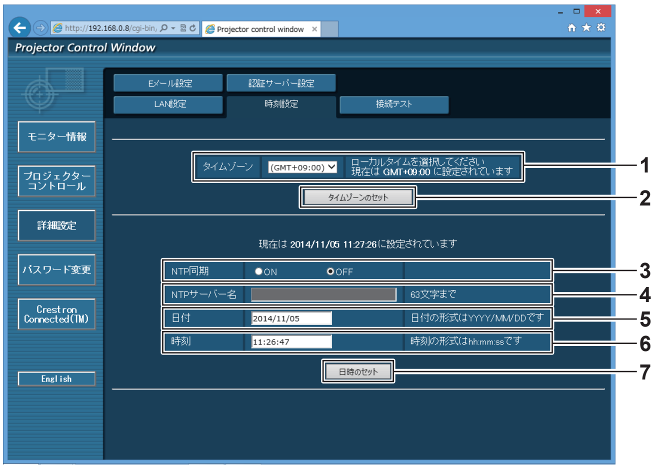
8　[Back]、[Next]
[Back] ボタンをクリックすると、元の画面に戻ります。[Next] ボタンをクリックすると、設定内容を確認する画面が表示されます。[Submit] ボタンをクリックして設定を更新します。

お知らせ

- ブラウザーの「戻る」または「進む」機能を使用した場合、「ページの有効期限切れ」という警告画面が表示されることがあります。その場合、以降の動作は保証されませんので、再度 [LAN 設定] をクリックしてください。
- LAN で接続中に LAN 設定を変更すると、接続が途切れる場合があります。

[時刻設定] ページ

[詳細設定] → [時刻設定] をクリックします。



1　**[タイムゾーン]**
タイムゾーンを選択します。
(日本は GMT+09:00)

2　**[タイムゾーンのセット]**
タイムゾーンの設定を更新します。

3　**[NTP 同期]**
自動で日時を設定する場合は [ON] にします。

4　**[NTP サーバー名]**
自動で日時を設定する場合は NTP サーバーの IP アドレスかサーバー名を入力します。
(サーバー名を入力する場合は、DNS サーバーの設定が必要です。)

5　**[日付]**
変更する日付を入力します。

6　**[時刻]**
変更する時間を入力します。

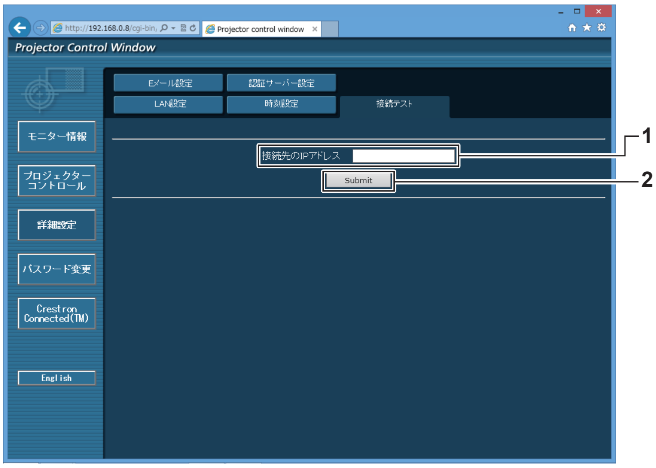
7　**[日時のセット]**
日時設定を更新します。

お知らせ

- 時刻を設定してもすぐに時刻が合わなくなる場合は、本機内部の電池交換が必要です。お買い上げの販売店にご相談ください。

[接続テスト] ページ

E メールサーバー、POP サーバー、DNS サーバーなどとネットワークが接続しているかを確認できます。
[詳細設定] → [接続テスト] をクリックします。




```
PING 192.168.0.50 (192.168.0.50): 56 data bytes
64 bytes from 192.168.0.50: seq=0 ttl=128 time=1 ms
64 bytes from 192.168.0.50: seq=1 ttl=128 time=1 ms
64 bytes from 192.168.0.50: seq=2 ttl=128 time=1 ms
64 bytes from 192.168.0.50: seq=3 ttl=128 time=1 ms

--- 192.168.0.50 ping statistics ---
4 packets transmitted, 4 packets received, 0% packet loss
round-trip min/avg/max = 1/1/1 ms
```
3

```
PING 192.168.0.51 (192.168.0.51): 56 data bytes

--- 192.168.0.51 ping statistics ---
4 packets transmitted, 0 packets received,100% packet loss
```
4

1　**[接続先の IP アドレス]**
テストするサーバーの IP アドレスを入力します。

2　**[Submit]**
接続テストを実行します。

3　**接続できた場合の表示例**

4　**接続できなかった場合の表示例**

[E メール設定] ページ

異常時やランプの使用時間が設定値になったとき、あらかじめ設定しておいた E メールアドレス（最大 2 か所）にメールを送信できます。

[詳細設定] → [E メール設定] をクリックします。

1　**[許可]**
E メール機能を使用する場合は [有効] を選択してください。

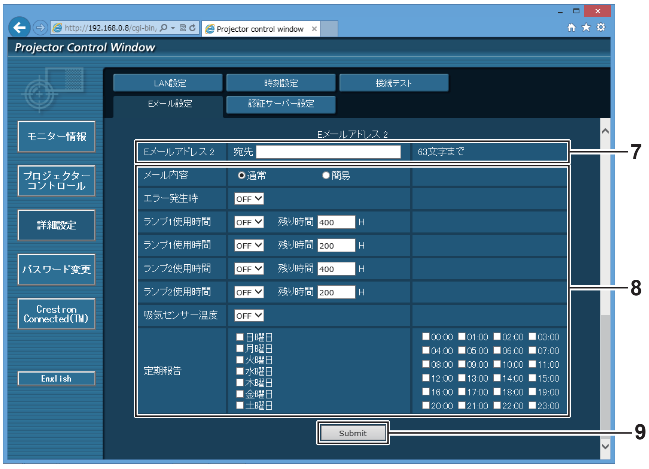
2　**[SMTP サーバー名]**
E メールサーバー（SMTP）の IP アドレスかサーバー名を入力してください。サーバー名を入力する場合は、DNS サーバーの設定が必要です。

3　**[送信者メールアドレス]**
プロジェクターの E メールアドレスを入力してください。（半角で 63 文字まで）

4　**[メモ]**
E メールの発信元がわかりやすいように、プロジェクターの設置場所などを入力できます。（半角で 63 文字まで）

5　**[最短送信間隔]**
温度警告メールの最短時間間隔を変更できます。初期値は 60 分です。この場合、温度警告メールを送信後 60 分間は、再び警告温度になってもメールを送信できません。

6　**[吸気センサー温度]**
温度警告メール用の設定温度を変更できます。この値を超えた場合、温度警告メールを送信します。



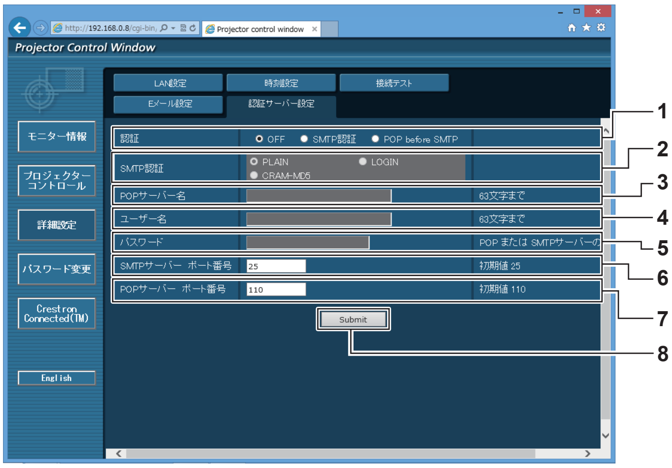
7　**[E メールアドレス 1]、[E メールアドレス 2]**
送信する宛先の E メールアドレスを入力してください。2 つの E メールアドレスを使わない場合は、[E メールアドレス 2] を未記入にします。

8　**E メールを送信する条件の設定**
E メールを送信する条件を選択します。
[メール内容]：
[通常] か [簡易] を選択します。
[エラー発生時]：
自己診断でエラーが発生した場合に送信します。
[ランプ 1 使用時間]：
ランプ 1 の点灯残り時間が右側の欄に設定した時間になった場合に送信します。
[ランプ 2 使用時間]：
ランプ 2 の点灯残り時間が右側の欄に設定した時間になった場合に送信します。
[吸気センサー温度]：
吸気温度が上欄に設定された値になった場合に送信します。
[定期報告]：
E メールを定期的に送信する場合はチェックします。
チェックの付いている曜日・時間にメールを送信します。

9　**[Submit]**
設定を更新します。

[認証サーバー設定] ページ

メール送信に POP 認証または SMTP 認証が必要な場合は認証項目を設定します。
[詳細設定] → [認証サーバー設定] をクリックします。



1　[認証]
インターネットプロバイダー側が指示する認証方式を選択します。

2　[SMTP 認証]
SMTP 認証を選択した場合に設定します。

3　[POP サーバー名]
POP サーバー名を入力します。
使用可能文字：
英数字（A ～ Z、a ～ z、0 ～ 9）
マイナス記号（-）ピリオド（.）

4　[ユーザー名]
POP サーバーまたは SMTP サーバーのユーザー名を入力します。

5　[パスワード]
POP サーバーまたは SMTP サーバーのパスワードを入力します。

6　[SMTP サーバー ポート番号]
SMTP サーバーのポート番号を入力します。
（通常は 25 番です）

7　[POP サーバー ポート番号]
POP サーバーのポート番号を入力します。
（通常は 110 番です）

8　[Submit]
設定を更新します。

送信するメール内容

E メール設定時のメール送信例

E メール設定を行ったときはこのようなメールを発信します。

```
=== Panasonic projector report(CONFIGURE) ===
Projector Type      : DZ780
Serial No           : 123456789012

-----  E-mail setup data -----
TEMPERATURE WARNING SETUP
MINIMUM TIME              at [ 60] minutes interval
INTAKE AIR TEMPERATURE              Over [ 46 degC / 114 degF ]

ERROR                           [ ON  ]
LAMP1 RUNTIME                   [ ON  ]   at REMAIN [ 400] H
LAMP1 RUNTIME                   [ ON  ]   at REMAIN [ 200] H
LAMP2 RUNTIME                   [ ON  ]   at REMAIN [ 400] H
LAMP2 RUNTIME                   [ ON  ]   at REMAIN [ 200] H
INTAKE AIR TEMPERATURE          [ OFF ]
PERIODIC REPORT
Sunday     [ OFF ]  Monday    [ OFF ]  Tuesday    [ OFF ]  Wednesday   [ OFF ]
Thursday   [ OFF ]  Friday    [ OFF ]  Saturday   [ OFF ]

00:00  [ OFF ]    01:00  [ OFF ]    02:00  [ OFF ]    03:00  [ OFF ]
04:00  [ OFF ]    05:00  [ OFF ]    06:00  [ OFF ]    07:00  [ OFF ]
08:00  [ OFF ]    09:00  [ OFF ]    10:00  [ OFF ]    11:00  [ OFF ]
12:00  [ OFF ]    13:00  [ OFF ]    14:00  [ OFF ]    15:00  [ OFF ]
16:00  [ OFF ]    17:00  [ OFF ]    18:00  [ OFF ]    19:00  [ OFF ]
20:00  [ OFF ]    21:00  [ OFF ]    22:00  [ OFF ]    23:00  [ OFF ]

-----  check system -----
MAIN CPU BUS                         [   OK   ]
FAN                                  [   OK   ]
INTAKE AIR TEMPERATURE               [   OK   ]
OPTICS MODULE TEMPERATURE            [   OK   ]
EXHAUST AIR TEMPERATURE              [   OK   ]
LAMP1 REMAIN TIME                    [   OK   ]
LAMP2 REMAIN TIME                    [   OK   ]
LAMP1 STATUS                         [ FAILED ]
LAMP2 STATUS                         [ FAILED ]
APERTURE(CONTRAST-SHUTTER)           [   OK   ]
SHUTTER(MUTE-SHUTTER)                [   OK   ]
INTAKE AIR TEMP.SENSOR               [   OK   ]
OPTICS MODULE TEMP.SENSOR            [   OK   ]
EXHAUST AIR TEMP.SENSOR              [   OK   ]
BATTERY                              [   OK   ]
COLOR WHEEL                          [   OK   ]
LENS MOUNTER                         [   OK   ]
COVER OPEN                           [   OK   ]
BRIGHTNESS SENSOR                    [   OK   ]
AIR FILTER CASE                      [   OK   ]
AIR FILTER                           [   OK   ]
AC POWER                             [   OK   ]
(Error code 00 00 00 60 00 00 00 00 00 00 00 00 03 00 00 00)

Intake air temperature        : --- degC / --- degF
Optics module temperature : --- degC / --- degF
Exhaust air temperature      : --- degC / --- degF
PROJECTOR RUNTIME        21 H
POWER ON                 34 times
LAMP1 ON                  0 times
LAMP1 ECO                 0 H
LAMP1 NORMAL              0 H
LAMP1 REMAIN           4000 H
LAMP2 ON                  0 times
LAMP2 ECO                 0 H
LAMP2 NORMAL              0 H
LAMP2 REMAIN           4000 H

-------- Current status ---------
MAIN VERSION          0.16
SUB VERSION           0.01.01
LAMP STATUS           LAMP1=OFF LAMP2=OFF
INPUT                 RGB2
REMOTE2 STATUS        DISABLE

----- Wired Network configuration -----
DHCP Client       OFF
IP address        192.168.0.8
MAC address       10:20:30:40:50:60

Mon Jan 01 12:34:56 20XX

----- Memo -----
```

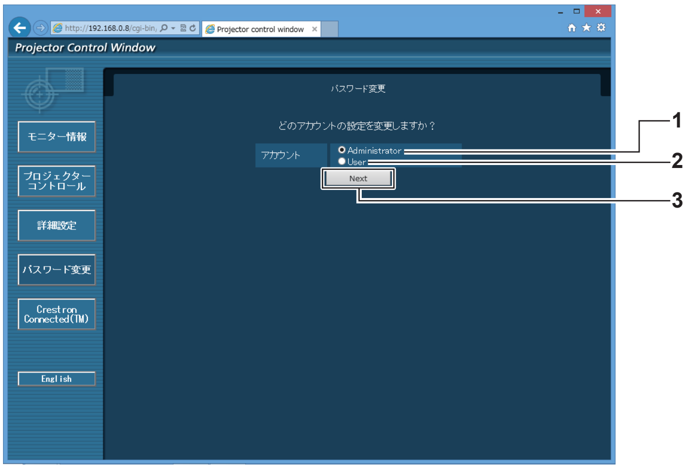
エラー時のメール送信例

エラーになったときはこのようなメールを発信します。

```
=== Panasonic projector report(ERROR) ===
Projector Type      : DZ780
Serial No           : 123456789012

-----  check system -----
MAIN CPU BUS                        [   OK   ]
FAN                                 [   OK   ]
INTAKE AIR TEMPERATURE              [   OK   ]
OPTICS MODULE TEMPERATURE           [   OK   ]
EXHAUST AIR TEMPERATURE             [   OK   ]
LAMP1 REMAIN TIME                   [   OK   ]
LAMP2 REMAIN TIME                   [   OK   ]
LAMP1 STATUS                        [ FAILED ]
LAMP2 STATUS                        [ FAILED ]
APERTURE(CONTRAST-SHUTTER)          [   OK   ]
SHUTTER(MUTE-SHUTTER)               [   OK   ]
INTAKE AIR TEMP.SENSOR              [   OK   ]
OPTICS MODULE TEMP.SENSOR           [   OK   ]
EXHAUST AIR TEMP.SENSOR             [   OK   ]
BATTERY                             [   OK   ]
COLOR WHEEL                         [   OK   ]
LENS MOUNTER                        [   OK   ]
COVER OPEN                          [   OK   ]
BRIGHTNESS SENSOR                   [   OK   ]
AIR FILTER CASE                     [   OK   ]
AIR FILTER                          [   OK   ]
AC POWER                            [   OK   ]
(Error code 00 00 00 60 00 00 00 00 00 00 00 00 03 00 00 00)

Intake air temperature        : --- degC / --- degF
Optics module temperature : --- degC / --- degF
Exhaust air temperature       : --- degC / --- degF
PROJECTOR RUNTIME       21 H
POWER ON                34 times
LAMP1 ON                 0 times
LAMP1 ECO                0 H
LAMP1 NORMAL             0 H
LAMP1 REMAIN          4000 H
LAMP2 ON                 0 times
LAMP2 ECO                0 H
LAMP2 NORMAL             0 H
LAMP2 REMAIN          4000 H

-------- Current status ---------
MAIN VERSION          0.16
SUB VERSION           0.01.01
LAMP STATUS           LAMP1=OFF LAMP2=OFF
INPUT                 RGB2
REMOTE2 STATUS        DISABLE

----- Wired Network configuration -----
DHCP Client        OFF
IP address         192.168.0.8
MAC address        10:20:30:40:50:60

Mon Jan 01 12:34:56 20XX

----- Memo -----
```

［パスワード変更］ページ

［パスワード変更］をクリックします。

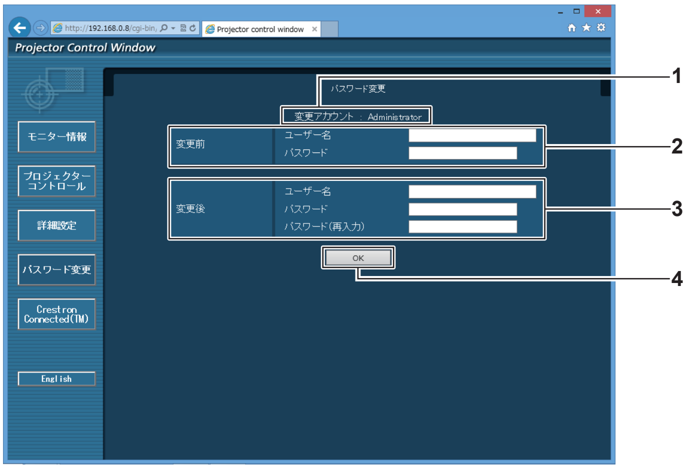


1　［Administrator］
［Administrator］（アドミニストレーター）の設定を変更する場合に選択します。

2　［User］
［User］（ユーザー）の設定を変更する場合に選択します。

3　［Next］
パスワードの設定を変更する画面を表示します。

［Administrator］（アドミニストレーター）について



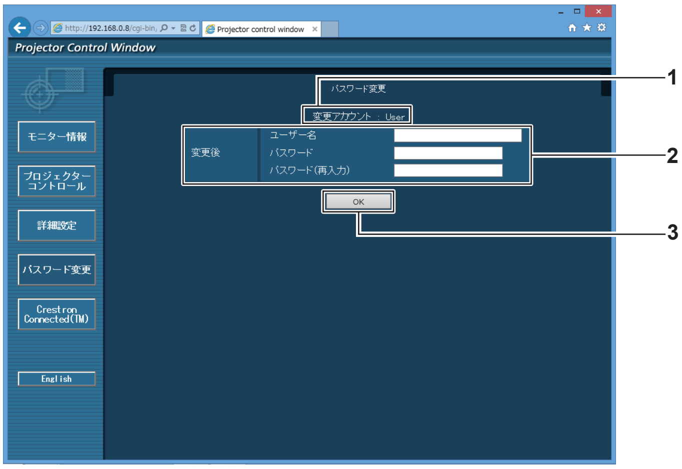
1　［変更アカウント］
変更するアカウントが表示されます。

2　［変更前］
［ユーザー名］：
変更前のユーザー名を入力します。
［パスワード］：
変更前のパスワードを入力します。

3　［変更後］
［ユーザー名］：
変更後のユーザー名を入力します。（半角で 16 文字まで）
［パスワード］：
変更後のパスワードを入力します。（半角で 16 文字まで）
［パスワード（再入力）］：
変更後のパスワードを再度入力します。

4　［OK］
パスワードの変更を確定します。

[User]（ユーザー）について



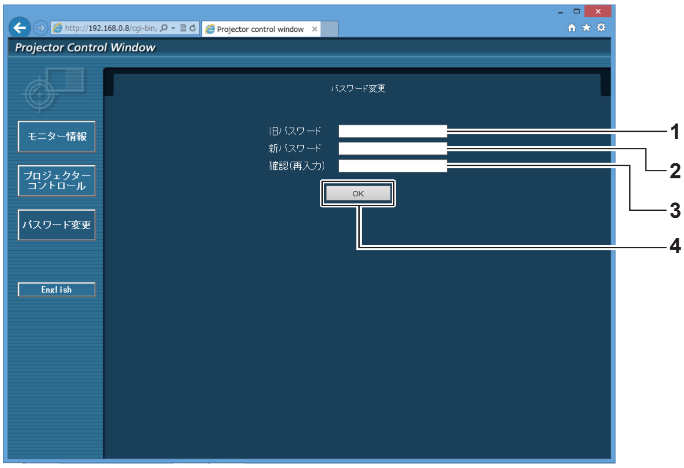
1　[変更アカウント]
変更するアカウントが表示されます。

2　[変更後]
[ユーザー名]：
変更後のユーザー名を入力します。（半角で 16 文字まで）
[パスワード]：
変更後のパスワードを入力します。（半角で 16 文字まで）
[パスワード（再入力)]：
変更後のパスワードを再度入力します。

3　[OK]
パスワードの変更を確定します。

[パスワード変更]（ユーザー権限でアクセスした場合）

ユーザー権限時はパスワードの変更のみ有効です。



1　[旧パスワード]
変更前のパスワードを入力します。

2　[新パスワード]
変更後のパスワードを入力します。（半角で 16 文字まで）

3　[確認（再入力)]
変更後のパスワードを再度入力します。

4　[OK]
パスワードの変更を確定します。

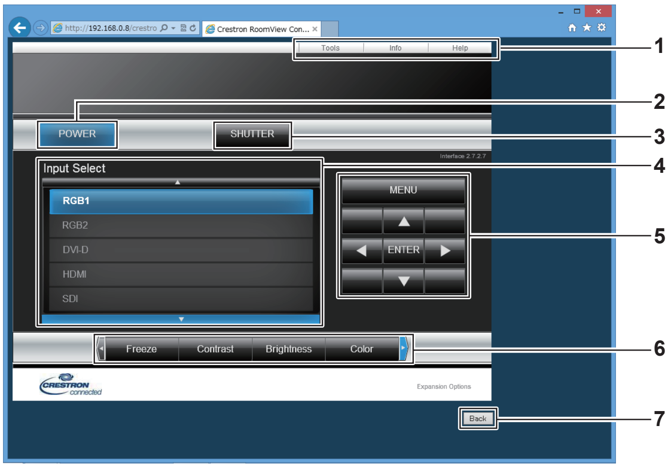
お知らせ

- アドミニストレーターのアカウントを変更する場合は、[変更前] の [ユーザー名] と [パスワード] の入力が必要です。

[Crestron Connected(TM)] ページ

Crestron Connected™ でプロジェクターの監視 / 制御を行うことができます。
WEB 制御画面から Crestron Connected™ の操作ページを起動するには、アドミニストレーター権限でアクセスする必要があります。(ユーザー権限では、WEB 制御画面に [Crestron Connected(TM)] ボタンが表示されません。)
[Crestron Connected(TM)] をクリックすると、Crestron Connected™ の操作ページが表示されます。
ご使用のコンピューターに Adobe Flash Player がインストールされていない場合、または Flash に対応していないブラウザーでは表示されません。その場合、操作ページの [Back] をクリックして前のページに戻ってください。

操作ページ



1　[Tools]、[Info]、[Help]
プロジェクターの設定 / 情報 / ヘルプページに切り換えるタブです。

2　[POWER]
電源の入 / 切を行います。

3　[SHUTTER]
シャッター機能を使用するかどうか (有効 (シャッター：閉) / 無効 (シャッター：開)) を切り換えます。

4　[Input Select]
入力切り換えの操作をします。
プロジェクターの電源が切れている場合、操作はできません。

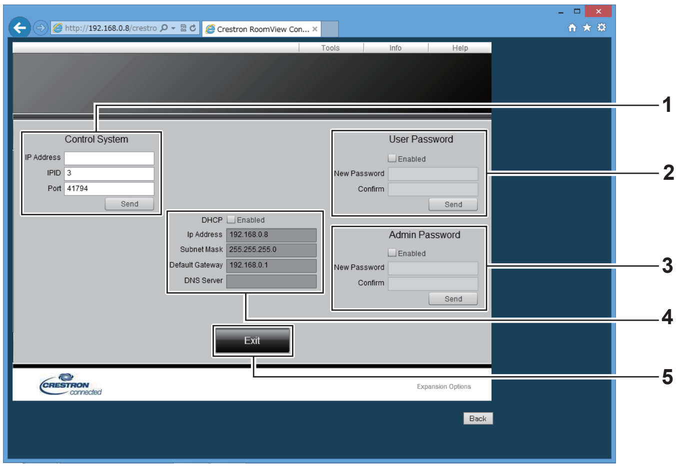
5　メニュー画面の操作ボタン
メニュー画面の操作をします。

6　フリーズ / 画質調整
フリーズ / 画質に関する項目の操作をします。

7　[Back]
前のページへ戻る操作をします。

[Tools] ページ

操作ページで［Tools］をクリックします。



1　**[Control System]**
プロジェクターに接続するコントローラーとの通信に必要な情報を設定します。

2　**[User Password]**
Crestron Connected™ の操作ページ内でのユーザー権限パスワードを設定します。

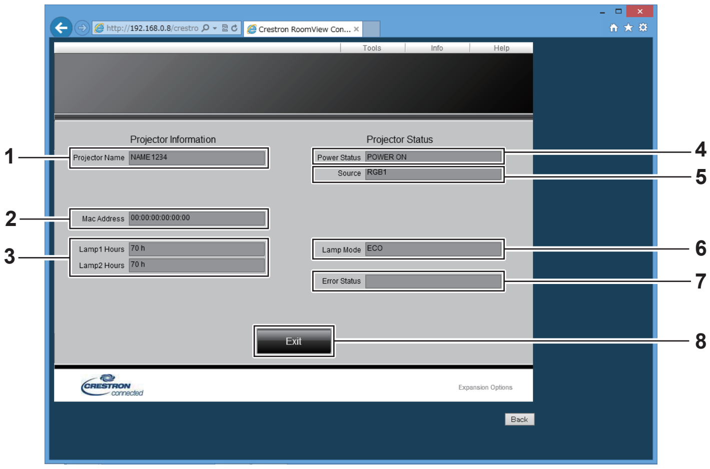
3　**[Admin Password]**
Crestron Connected™ の操作ページ内でのアドミニストレーター権限パスワードを設定します。

4　**ネットワークステータス**
有線 LAN の設定内容を表示します。
[DHCP]
現在設定している値を表示します。
[Ip Address]
現在設定している値を表示します。
[Subnet Mask]
現在設定している値を表示します。
[Default Gateway]
現在設定している値を表示します。
[DNS Server]
現在設定している値を表示します。

5　**[Exit]**
操作ページに戻ります。

[Info] ページ

操作ページで［Info］をクリックします。



1　**[Projector Name]**
プロジェクター名を表示します。

2　**[Mac Address]**
MAC アドレスを表示します。

3　**[Lamp1 Hours]、[Lamp2 Hours]**
ランプ 1、ランプ 2 の使用時間を表示します。

4　**[Power Status]**
電源の状態を表示します。

5　**[Source]**
選択している入力を表示します。

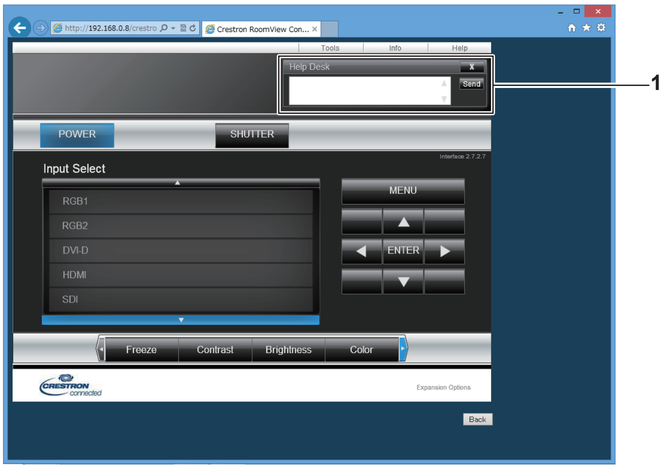
6　**[Lamp Mode]**
［ランプパワー］（☞ 107 ページ）の設定状態を表示します。

7　**[Error Status]**
エラーの状態を表示します。

8　**[Exit]**
操作ページに戻ります。

[Help] ページ

操作ページで [Help] をクリックします。
[Help Desk] ウィンドウが表示されます。



1　[Help Desk]
Crestron Connected™ を利用する管理者とのメッセージの送受信ができます。

第 5 章　点検とお手入れ

異常時の点検方法とお手入れ / 部品交換の方法について説明しています。

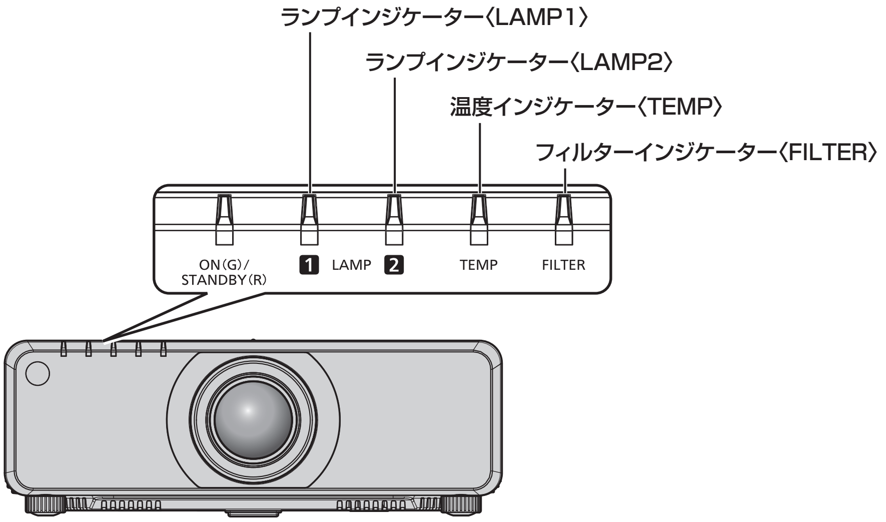
ランプ / 温度 / フィルターインジケーター

インジケーターが点灯したら

本機内部に異常が発生すると、ランプインジケーター〈LAMP1〉/〈LAMP2〉· 温度インジケーター〈TEMP〉· フィルターインジケーター〈FILTER〉が点灯や点滅でお知らせします。インジケーターの状態を調べて、次の処置を行ってください。

お願い

- 処置を行う際に電源を切るときは、“電源を切る”（☞ 56 ページ）の手順を必ずお守りください。



ランプインジケーター〈LAMP1〉/〈LAMP2〉

点灯状況	赤色点灯 / オレンジ色点灯 *1	赤色点滅（1 回）	赤色点滅（3 回）	
状態	ランプユニットの交換時期を表示している（☞ 161 ページ）	ランプユニットが装着されていない	ランプまたはランプ用電源の異常を検知している	
お調べください	● 本機の電源を入れたときに［ランプを交換してください。］という表示が出ませんでしたか。 ● ランプユニットの使用時間が 3 800 時間（［ランプパワー］を［ノーマル］に設定時）に達すると点灯します。	● ランプユニットが装着されていますか。	● 電源を切ってからすぐに電源を入れ直していませんか。	● ランプ回路に異常が発生しています。電源電圧が変動（低下）していませんか。
処置方法	● ランプユニットを交換してください。	● ランプユニットが装着されていない場合は、ランプユニットを装着してください。 ● ランプユニットが装着されているのに赤色点滅をしている場合は、販売店にご相談ください。	● 光源ランプが冷えるまでしばらく待ってから電源を入れてください。	● 主電源〈MAIN POWER〉スイッチを〈OFF〉にして（☞ 56 ページ）、販売店にご相談ください。

*1　ランプ消灯中の場合は赤色点灯、ランプ点灯中の場合はオレンジ色点灯になります。

お知らせ

- 処置をしてもランプインジケーター〈LAMP1〉/〈LAMP2〉が点灯や点滅する場合は、販売店に修理をご依頼ください。

温度インジケーター〈TEMP〉

点灯状況	赤色点灯		赤色点滅（2 回）	赤色点滅（3 回）
状態	ウォームアップ状態	内部が高温になっている（警告）	内部が高温になっている（スタンバイ状態）	ファンが止まっている

お調べください	● 気温が低い（0 ℃付近）状況で電源を入れませんでしたか。	● 吸気口 / 排気口がふさがれていませんか。 ● 気温の高い所で使用していませんか。 ● フィルターインジケーター〈FILTER〉が点灯していませんか。	—
処置方法	● このままの状態で 10 分ほどお待ちください。 ● 使用環境温度 0 ℃～ 45 ℃ *1 の場所に設置してください。	● 吸気口 / 排気口をふさいでいるものを取り除いてください。 ● 使用環境温度 0 ℃～ 45 ℃ *1 の場所に設置してください。 ● 海抜 2 700 m 以上の場所では使用しないでください。 ● エアフィルターのお手入れ、または交換をしてください。（☞ 159 ページ）	● 主電源〈MAIN POWER〉スイッチを〈OFF〉にして（☞ 56 ページ）、販売店にご相談ください。

*1　高地（海抜 1 400 m 以上～ 2 700 m 未満）で使用している場合、使用環境温度は 0 ℃～ 40 ℃になります。

お知らせ

- 処置をしても温度インジケーター〈TEMP〉が点灯や点滅する場合は、販売店に修理をご依頼ください。
- 次の 2 つを設定して本機を使用した場合、使用環境温度が 40 ℃（高地で使用する場合は 35 ℃）以上になると、プロジェクターを保護するために、光出力が約 20 %低下することがあります。
  - メニューで［ランプ選択］を［デュアル］に設定時
  - メニューで［ランプパワー］を［ノーマル］に設定時

フィルターインジケーター〈FILTER〉

点灯状況	赤色点灯		赤色点滅
状態	フィルターが目づまりしている あるいは、周囲または内部が異常に高温になっている		エアフィルターケースが装着されていない
お調べください	● エアフィルターが汚れていませんか。	● 吸気口 / 排気口がふさがれていませんか。	● エアフィルターケースが装着されていますか。
処置方法	● エアフィルターのお手入れ、または交換をしてください。（☞ 159 ページ）	● 吸気口 / 排気口をふさいでいるものを取り除いてください。	● エアフィルターケースを装着してください。

お知らせ

- 処置をしてもフィルターインジケーター〈FILTER〉が点灯や点滅する場合は、販売店に修理をご依頼ください。
- 電源を入れたときに、エアフィルターケースが装着されていない場合、フィルターインジケーター〈FILTER〉が赤色点滅します。

お手入れ / 部品交換

お手入れ / 部品交換の前に

- お手入れや部品交換を行うときは、必ず電源を切ってください。（☞ 50、56 ページ）
- 電源を切るときは、“電源を切る”（☞ 56 ページ）の手順を必ずお守りください。

お手入れ

外装ケース

汚れやほこりはやわらかい乾いた布でふき取ってください。
- 汚れがひどいときは水にひたした布をよく絞ってふき取り、乾いた布で仕上げてください。
- お手入れの際は、ベンジン、シンナー、アルコールなどの溶剤、または台所用洗剤を使用しないでください。使用すると外装ケースが変質するおそれがあります。
- 化学ぞうきんをご使用の際は、その注意書きに従ってください。

レンズの前面

レンズの前面に付着したごみやほこりは、清潔なやわらかい乾いた布でふき取ってください。
- 毛羽立った布、油分・水分を含んだ布、ほこりの付いた布でふかないでください。
- レンズは傷つきやすい素材のため、強くこすらないでください。

お願い

- レンズはガラス部品です。堅いものに当てたり、強くふいたりすると傷つくおそれがあります。取り扱いにはご注意ください。

エアフィルター

次の場合はエアフィルターのお手入れを行ってください。
- エアフィルターがほこりなどによって目づまりし、画面上に交換メッセージが表示され、フィルターインジケーター〈FILTER〉が赤色点灯をした場合。

エアフィルターの取り外しかた

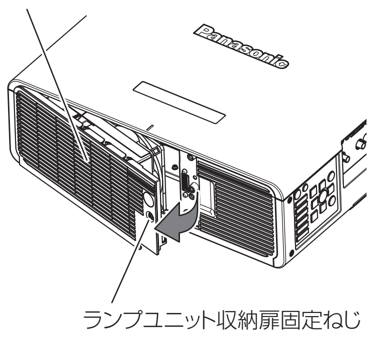


図1

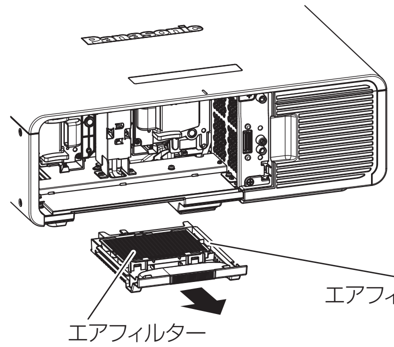


図2

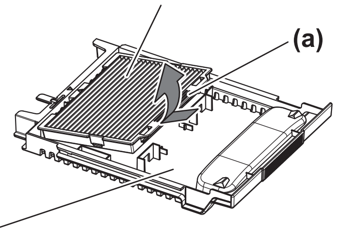


図3

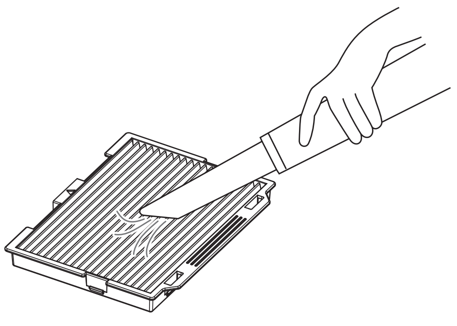
1)　ランプユニット収納扉を取り外す（図 1）
- ランプユニット収納扉固定ねじ（1 本）をプラスドライバーで反時計方向に空回りするまで回し、ランプユニット収納扉を矢印方向へゆっくりと開きます。
- 勢いよく開けるとランプユニット収納扉が破損する場合があります。
- プロジェクター本体が垂直上方向に設置されているときは、ランプユニット収納扉固定ねじを緩めると、ランプユニット収納扉が自重で開き、落下するおそれがありますので、ご注意ください。

2)　エアフィルターケースを取り出す（図 2）
- プロジェクター本体からエアフィルターケースを引き出してください。

3)　エアフィルターケースからエアフィルターを取り外す（図 3）
- エアフィルターの (a) の部分を持って、矢印の方向に押し付けながら引き上げてください。

エアフィルターのお手入れのしかた

あらかじめ前述の“エアフィルターの取り外しかた”の手順でエアフィルターを取り外します。



1)　エアフィルターを掃除する

- 掃除機でほこりを吸い取ってください。

エアフィルターの取り付けかた

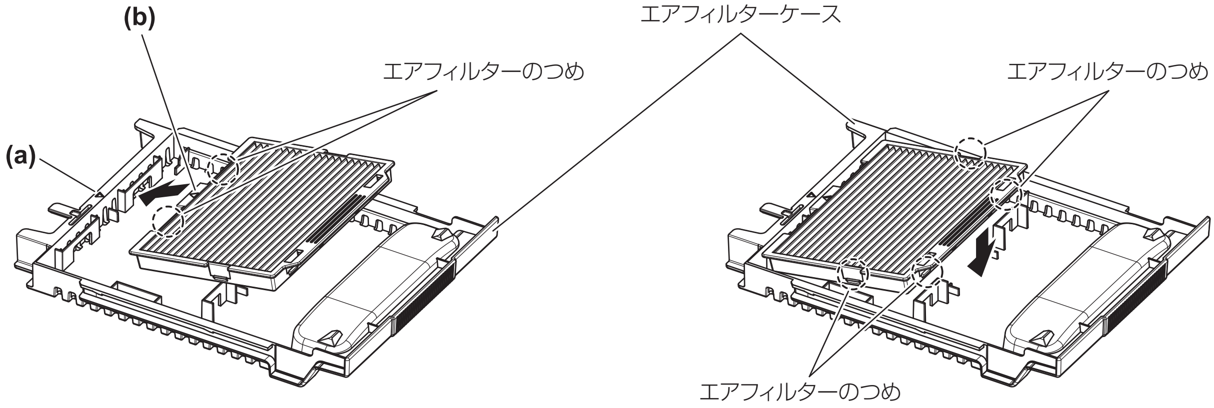


図1　　図2

1)　エアフィルターを取り付ける

i)　(a) と (b) の印（△）を合わせて、エアフィルターケースにエアフィルターのつめを矢印の方向に差し込み、取り付けます。（**図 1**）

ii)　エアフィルターを矢印の方向に押し込み、つめをしっかりはめ込んでください。（**図 2**）

2)　エアフィルターケースをプロジェクター本体に取り付ける

- エアフィルターケースをしっかりと奥まで押し込んでください。

3)　ランプユニット収納扉を取り付ける

- “エアフィルターの取り外しかた”の手順 **1)** と逆の手順でランプユニット収納扉を閉じます。
- ファン電源コネクターにランプユニット収納扉側のコネクターがしっかりと差し込まれるように取り付けてください。
- ランプユニット収納扉固定ねじ（1 本）をプラスドライバーでしっかりと締めつけます。
- ランプユニット収納扉は確実に取り付けてください。

お知らせ

- エアフィルターケースは必ず正しく取り付けてご使用ください。取り付けずに使用すると、ごみやほこりを吸い込み、故障の原因になります。
- エアフィルターケースを取り付けずに使用すると、フィルターインジケーター〈FILTER〉が赤色に点滅し、投写画面上にメッセージが約 30 秒間表示されます。
- エアフィルターは水洗いしないでください。水洗いすると、ほこりの吸着能力が低下します。
- 掃除をしてもほこりが取れなくなったら交換時期です。
  交換用のエアフィルター（TMZX5229）は別売品（サービス部品扱い）です。ご購入の際は、販売店にご相談ください。
  なお、別売品の交換用ランプユニット（品番：ET-LAD70（1 灯）、ET-LAD70W（2 灯））にはエアフィルターが 1 個付属しています。

部品交換

ランプユニット

ランプユニットは消耗部品です。交換時期については、“ランプユニットの交換時期”（☞ 161 ページ）をご覧ください。
別売品の交換用ランプユニット（品番：ET-LAD70（1 灯）、ET-LAD70W（2 灯））をご購入の際は、販売店にご相談ください。
ランプユニットの交換は、専門の技術者にご依頼することをお勧めします。販売店にご相談ください。

警 告

ランプユニットの交換は、ランプが冷えてから（1 時間以上待ってから）行う
カバー内部は高温になっているため、やけどの原因になります。

交換するランプユニットを確認する

1)　プロジェクターのランプインジケーター〈LAMP1〉/〈LAMP2〉の点灯状態を確認する
- 赤色に点灯しているランプインジケーターに対応するランプユニットの交換が必要です。

ランプユニットの交換上のお願い

- ランプユニットの交換にはプラスドライバーが必要です。
- 光源ランプはガラス部品ですので、堅い物に当てたり落下させたりすると破裂する場合があります。取り扱いにはご注意ください。
- ランプユニットを分解したり、改造したりしないでください。
- ランプユニットの表面はとがっていたり、引っ掛かったりする形状ですので、交換する際は必ずランプユニットの取っ手を持って取り扱ってください。
- ランプは破裂することがあります。ランプのガラス破片が飛散しないように、ランプユニットは慎重に交換してください。また、本機を天井に取り付けている場合は、ランプユニットの真下で交換作業をしたり、顔を近づけたりしないでください。
- ランプには水銀が含まれています。取り外した古いランプユニットを廃棄する場合は、最寄りの市町村窓口、または販売店に正しい廃棄方法をお問い合わせください。

お願い

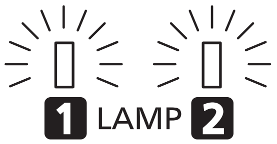
- 当社製以外のランプユニットの使用による製品の損傷や不具合などの問題については責任を負いかねます。必ず、指定のランプユニットを使用してください。

お知らせ

- 付属品や別売品などの品番は、予告なく変更する可能性があります。

ランプユニットの交換時期

ランプユニットは消耗部品です。使用時間の経過にともない、徐々に明るさが低下しますので、定期的な交換が必要です。交換の目安は 4 000 時間ですが、ランプ個々の特性、使用条件、設置環境などの影響を受けて、4 000 時間に達する前に点灯しなくなる場合があります。早めの交換用ランプユニットの準備をお勧めします。
4 000 時間を過ぎても交換しないまま使用すると、本機故障の原因となるため約 10 分後に自動消灯します。

	オンスクリーン表示	ランプインジケーター
	ランプを交換してください。	
3 800 時間以降	30 秒間表示されます。30 秒以内に本体操作部またはリモコンのいずれかのボタンを押せば、表示が消えます。	スタンバイ状態も含め赤色に点灯します。（該当のランプのみ点灯）
4 000 時間以降	いずれかのボタンを押すまで、メッセージは表示されたままです。	

お知らせ

- ランプの交換時期を予測するには、［ステータス］（☞ 116 ページ）の［ランプ 1］および［ランプ 2］で表示されるランプの使用時間をご確認ください。
- 4 000 時間は交換の目安であり、保証時間ではありません。保証時間については“保証とアフターサービス”をご覧ください。

ランプユニットの交換手順

お願い

- 本機を天井に取り付けている場合、ランプユニットの近辺で顔を近づけて作業しないでください。
- ランプユニットや、ランプユニット収納扉は確実に取り付けてください。
- ランプユニットが取り付けにくいときは、いったん取り外してからゆっくり入れ直してください。勢いよく押し込んだり、無理に押し込んだりすると、コネクター部分が破損する場合があります。

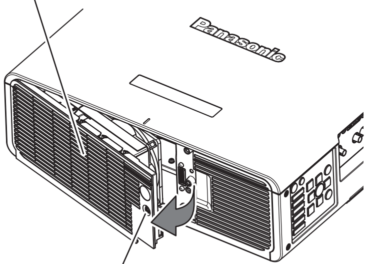


図 1

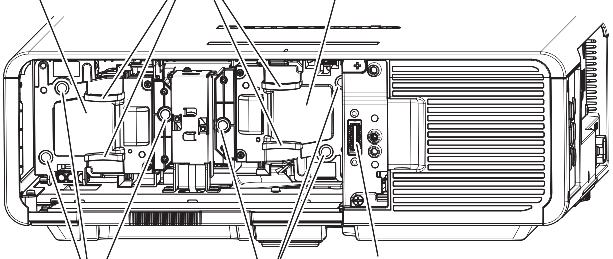


図 2

1)　主電源〈MAIN POWER〉スイッチを〈OFF〉にしたあと、コンセントから電源プラグを抜く

- 1 時間以上待ってランプユニット近辺が冷えていることを確認します。

2)　ランプユニット収納扉を取り外す（図 1）

- ランプユニット収納扉固定ねじ（1 本）をプラスドライバーで反時計方向に空回りするまで回し、ランプユニット収納扉を矢印方向へゆっくりと開きます。
- 勢いよく開けるとランプユニット収納扉が破損する場合があります。
- プロジェクター本体が垂直上方向に設置されているときは、ランプユニット収納扉固定ねじを緩めると、ランプユニット収納扉が自重で開き、落下するおそれがありますので、ご注意ください。

3)　ランプユニットを取り外す（図 2）

- 交換するランプユニット固定ねじ（3 本）をプラスドライバーで反時計方向に空回りするまで回し、ランプユニットを取り出します。
- ランプユニットの取っ手を持ってまっすぐに取り出してください。

4)　新しいランプユニットを挿入位置に注意して押し込む

- ランプユニットが取り付けにくいときは、いったん取り外してからゆっくり入れ直してください。勢いよく押し込んだり、無理に押し込んだりすると、コネクター部分が破損する場合があります。

5)　ランプユニット固定ねじ（それぞれ 3 本ずつ）をプラスドライバーでしっかりと締めつける

- ランプユニットは確実に取り付けてください。

6)　ランプユニット収納扉を取り付ける

i)　手順 **2)** と逆の手順でランプユニット収納扉を閉じます。

- ファン電源コネクターにランプユニット収納扉側のコネクターがしっかりと差し込まれるように取り付けてください。

ii)　ランプユニット収納扉固定ねじ（1 本）をプラスドライバーでしっかりと締めつけます。

- ランプユニット収納扉は確実に取り付けてください。

お知らせ

- 新しいランプユニットに交換した場合、本機側でランプユニットの使用時間が自動的にリセットされます。

エアフィルター

掃除をしてもほこりが取れなくなったら交換時期です。
交換用のエアフィルター（TMZX5229）は別売品（サービス部品扱い）です。ご購入の際は、販売店にご相談ください。
また、ランプユニットを交換する際は、併せてエアフィルターも交換することをお勧めします。
別売品の交換用ランプユニット（品番：ET-LAD70（1 灯）、ET-LAD70W（2 灯））にはエアフィルターが 1 個付属しています。

エアフィルターの交換手順

お願い

- エアフィルターの交換を行う前に、必ず電源を切ってください。
- 取り付けに際しては、必ずプロジェクター本体の安定を確保して、エアフィルターが落下しても安全な場所で実施してください。

1)　エアフィルターを取り外す

- “エアフィルターの取り外しかた”（☞ 159 ページ）をご覧ください。

2)　エアフィルターを新しいものに交換し、エアフィルターケースをプロジェクター本体に取り付ける

- “エアフィルターの取り付けかた”（☞ 160 ページ）をご覧ください。

お願い

- プロジェクターの電源を入れるときは、必ずエアフィルターを取り付けて使用してください。取り付けずに使用すると、ごみやほこりを吸い込み、故障の原因になります。
- エアフィルターケースを取り付けずに使用すると、フィルターインジケーター〈FILTER〉が赤色に点滅し、投写画面上にメッセージが約 30 秒間表示されます。

故障かな！？

もう一度次の点をお調べください。詳しくは、対応するページをご覧ください。

症状	ここをお調べください	ページ
電源が入らない	● 電源プラグがコンセントにしっかり差し込まれていますか。	—
	● 主電源〈MAIN POWER〉スイッチを〈OFF〉にしていませんか。	56
	● 電源プラグを差し込んでいるコンセントは通電していますか。	—
	● ブレーカーが落ちていませんか。	—
	● ランプインジケーター〈LAMP1〉/〈LAMP2〉または温度インジケーター〈TEMP〉が点灯または点滅していませんか。	157
	● ランプユニット収納扉は確実に取り付けられていますか。	162
映像がでない	● 外部機器との接続は正しく行われていますか。	44
	● 入力切り換えは正しく選択されていますか。	61
	● ［黒レベル］の調整が最小になっていませんか。	70
	● 本機に接続している外部機器は、正常に動作していますか。	—
	● シャッター機能を使用していませんか。	60
	● 電源インジケーター〈ON（G）/STANDBY（R）〉が赤色点滅している場合は、販売店にご相談ください。	—
	● レンズカバーが取り付けられたままではありませんか。	51
映像がボヤけている	● レンズのフォーカスは合っていますか。	57
	● 投写距離は適切ですか。	26
	● レンズが汚れていませんか。	16
	● 本機がスクリーンに対して垂直に設置されていますか。	—
色が薄い / 色あいが悪い	● ［色の濃さ］および［色あい］は正しく調整されていますか。	71
	● 本機に接続している外部機器は正しく調整されていますか。	44
	● RGB ケーブルが切れていませんか。	—
リモコンがはたらかない	● 乾電池が消耗していませんか。	—
	● 乾電池の極性は正しくセットされていますか。	23
	● リモコンと本体のリモコン受信部の間に障害物はありませんか。	19
	● リモコン操作有効範囲を超えた場所でリモコンを操作していませんか。	19
	● 蛍光灯などの影響を受けていませんか。	19
	● ［操作設定］の［リモコン］の設定が［無効］になっていませんか。	129
	● 〈REMOTE 2 IN〉端子を使って接点制御を行っていませんか。	180
	● ID ナンバーの設定の操作を間違えていませんか。	63
メニュー画面が出ない	● オンスクリーン表示機能をオフ（非表示）にしていませんか。	98
本体操作部のボタンがはたらかない	● ［操作設定］の［本体操作部］の設定が［無効］になっていませんか。	129
	● 〈REMOTE 2 IN〉端子を使って接点制御を行っていませんか。	180
正常な映像が映らない	● ［システムセレクター］の選択は正しく行われていますか。	75
	● ［RGB1 入力設定］の設定は正しく行われていますか。	92
	● ビデオテープなど、映像出力側に異常はありませんか。	—
	● 本機が対応できない信号を入力していませんか。	182
コンピューターからの映像が映らない	● ケーブルが長くありませんか。（D-Sub ケーブルの場合は 10 m 以下にしてください。）	—
	● ノート型コンピューターの外部映像出力が、正しく設定されていますか。（例:「Fn」+「F3」あるいは「Fn」+「F10」キーを同時に押すと、外部出力設定が切り換わる場合があります。コンピューターの機種によって異なりますので、コンピューター付属の説明書をご覧ください。）	—
コンピューターの DVI-D 出力の映像が出ない	● ［DVI-D IN］の［EDID 選択］の設定が［EDID3］または［EDID2 : PC］になっていますか。	93
	● コンピューターのグラフィックアクセラレーターのドライバーを最新バージョンにすることで改善する場合があります。	—
	● ［DVI-D IN］の［EDID 選択］の設定を行ってから、コンピューターの電源を入れ直すことで改善する場合があります。	93
HDMI 対応機器の映像が出ない、乱れる	● HDMI ケーブルが確実に接続されていますか。	44
	● 本機の電源および外部機器の電源を切 / 入してください。	—
	● 本機が対応できない信号を入力していませんか。	182

症状	ここをお調べください	ページ
レンズシフト調整ができない	● ［レンズキャリブレーション］を行ってください。 ● 固定焦点レンズ（品番：ET-DLE055）を装着していませんか。	119 —
Art-Net で本機を制御できない	● ツイストペアケーブル伝送器と外部機器、ツイストペアケーブル伝送器とプロジェクターとの接続は正しく行われていますか。 ● ［Art-Net 設定］が［オフ］以外の設定になっていますか。 ● ［NET］、［SUB NET］、［UNIVERSE］、［開始アドレス］の設定は正しいですか。	— 135 135
DIGITAL LINK 入力の映像がでない	● ツイストペアケーブル伝送器と外部機器、ツイストペアケーブル伝送器とプロジェクターとの接続は正しく行われていますか。 ● ［DIGITAL LINK モード］が［オート］または［DIGITAL LINK］になっていますか。［イーサネット］になっていませんか。 ● ツイストペアケーブル伝送器が対応していない信号を入力していませんか。	— 132 —

お願い

- 表の内容を確認後、正常に動作しない場合は販売店にご相談ください。

[自己診断] の表示について

メニューの [プロジェクターセットアップ] → [ステータス] (☞ 116 ページ) の [自己診断] で表示される記号の内容・対応方法は次のとおりです。

自己診断表示	内容	対応
U04	フィルター目づまり	• エアフィルターを交換してください。
U11	吸気温度警告	• 使用環境温度が高すぎます。使用環境温度 0 ℃～45 ℃の場所に設置してください。
U12	光学モジュール温度警告	
U13	排気温度警告	
U14	温度低温警告	• 使用環境温度が低すぎます。使用環境温度 0 ℃～45 ℃の場所に設置してください。
U15	光出力制限	• 使用環境温度 40 ℃以下の場所に設置してください。
U21	吸気温度エラー	• 使用環境温度が高すぎます。使用環境温度 0 ℃～45 ℃の場所に設置してください。
U22	光学モジュール温度エラー	
U23	排気温度エラー	
U24	低温エラー	• 使用環境温度が低すぎます。使用環境温度 0 ℃～45 ℃の場所に設置してください。
U30	ポートレート警告	• 本機を水平 (± 15° 以内) に設置してください。
U41	ランプ 1 使用時間警告	• もうすぐランプ交換時間に到達します。ランプユニットを交換してください。
U42	ランプ 2 使用時間警告	
U51	ランプ 1 失灯	• 光源ランプが冷えるまでしばらく待ってから電源を入れてください。
U52	ランプ 2 失灯	
U61	ランプ 1 使用時間経過	• ランプ交換時間に到達しました。ランプユニットを交換してください。
U62	ランプ 2 使用時間経過	
U71	ランプ 1 未装着	• ランプユニットを装着してください。
U72	ランプ 2 未装着	
U76	エアフィルター未装着	• エアフィルターケースを装着してください。
U81	AC 電圧低下警告 (90 V 未満)	• 入力電源電圧が低下しています。本機の消費電流に対し、余裕がある電気配線にしてください。
U91	カバーオープン	• カバーを確実に閉めてください。
H01	内部時計用電池交換	• 電池交換が必要です。販売店にご相談ください。
H11	吸気温度センサー抜け	• 主電源を入れ直しても表示が消えない場合は販売店にご相談ください。
H12	光学モジュール温度センサー抜け	
H13	排気温度センサー抜け	
H14	ランプ 1 温度センサー抜け	
H15	ランプ 2 温度センサー抜け	
H18	目づまりセンサー抜け	
F00	液冷ポンプ警告	• 主電源を入れ直しても表示が消えない場合は販売店にご相談ください。
F11	シャッターエラー	
F15	輝度センサーエラー	
F41	ランプメモリー 1 未初期化	
F42	ランプメモリー 2 未初期化	
F50	DMD ファン警告	
F51	ランプ 1 ファン警告	
F52	ランプ 2 ファン警告	
F53	排気ファン 1 警告	
F54	排気ファン 2 警告	
F55	カラーホイールファン警告	
F56	電源ファン警告	
F57	バラストファン警告	
F61	バラスト 1 通信エラー	
F62	バラスト 2 通信エラー	

自己診断表示	内容	対応
F85	カラーホイールエラー（FM）	● 主電源を入れ直しても表示が消えない場合は販売店にご相談ください。
F86	カラーホイールエラー（FPGA）	
F90	FPGA コンフィグエラー	
F91	FPGA1 コンフィグエラー	
F92	FPGA2 コンフィグエラー	
F96	レンズマウンターエラー	
F97	幾何学補正基板通信エラー	
FE1	DMD ファンエラー	● 主電源を入れ直しても表示が消えない場合は販売店にご相談ください。
FE2	ランプ 1 ファンエラー	
FE3	ランプ 2 ファンエラー	
FE4	排気ファン 1 エラー	
FE5	排気ファン 2 エラー	
FE6	カラーホイールファンエラー	
FE7	電源ファンエラー	
FE8	バラストファンエラー	
FJ0	液冷ポンプエラー	● 主電源を入れ直しても表示が消えない場合は販売店にご相談ください。

お知らせ

- 自己診断表示と故障の内容が異なる場合があります。

第 6 章　その他

本機の仕様やアフターサービスについて説明しています。

付録

PJLink プロトコルを使用する

本機のネットワーク機能は PJLink クラス 1 に対応しており、PJLink プロトコルを使用してコンピューターからプロジェクターの設定や、プロジェクターの状態問い合わせの操作ができます。

対応コマンド

PJLink プロトコルで本機を制御する際のコマンドです。

- 表内の x は任意の文字です。

<table>
<tr><th>コマンド</th><th>制御内容</th><th>パラメーター / 応答文字列</th><th colspan="3">備考</th></tr>
<tr><td>POWR</td><td>電源制御</td><td>0
1</td><td colspan="3">スタンバイ
電源入</td></tr>
<tr><td>POWR?</td><td>電源状態問い合わせ</td><td>0
1
2
3</td><td colspan="3">スタンバイ
電源入
電源を切る準備中
ウォームアップ中</td></tr>
<tr><td>INPT</td><td>入力切り換え</td><td rowspan="2">11
12
31
32
33
34</td><td colspan="3" rowspan="2">RGB1
RGB2
DVI-D
HDMI
DIGITAL LINK
SDI（PT-DZ780J のみ）</td></tr>
<tr><td>INPT?</td><td>入力切り換え問い合わせ</td></tr>
<tr><td>AVMT</td><td>シャッター制御</td><td rowspan="2">30
31</td><td colspan="3" rowspan="2">シャッター機能 無効（シャッター：開）
シャッター機能 有効（シャッター：閉）</td></tr>
<tr><td>AVMT?</td><td>シャッター状態問い合わせ</td></tr>
<tr><td rowspan="6">ERST?</td><td rowspan="6">エラー状態問い合わせ</td><td rowspan="6">xxxxxx</td><td>1 バイト目</td><td>ファンエラーを意味し、0 ～ 2 で応答します</td><td rowspan="6">● 0= エラーを検知していない
● 1= 警告
● 2= エラー</td></tr>
<tr><td>2 バイト目</td><td>ランプエラーを意味し、0 ～ 2 で応答します</td></tr>
<tr><td>3 バイト目</td><td>温度エラーを意味し、0 ～ 2 で応答します</td></tr>
<tr><td>4 バイト目</td><td>カバーオープンエラーを意味し、0 または 2 で応答します</td></tr>
<tr><td>5 バイト目</td><td>フィルターエラーを意味し、0 ～ 2 で応答します</td></tr>
<tr><td>6 バイト目</td><td>その他のエラーを意味し、0 ～ 2 で応答します</td></tr>
<tr><td>LAMP?</td><td>ランプ状態問い合わせ</td><td>xxxxxxxxxxxx</td><td colspan="3">1 つ目の数字（1 ～ 5 桁）：ランプ 1 使用時間
2 つ目の数字：0= ランプ 1 消灯、1= ランプ 1 点灯
3 つ目の数字（1 ～ 5 桁）：ランプ 2 使用時間
4 つ目の数字：0= ランプ 2 消灯、1= ランプ 2 点灯</td></tr>
<tr><td rowspan="2">INST?</td><td rowspan="2">入力切り換え一覧問い合わせ</td><td>11 12 31 32 33 34</td><td colspan="3">PT-DZ780J のみ</td></tr>
<tr><td>11 12 31 32 33</td><td colspan="3">PT-DW750J、PT-DX820J のみ</td></tr>
<tr><td>NAME?</td><td>プロジェクター名問い合わせ</td><td>xxxxx</td><td colspan="3">［ネットワーク設定］の［プロジェクター名］で設定した名称を応答します</td></tr>
<tr><td>INF1?</td><td>メーカー名問い合わせ</td><td>Panasonic</td><td colspan="3">メーカー名を応答します</td></tr>
<tr><td>INF2?</td><td>機種名問い合わせ</td><td>DZ780
DW750
DX820</td><td colspan="3">機種名を応答します</td></tr>
<tr><td>INFO?</td><td>その他情報問い合わせ</td><td>xxxxx</td><td colspan="3">バージョン番号などを応答します</td></tr>
<tr><td>CLSS?</td><td>クラス情報問い合わせ</td><td>1</td><td colspan="3">PJLink のクラスを応答します</td></tr>
</table>

PJLink セキュリティー認証

PJLink で使用するパスワードは、WEB 制御で設定したパスワードと同じです。
認証なしで使用する場合は、WEB 制御のパスワードをなしに設定してください。

- PJLink に関する仕様については、（社）ビジネス機械・情報システム産業協会の WEB サイトをご覧ください。
  URL http://pjlink.jbmia.or.jp/

Art-Net 機能を使用する

本機のネットワーク機能は Art-Net 機能に対応しており、Art-Net プロトコルを使用して DMX コントローラーやアプリケーションソフトを用いてプロジェクターの設定の操作ができます。

チャンネル定義

Art-Net 機能で本機を制御する際のチャンネル定義です。
チャンネルの設定は､メニューの［ネットワーク］→［Art-Net 設定］→［オン 2.X.X.X］/［オン 10.X.X.X］/［オン マニュアル］→［チャンネル設定］で切り換えできます。（☞ 135 ページ）
各チャンネルに割り当てられている制御内容は、次の表のとおりです。

- ［ユーザー］のチャンネル割り当ては、工場出荷時の状態です。割り当ては変更できます。

チャンネル	制御内容		
	[デフォルト]	[ユーザー]	[DZ870/DZ21K]
チャンネル 1	光出力	光出力	シャッター
チャンネル 2	入力選択	入力選択	入力選択
チャンネル 3	レンズ位置	レンズ位置	レンズ機能選択
チャンネル 4	レンズ水平シフト	レンズ水平シフト	レンズコントロール
チャンネル 5	レンズ垂直シフト	レンズ垂直シフト	電源
チャンネル 6	レンズフォーカス	レンズフォーカス	光出力
チャンネル 7	レンズズーム	レンズズーム	有効 / 無効
チャンネル 8	電源	電源	なし
チャンネル 9	幾何学歪補正	幾何学歪補正	なし
チャンネル 10	カスタムマスキング	カスタムマスキング	カスタムマスキング
チャンネル 11	有効 / 無効	有効 / 無効	幾何学歪補正
チャンネル 12	なし	なし	なし

■ 制御内容について

制御内容	動作	パラメーター	初期値	備考
光出力	100 %	0	0	100 % から 0 % の間を 256 段階で設定できます
	…	…		
	0 %	255		
シャッター	シャッター：開	0-63	128	—
	無操作	64-191		
	シャッター：閉	192-255		
入力選択（[DZ870/DZ21K] 選択時）	無操作	0-7	0	—
	RGB1	8-15		
	RGB2	16-23		
	無操作	24-31		
	DVI-D	32-39		
	HDMI	40-47		
	DIGITAL LINK	48-55		
	SDI（PT-DZ780J のみ）	56-63		
	無操作	64-127		
	P IN P 実行　ユーザー 1	128-135		
	P IN P 実行　ユーザー 2	136-143		
	P IN P 実行　ユーザー 3	144-151		
	無操作	152-255		

<table>
<tr><th>制御内容</th><th colspan="2">動作</th><th>パラメーター</th><th>初期値</th><th>備考</th></tr>
<tr><td rowspan="12">入力選択（[デフォルト]、[ユーザー］選択時）</td><td colspan="2">無操作</td><td>0-7</td><td rowspan="12">0</td><td rowspan="12">—</td></tr>
<tr><td colspan="2">RGB1</td><td>8-15</td></tr>
<tr><td colspan="2">RGB2</td><td>16-23</td></tr>
<tr><td colspan="2">DVI-D</td><td>24-31</td></tr>
<tr><td colspan="2">HDMI</td><td>32-39</td></tr>
<tr><td colspan="2">DIGITAL LINK</td><td>40-47</td></tr>
<tr><td colspan="2">SDI（PT-DZ780J のみ）</td><td>48-55</td></tr>
<tr><td colspan="2">無操作</td><td>56-127</td></tr>
<tr><td colspan="2">P IN P 実行　ユーザー 1</td><td>128-135</td></tr>
<tr><td colspan="2">P IN P 実行　ユーザー 2</td><td>136-143</td></tr>
<tr><td colspan="2">P IN P 実行　ユーザー 3</td><td>144-151</td></tr>
<tr><td colspan="2">無操作</td><td>152-255</td></tr>
<tr><td rowspan="4">レンズ位置</td><td colspan="2">無操作</td><td>0-31</td><td rowspan="4">0</td><td rowspan="4">“ホームポジション移動”は、[ホームポジション] 画面で［ホームポジション］の［ノーマル］選択時の動作です
“ET-DLE030 用のレンズ基準位置移動”は、[ホームポジション] 画面で［ホームポジション］の［DLE030］選択時の動作です</td></tr>
<tr><td colspan="2">ホームポジション移動</td><td rowspan="2">32-63</td></tr>
<tr><td colspan="2">ET-DLE030 用のレンズ基準位置移動</td></tr>
<tr><td colspan="2">無操作</td><td>64-255</td></tr>
<tr><td rowspan="7">レンズ水平シフト
レンズ垂直シフト
レンズフォーカス
レンズズーム</td><td rowspan="3">レンズ調整</td><td>(–)　高速</td><td>0-31</td><td rowspan="7">128</td><td rowspan="7">—</td></tr>
<tr><td>(–)　低速</td><td>32-63</td></tr>
<tr><td>(–)　微調整</td><td>64-95</td></tr>
<tr><td colspan="2">操作停止</td><td>96-159</td></tr>
<tr><td rowspan="3">レンズ調整</td><td>(+)　微調整</td><td>160-191</td></tr>
<tr><td>(+)　低速</td><td>192-223</td></tr>
<tr><td>(+)　高速</td><td>224-255</td></tr>
<tr><td rowspan="8">レンズ機能選択（[DZ870/DZ21K］選択時）</td><td colspan="2">無操作</td><td>0-15</td><td rowspan="8">0</td><td rowspan="8">レンズコントロールと一緒に操作します
“ホームポジション移動”は、[ホームポジション] 画面で［ホームポジション］の［ノーマル］選択時の動作です
“ET-DLE030 用のレンズ基準位置移動”は、[ホームポジション] 画面で［ホームポジション］の［DLE030］選択時の動作です</td></tr>
<tr><td colspan="2">レンズ水平シフト</td><td>16-31</td></tr>
<tr><td colspan="2">レンズ垂直シフト</td><td>32-47</td></tr>
<tr><td colspan="2">レンズフォーカス</td><td>48-63</td></tr>
<tr><td colspan="2">レンズズーム</td><td>64-79</td></tr>
<tr><td colspan="2">ホームポジション移動</td><td rowspan="2">80-95</td></tr>
<tr><td colspan="2">ET-DLE030 用のレンズ基準位置移動</td></tr>
<tr><td colspan="2">無操作</td><td>96-255</td></tr>
<tr><td rowspan="8">レンズコントロール（[DZ870/DZ21K］選択時）</td><td rowspan="3">レンズ調整</td><td>(–)　高速</td><td>0-31</td><td rowspan="8">100</td><td rowspan="8">レンズ機能選択と一緒に操作します</td></tr>
<tr><td>(–)　低速</td><td>32-63</td></tr>
<tr><td>(–)　微調整</td><td>64-95</td></tr>
<tr><td colspan="2">操作停止</td><td>96-127</td></tr>
<tr><td rowspan="3">レンズ調整</td><td>(+)　微調整</td><td>128-159</td></tr>
<tr><td>(+)　低速</td><td>160-191</td></tr>
<tr><td>(+)　高速</td><td>192-223</td></tr>
<tr><td colspan="2">コマンド動作実行</td><td>224-255</td></tr>
<tr><td rowspan="3">電源</td><td colspan="2">スタンバイ</td><td>0-63</td><td rowspan="3">128</td><td rowspan="3">—</td></tr>
<tr><td colspan="2">無操作</td><td>64-191</td></tr>
<tr><td colspan="2">電源入</td><td>192-255</td></tr>
<tr><td rowspan="5">カスタムマスキング</td><td colspan="2">オフ</td><td>0-31</td><td rowspan="5">255</td><td rowspan="5">（PT-DZ780J のみ）
PC-1、PC-2、PC-3 をご使用の場合は、別売品のアップグレードキット（品番：ET-UK20）が必要です</td></tr>
<tr><td colspan="2">PC-1</td><td>32-63</td></tr>
<tr><td colspan="2">PC-2</td><td>64-95</td></tr>
<tr><td colspan="2">PC-3</td><td>96-127</td></tr>
<tr><td colspan="2">無操作</td><td>128-255</td></tr>
</table>

制御内容	動作	パラメーター	初期値	備考
幾何学歪補正	オフ	0-15	255	PC-1、PC-2、PC-3 をご使用の場合は、別売品のアップグレードキット（品番：ET-UK20）が必要です
	台形補正	16-31		
	曲面補正	32-47		
	PC-1（PT-DZ780J のみ）	48-63		
	PC-2（PT-DZ780J のみ）	64-79		
	PC-3（PT-DZ780J のみ）	80-95		
	コーナー補正	96-111		
	無操作	112-255		
フリーズ	無操作	0-31	128	—
	オフ	32-95		
	無操作	96-159		
	オン	160-223		
	無操作	224-255		
色の濃さ 色あい	無操作	0-31	0	—
	工場出荷時の値	32-63		
	−31	64-65		
	…	…		
	0	128-129		
	…	…		
	+31	190-191		
	無操作	192-255		
ラスターパターン	無操作	0-15	0	—
	オフ	16-31		
	白	32-47		
	イエロー	48-63		
	シアン	64-79		
	緑	80-95		
	マゼンタ	96-111		
	赤	112-127		
	青	128-143		
	黒	144-159		
	ユーザーロゴ	160-175		
	無操作	176-255		
有効 / 無効	無効	0-127	0	“無効”に設定するとすべてのチャンネルの動作を受け付けなくなります
	有効	128-255		

お知らせ

- Art-Net 機能を用いて本機を制御している際に、リモコンや本体操作部での操作、制御コマンドによる操作を実行すると、DMX コントローラーやコンピューターアプリケーションの設定と本機の状態が異なる場合があります。その場合は、チャンネル 11 の“有効 / 無効”の設定を一度“無効”に設定したあとに、“有効”に再度設定すると、すべてのチャンネルの制御がプロジェクターに反映されます。
- ユーザーロゴの画像作成・登録には、付属の CD-ROM に収録されている「ロゴ転送ソフトウェア」を使用します。

LAN 経由の制御コマンドについて

WEB 制御アドミニストレーター権限パスワード設定時（プロテクトモード）

接続方法

1)　プロジェクターの IP アドレスとポート番号（初期設定値 =1024）を取得してプロジェクターへ接続を要求する

- IP アドレス、ポート番号は共にプロジェクター本体のメニュー画面から取得できます。

IP アドレス	メニューの［ネットワーク］→［ネットワークステータス］から取得
ポート番号	メニューの［ネットワーク］→［ネットワークコントロール］→［コマンドポート］から取得

2)　プロジェクターからの応答を確認する

	データ部	空白	モード	空白	乱数部	終端記号
コマンド例	“NTCONTROL” （ASCII 文字列）	‘ ’ 0x20	‘1’ 0x31	‘ ’ 0x20	“zzzzzzzz” （ASCII コード 16 進数）	（CR） 0x0d
データ長	9 bytes	1 byte	1 byte	1 byte	8 bytes	1 byte

- モード：1= プロテクトモード
- 例）プロテクトモード時の応答（乱数部は不定値）
  “NTCONTROL 1 23181e1e”（CR）

3)　MD5 アルゴリズムを用いて以下のデータから 32 バイトのハッシュ値を生成する

- “xxxxxx:yyyyy:zzzzzzzz”

xxxxxx	WEB 制御のアドミニストレーター権限ユーザー名（デフォルトのユーザー名は “admin1”）
yyyyy	上記アドミニストレーター権限ユーザーのパスワード（デフォルトのパスワードは “panasonic”）
zzzzzzzz	手順 **2)** で取得した 8 バイトの乱数

コマンド送信方法

以下のコマンド形式で送信してください。

■ 送信データ

	ヘッダー			データ部	終端記号
コマンド例	ハッシュ値 （上記 “接続方法” 参照）	‘0’ 0x30	‘0’ 0x30	制御コマンド （ASCII 文字列）	（CR） 0x0d
データ長	32 bytes	1 byte	1 byte	不定長	1 byte

- 例）電源状態取得コマンドの送信（ハッシュ値はデフォルトのユーザー名、パスワードおよび取得した乱数より算出）
  “dbdd2dabd3d4d68c5dd970ec0c29fa6400QPW”（CR）

■ 受信データ

	ヘッダー		データ部	終端記号
コマンド例	‘0’ 0x30	‘0’ 0x30	制御コマンド （ASCII 文字列）	（CR） 0x0d
データ長	1 byte	1 byte	不定長	1 byte

- 例）プロジェクターの電源が入っている場合
  “00001”（CR）

■ エラー応答

	文字列	内容	終端記号
メッセージ	“ERR1”	未定義の制御コマンド	（CR） 0x0d
	“ERR2”	パラメーター範囲外	
	“ERR3”	ビジー状態または受け付け不可期間	
	“ERR4”	タイムアウトまたは受け付け不可期間	
	“ERR5”	データ長不正	
	“ERRA”	パスワード不一致	
データ長	4 bytes	—	1 byte

WEB 制御アドミニストレーター権限パスワード非設定時（非プロテクトモード）

接続方法

1)　プロジェクターの IP アドレスとポート番号（初期設定値 =1024）を取得してプロジェクターへ接続を要求する

- IP アドレス、ポート番号は共にプロジェクター本体のメニュー画面から取得できます。

IP アドレス	メニューの［ネットワーク］→［ネットワークステータス］から取得
ポート番号	メニューの［ネットワーク］→［ネットワークコントロール］→［コマンドポート］から取得

2)　プロジェクターからの応答を確認する

	データ部	空白	モード	終端記号
コマンド例	“NTCONTROL” （ASCII 文字列）	‘ ’ 0x20	‘0’ 0x30	（CR） 0x0d
データ長	9 bytes	1 byte	1 byte	1 byte

- モード：0= 非プロテクトモード
- 例）非プロテクトモード時の応答
  “NTCONTROL 0”（CR）

コマンド送信方法

以下のコマンド形式で送信してください。

■ 送信データ

	ヘッダー		データ部	終端記号
コマンド例	‘0’ 0x30	‘0’ 0x30	制御コマンド （ASCII 文字列）	（CR） 0x0d
データ長	1 byte	1 byte	不定長	1 byte

- 例）電源状態取得コマンドの送信
  “00QPW”（CR）

■ 受信データ

	ヘッダー		データ部	終端記号
コマンド例	‘0’ 0x30	‘0’ 0x30	制御コマンド （ASCII 文字列）	（CR） 0x0d
データ長	1 byte	1 byte	不定長	1 byte

- 例）プロジェクターの電源がスタンバイ状態の場合
  “00000”（CR）

■ エラー応答

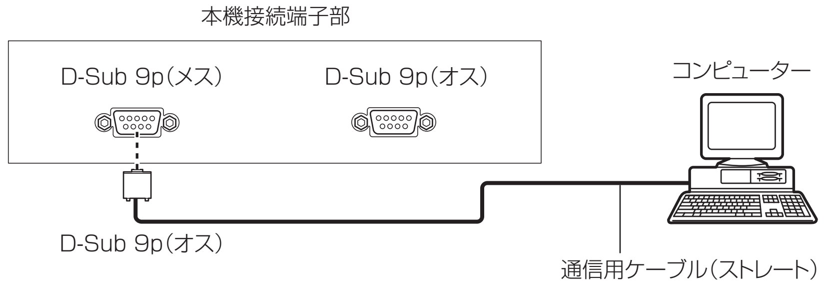
	文字列	内容	終端記号
メッセージ	“ERR1”	未定義の制御コマンド	（CR） 0x0d
	“ERR2”	パラメーター範囲外	
	“ERR3”	ビジー状態または受け付け不可期間	
	“ERR4”	タイムアウトまたは受け付け不可期間	
	“ERR5”	データ長不正	
	“ERRA”	パスワード不一致	
データ長	4 bytes	—	1 byte

〈SERIAL IN〉/〈SERIAL OUT〉端子について

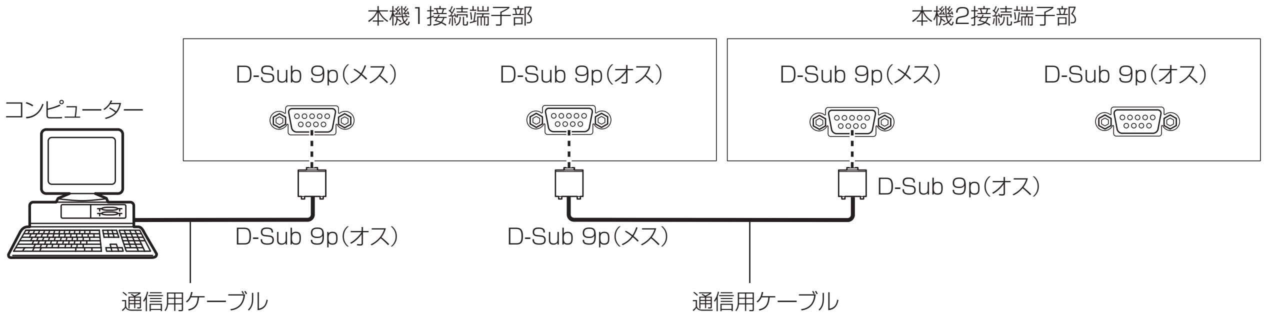
本機の接続端子部の〈SERIAL IN〉/〈SERIAL OUT〉端子は RS-232C に準拠しており、コンピューターと接続して本機をコンピューターで制御できます。

接続

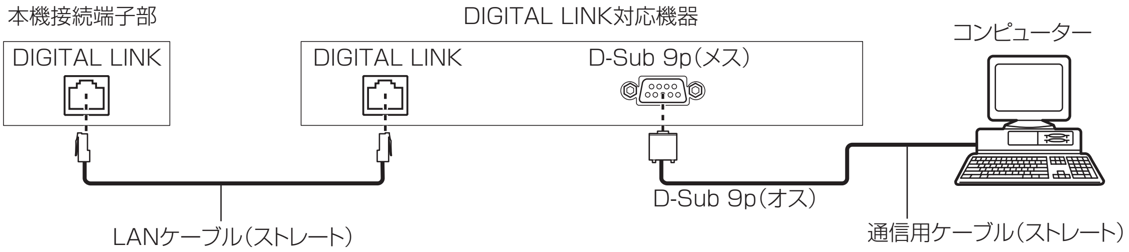
1 台の場合



複数台の場合



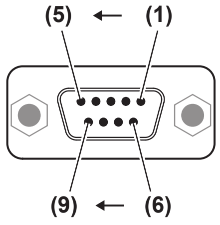
DIGITAL LINK 対応機器を利用して接続する場合

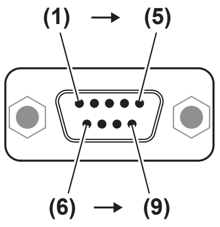


お知らせ

- 接続方法に合わせて、[RS-232C]（☞ 115 ページ）の接続先を設定する必要があります。
- DIGITAL LINK 対応機器を利用して接続する場合、スタンバイ状態で本機を制御するには、メニューの［プロジェクターセットアップ］→［スタンバイモード］（☞ 112 ページ）の設定を［ノーマル］に設定してください。
  ［スタンバイモード］を［ECO］に設定しているときは、スタンバイ状態での本機の制御はできません。

ピン配列と信号名

D-Sub 9 ピン（メス） 外側から見た図	ピン No.	信号名	内容
	(1)	—	NC
	(2)	TXD	送信データ
	(3)	RXD	受信データ
	(4)	—	NC
	(5)	GND	グラウンド
	(6)	—	NC
	(7)	CTS	内部で接続されています
	(8)	RTS	
	(9)	—	NC

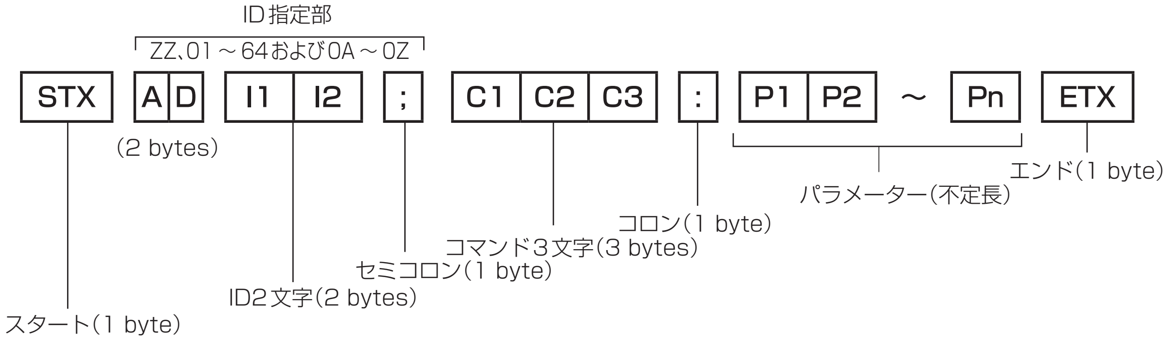
D-Sub 9 ピン（オス）外側から見た図	ピン No.	信号名	内容
	(1)	—	NC
	(2)	RXD	受信データ
	(3)	TXD	送信データ
	(4)	—	NC
	(5)	GND	グラウンド
	(6)	—	NC
	(7)	RTS	内部で接続されています
	(8)	CTS	
	(9)	—	NC

通信条件（工場出荷時の状態）

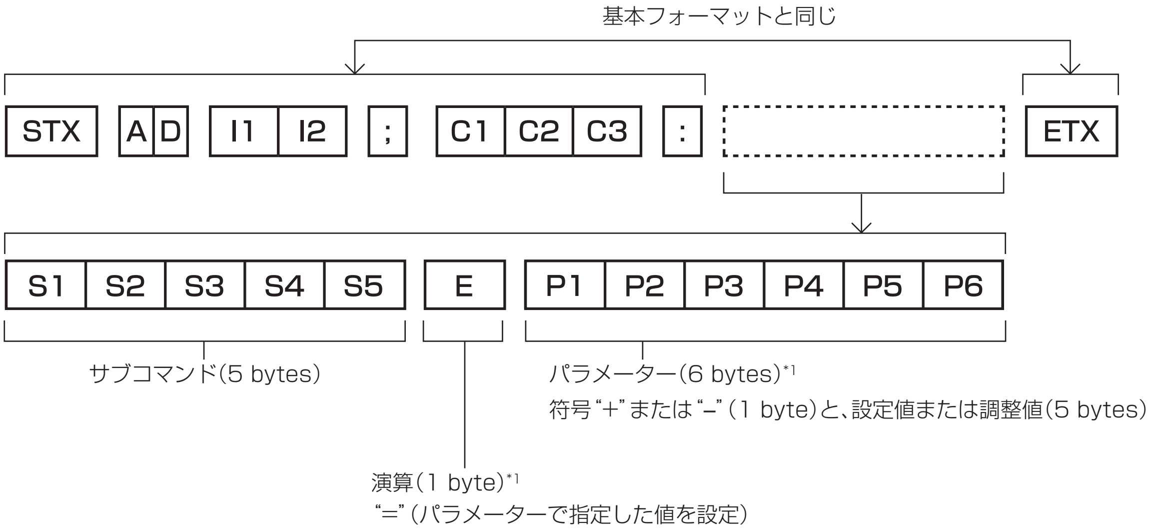
信号レベル	RS-232C 準拠
同期方式	調歩同期
ボーレート	9 600 bps
パリティー	なし
キャラクター長	8 ビット
ストップビット	1 ビット
X パラメーター	なし
S パラメーター	なし

基本フォーマット

コンピューターからの伝送は STX で開始され、続いて ID、コマンド、パラメーター、最後に ETX の順に送信します。パラメーターは制御内容の必要に応じて付加してください。



基本フォーマット（サブコマンドあり）



*1　パラメーターを必要としないコマンドを送信する場合は、演算（E）とパラメーターは必要ありません。

お願い

- ランプの点灯開始直後にコマンドを送信すると、応答が遅く返ってきたり、コマンドが実行できなかったりすることがあります。60 秒経過後に送受信してください。
- 複数のコマンドを送信する場合は、必ず本機からの応答を受け取ってから 0.5 秒以上経過後に次のコマンドを送信してください。パラメーターを必要としないコマンドを送信する場合は、コロン（：）は必要ありません。

お知らせ

- コマンドが実行できない場合、本機から「ER401」という応答がコンピューター側に送信されます。
- 無効なパラメーターを送信すると、本機から「ER402」という応答がコンピューター側に送信されます。
- RS-232C での ID 送信は、ZZ（オール）と 01 ～ 64 および 0A ～ 0Z のグループの対応になっています。
- ID 指定でコマンドを送信した場合、以下のときのみコンピューターへの応答を返します。
  - 本機 ID と一致した場合
  - ID 指定がオールかつ［応答（ID オール)］が［オン］の場合
  - ID 指定がグループかつ［応答（ID グループ)］が［オン］の場合
- STX と ETX はキャラクターコードです。STX は 16 進数で表すと 02、ETX は 16 進数で表すと 03 となります。

複数台のプロジェクターを制御するとき

複数台のプロジェクターをすべて制御する場合

複数台のプロジェクターを RS-232C によってまとめて制御する場合、下記の設定をしてください。

1)　プロジェクターごとに異なる ID を設定する

2)　1 台のプロジェクターのみ［応答（ID オール)］を［オン］に設定する

3)　手順 2) で設定した以外のプロジェクターは［応答（ID オール)］を［オフ］に設定する

複数台のプロジェクターをグループ単位で制御する場合

複数台のプロジェクターを RS-232C によってグループ単位で制御する場合、下記の設定をしてください。

1)　プロジェクターごとに異なる ID を設定する

2)　1 台のプロジェクターのみ［応答（ID グループ)］を［オン］に設定する

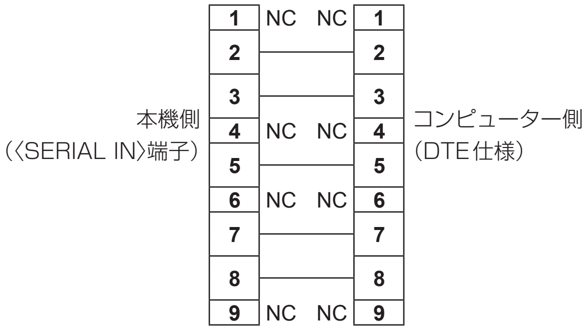
3)　手順 2) で設定した以外のプロジェクターは［応答（ID グループ)］を［オフ］に設定する

お知らせ

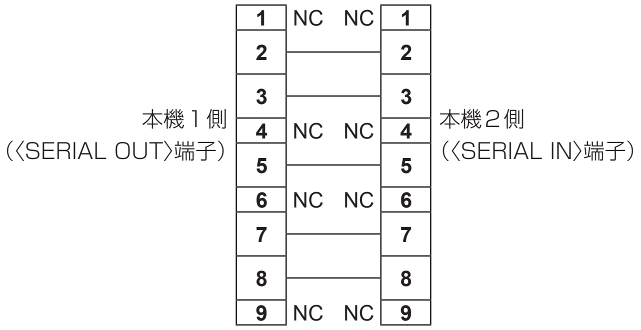
- 2 台以上のプロジェクターで［応答（ID オール)］を［オン］に設定すると正常に応答できません。
- 同じグループの 2 台以上のプロジェクターで［応答（ID グループ)］を［オン］に設定すると正常に応答できません。
- 複数のグループを設定する場合には、それぞれのグループごとに 1 台のプロジェクターのみ［応答（ID オール)］を［オン］にしてください。

ケーブル仕様

コンピューターと接続する場合



本機を複数台接続する場合



制御コマンド

コンピューターで本機を制御する際のコマンドです。

■ 操作コマンド

コマンド	内容	パラメーター / 応答文字列	備考（パラメーター）
PON	電源入	—	電源が入っているかを確認する場合は、"電源問い合わせ"コマンドを使用してください。
POF	電源スタンバイ		
QPW	電源問い合わせ	000 001	スタンバイ 電源入
IIS	入力信号切り換え	RG1 RG2 DVI HD1 DL1 SD1	RGB1 RGB2 DVI-D HDMI DIGITAL LINK SDI（PT-DZ780J のみ）
QSL	ランプ選択問い合わせ	0 1 2 3	デュアル シングル ランプ 1 ランプ 2
LPM	ランプ選択	0 1 2 3	デュアル シングル *1 ランプ 1 ランプ 2
Q$L	ランプ使用時間問い合わせ	1 2	ランプ 1 ランプ 2 応答は 0000 ～ 4000
OLP	ランプパワー	0 1	ノーマル ECO
OSH	シャッター制御	0	開
QSH	シャッター状態問い合わせ	1	閉
VSE	アスペクト切り換え	0 1 2 5 6 9 10	標準 /VID オート 4：3 16：9 等倍 HV フィット H フィット V フィット
QSE	アスペクト設定問い合わせ		
OPP	P IN P 実行	0 1 2 3	オフ ユーザー 1 ユーザー 2 ユーザー 3
QPP	P IN P 設定問い合わせ		
OCS	サブメモリー切り換え	01 ～ 96	サブメモリー番号
QSB	サブメモリー状態問い合わせ		

*1　ランプ 1、ランプ 2 のうち使用時間の短い方を使用します。

■ 操作コマンド（サブコマンドあり）

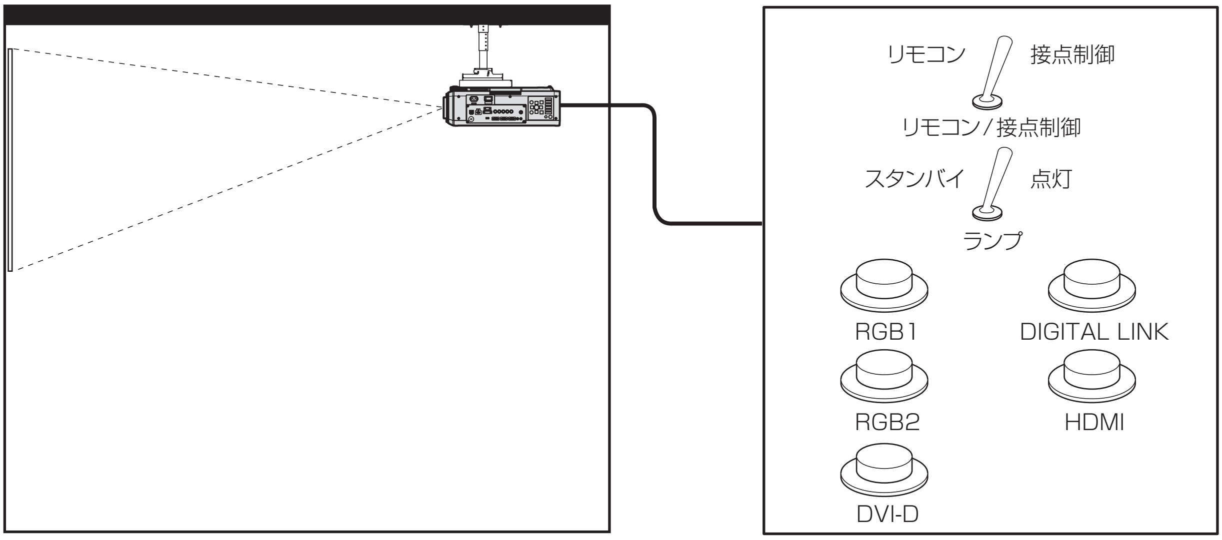
コマンド	サブコマンド	内容	備考
VXX	RYCI1	RGB1 入力設定	+00000=RGB/YP_BP_R、+00001=Y/C、+00002=VIDEO

■ レンズ制御コマンド

コマンド	サブコマンド	内容	備考
VXX	LNSI2	レンズ H シフト	+00000= 微調整 1+、+00001= 微調整 1−、+00100= 微調整 2+、+00101= 微調整 2−、+00200= 粗調整 +、+00201= 粗調整 −
VXX	LNSI3	レンズ V シフト	
VXX	LNSI4	レンズフォーカス	
VXX	LNSI5	レンズズーム	

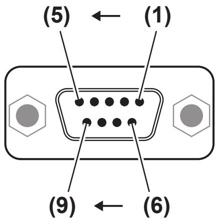
〈REMOTE 2 IN〉端子について

リモコンの信号が届かないくらい、本体から離れた場所にある制御盤から本体を遠隔制御（接点制御）できます。
本体の接続端子部にある〈REMOTE 2 IN〉端子を使用して、制御盤と接続します。



会議室などの設置場所　　別の場所にある遠隔制御盤

ピン配列と信号名

D-Sub 9 ピン 外側から見た図	ピン No.	信号名	オープン（H）	ショート（L）
	(1)	GND	—	GND
	(2)	POWER	オフ	オン
	(3)	RGB1	その他	RGB1
	(4)	RGB2	その他	RGB2
	(5)	DIGITAL LINK	その他	DIGITAL LINK
	(6)	HDMI	その他	HDMI
	(7)	DVI-D	その他	DVI-D
	(8)	SHUTTER	オフ	オン
	(9)	RST/SET	リモコン制御	外部接点制御

お願い

- 制御を行う場合は必ず、(1) 番、(9) 番ピンを短絡させてください。
- (1) 番、(9) 番ピンを短絡させると、本体操作部とリモコンの次のボタンが使用できなくなります。また、これらの機能に相当する RS-232C 用コマンドやネットワーク機能も使用できなくなります。
  - 電源入〈|〉ボタン、電源スタンバイ〈⏻〉ボタン、〈SHUTTER〉ボタン
- (1) 番、(9) 番ピンを短絡させて、さらに (3) ～ (7) 番ピンのいずれかと (1) 番ピンを短絡させると、本体操作部とリモコンの次のボタンが使用できなくなります。また、これらの機能に相当する RS-232C 用コマンドやネットワーク機能も使用できなくなります。
  - 電源入〈|〉ボタン、電源スタンバイ〈⏻〉ボタン、〈RGB1〉ボタン、〈RGB2〉ボタン、〈RGB1/2〉ボタン、〈DVI-D〉ボタン、〈VIDEO〉ボタン、〈HDMI〉ボタン、〈DIGITAL LINK〉ボタン、〈SDI〉ボタン、〈SHUTTER〉ボタン
  （SDI 入力は PT-DZ780J のみ対応）

お知らせ

- (2) 番ピン～ (8) 番ピンの設定は、［REMOTE2 端子モード］を［ユーザー］に設定すると変更できます。（☞ 118 ページ）

2 画面表示組み合わせ一覧

✓：P IN P（ピクチャインピクチャー）組み合わせが可能
▲：同じ周波数の信号で P IN P（ピクチャインピクチャー）の組み合わせが可能
—：P IN P（ピクチャインピクチャー）組み合わせが不可能

		サブウィンドウ					
		RGB1				RGB2	
メインウィンドウ		RGB 系	動画系 *1	Y/C 入力	VIDEO 入力	RGB 系	動画系 *1
RGB1	RGB 系	—	—	—	—	✓	✓
	動画系 *1	—	—	—	—	✓	▲
	Y/C 入力	—	—	—	—	✓	▲
	VIDEO 入力	—	—	—	—	✓	▲
RGB2	RGB 系	✓	✓	✓	✓	—	—
	動画系 *1	✓	▲	▲	▲	—	—
DVI-D	RGB 系 *2	✓	✓	✓	✓	✓	✓
	動画系 *3	✓	▲	▲	▲	✓	▲
HDMI	RGB 系 *2	✓	✓	✓	✓	✓	✓
	動画系 *3	✓	▲	▲	▲	✓	▲
SDI*4		✓	▲	▲	▲	✓	▲
DIGITAL LINK	RGB 系 *2	—	—	—	—	—	—
	動画系 *3	—	—	—	—	—	—

		サブウィンドウ						
		DVI-D		HDMI		SDI*4	DIGITAL LINK	
メインウィンドウ		RGB 系 *2	動画系 *3	RGB 系 *2	動画系 *3		RGB 系 *2	動画系 *3
RGB1	RGB 系	✓	✓	✓	✓	✓	—	—
	動画系 *1	✓	▲	✓	▲	▲	—	—
	Y/C 入力	✓	▲	✓	▲	▲	—	—
	VIDEO 入力	✓	▲	✓	▲	▲	—	—
RGB2	RGB 系	✓	✓	✓	✓	✓	—	—
	動画系 *1	✓	▲	✓	▲	▲	—	—
DVI-D	RGB 系 *2	—	—	✓	✓	✓	—	—
	動画系 *3	—	—	✓	▲	▲	—	—
HDMI	RGB 系 *2	✓	✓	—	—	—	—	—
	動画系 *3	✓	▲	—	—	—	—	—
SDI*4		✓	▲	—	—	—	—	—
DIGITAL LINK	RGB 系 *2	—	—	—	—	—	—	—
	動画系 *3	—	—	—	—	—	—	—

*1　480i、480p、576i、576p、720/60p、720/50p、1080/60i、1080/50i、1080/24sF、1080/24p、1080/25p、1080/30p、1080/50p、1080/60p
*2　VGA（640 x 480）～ WUXGA（1 920 x 1 200）
ノンインターレース信号、ドットクロック周波数：25 MHz ～ 162 MHz（WUXGA 信号は VESA CVT RB（Reduced Blanking）信号のみ対応しています。）
*3　480p、576p、720/60p、720/50p、1080/60i、1080/50i、1080/24sF、1080/24p、1080/25p、1080/30p、1080/50p、1080/60p のみ対応
*4　PT-DZ780J のみ

お知らせ

- ▲ の組み合わせにて異なる周波数の信号で P IN P 機能を使用すると、サブウィンドウの映像は表示されません。

操作設定パスワードについて

パスワードを初期設定に戻す場合は、お買い求めの販売店にご相談ください。

アップグレードキットについて

（PT-DZ780J のみ）
別売品のアップグレードキット（品番：ET-UK20）を適用すると次の機能が拡張されます。

機能	標準状態	アップグレードキット適用時
［垂直台形補正］の調整範囲	最大± 40° *1	最大± 45° *1
［水平台形補正］の調整範囲	最大± 15° *1	最大± 40° *1
［曲面補正］の調整範囲	垂直弧　最大± 50° *1 水平弧　最大± 50° *1	垂直弧　最大± 100° *1 水平弧　最大± 100° *1
［カスタムマスキング］	使用できません。	映像を任意の形状でマスクします。
［ユニフォーミティー］の［PC 補正］	使用できません。	画面全体の明るさ、色のムラを補正します。

*1　メニューの調整値の範囲です。投写可能な範囲については、“［幾何学歪補正］による投写範囲”（☞ 28 ページ）をご覧ください。

対応信号リスト

本機が投写できる映像信号です。

- フォーマットを表す記号は次のとおりです。
  - V：VIDEO、Y/C
  - R：RGB
  - Y：YCBCR/YPBPR
  - D：DVI-D
  - H：HDMI
  - S：SDI（PT-DZ780J のみ）

対応信号	解像度（ドット）	走査周波数		ドットクロック周波数（MHz）	フォーマット	プラグアンドプレイ対応 *1				
		水平（kHz）	垂直（Hz）			RGB2	DVI-D			HDMI
							EDID1	EDID2	EDID3	
NTSC/NTSC4.43/PAL-M/PAL60	720 x 480i	15.7	59.9	—	V	—	—	—	—	—
PAL/PAL-N/SECAM	720 x 576i	15.6	50.0	—	V	—	—	—	—	—
525i（480i）	720 x 480i	15.7	59.9	13.5	R/Y/S	—	—	—	—	—
625i（576i）	720 x 576i	15.6	50.0	13.5	R/Y/S	—	—	—	—	—
525i（480i）	720（1440）x 480i*2	15.7	59.9	27.0	D/H	—	—	—	—	—
625i（576i）	720（1440）x 576i*2	15.6	50.0	27.0	D/H	—	—	—	—	—
525p（480p）	720 x 483	31.5	59.9	27.0	R/Y/D/H	—	✓	—	✓	✓
625p（576p）	720 x 576	31.3	50.0	27.0	R/Y/D/H	—	✓	—	✓	✓
750（720）/60p	1 280 x 720	45.0	60.0	74.3	R/Y/D/H/S	—	✓	—	✓	✓
750（720）/50p	1 280 x 720	37.5	50.0	74.3	R/Y/D/H/S	—	✓	—	✓	✓
1125（1080）/60i*3	1 920 x 1 080i	33.8	60.0	74.3	R/Y/D/H/S	—	✓	—	✓	✓
1125（1080）/50i	1 920 x 1 080i	28.1	50.0	74.3	R/Y/D/H/S	—	✓	—	✓	✓
1125（1080）/24p	1 920 x 1 080	27.0	24.0	74.3	R/Y/D/H/S	—	✓	—	✓	✓
1125（1080）/24sF	1 920 x 1 080i	27.0	48.0	74.3	R/Y/D/H/S	—	—	—	—	—
1125（1080）/25p	1 920 x 1 080	28.1	25.0	74.3	R/Y/D/H/S	—	✓	—	✓	—
1125（1080）/30p	1 920 x 1 080	33.8	30.0	74.3	R/Y/D/H/S	—	—	—	—	—
1125（1080）/60p	1 920 x 1 080	67.5	60.0	148.5	R/Y/D/H/S	—	✓	—	✓	✓
1125（1080）/50p	1 920 x 1 080	56.3	50.0	148.5	R/Y/D/H/S	—	✓	—	✓	✓
VESA400	640 x 400	31.5	70.1	25.2	R/D/H	—	—	—	—	—
	640 x 400	37.9	85.1	31.5	R/D/H	—	—	—	—	—

対応信号	解像度（ドット）	走査周波数		ドットクロック周波数（MHz）	フォーマット	プラグアンドプレイ対応 *1				
		水平（kHz）	垂直（Hz）			RGB2	DVI-D			HDMI
							EDID1	EDID2	EDID3	
VGA480	640 x 480	31.5	59.9	25.2	R/D/H	✓	✓	✓	✓	✓
	640 x 480	35.0	66.7	30.2	R/D/H	—	—	—	—	—
	640 x 480	37.9	72.8	31.5	R/D/H	✓	—	✓	✓	✓
	640 x 480	37.5	75.0	31.5	R/D/H	✓	—	✓	✓	✓
	640 x 480	43.3	85.0	36.0	R/D/H	—	—	—	—	—
SVGA	800 x 600	35.2	56.3	36.0	R/D/H	✓	—	✓	✓	✓
	800 x 600	37.9	60.3	40.0	R/D/H	✓	—	✓	✓	✓
	800 x 600	48.1	72.2	50.0	R/D/H	✓	—	✓	✓	✓
	800 x 600	46.9	75.0	49.5	R/D/H	✓	—	✓	✓	✓
	800 x 600	53.7	85.1	56.3	R/D/H	—	—	—	—	—
MAC16	832 x 624	49.7	74.6	57.3	R/D/H	✓	—	✓	✓	✓
XGA	1 024 x 768	39.6	50.0	51.9	R/D/H	—	—	—	—	—
	1 024 x 768	48.4	60.0	65.0	R/D/H	✓	—	✓	✓	✓
	1 024 x 768	56.5	70.1	75.0	R/D/H	✓	—	✓	✓	✓
	1 024 x 768	60.0	75.0	78.8	R/D/H	✓	—	✓	✓	✓
	1 024 x 768	65.5	81.6	86.0	R/D/H	—	—	—	—	—
	1 024 x 768	68.7	85.0	94.5	R/D/H	—	—	—	—	—
	1 024 x 768	81.4	100.0	113.3	R/D/H	—	—	—	—	—
	1 024 x 768	98.8	120.0	139.1	R/D/H	✓	—	✓	✓	✓
MXGA	1 152 x 864	53.7	60.0	81.6	R/D/H	—	—	—	—	—
	1 152 x 864	64.0	70.0	94.2	R/D/H	—	—	—	—	—
	1 152 x 864	67.5	74.9	108.0	R/D/H	—	—	—	—	—
	1 152 x 864	77.1	85.0	119.7	R/D/H	—	—	—	—	—
MAC21	1 152 x 870	68.7	75.1	100.0	R/D/H	✓	—	✓	✓	✓
1280 x 720	1 280 x 720	37.1	49.8	60.5	R/D/H	—	—	—	—	—
	1 280 x 720	44.8	59.9	74.5	R/D/H	—	—	—	—	—
	1 280 x 720	76.3	100.0	131.8	R/D/H	—	—	—	—	—
	1 280 x 720	92.6	120.0	161.6	R/D/H	—	—	—	—	—
1280 x 768	1 280 x 768	39.6	49.9	65.3	R/D/H	—	—	—	—	—
	1 280 x 768	47.8	59.9	79.5	R/D/H	—	—	—	—	—
	1 280 x 768*4	47.4	60.0	68.3	R/D/H	—	—	—	—	—
	1 280 x 768	60.3	74.9	102.3	R/D/H	—	—	—	—	—
	1 280 x 768	68.6	84.8	117.5	R/D/H	—	—	—	—	—
1280 x 800	1 280 x 800	41.3	50.0	68.0	R/D/H	—	—	—	—	—
	1 280 x 800	49.7	59.8	83.5	R/D/H	✓*5	—	✓*5	✓*5	✓*5
	1 280 x 800*4	49.3	59.9	71.0	R/D/H	—	—	—	—	—
	1 280 x 800	62.8	74.9	106.5	R/D/H	—	—	—	—	—
	1 280 x 800	71.6	84.9	122.5	R/D/H	—	—	—	—	—
MSXGA	1 280 x 960	60.0	60.0	108.0	R/D/H	—	—	—	—	—
SXGA	1 280 x 1 024	52.4	50.0	88.0	R/D/H	—	—	—	—	—
	1 280 x 1 024	64.0	60.0	108.0	R/D/H	—	—	—	—	—
	1 280 x 1 024	72.3	66.3	125.0	R/D/H	—	—	—	—	—
	1 280 x 1 024	78.2	72.0	135.1	R/D/H	—	—	—	—	—
	1 280 x 1 024	80.0	75.0	135.0	R/D/H	✓	—	✓	✓	✓
	1 280 x 1 024	91.1	85.0	157.5	R/D/H	—	—	—	—	—
1366 x 768	1 366 x 768	47.7	59.8	85.5	R/D/H	—	—	—	—	—
	1 366 x 768	39.6	49.9	69.0	R/D/H	—	—	—	—	—

対応信号	解像度（ドット）	走査周波数		ドットクロック周波数（MHz）	フォーマット	プラグアンドプレイ対応 *1				
		水平（kHz）	垂直（Hz）			RGB2	DVI-D			HDMI
							EDID1	EDID2	EDID3	
SXGA+	1 400 x 1 050	54.1	50.0	99.9	R/D/H	—	—	—	—	—
	1 400 x 1 050	64.0	60.0	108.0	R/D/H	—	—	—	—	—
	1 400 x 1 050	65.2	60.0	122.6	R/D/H	✓	—	✓	✓	✓
	1 400 x 1 050	65.3	60.0	121.8	R/D/H	—	—	—	—	—
	1 400 x 1 050	78.8	72.0	149.3	R/D/H	—	—	—	—	—
	1 400 x 1 050	82.2	75.0	155.9	R/D/H	—	—	—	—	—
WXGA+	1 440 x 900	55.9	59.9	106.5	R/D/H	—	—	—	—	—
	1 440 x 900	46.3	49.9	86.8	R/D/H	—	—	—	—	—
1600 x 900	1 600 x 900	46.4	49.9	96.5	R/D/H	—	—	—	—	—
	1 600 x 900	55.9	60.0	119.0	R/D/H	✓	—	✓	✓	✓
UXGA	1 600 x 1 200	61.8	49.9	131.5	R/D/H	—	—	—	—	—
	1 600 x 1 200	75.0	60.0	162.0	R/D/H	✓	—	✓	✓	✓
WSXGA+	1 680 x 1 050	65.3	60.0	146.3	R/D/H	—	—	—	—	—
	1 680 x 1 050	54.1	50.0	119.5	R/D/H	—	—	—	—	—
1920 x 1080	1 920 x 1 080	55.6	49.9	141.5	R/D/H	—	—	—	—	—
	1 920 x 1 080*4	66.6	59.9	138.5	R/D/H	—	—	—	—	—
	1 920 x 1 080*6	67.2	60.0	173.0	R	—	—	—	—	—
WUXGA	1 920 x 1 200	61.8	49.9	158.3	R/D/H	—	—	—	—	—
	1 920 x 1 200*4	74.0	60.0	154.0	R/D/H	✓	—	✓	✓*7	✓*7
	1 920 x 1 200*6	74.6	59.9	193.3	R	—	—	—	—	—

*1　プラグアンドプレイ対応欄に ✓ がある信号は、プロジェクターの EDID（拡張ディスプレイ識別データ）に記述している信号です。プラグアンドプレイ対応欄に ✓ がない信号でもフォーマット欄に記載があれば入力できます。プラグアンドプレイ対応欄に ✓ がない信号は、プロジェクターが対応していてもコンピューター側で解像度の選択ができない場合があります。
*2　Pixel-Repetition 信号（ドットクロック周波数 27.0 MHz）のみ
*3　1125（1035）/60i 信号が入力された場合、1125（1080）/60i 信号として表示します。
*4　VESA CVT-RB（Reduced Blanking）準拠
*5　PT-DW750J のみ
*6　画像処理回路で画素を間引いて投写します。
*7　PT-DZ780J のみ

お知らせ

- PT-DZ780J の表示ドット数は 1 920 x 1 200、PT-DW750J の表示ドット数は 1 280 x 800、PT-DX820J の表示ドット数は 1 024 x 768 です。解像度が異なる信号は表示ドット数に変換されて表示されます。
- 解像度のドット数の後ろにある「 i 」はインターレース信号を意味します。
- インターレース信号接続時は映像にちらつきが発生することがあります。
- DIGITAL LINK 入力の対応信号は、HDMI 入力の対応信号と同じです。

仕様

本機の仕様は次のとおりです。

<table>
<tr><td colspan="2">使用電源</td><td colspan="2">AC100 V　50 Hz/60 Hz（9.0 A）</td></tr>
<tr><td colspan="2" rowspan="3">消費電力</td><td colspan="2">790 W</td></tr>
<tr><td colspan="2">［スタンバイモード］を［ECO］に設定時約 0.2 W</td></tr>
<tr><td colspan="2">［スタンバイモード］を［ノーマル］に設定時約 3 W</td></tr>
<tr><td rowspan="7">DLP チップ</td><td rowspan="3">サイズ</td><td>PT-DZ780J</td><td>0.67 型（アスペクト比 16：10）</td></tr>
<tr><td>PT-DW750J</td><td>0.65 型（アスペクト比 16：10）</td></tr>
<tr><td>PT-DX820J</td><td>0.7 型（アスペクト比 4：3）</td></tr>
<tr><td>表示方式</td><td colspan="2">DLP チップ 1 枚　DLP 方式</td></tr>
<tr><td rowspan="3">画素数</td><td>PT-DZ780J</td><td>2 304 000 画素（1 920 x 1 200 ドット）</td></tr>
<tr><td>PT-DW750J</td><td>1 024 000 画素（1 280 x 800 ドット）</td></tr>
<tr><td>PT-DX820J</td><td>786 432 画素（1 024 x 768 ドット）</td></tr>
<tr><td rowspan="3">レンズ *1</td><td rowspan="2">電動ズーム</td><td>PT-DZ780J</td><td>1.7 ～ 2.4：1</td></tr>
<tr><td>PT-DW750J、PT-DX820J</td><td>1.8 ～ 2.5：1</td></tr>
<tr><td>電動フォーカス</td><td colspan="2">F=1.7 ～ 1.9
f=25.6 mm ～ 35.7 mm</td></tr>
<tr><td colspan="2">光源ランプ</td><td colspan="2">310 W UHM ランプ x 2</td></tr>
<tr><td colspan="2" rowspan="2">光出力 *2*3</td><td>PT-DZ780J、PT-DW750J</td><td>7 000 lm（ANSI）</td></tr>
<tr><td>PT-DX820J</td><td>8 200 lm（ANSI）</td></tr>
<tr><td colspan="2" rowspan="2">コントラスト比 *3</td><td>PT-DZ780J、PT-DW750J</td><td>3 000：1</td></tr>
<tr><td>PT-DX820J</td><td>2 400：1</td></tr>
<tr><td colspan="2">カラー方式</td><td colspan="2">7 方式（NTSC/NTSC4.43/PAL/PAL-N/PAL-M/SECAM/PAL60）</td></tr>
<tr><td colspan="2">投写画面サイズ *4</td><td colspan="2">50 ～ 600 型</td></tr>
<tr><td colspan="2" rowspan="2">画面アスペクト比</td><td>PT-DZ780J、PT-DW750J</td><td>16：10</td></tr>
<tr><td>PT-DX820J</td><td>4：3</td></tr>
<tr><td colspan="2">投写方式</td><td colspan="2">［フロント / 天つり］、［フロント / 床置］、［リア / 天つり］、［リア / 床置］</td></tr>
<tr><td colspan="2">電源コードの長さ</td><td colspan="2">3.0 m</td></tr>
<tr><td colspan="2">外装ケース</td><td colspan="2">樹脂成型品</td></tr>
<tr><td colspan="2" rowspan="2">外装色</td><td>ホワイトモデル</td><td>白</td></tr>
<tr><td>ブラックモデル</td><td>黒</td></tr>
</table>

*1　PT-DZ780JL、PT-DW750JL、PT-DX820JL は、レンズ別売りです。
*2　付属の標準ズームレンズの値です。レンズによって値は異なります。
*3　工場出荷時における本製品全体の平均的な値を示しており、JIS X 6911:2003 データプロジェクタの仕様書様式に則って記載しています。測定方法、測定条件については附属書 2 に基づいています。
*4　ET-DLE055 レンズ使用時は最大 200 型になります。ET-DLE030 レンズ使用時は 100 ～ 350 型になります。

外形寸法	横幅	498 mm	
	高さ	175 mm（脚最小時）	
	奥行	PT-DZ780J、PT-DW750J、PT-DX820J	521 mm（標準ズームレンズを含む）
		PT-DZ780JL、PT-DW750JL、PT-DX820JL	498 mm（投写レンズカバー・別売品のレンズは含まない）
質量		PT-DZ780J、PT-DW750J、PT-DX820J	約 17.8 kg*1（標準ズームレンズを含む）
		PT-DZ780JL、PT-DW750JL、PT-DX820JL	約 17.0 kg*1（投写レンズカバー・別売品のレンズは含まない）
騒音値 *2		30 dB	
使用環境条件	使用環境温度 *3	0 ℃～ 45 ℃	
	使用環境湿度	10 %～ 80 %（結露のないこと）	
リモコン	使用電源	DC 3 V（単 4 形マンガン乾電池 2 コ）	
	操作距離	約 30 m 以内（受信部正面）	
	質量	102 g（乾電池含む）	
	外形寸法	横幅：48 mm　高さ：145 mm　奥行：27 mm	

*1　平均値。各製品で質量が異なる場合があります。
*2　工場出荷時における本製品全体の平均的な値を示しており、JIS X 6911:2003 データプロジェクタの仕様書様式に則って記載しています。測定方法、測定条件については附属書 2 に基づいています。
*3　高地（海抜 1 400 m 以上～ 2 700 m 未満）で使用している場合、使用環境温度は 0 ℃～ 40 ℃になります。
また、メニューの［プロジェクターセットアップ］→［ランプ選択］を［デュアル］に設定するとともに、［ランププパワー］を［ノーマル］に設定している場合、使用環境温度が 40 ℃（高地で使用している場合は 35 ℃）以上になると、プロジェクターを保護するために、光出力が約 20 % 低下することがあります。

■ 対応走査周波数

本機が投写できる映像信号については“対応信号リスト”（☞ 182 ページ）をご覧ください。

ビデオ信号時 Y/C 信号時	水平 15.73 kHz　垂直 59.94 Hz、水平 15.63 kHz　垂直 50 Hz
RGB 信号時	水平 15 kHz ～ 100 kHz　垂直 24 Hz ～ 120 Hz PIAS（Panasonic Intelligent Auto Scanning）方式
	● ドットクロック周波数：162 MHz 以下
YC_BC_R/YP_BP_R 信号時	● 525i（480i） 水平 15.73 kHz 垂直 59.94 Hz ● 525p（480p） 水平 31.47 kHz 垂直 59.94 Hz ● 750（720）/60p 水平 45 kHz 垂直 60 Hz ● 1125（1035）/60i 水平 33.75 kHz 垂直 60 Hz ● 1125（1080）/50i 水平 28.13 kHz 垂直 50 Hz ● 1125（1080）/24sF 水平 27 kHz 垂直 48 Hz ● 1125（1080）/30p 水平 33.75 kHz 垂直 30 Hz ● 1125（1080）/50p 水平 56.25 kHz 垂直 50 Hz ● 625i（576i） 水平 15.63 kHz 垂直 50 Hz ● 625p（576p） 水平 31.25 kHz 垂直 50 Hz ● 750（720）/50p 水平 37.5 kHz 垂直 50 Hz ● 1125（1080）/60i 水平 33.75 kHz 垂直 60 Hz ● 1125（1080）/24p 水平 27 kHz 垂直 24 Hz ● 1125（1080）/25p 水平 28.13 kHz 垂直 25 Hz ● 1125（1080）/60p 水平 67.5 kHz 垂直 60 Hz ● SYNC/HD、VD 端子は、3 値 SYNC には対応していません。
DVI-D 信号時	525i（480i）*1、625i（576i）*1、525p（480p）、625p（576p）、750（720）/60p、750（720）/50p、1125（1080）/60i、1125（1080）/50i、1125（1080）/24p、1125（1080）/24sF、1125（1080）/25p、1125（1080）/30p、1125（1080）/60p、1125（1080）/50p
	● 表示可能解像度：VGA ～ WUXGA（ノンインターレース） ● ドットクロック周波数：25 MHz ～ 162 MHz
HDMI 信号時	525i（480i）*1、625i（576i）*1、525p（480p）、625p（576p）、750（720）/60p、750（720）/50p、1125（1080）/60i、1125（1080）/50i、1125（1080）/24p、1125（1080）/24sF、1125（1080）/25p、1125（1080）/30p、1125（1080）/60p、1125（1080）/50p
	● 表示可能解像度：VGA ～ WUXGA（ノンインターレース） ● ドットクロック周波数：25 MHz ～ 162 MHz
SDI 信号時 （PT-DZ780J のみ）	**SD-SDI 信号**：SMPTE ST 259 規格準拠 YC_BC_R 4:2:2 10-bit 480i、576i **シングルリンク HD-SDI 信号**：SMPTE ST 292 規格準拠 YP_BP_R 4:2:2 10-bit 720/50p、720/60p、1035/60i、1080/50i、1080/60i、1080/25p、1080/24p、1080/24sF、1080/30p **3G-SDI 信号**：SMPTE ST 424 規格準拠 YP_BP_R 4:2:2 10-bit 1080/50p、1080/60p RGB 4:4:4 12-bit/10-bit 1080/50i、1080/60i、1080/25p、1080/24p、1080/24sF、1080/30p

*1　Pixel-Repetition 信号（ドットクロック周波数 27.0 MHz）のみ

お知らせ

● DIGITAL LINK 入力の対応信号は、HDMI 入力の対応信号と同じです。

■ 接続端子

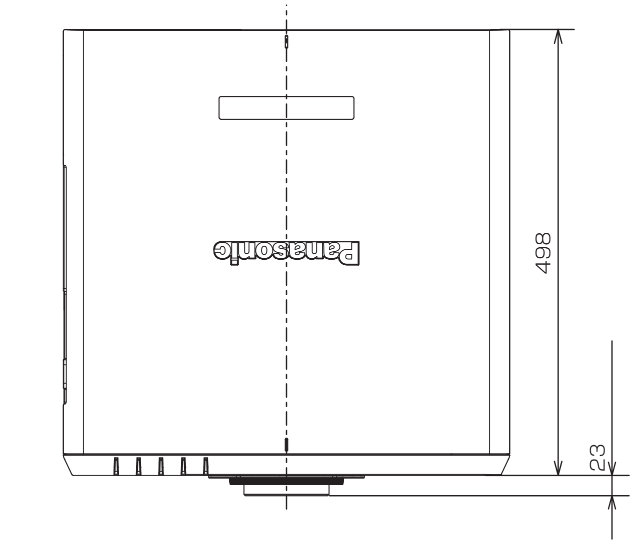
〈RGB 1 IN〉端子	1 系統（BNC x 5（RGB/YP_BP_R/YC_BC_R/YC/VIDEO x 1））		
	RGB 信号	0.7 V [p-p] 75 Ω（SYNC ON GREEN 時　1.0 V [p-p] 75 Ω）	
		SYNC/HD	TTL ハイインピーダンス　正 / 負極性自動対応
		VD	TTL ハイインピーダンス　正 / 負極性自動対応
	YP_BP_R 信号	Y：1.0 V [p-p] 同期信号を含む、P_BP_R：0.7 V [p-p] 75 Ω	
	Y/C 信号	Y：1.0 V [p-p]、C：0.286 V [p-p] 75 Ω	
	VIDEO 信号	BNC 1.0 V [p-p] 75 Ω	
〈RGB 2 IN〉端子	1 系統　高密度 D-Sub 15 p（メス）		
	RGB 信号	0.7 V [p-p] 75 Ω（SYNC ON GREEN 時　1.0 V [p-p] 75 Ω）	
		SYNC/HD	TTL ハイインピーダンス　正 / 負極性自動対応
		VD	TTL ハイインピーダンス　正 / 負極性自動対応
	YP_BP_R 信号	Y：1.0 V [p-p] 同期信号を含む、P_BP_R：0.7 V [p-p] 75 Ω	
〈DVI-D IN〉端子	1 系統　DVI-D 24 p　シングルリンク　DVI1.0 準拠　HDCP 対応		
〈HDMI IN〉端子	1 系統　HDMI 19 p　HDCP 対応、Deep Color 対応		
〈SDI IN〉端子 （PT-DZ780J のみ）	1 系統（BNC）		
	SD-SDI 信号	SMPTE ST 259 規格準拠	
	HD-SDI 信号	SMPTE ST 292 規格準拠	
	3G-SDI 信号	SMPTE ST 424 規格準拠	
〈SERIAL IN〉/〈SERIAL OUT〉端子	D-Sub 9 p　各 1 系統　RS-232C 準拠　コンピューター制御用		
〈REMOTE 1 IN〉/〈REMOTE 1 OUT〉端子	M3 ステレオミニジャック　各 1 系統　リモコン（ワイヤード）制御用 / 本体連結制御用		
〈REMOTE 2 IN〉端子	1 系統　D-Sub 9 p　接点制御用		
〈DIGITAL LINK/LAN〉端子	1 系統　RJ-45　ネットワーク、DIGITAL LINK 接続用　PJLink 対応　100Base-TX　Art-Net 対応		
〈DC OUT 5V〉端子	USB コネクター（タイプ A）x 1、給電専用（DC 5 V、最大 900 mA）		

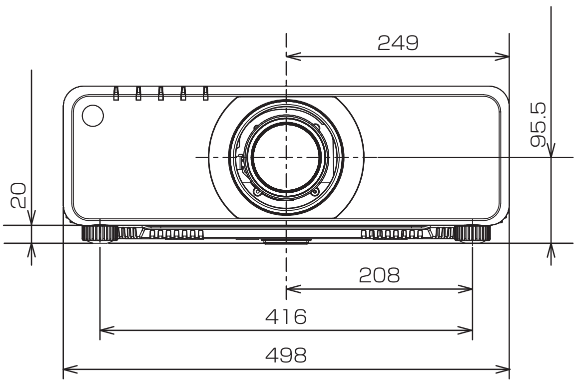
お知らせ

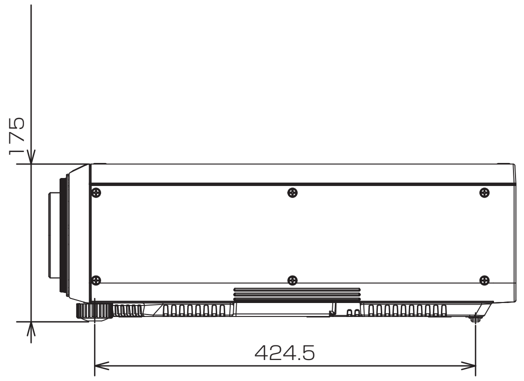
- 付属品や別売品などの品番は、予告なく変更する可能性があります。
- 本機を使用できるのは日本国内のみで、外国では電源電圧が異なりますので使用できません。
  （This projector is designed for use in Japan only and cannot be used in any other country.）

外形寸法図

単位：mm



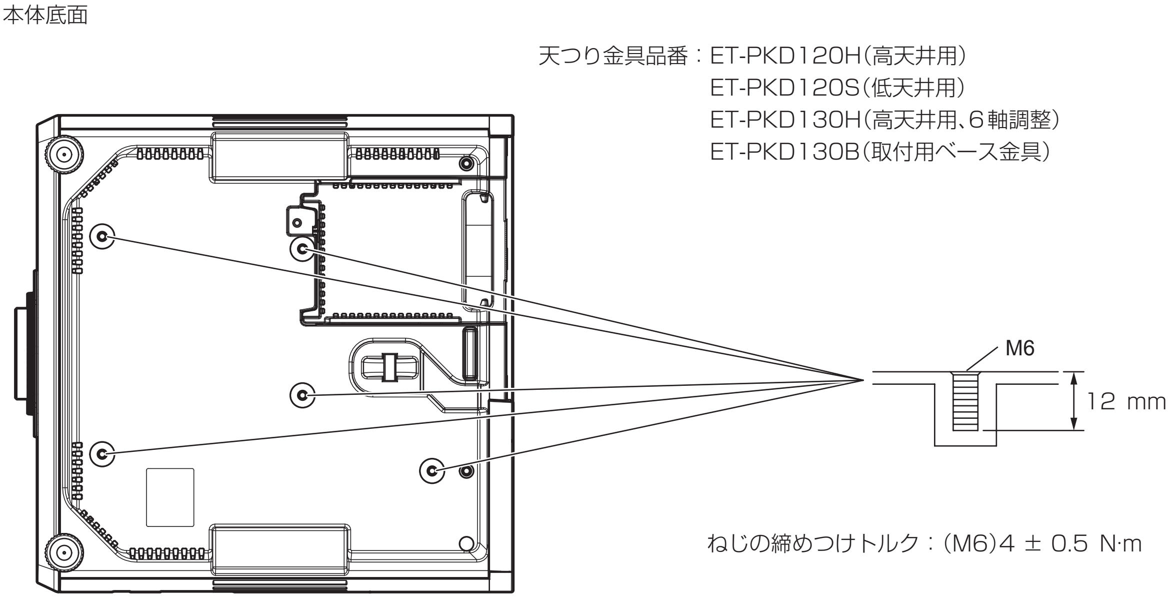




* 上記は、標準ズームレンズを取り付けている場合の寸法です。
* 各製品で寸法は異なる場合があります。

天つり金具取り付け時の注意事項

- 本製品を天井に取り付ける場合は、当社指定の別売品の天つり金具（品番：ET-PKD120H（高天井用）、ET-PKD120S（低天井用）、ET-PKD130H（高天井用、6 軸調整）、ET-PKD130B（取付用ベース金具））を使用してください。なお、天つり金具（品番：ET-PKD120H（高天井用）、ET-PKD120S（低天井用）、ET-PKD130H（高天井用、6 軸調整））は、天つり金具（品番：ET-PKD130B（取付用ベース金具））と組み合わせて使用します。
- 取り付けの際は、天つり金具に付属の落下防止セットを、プロジェクター本体に取り付けてご使用ください。別途落下防止セット（サービス品番：TTRA0214）をご入用の際は、販売店にご相談ください。
- 天井取り付け（天つり）などの設置工事は、工事専門業者にご依頼ください。
- 当社製以外の天つり金具の使用、および天つり金具設置環境の不具合による製品の損傷などについては、保証期間中であっても責任を負いかねますのでご注意ください。
- ご使用を終了した製品は、工事専門業者にご依頼のうえ速やかに撤去してください。
- ねじ類の締めつけの際は、トルクドライバーまたは、六角トルクレンチを使用し、規定値内のトルクで締めつけてください。電動ドライバー、インパクトドライバーを使用しないでください。
- 詳しくは、天つり金具の施工説明書をお読みください。
- 付属品や別売品などの品番は、予告なく変更する可能性があります。



保証とアフターサービス

よくお読みください

故障・修理・お取扱い・メンテナンス
などのご相談は、まず、
お買い上げの販売店
へ、お申し付けください。

お買い上げの販売店がご不明の場合は、当社（下記、パナソニック プロジェクターサポートセンター）までご連絡ください。
* 内容により、お近くの窓口をご紹介させていただく場合がございますのでご了承ください。

保証書（別添付）

お買い上げ日・販売店名などの記入を必ずお確かめのうえ、お買い上げの販売店からお受け取りください。
内容をよくお読みいただき、大切に保存してください。
万一、保証期間内に故障を生じた場合には、保証書記載内容に基づき、「無料修理」させていただきます。

保証期間：お買い上げ日から本体 1 年間

* ただし、光源ランプは 6 ヵ月またはランプ使用時間 600 時間の早い方となります。

補修用性能部品の保有期間 8 年

当社では、プロジェクターの補修用性能部品を、製造打ち切り後、8 年間保有しています。
* 補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

修理のご依頼について

この取扱説明書を再度ご確認のうえ、お買い上げの販売店までご連絡ください。

■ 保証期間中の修理は...

保証書の記載内容に従って、修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

■ 保証期間経過後の修理は...

修理により、機能、性能の回復が可能な場合は、ご希望により有料で修理させていただきます。

■ ご連絡いただきたい内容

品名	DLP プロジェクター
品番	PT-DZ780J/PT-DW750J/PT-DX820J
製造番号	
お買い上げ日	
故障の状況	

パナソニック プロジェクターサポートセンター

設定や操作でご不明なことがございましたら
なんなりとお問い合わせください。

電話 フリーダイヤル 携帯・PHS OK **0120-872-601**
※携帯電話･PHSからもご利用になれます。

受付時間：月～金（祝日と弊社休業日を除く）
9：00～12：00　13：00～17：00

URL http://panasonic.biz/projector/

* 文書や電話でお答えすることがあります。また、返事を差しあげるのにお時間をいただくことがございます。
* お電話の際には、番号をお確かめのうえ、お間違えのないようにおかけください。

ご相談窓口における個人情報のお取り扱い

パナソニック株式会社およびその関係会社は、お客様の個人情報やご相談内容を、ご相談への対応や修理、その確認などのために利用し、その記録を残すことがあります。また､折り返し電話させていただくときのため､ナンバー･ディスプレイを採用している場合があります。なお、個人情報を適切に管理し、修理業務などを委託する場合や正当な理由がある場合を除き、第三者に提供しません。お問い合わせは、ご相談された窓口にご連絡ください。

さくいん

0 - 9

2 画面 … 181

A

〈AC IN〉端子 … 21, 50
[AI] … 74
Art-Net … 15, 170
[Art-Net 設定] … 135
〈AUTO SETUP〉ボタン
  本体 … 21, 62
  リモコン … 19, 62

C

[Crestron Connected(TM)] … 153

D

〈DEFAULT〉ボタン
  リモコン … 19, 66
DIGITAL LINK … 15
[DIGITAL LINK IN] … 96
[DIGITAL LINK ステータス] … 133
[DIGITAL LINK 設定] … 132
〈DIGITAL LINK〉ボタン
  本体 … 21, 61
  リモコン … 19, 61
[DIGITAL LINK メニュー] … 135
[DIGITAL LINK モード] … 132
[DVI-D IN] … 93
〈DVI-D〉ボタン
  本体 … 21, 61
  リモコン … 19, 61

E

〈ENTER〉ボタン
  本体 … 21
  リモコン … 19

F

〈FOCUS〉ボタン
  リモコン … 19, 57
〈FUNCTION〉ボタン
  リモコン … 19, 62

H

[HDMI IN] … 95
〈HDMI〉ボタン
  本体 … 21, 61
  リモコン … 19, 61

I

〈ID SET〉ボタン
  リモコン … 19, 63

L

〈LENS〉ボタン
  本体 … 21, 57

M

〈MENU〉ボタン
  本体 … 21, 65
  リモコン … 19, 65

O

〈ON SCREEN〉ボタン
  リモコン … 19, 60

P

[P IN P] … 69, 122
P IN P 機能 … 122

R

〈REMOTE 1 IN〉端子 … 23
〈REMOTE 1 OUT〉端子 … 23
〈REMOTE 2 IN〉端子 … 180
[REMOTE2 端子モード] … 118
〈RGB1/2〉ボタン
  リモコン … 19, 61
〈RGB1〉ボタン
  本体 … 21, 61
〈RGB2〉ボタン
  本体 … 21, 61
[RGB IN] … 92
[RS-232C] … 115, 175

S

[SDI IN] … 97
〈SDI〉ボタン
  本体 … 21, 61
  リモコン … 19, 61
〈SERIAL IN〉端子 … 175
〈SERIAL OUT〉端子 … 175
〈SHIFT〉ボタン
  リモコン … 19, 57
〈SHUTTER〉ボタン
  本体 … 21, 60
  リモコン … 19, 60
sRGB に準拠した映像 … 75
〈STATUS〉ボタン
  リモコン … 19, 61

T

〈TEST PATTERN〉ボタン
  リモコン … 19, 62

V

〈VIDEO〉ボタン
  リモコン … 19, 61

Z

〈ZOOM〉ボタン
  リモコン … 19, 57

あ

アジャスター脚の調整 … 41
[アスペクト] … 77
アップグレードキット … 182
[アドバンスドメニュー] … 67, 82
アフターサービス … 191
安全上のご注意 … 5

い

[位置調整] … 67, 77
[色あい] … 71
[色温度設定] … 71
[色の濃さ] … 71

う

運搬上の留意点 … 13

え

エアフィルター … 159
エアフィルター交換 … 163
[映像] … 67, 70
[映像モード] … 70
[エッジブレンディング] … 84

お

オートセットアップ機能 … 62
お手入れ … 159
[オンスクリーン表示] … 98
オンスクリーンメニュー … 65
温度インジケーター … 157

か

外形寸法図 … 189
[カットオフ] … 104
[カラーコレクション] … 89
[カラーマッチング] … 88
[ガンマ選択] … 73

き

[幾何学歪補正] … 79
[起動方法] … 114
[輝度コントロール] … 108

く

[クランプ位置] … 83
[クローズドキャプション設定] … 100
[クロックフェーズ] … 79
[黒レベル] … 70

け

ケーブルで本体と接続して使う … 23

こ

工場出荷時の状態に戻す … 66
ご使用になる前に … 13

さ

[サービスパスワード] … 121
サブメモリーについて … 127

し

[システムセレクター] … 75
[システムデイライトビュー] … 74
[自動調整] … 90
[シフト] … 77
[シャープネス] … 74
[シャッター設定] … 102
修理のご依頼の前に … 164
主電源スイッチ … 21, 51
仕様 … 185
使用上の留意点 … 16
[初期化] … 120
初期設定 … 51
[白ゲイン] … 73
新規登録 … 125
信号の引き込み範囲を拡大する … 126

す

[ズーム] … 78
[スクリーン設定] … 89
[スケジュール] … 112
[スタートアップ入力選択] … 114
[スタートアップロゴ] … 101
[スタンバイモード] … 112
[ステータス] … 116

せ

[セキュリティー] … 69, 128
セキュリティーに関するお願い … 15
[セキュリティーパスワード] … 128
[セキュリティーパスワード変更] … 128
接続 … 44
設置 … 25
設置形態 … 25
設置に関する留意点 … 13
[全ユーザーデータ保存] … 120
[全ユーザーデータ呼出] … 120

そ

[操作設定] … 129
[操作設定パスワード変更] … 130

た

対応信号リスト … 182

て

[テキスト変更] … 129
[デジタルシネマリアリティー] … 82
[テストパターン] … 69, 124
電源入ボタン
  本体 … 21
  リモコン … 19
電源インジケーター … 50
電源コード … 50
電源コードの接続 … 50
電源スタンバイボタン
  本体 … 21
  リモコン … 19
電源を入れる … 51
電源を切る … 56
天つり金具 … 190
天つり金具取り付け時の注意事項 … 190

と

投写する … 57
投写する映像の選択 … 57
[投写方式] … 105
投写レンズの取り外し / 取り付け方 … 42
登録した信号を削除する … 125
登録した信号を保護する … 126
[登録信号一覧] … 69, 125
登録信号の名前の変更 … 125

に

[入力解像度] … 83
[入力自動セットアップ] … 90
入力信号切り換え … 61

ね

[ネットワーク] … 69, 132
[ネットワークコントロール] … 134
[ネットワークステータス] … 134
ネットワーク接続 … 136
[ネットワーク設定] … 133

の

[ノイズリダクション] … 74

は

廃棄について … 16
[波形モニター] … 103
[バックアップ入力設定] … 91
[バックカラー] … 101

ひ

[ピクチャー] … 70

[日付と時刻] 118
[表示オプション] 68, 88
表示言語 68, 87
[表示設定] 128

ふ
[ファンクションボタン] 118
ファンクションボタン 62
フィルターインジケーター 157
付属品の確認 17
部品交換 161
[ブランキング] 82
[フリーズ] 102
[フレームレスポンス] 85
[プロジェクター ID] 105
[プロジェクターセットアップ] 68, 105

へ
別売品 18

ほ
保証とアフターサービス 191
本体 20

む
[無信号自動オフ] 118

め
メインメニュー 66
メニュー画面の操作方法 65
メニュー項目 67

ゆ
[ユニフォーミティー] 101

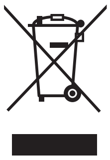
よ
予兆監視ソフトウェア 16

ら
[ラスターポジション] 86
ランプインジケーター 157
ランプユニット交換 161
[ランプ選択] 106
[ランプパワー] 107
[ランプリレー] 107

り
リモコン 19
リモコン操作 60
リモコンの ID ナンバー設定 63

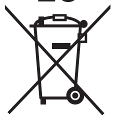
れ
[冷却条件] 106
[レンズキャリブレーション] 119

■ ヨーロッパ連合以外の国の廃棄処分に関する情報



これらのシンボルマークはEU域内でのみ有効です。
製品を廃棄する場合には、最寄りの市町村窓口、または販売店で、正しい廃棄方法をお問い合わせください。

EU



パナソニック株式会社　AVCネットワークス社

〒571-8503　大阪府門真市松葉町2番15号

© Panasonic Corporation 2015

W0415NN1065 -YI